

512

70



始



卅 4G 94

納本

主 北海道廳
催

社會改善講習會講演集

北海道廳 社會改善講習會講演集

(大正十一年八月)
於 札 幌

目 次

服部内務部長開會の辭	一
開會式に於ける前田札幌市長代理祝辭	三
開會式に於ける能札幌第二中學校長祝辭	四
閉會式に於ける中山主事の経過報告	六
閉會式に於ける宮尾北海道廳長官告辭代讀	七
閉會式に於ける橋本函館師範學校長の祝辭	八
閉會式に於ける聽講者總代小林誠助氏の答辭	九
思想問題	吉田 靜 致 博 二
社會生活の進化	森 本 厚 吉 博 七
社會政策	生 江 内 務 省 囑 託 二六
婦人問題	宮 田 成 女 校 長 一五
社會改善の實行	服 部 内 務 部 長 一四七
社會教育	乘 杉 社 會 教 育 課 長 一六〇
民衆娛樂	權 田 内 務 省 囑 託 一三三



開會の辭

内務部長 服部 教 一

私は開會の辭を述べます。今回社會改善講習會を開くに付きまして東京其他から講師の御方を御依頼致しました所が、それ、御快諾下さいまして暑い時分に遠方から懇々お出で下さつたことを厚く御禮を申し上げます。又聽講せらるゝ諸君に於きましては主催者が考へて居りましたよりも多數御加入下さいまして、此點に於ても満足して居る次第であります。

申すまでもなく彼の歐洲戰亂以後殊に世界の思想界に云ひ又生活上の方法等に於ても種々變つて來たのであります。我が日本は明治維新の際に方つて大改革を斷行し爾後絶へず改良改革をされて居りますけれども、何分歐米大陸と違つて東洋の一つの島國として離れて居る爲に改革すべき事も十分に改革出來ず、昔の惰性の儘で遣つて居る所の惡習慣其他の事も澤山在るのであります。又此思想界の變化に致しましても歐羅巴邊で變つて居る所の實際の狀態を能く知らずして、唯だ新聞を見たり書物を見たりして之を誤解して我が日本の善き風俗習慣を破つて了うやうな輕卒なる人間も段々現れ出て居るのであります。我が日本國は將來に於ける生活上の安定といふことが未だ出來て居らぬのであります。食物の不足は何うにかり吾々の食する食物も吾々の衣る衣服の原料も我が日本國に於ては大部分足らないのであります。木材の如きも外國から輸入間に合はせて濟まして居りますが、衣服の原料は大部分外國に之を仰いで居るのであります。木材の如きも外國から輸入して居るさういふ状態でありまして、此衣食住の事に付ては吾々日本人は安定を缺いて居るのであります。斯の如く不安定なる所の日本に於ては、出來得る限り生活に於ても各種の方面に向つて改善をして無駄をせぬやうにしなければならぬ事か澤山あるのであります。それから又此思想界に於ては婦人問題、勞働問題、資本家と勞働者との關係、其他各種の思想上の問題に於て我が日本國の將來の發展を來す爲め、又日本人種の地球上に發展を來す爲め、歐米の後を趁ふこゝなく歐米の先に立つて、我が日本國が世界に模範を示すやうにして行かなければならぬのであります。之に就ては世界の思想界

は如何に變化しつゝあるか、我が日本國は如何に進むべきかといふことを研究して其方向を謬らぬやうにしなければならぬと思ふのであります。

我が北海道は日本の内でも北方に在りまして交通不便で内地との間の十分なる連絡を取るといふことがむづかしい、なか／＼遠くして往くにも困難であるといふ關係もありますから、茲に夏期休業を利用致しまして此講習會を開き、各名士を招聘して此等の人々の意見を承り又諸君に於ても、健全なる凡ての思想上の指導、生活上の改善等に於きまして充分なる御研究を願ひ度いのであります。實に此講習會に加入せられてお出でになつて居る所の諸君は、本道に於ける思想を指導する所の位置に居らるゝ方々であり、又此處に聽講を爲し得る時間を有つて居らるゝ諸君でありますから、諸君を通じて我が北海道の人々を善く指導するやうに致したいものであると思ふのであります。之を以て開會の辭と致します。

(拍手)

祝 辭

札幌市長臨時代理者 前 田 宇 治 郎

北海道廳主催によつて社會改善講習會の開催されます事は頗る時宜を得るもので、直接自治行政に關與する吾人の大に意を強うする處であります。

蓋し近時社會百般の事態は愈々複雑多岐となり、一面には時代思潮の推移及び經濟組織の變革と相俟つて茲に種々の憂ふべき世相を現するのでありまして、是が改善矯正に關しては行政當局は申す迄もなく、廣く社會教化の任に在るものゝ深慮と明察を要するこゝ更に切なるものあるを信するのであります。

而して社會改善の基調となるものは即ち社會に對する透徹したる理解でありまして、總ての施設は完全なる理解の上に乗がなければならぬと同時に完全なる理解を得る爲めには常に對者の位置に立つて是を同化する事が必要であると考へます。

此意味に於て本會は極めて適切なる企でありまして、講習員諸君が之に依つて啓發せらるゝこゝからざるを信ずると共に、願くは其の習得を以て單に机上の死物に終らしむるこゝなく、活きたる社會の上には是を體驗して其改善教化に努力せられんことを希望するものであります。

聊か所感を述べて祝辭と致します。

祝 辭

札幌第二中學校長 能 與 作

私共の生活して居る此の社會には、無駄なもの、不條理なものが澤山に存在して居ります。朝起きて寢床の中に目を明けて、もう起きやうか、それともう一度寢やうか考へながらまじまじとして過して居る時間は勿論起きて居るものでもなく、又寢て居るものでもありません。寢ると起きるこごつち附かずの中立地帯で、黒から白に移る間の鼠色のものです。私共の住んで居る社會の組織、習慣の中にはこれに類した鼠色の部分が甚だ多いやうに思はれます。この鼠色を整理して白か黒かのさちらかに染め分けることが出来るならば、社會生活の功率がどれだけ増進すべきか測り知ることが出来なからうと考へます。

又食慾と榮食分とに適度の満足と與へて氣持のよい腹具合になつて居る所へその上の御馳走を強ひられて、進まぬ箸を動かすといふやうな場合もよくあります。強ひる人も強ひられる人も、義理とか禮儀とか因習とかの爲に心にならない浪費と不衛生とを交換して居るのであります。之に類した事も現在の社會の制度、習慣の上には澤山に存在して居るやうに思はれます。若し雙方が正直に心の底を見せ合つてその不條理なものを取除けることに努めたならば此の社會はどれだけ無駄の省けた、明るい氣分に充たされることでありませう。前者を消極的の無駄といへば後者は積極的の不條理であります。何れも社會の幸福、繁榮に暗い陰を投げて居る邪魔物であります。

幾百年來その中に生きて居ながら氣付かずに過して來た無駄と不條理の數々、従つて永年の間改めやうとも取除けやうとも、試みられなかつた社會相の中から、現代の目覺めた人の目は様々の矛盾や障害を見出して、その上に整理統一を施さうとするのが今の社會改善の運動であります。

今まで積るにまかせて積らせて來た、我國の古い社會制度や不徹底な習慣の中には無數の無駄なもの不條理なのが堆積

して居ります。まして我が北海道のやうな、國內の各地方から又外國から、色々の制度や習慣を亂雜に輸入して來て、それを其の儘に用ひて居る所では、整理改善すべきものゝ多いのは云ふまでもない事でありませう。

今回社會改善の講習會が開催せられて、中央から御見えになつた各方面の權威である講師の方々が講演指導の任に當られる事になつたのは、取別け本道としては時宜に適した企であつて、本道の文化的施設を開發する上に、多大の効果を齎すべきは疑のない所であります。茲に大切な一事は講習員諸君が、この講習に依つて、只各自の識量を豊富ならしめ、見地を高め得たといふことだけに止めずに、何處までもその修め得た所を實際の問題に當筋めて、新しい解決を見出すやうに力を盡して頂きたいといふ事でありませう。獨り各種の講習會と云はず、凡て學問を修むる要は、之を活きた事實に應用して、其所に研究の歸結を、求むるといふことに植打が存在して居ります。修めた學問を箱の底に仕舞つて置くやうな人もありますが、それなごは世の中の無駄仕事の最も大なるものゝ一つでありませう。さうした弊を矯正することが或は社會改善の第一歩であらうかと考へます。

此の會の開會式に際して一言御祝辭を申述べます。

經過報告

社會主事 中山猛郎

六

講習會の經過を簡単に申述べます。北海道廳主催社會改善講習會は八月一日開會式を挙げまして、當時申込人員は五百二十六名の多數に上り十四支廳、六市を全部網羅して居つたのであります。然るに色々の事情がありまして出席者の數は四百五十名位になつて居つたのであります。其後途中から缺席の已むなきに到つた方もありまして本日終了證書を授與致します數は三百二名であります。科目は思想問題、社會政策、婦人問題、社會教育問題及び民衆娛樂の各科目に涉りまして、それ／＼専門の大家より御講演を願ひ、各講習科目の要綱を盡すことが出来たのであります。其外に森本博士、服部内務部長、横山統計學社副社長等の科外講演を以て本日所定の講習會を終了することに取運んだやうな次第であります。經過の概要は以上を以て終を告げます。

長官の告辭

昨年は内務省主催の下に社會事業に關する諸問題の講習を受けたのでありますが、本年は當廳主催の下に社會改善第一回の講習會を開催し、毎日三百人内外の出席者を得、極めて盛會裡に終始し日本來賓各位の御臨席を煩はし閉會式を舉行し得ました事は、小官の欣快に存する所であります。是れ偏に各講師が御繁忙中にもかかわらず、炎熱の折柄遠路遙々御來道下さいきして日頃の御研究を傾倒して下さいました御親切の賜物と思ひます。此事に關しては深く各講師方に對して御禮を申上ぐる次第であります。

次に此講習會に御參列下さいました諸君は本道各地よりの御參會でありまして此極暑の初熱心に御聽講あつた事は寔に邦家の爲め且つは本道の文化發展の上に裨益する所不尠と考へまして心密がに喜びを禁することが出来ないであります。今回講習の各科目は常に人の耳を藉さんご願ふて居つた事が幸に各一流の専門大家から聞くを得た諸君の幸福定めて大なるものゝ存することゝ信ずるのであります。今日の社會改善は理論と應用とが並行しなければならぬのであつて理論の方面では社會に作用してゐる事實を各見地から考察し、應用の方面では如何にせば實際社會に應用し得るか云ふ方面に其原理を生かして行かねばならぬのであります。此二つの事が各個人又は社會に能く了解されました時に初めて社會改善がなされ、社會進化が成就せらるゝのであります。實に今回御講演の諸問題は現在社會に於て最もやかましく論ぜられて居るものでありまして現在社會に生活する以上是等の問題と離れて生活することは出来ないものであります。是等諸問題の真相を知らんと要求して集まれた諸君は現代社會に於ける特色を充分把握せられた事と信じます。此事は過去の社會生活と異つた意味を發見された事になり、直にまた將來の社會生活を如何にすべきかと云ふ目的に向ふ確信を得られた事になると思ひます。何分問題夫自身範圍が廣く時間の少き爲め各講師にをかれても詳細に亘る餘裕なく問題の輪廓や大綱に止まつたものもあらうと思ひますが賢明なる諸君は充分其眞體を御了解下さつた事と存じます。それと共に何卒社會改善の歩を進ますべき應用方面に就て實地に御活動を願ふ爲めには、益々是等の問題に對して御研究下さいまして御歸宅の

七

八
上都市と云はず、地方農村と云はず其地方々々の文化發展の爲めに獲られた智識を基礎として之を社會の爲めに擴充して一層御盡力あらんことを切望して已まん次第であります。茲に本講習會開催の眞の意義が存するのであります。閉會に際し一言申述べた次第であります。

大正十一年八月十日

閉會式に於ける祝辭

橋本函館師範學校長

私は函館師範に居ります橋本と申す者であります。本日此講習會の終了式を擧げらるゝに方りまして、來賓として何かお祝を述べるやうにといふお話がありましたので聊か申上げて祝辭としたいと思います。

世界大戰以來、改造の新しい世界の建設とかいふことが世界を通じて現れた新しい運動のやうに思はれるのであります。それと申しますのも歐米諸國殊に歐洲に於きましては大戰の爲に社會組織が破壊せられた故に、其破壊せられた社會組織を復舊する必要に迫られ、新しい社會組織を建設しやうといふ試みから斯る運動が起つたやうに思ふのであります。我邦に於きましては社會組織を復舊しやうといふやうな必要は無いのであります。此世界的の大勢に動かされて新しい社會の建設といふやうなことに付て矢張一の運動が起つて居るやうに思ふのであります。

申上げるまでもなく我邦は既に世界の五大國の一として優秀の地位を占めて居るのでありますけれども、是は主として武力に依り勝ち得た地位でありますので、其外の社會組織の状態或は國民一般の文化生活の状態といふやうな點を申上げましたならば、彼等大國に比して優れりといふことは申されぬのみならず後れて居る所も甚だ多からうと思ふのであります。此等の事を考へて見ますと、我邦の社會改善といふことは頗る重大の意味を有つて居るやうに思ふのであります。本道當局此に見る所あつて今回社會改善に關する講習會を十日間開かれたといふことは、洵に時宜に適したこゝと言ふべきであらうと思ふのであります。此間に皆様方に於かれては既に多方面から大家の講演に依り社會改善を爲すべき準備としての知識を修得せられたのでありますから、之を動力として参りましたならば本道の社會改善といふものは期して待つべきであらうと思ふのであります。

申すまでもなく社會改善は頗る多岐多端に亘り有形無形の方面に亘つて居るやうでありますけれども、其根柢は精神の問題であり理想の問題であるやうに思はれるのであります。勿論社會組織、指導機關の改善といふことも輕んずべきものでないと思ひますけれども、其根柢はどうしても精神であり理想であると思ひます。隨て此社會改善を徹底せしむる上

には餘程困難なる點があるといふことを思はなければならぬ。併し本道は比較的容易に社會改善が爲し得る點もあるやうに考へられるのであります。何となれば一般の社會組織といふものが固定し傳統が固著したといふやうな場合に於ては之を改善して行くといふことは容易でないやうに思はれるのでありますが、本道は概して社會組織が未だ鞏固でなく又傳統といふやうな事も固著してゐないやうな状態に在りますので、比較的社會改善の事が容易に行はれるかと思ふのであります。就きましては今回皆様を受けられた知識を動力として、此比較的社會改善を爲し易き状態に在る本道の爲に御努力下されたならば、我邦に於て最も早く理想的の社會状態を本道に現出することが出来るだらうと思ふのであります。此意味に於て皆様方が今回講習をお受けになつたといふこと對して満腔の熱誠を捧けてお祝を申上げる次第であります。此簡單でありますけれども以上を以てお祝の辭と致します。(拍手)

講習員總代の答辭

小林 誠 助

一同に代つて御挨拶を申し上げます。國家國民を通じ上下舉つて社會の改善を圖らねばならぬ秋に方りまして、道廳主催の下に本講習會が開かれ、私共有益なる講習を受けましたことは衷心感謝に堪へぬ所であります。各講師の述べられた事柄は凡て社會改善の要諦でありまして、私共が實務を執る上に於て大なる指箴を得たことと信じます。今や社會改善といふ事柄は既に宣傳の時期を過ぎまして實行の域に入つて居ります。勿論我邦には固有の良習美俗が在るので總て之を改革しなければならぬといふことは大に考慮しなければならぬと信じます。併ながら所謂時勢に順應しまして惡を捨て善に即くといふことは一日も忽にしてはならぬと思ふのであります。今回各講師に依て得ました知識を土臺とし、それら地方の状況を斟酌しまして社會改善の實を擧げるやうに努力致しまして、今回本講習會を開催せられた趣旨に副ひたいと思ひます。一言述べまして答辭と致します。

思想問題

文學博士 吉田 靜 致

目次

泰西文明の没落

唯物主義——自己中心力主義——社會主義——過激主義

ソロゾイオフの人生觀

自利的家主義

進化論自己中心力主義

社會的遺傳と人類文化の進歩

精神生活の本質

特殊即普遍主義

人道的國家主義

モノボリーと帝國主義

人種的偏見

秘密結社の種類

猶太人の國家建設運動

人生に於ける職業の意義

成金と新貧

同圓異中心主義

權利思想

自由と平等

デモクラシーの功過
社會問題の根本的解決

泰西文明の没落

唯物主義——自己中心力主義——社會主義——過激主義

私は昨年六月日本を出發し歐米諸國を一通り視察して本年五月に歸つて來ました。其間に特に感じた事は、彼の世界的大戰亂の起つた一の原因と看るべき歐羅巴を中心とせる——殊に西歐羅巴を中心とせる——文明の一の特色たる物質主義、自己中心力主義の病弊が今日も雖も滔々として到る處に蔓つては居るけれども、今日は其反動として識者の間には精神主義が旺に鼓吹されて居ることは特に注意すべき點と氣付いたのである。獨逸の伯林にウヰルトハイムを稱する——日本でいふと東京の三越——といふやうな店があつて、種々なる物貨を商つて居るが其處では書物も賣つて居る。殊に汎く世に持囃されて讀まれて居る書物の如きは特に目立つやうに陳列されてある。それを見て私が注意を惹いたことは、この精神生活を鼓吹する種類の書物の中特に三つの書物が歐米人——少くとも獨逸人には讀まれて居るこいふことに氣付いたのである。その一は諸君は既に御承知かも知らぬが、亞米利加の思想家トリン氏の著はした「無限と一體となつて」といふ書物である。これは精神生活を鼓吹する有名な書物で亞米利加に於ては非常に持囃され汎く讀まれて居る本であるが、それを獨逸語で譯された書物、その二は印度のタゴールといふ精神主義を主張する——哲學者であり詩人である——人の著書で獨逸語に翻譯されたものが盛に賣れて居る。その一例は、或る出版業者がタゴールの著書を出す爲に二百万ボンドの紙を買入れた。それは三百万冊を出版するに足るだけの紙であるこいふ。之に依ても判るやうにタゴールの書物が非常によく讀まれて居る。獨逸人がさういふ精神主義を鼓吹する書物に注意を向けて來た。それからカイゼルリンクといふ人の著はした「或る哲學者の旅行日記」こいふ本がある。これも矢張り神秘主義的の立場を精神主義的生活の側に振替へるといふやうな方向に向ひて居る書物であるが熾に讀まれて居る。

それからもう一つ気付いたのはスベングラールといふ人の著した「西洋の没落」といふ書物である。これは大抵の家の書齋で備付けて置かないことにはないと云はれるほど能く讀まれた本で、第二巻が出る筈ですが第一巻だけ出て第二巻はまだ出ない。私は之を通讀したわけではないが學術的の書物で、西歐羅巴を中心とせる西洋文明なるものは愈々没落に瀕して居るといふことを論證したものである。此人の考によると、昔から或は希臘の文明或は羅馬の文明或は基督教の文明といふものがあつた。此等の文明から今迄の西歐羅巴を中心とせる西洋文明が出て来たといふことになつて居るが、此等のいろ／＼な文明は一つ／＼老衰して死んで了ふのである。その文明が次の文明に段々引續きになつて更に發展して行くといふことはないのである。或る時代の文明は其時代だけの生命であつて、それはそれで亡びて行くのであるといふ説明をして居る。それで西歐羅巴を中心とせる西洋文明は愈々没落することになるといふことを種々の方面から證據立てたのである。その没落に瀕しつゝある歐羅巴文明の特色の一は物質主義、唯物主義、自己中心的力主義の一點張みいふことになつて来た。而して結局は御承知の通り社會主義いふものが現れて来た。その極端なるものは即ち過激主義の如きものである。此等の特殊の思想を備へて居るものが段々没落に瀕しつゝあるといふことを書いたのである。そこで是は自分が直接に讀んで氣付いたのではないが讀んだ人の話を聞くと、この書物の中の或る部分に、西歐羅巴を中心とせる西洋文明は没落するが即ち將來はもう無くなるやうになるが、露西亞の文明にはまだ將來が有るといふ意味が書いてあるさうである勿論今日過激主義の跋扈して居る露西亞の文明は、西歐羅巴の文明が極端に急激に發展して来たものであつて露西亞の文明ではない。それで歐羅巴の文明は將來が無いが露西亞の文明は將來が有るといふ。それは果して如何なる意味であるか其點は讀まなかつたから判らないが、其事に付て私の想ひ起すこゝが一つあるのである。

ソロヴィオフの人生觀

それは數年來私の愛讀して居る書物がある。それが露西亞の思想家ソロヴィオフといふ人の著した書物である。ソロヴィオフ氏は一九〇一年に若くして死んだけれども、彼の遺した思想は非常に私の共鳴を感じる思想であつて精神生活を鼓吹して居るものである。殊に此純美なる日本の道德思想と極めて吻合する所のある氣高い思想を持つて居るものである

このソロヴィオフの思想の如きは「スベングラールの言つた説はどうか判らないが」私の考によれば將來の光となるべき思想の一つと確信して居る。御承知の通り露西亞には近來三人の大思想家が出た。即ちトルストイ、ドストエフスキー、ソロヴィオフの三人が露西亞の近代の三大思想家である。或る具眼者の批評によれば、此三人の中でもソロヴィオフが最も偉大なる思想家であつて、將來の光となるべき思想を有つて居つたといふ批評である。私も其點に同意を表したいのである。けれども甚だ遺憾なるこゝには、他の二人の思想は汎く世に紹介されて居るやうであるが、ソロヴィオフの思想はまだ餘り日本に紹介されて居らぬのである。このソロヴィオフの思想は極めて精神主義の立場に立てるもので、マルクスなどの唱ふる唯物論主義の立場に立てる社會主義には正反對の立場に立つて居るのである。殊に家といふ生活を非常に重んじて祖先崇拜といふことを非常に大切なものだとして居る。この點に付て特にお話して置きたいことがある。それはソロヴィオフも注意をして述べた點であるが「家といふ生活は一方に於ては人類の融合一致、精神生活もして融合一致の根柢となるものである。併ながら一步を過ると家の生活は極端なる自利主義になる虞がある」といふことを注意して居る。これは非常に良き注意と思ふのである。凡そ個人にせよ家にせよ、或は會社にせよ銀行にせよ、其他種々なる團體にせよ國家にせよ、唯だ自分だけの利益を考へて他の人類の利益幸福いふことを考へないで、他人はどんな迷惑をしても意とするに足らぬ。唯だ己だけ或は己の團體だけの利益を全うすれば、それで宜いといふやうな自己中心主義即ち自利主義の形になるならば、それは既に精神生活の根本義に悖る思想である。精神生活の特色をお話すれば多くの時間を要するので、今回の講演には不適當と思ふが其特色の一つだけを申せば、人類は精神生活を具へて居る唯一の存在物であつて肉體の方から云へば互に離れ／＼になつて居る存在物ではあるけれども、精神生活の方から云へば同心一體であるといふのが特色である。随て人類には同情といふ一種特別の働があるが、人類以外のものにはさういふ働はないのである。他人の喜が己の喜であり、他人の悲が己の悲であるといふ風に、同心一體的の生活を持つて居るといふこゝは人類にのみ限られて居るものである。兎に角精神生活に於ては同心一體になつて居る。それに反する如き態度のものが自己中心主義であり自利主義である。一個人にしても家にしても、團體にしても國家にしても、唯だ己だけの利益を考へて他の者にどんな

迷惑が及ぼうと構はぬといふ態度を執るならば、それは最早人間の人間たる特色に一致せざる立場に立つものである。さういふ自己中心主義に陥つたものが西歐羅巴を中心とせる西洋文明の一の特色である。その現れの結果として彼の世界的大戦の如きものまでも起つたといふことになつて居るのである。ソロヴィオフはさういふやうな點に付て特に鋭い批評説明を下して居る。社會主義といふやうなものが出て來たのは、考へて見ると如何にも無理のないやうに思はれる。如何となれば自己中心主義的の資本主の態度さういふものが悪るかつたのである。資本主が物質的利益を一點張にし而も自分だけの利益を目的として、他人にどんな迷惑が及ぼうとも構はぬといふやうな態度を執つたのみならず、自分等の階級だけ良ければ宜いといふ自己中心主義、自利主義の態度を執つたのであるが、さういふ主義は精神生活の根本義から云へば甚だ宜しくないものである。さうして他に迷惑を及ぼし遂に最後には其反動として、無産階級の者が社會主義を唱へ出したといふことになるのである。さりながら其社會主義もソロヴィオフの立場から見ると不都合なものである。これも矢張り經濟的利益、物質的利益を本位とし今度は無産階級者も自己中心主義になつて來たのである。即ち唯物主義的であるといふ點即ち自己中心主義的であるといふ點に於ては、彼の資本主等と毫も異なる所はないのである。然るに社會主義者の連中は自ら號して社會を改造すると言つて居るが改造でも何でもない。ソロヴィオフに言はしむれば同主義を發揮して居るのである。無産階級者の連中は有産階級の文明といふものを亡ぼして了つて、之に代ふるに無産階級の文明を以てし、さうして改造を全うしなければならぬと言つて居るけれども、ソロヴィオフをして言はしむれば、所謂無産階級文明といふものは有産階級文明なるものを一層極端なる形に現はしたに外ならぬ、極めて鋭き批評をして居るのである。つまり資本主義は今や方に没落に瀕しつゝある歐羅巴文明の特色の一の現れに外ならぬ。又社會主義も其特色の一の現れである。凡ての人は同心一體であるといふ其精神生活の根本義を忘れて居るさういふ點に於ては兩者同一である。恰も同じ穴の中の狐と猪の喧嘩と等しいものである。資本主と労働者とは互に仇敵であるさういふ意識を以て、所謂階級闘争であるといふ考を以て出發點とするといふことは、凡ての人間の特色を顧みない立場である。ソロヴィオフは其同心一體の立場に目覺めなければいかぬといふことを説いたので、それには私も非常に同感である。さうなつて來なければ眞の改造ではないので眞

の改造は本來同心一體であるといふことに目覺めなければならぬのである。それで此同心一體的生活の最も良き雛形と看るべきは家の生活であると私も信ずる。ソロヴィオフも矢張り爾う信じて居る。家といふ生活が人類文化の中で占めて居る位置は、極めて重要なものであるといふことは認めて居るが、併ながら前述の如くソロヴィオフは、家といふ生活は一方に於て人類の融合一致の根柢となる性質のものであるけれども、事によるに極端なる自利主義の頂點に立つ虞があると言つて居る。これは洵に良き注意と私は思ふのである。

自利的家主義

そこで想ひ起すことは、此事は屢々彼方此方でお話したから或は諸君の中には何處かでお聴になつた方があるかも知れないが、丁度一昨年のある事である。私が青森地方に旅行すべく上野驛から汽車に乗込んだ。さうすると其同じ客車に乗込んで來た一の家庭がある。それは十人程の人数で兩親と子供が六人ばかり召使が二人ばかりの一家團欒生活で、實に和氣霽々たるものであつた。此方は獨ほつちで甚だ淋しい所に、その和氣霽々たる生活の有様を見て洵に羨ましくて堪らなかつたのである。中にも十五六くらの非常に美しいお嬢さん——誠に惡氣のなさ相な神の使ごでもいふべき、神々しい物々するやうな美しいお嬢さん——が居つて一層羨望に堪へなかつた。所がどの邊であつたか大分來た頃に菓子を食べ始めた。それが一家團欒で主人を召使との區別なく、思ひ／＼に色々な菓子や何かを出して食べて居た。それまでは宜かつたが扱て後始末が甚だ悪るかつた。食ひ散らした廢物などを其儘に棄て置いて、他の乗客の迷惑を一向介意する様子もない。吾々は之を見て非常に不愉快に感じたのである。それから又大分進んだと思ふ頃に今度はバナナ、を食ひ始めた。随分大食家の一團である。そのバナナ、の皮を又一面に其邊に投げ散らした。如何にも十人程の者が盛に食ふのであるから棄てられる廢物がなかく／＼多い。到頭途中から乗込んだお客さんがバナナ、の皮に滑つて轉んだほどであつた。それほど他の者に迷惑を及ぼして居る家の生活であるけれども、内部は和氣霽々たる團欒生活である。その中に夜になつた。その時に實に私は情なく感じた。これは忘れんとしても忘れることが出來ないから何時でも話して居ることであるが、神の使ごもいふべき神々しいお嬢さんが弟共を唆かして『早く横になつて了ひなさい。成べくこれ以上に伸びないやうに足を伸びるだ

け伸ばして寝なさい」と言つて自分も弟共と一緒に樂々と足を伸ばして寝て了つた。私は其時に神の使まで思つて居つた美しい娘の口から、悪魔の言葉を聴くやうな感じがして熱々情なく思つたのである。お嬢さんがさういふ態度でいろいろな事をするのを両親が見て止めやうと思はない。實に我意を得たりといふやうな顔をしてニコ／＼して居る。これは實に家的自利主義である。また自利的家主義であつて本當の家の生活ではない。人間として精神生活を生命としての家ではないのである。兎に角その家の範圍内だけでも、あれ程の和氣霽々たる生活を爲し得るのは人間なればこそである。精神生活を具へて居ればこそである。然らば何故その精神生活の眞意義が徹底しなかつたか。若し眞に精神生活に目覺めたならば己は他の者と一心同體である——少くも同列車内に居る人——一心同體である——といふことに氣付かなかつたか、そこに氣付かずに唯だ自分の一家の利益といふことだけ解つて、さうして他の者にどんな迷惑が及ぼうか構はぬといふ態度を執つたのは、斯かる團欒的生活を爲すといふ根本義に矛盾して居る。自家撞著の態度で甚だ宜しくないことである。

我が日本は家族主義の國であると申すが、さういふ意味の家族主義ではない『四邊の海皆はらからと思ふ世に、なと浪風の立ちさわくらむ』と明治天皇の仰せられた如く、世界の人類は皆同胞であるから同心一體の家主義でなければならぬ。今お話したやうな家庭生活は自利主義的で、自分だけ儲ければ宜いといふ算盤を中心とした自利的生活である。唯だ己の團體だけ都合が好ければ宜いといふことであるならば、泥棒が團結して生活するのと異つた所がない。泥棒の團體が其處に生活して居ることが結構だとは云へない。何となれば社會人類に迷惑を及ぼす。社會人類は同心一體であらねばならぬから道徳上不都合である。唯だ其團體さへ良ければ宜いといふことはないのである。さういふ自己中心主義になるならば精神生活の根本義に悖るのである。西洋あたりに起り來つた階級闘争問題は、少くも從來の資本家が自己中心主義で、他の者にどんな迷惑が及んでも構はぬいふ態度を執つたから起つたのである。而も其等の資本家が後には段々狡い事を考へて所謂モノポリ——壟斷主義、獨占主義——を考へて、多くの資本家が團結して其事業を一切獨占して了へば競争者が無い。競争者のある間は少くとも良い品物を拵へて廉く賣らなければならぬが、獨占して了へば悪い品物を造つても値段が高くても商賣が出来る。それほどまでの自己中心主義的——人類一般の迷惑を毫も顧慮することなく唯だ物質主義的

の態度を執つた。本來人類は同心一體主義的の態度を執つて、一般人類の幸福を圖らなければならぬのに、さういふ正反對の態度を資本家階級が執つたから、そこで無産階級が腹を立てたのである。それは無理もないが、然らばその腹を立てた無産階級者が如何なる態度を執つたかといふは、矢張り同心一體主義に反した階級闘争——資本家は憎い、仇敵であるといふ考を以て之を亡して了はうといふ態度を執つた。本來同心一體主義の立場に還るならば眞の改造の意味があるがさういふ立場に出でなかつたことを私は甚だ遺憾に思ふのである。

ソロヴィオフはさういふ點に付ても正しい批評を下して居るのである。一體人類が互に憎み合ふといふことは宜くないといふことを言つて居る。これも是非御紹介して置きたいと思ふ點であるが、一個人にしても團體にしても或は國家にしても、何か不都合な態度を執つた者があるとすれば——例へば一個人で申せば泥棒をするとか、姦通をするとか、人殺をするとか間違つた態度を執つた者があるとするれば——これは精神生活を具へて居るならば、精神生活を發揮することの出来ない氣の毒な人であるといふことにならなければならぬ。決して憎んで居る人があつたならば氣の毒な人だ。これは、本來同心一體である精神生活の人間として執るべき態度ではない。悪い事をする人があつたならば氣の毒な人だ。人格が有るならば人格生活の出来ない憫れなものだといふ考を起すべきである。そこでさういふ氣の毒な者は之を抛つて置かずに救はなければならぬ。そこでソロヴィオフの曰く『救ふに付ては只の事では救へない場合がある。時としては亂暴な處置も執らなければならぬ』その比喩が面白い『例へば川に陥つて溺れんとして居る人がある。彼は氣の毒の人だ。救ひを要する人だ。さりながら只の手段では助けることが出来ない。髻を引擱んで上げるとか或は繩で引括つて上げるとか、亂暴な處置を執らなければならぬ。けれども斯かる亂暴な處置を執るのは、決して憎むの故にあらずして救はんが爲である。愛するが爲である』と斯う言つて居るのである。刑罰に付ても同じ立場から觀て居る。罪人を處罰するといふことは決して憎むといふ精神があつてはならぬ。救はんが爲の已むを得ざる處置である。恰も溺れんとする者を救はんが爲に已むを得ず亂暴な處置を執るに同じことである。さういふ風に決して互に憎むといふ態度を執つてはならぬ。國と國との間に於ても同様である。不都合な事をする國があるならば、氣の毒な國だ、精神生活を具へて居りながら正常な立場に

立つことが出来ない。それを救ふには亂暴な處置を執らなければならぬ。それが爲には戦争となることもある。併し憎いといふ考を持つてはならぬ。精神生活主義の立場に立たなければならぬといふことを論じて居るのである。溺れんとする人を救ふが爲には、今申したやうに亂暴な處置を執るのが必要であると同じく、さうした場合の戦は必要な戦である。さういふ戦を爲さずに居るならばそれは爲すべき務を怠つたものである。故に精神生活主義の立場から戦は必要だといふことが言へるのである。けれどもそれほど高尚な意味で戦争を爲したといふ、そんな戦争は世界の歴史の上に何時あつたかそれは問題であるが、少くも理想としては將來その位の考を持たなければならぬと私は思ふ。さういふやうな點に於てソロヴィオフの考は實に正しいと思ふのである。

兎に角さういふやうな譯で、如何なる場合に於ても自己中心主義で他と己と同心一體でない、他はみんなことになつても構はぬといふ態度で立つならば、家であらうが、銀行であらうが、會社であらうが、國家であらうが皆宜しくない。所が今日までの西洋文明の特色はどうなつて居つたかといふと、その自己中心主義といふ病弊に陥つたのである。國家としても自己中心主義に陥り、一個としてもさういふ態度を執るといふことが鼓吹され、他の團體或は階級——有産階級は有産階級の自己中心主義、無産階級は又之を敵として憎むといふことになつて、矢張り自己中心主義といふことになつて來た。これは甚だ嘆はしいことと思ふのである。さうして爾ういふ考を強からしむる刺戟となつた學説が出たのである。その爲に一層この病弊が甚しくなつたといふ嫌がある。それは何であるか申すと、御承知でもあらうが彼のダーヴィンが進化論を主張した。あれは自己中心主義——道理をも顧みずに力を以てやらうといふ自己中心主義——といふ考を鼓吹したのである。

進化論——自己中心的力主義

ダーヴィンの進化論なるものは如何なるものであるかといふことは既に御承知と思ふが、話の都合上簡單にお話ししなければならぬ。進化といふことは生物の間に認められて居る一の理法である。生物なるものは親から産れ出る子供の數が多過ぎる。その産れ出た子供が皆育つといふことは出来ないのである。早く云へば食物が足りないのである。さうしても或

る部分は死ななければならぬ。と云つて我輩は死にませうと初から死を希望して居る者はない。よく新聞などに自殺者の記事が出て居るが、初から死を希望して居るのではない。都合が好ければ長く生きて居たいのだが、生きて居られない事情があつて自殺するのである。それでは私が死にませうと言つて引受ける者がない。此に於てどうなるかといふと生存競争といふことが始まる。生存競争は生物の避くべからざる理法である。その生存競争の結果どうなるかといふと、これも御承知の通り早く云へば優勝劣敗、最適者残存——比較的生活に最も適する資格を備へて居る者が生残る。その生残つた最適者が又子供を産み過ぎる。尤も近頃頻に唱へられて居る産兒制限でもやれば、幾らか減るでせうが兎に角産み過ぎる。そこで是亦皆な生きるわけにいかぬから競争が始まる。最適者の産んだ子供だから餘程良いのだらうか、兎に角産み過ぎるから競争が行れる。その中でも特に最適者と云はれる連中が生残る。その生残つた者が又産み過ぎる。それが又生存競争をして其中でも最適者が生残るといふわけで、段々最適者の最適者といふわけで後になるほど生活に適するやうな風に變化して行く。その變化を名けて進化といふのである。それで進化といふことは生物の間に行れる避くべからざる理法である。そこで進化といふことは結構な事であるといふ風に考へられて、進化の爲には己を中心として他を倒すといふ生存競争といふことは必要な事だ。斯ういふ結論の如くに受取れるやうな進化論なるものがダーヴィンによつて主張されたのである。所がこの進化論の出る時分に最早前述の物質主義、自己中心的力主義といふものが蔓りつゝあつたのである。唯だ宗教の爲に表立つて之を強く主張しなかつたけれども、進化論なるものが學者の口に依て堂々と論争されたものだからこれなんめりといふので自己中心的力主義の連中が理論上の證明を得たかの如く考へ之を國家の上に之を産業の上に其他の各方面に應用して、今度は公々然として自己中心的力主義を主張するのみならず之を實行することになつて來たのである。而してその極端に走つた結果、遂に先般の世界的大戰亂の如きものを惹起し、其他種々なる行詰りを茲に現出したといふわけである。この進化論なるものは洵に理窟のある如何にも尤な説のやうに思はれるけれども、よく考へて見るとこれは決して人間の生活を説明するものにしては十分に正しいものではない。人間以外の動物植物を説明するには洵に其通りであるけれども、人類の生活を説明するのに進化論だけを以てするといふことは、非常な間違を來すといふことを忘れ

てはならぬ。然るに進化論を人類生活にまで應用するときは、自分等の説いて居る自己中心的力主義に都合が好いものだから、遂に此説を振廻すことになつたのであるが、この點に付ては人類生活の説明が出来ないことになる。然らばどういふわけで進化論なるものが人類生活を説明することが出来ないか、その點が間違つて居るかといふことを一通りお話しして置きたい。

この進化論の不都合なる點を捉へて精神生活を鼓吹することに一の力を與へた名高い思想家がある。それは英吉利のベンジャミン・キッドといふ人であるが此人の『力の科學』といふ著書がある。これは戦争の將に終らんとする頃に出た書物であるが、前述のトライイン氏の『無限と一體となつて』といふ著書と同じやうに多くの人に讀まれた。その讀まれた理由は今迄間違つた態度を執つて居つたといふことが判つたからである。

社會的遺傳と人類文化の進歩

何故に進化論が悪いかといふと、只今申した優勝劣敗、最適者残存といふことに聯關して一寸爰にお話しして置きたいのは遺傳といふことである。つまり最適者の産んだ子供に親の性質が遺傳する。その中でも最適者が生残る。その親の性質が又子供に遺傳するといふのである。この遺傳といふのは親から子、子から孫といふ風に生理的の關係を通じて性質が傳はるのである。之を名けて個體的遺傳といふ。この個體的遺傳といふことが茲に重要な關係を持つて來るのである。さりながら個體的遺傳といふことを通じての生存競争、優勝劣敗といふ進化では迎もこの人類文明の進歩發達といふことは説明出来ないのである。進化から來る發達は極めて鈍い。人類社會にある所の激甚なる進歩發達は進化から來たのではない。無論進化といふことも關係はして居るけれども見るべき部分は極めて少いのである。その證據には人類以外の動物——鼠なら鼠に付て考へて見れば判る。數千年前の鼠と今日の鼠との間に一體されほどの進歩發達があるか申すと、どうも大した進歩發達はなさうである。所か人類社會はどうかといふと實に驚くべき進歩發達がある。殊に日本の近代の進歩發達は實に世界的の奇蹟と思はれるからである。これは生存競争、優勝劣敗、個人的遺傳を通じて來る進化論では説明が出来ない。御承知の通り鼠は非常に子供を澤山産む動物である。私は其方の専門家でないから能く解らないが、鼠

算といふ勘定があるからで、一匹の鼠の子孫が十數代の間には何億兆といふ數に殖へるこのことである。兎に角産み過ぎるのだから鼠の社會に激甚なる競争があるわけであるが、數千年前の鼠と今日の鼠とにどれほどの進化があるかといふと大した進化はなさうである。所か人類社會には驚くべきこの文明——進歩發達があるといふのはさういふわけかといふと迎もダーウインの進化論では説明が出来ない。これは何で説けるかといふは精神生活を具へて居る人類の社會的遺傳といふことに依つて始めて説けるのである。これは既にいろ／＼な學者の言うて居ることでベンジャミンキッドだけではないのであるが、ベンジャミンキッドは唯だ個體的遺傳を通じての進化論では人類の進化は説けないといふことを言ふ爲に、之を捉へ來つたのである。

然らば社會的遺傳とは何ぞや。これも詳しく言へば時間を取るから簡單にお話するが、精神生活を具へて居る人間には言語といふものがある。言語に付てはベンジャミンキッドは殆ど何も言うて居らぬが、私が補つて言うて置くのである。言語といふものを通じて今迄の社會が進歩發展して來た文明文化の産物を次の時代の者に傳へるといふことがある。講習會の如きも社會的遺傳の一つである。今迄發達して來た文化が言語を媒介して教育、感化、薰陶といふものを次の時代の者に與へるのである。殊に教育の事業などは實に社會的遺傳を通じてのみ始めて出來るのである。これは親から子、子から孫といふやうに生理的の關係を通じての個體的遺傳とは違ふ。遺傳といふ言葉を使つたけれども、これは唯だ個體的遺傳に對して洒落れて使つたといふ意味で、直接に言語を媒介として教育を施し感化を與へ薰陶を及ぼすといふ意味である。それが人類の文明をして激甚なる進歩を爲さしめて居るといふことを説いたのである。これは非常に注意すべき事である。動物などにはないことである。これもベンジャミンキッドが言つたのではなく私が一言附け加へて置くのであるが、言語は人間の特權である。他の動物には言語が無い。或は諸君の中にはそんなことがあるものか、犬はワンといひ、猫はニャンといひ、鼠はチューといふではないかと仰しやる方があるかも知れないが、あれは言葉ではない叫聲である。叫聲は感情を表はす聲であつて、思想の内容を傳達する記號としての言語ではない。人間でも感情の表はれしとしての叫聲がある。可笑いときにはアハ、とか、イヒ、とか、オホ、とか、エヘ、とか笑ふ。あれは叫聲である。詳しく言ふことは出來な

いが叫聲は世界各國人皆同じである。たゞ聲色が違ふだけである。けれども言語は國によつて違ふ。日本語あり支那語あり朝鮮語ありいふわけで各國皆違ふ。日本語も九州の言葉、北海道の言葉いふ風に地方の方言が違ふ。言語は地方的であるが叫聲だけは世界的である。犬や猫や鼠や世界何處へ往つても（直接に聞いたことはいふけれども）鼠ばチュー／＼である。ニャンといふ鼠は何處を探したつてありはしない。猫は何處でもニャンである。たゞ簡略に特色だけを言へば爾うである。兎に角人間には言語いふものがあり靈妙な精神生活を持つて居る。これは實に人間の特権である。それに依て教育を施し感化を與へ薫陶をする。或は講習會を開き或は新聞を出す。又身振言語といふものがある。例へば一杯飲まうといふときに斯んなことをやる。此等のものを通じて社會的遺傳が行はれるのである。これは他の動物には無いことである。個體遺傳は唯だ個體的運動を通じて部分的に行はれる性的關係を通じての遺傳である。社會的遺傳を有つ人類社會には實に驚くべき進歩發達がある。進化論を採用して居る者が其點に氣付かなかつた。人間社會も總て進化論で行けるものだと思つたのは大なる誤である。靈妙なる精神生活を具へ言語を持つて居る人類社會の進歩發達は、只の進化論では説明が出来ない。精神生活を具へて居る人類の社會的遺傳といふことによつて始めて説明が出来るのである。現にダーヴィンの著した『種の起源』といふ書物がある。これが世界の人々の思想を動かしたのは何であるか、これ即ち社會的遺傳の適例である。昔から今日まで種々なる著書の中でははゞ社會的遺傳の事實を最も強く證明したものは無い。前に述べた如く自己中心的力主義を主張した人々が、之を國家の上之を産業の上之を其他諸方面に應用して、自己中心的力主義で萬事をやり通すといふ氣運を造つた。それまでに氣運を造つたのは社會的遺傳が爲して居つたのである。個體的遺傳一點張の書物が社會的遺傳の證明となつて居るのは、實に皮肉な滑稽言はなければならぬ。その著述の感化影響から自分の主張違つた事實が現れて來たのである。若しダーヴィンが社會的遺傳を基として説かないで、唯だ個體を基として説いた己の進化論に忠實であるならば、彼は書物などを拵へる閑に盛に子供を産んだ方が宜かつたのである。然るにさういふことをせずに書物を拵へたといふことは社會的遺傳を彼れ自身が爲したのである。兎に角彼が進化論で以て人類の進歩發達を説かうといふのは盲目的態度であると言はねばならぬ。殊に精神生活を顧みまいといふのは甚しき間違である。

精神生活の本質

冒頭に引合に出したトラインの『無限一體となつて』といふのは實にこの偉大な精神生活を指すのである。吾々の精神生活が無限であるといふことは難問題であるが、精神いふものが實に偉大なものであるといふことだけは知つて置く必要があると思ふから一寸申して置きたい。少し難かしい事になるが御用捨を願ひたい。心は無限だなどとそんな譯の分らぬものがあるのではない。心といふものは有限だと斯ういふのである。その證據には今私が此處に來て思想問題の話をして居る。昨日でない明日でない今と限られて居る。此處に來てといふのだから函館へ往つて居るわけでもなし長崎へ往つて居るわけでもない。此學校に來てである。さうして思想問題に就て話をして居るのである。相場の事を言ふのではない。金儲の事を言ふのではない。即ち限られた話をして居る——有限の働をして居る。さうして私が其事を知つて居る知つて居ればこそ今言つた。即ち我自ら私の限の有る働をして居るといふことを知つて居る。自分で自分の有限なることを知つて居るは正確な證據はないぢやないか、無限などいふことは大變な間違だ。斯う考へられるだらうと思ふ。けれども其所が大切な事である。自ら己の有限なることを自覺するといふことが即ち無限の證據である。己を自覺するといふことは、その己の實に廣大無邊にして無限なることの證據である。けれども自覺は始終して居らぬ。自覺をするだけの必要はあるけれども自覺はして居らぬ。私は札幌に來てから今始めて自分を自覺した。汽車に乗るときには今己が札幌に往く爲に汽車に乗るのだといふことを自覺せずに乗つて了つたのである。今朝も今御飯を食べて居るといふことを自覺せず食べた。只今自覺したから解つた。今思想問題に就て話して居るのだといふことを自覺した。人間は己を知るといふ働を持つて居る。此限られた己といふものは『此』などといふ限られた己ではない。なか／＼むづかしい。私は何時も此事を話すときに譬を引いて言ふ。例へば『此講堂』と斯う私が考へるときには、私の心が此講堂より遙に廣い知識を持つて居る證據である。此講堂以外に知つて居ればこそ始めて此講堂といふものが判るのである。此講堂の外何も知られぬものならば『此』といふことは出来ない筈である『此』といふのは此以外の事を知つて居る證據で『此』と限られて居らぬ。それと同じ理窟で限られたる己を自覺することは爾ういふ限られた己ではない。その働を爲すものはもつと／＼廣大無邊

の己である。此己を自覺するさいふことは有限でない實は無限である。吾々は心に無限の事を考へる働を持つて居る。數學などは無限の事を考へる。二つの並行線は無限に先で合する線だなどといふことを（今教へて居るかどうか知らないが）私共が中學校に居るときには習つた。又宗教的に云へば神とか佛とかいふものは無限絶對のものさ考へて拜んだり何かする。吾々の心は無限を論じたり或は無限を考へたり或は無限を信じたりする。これは心が無限性を有つて居るとしなれば理窟が合はない。斯くいろいろの事を考へ來れば吾々の心は無限性だといふことが解る。諸君がそれほどお解りにならなくても心といふものは成程ゑらいものだといふことだけはお解りになつたらうと思ふ。

既に心が無限だとするならば互に離れて居るわけのものではない。離れて居れば互に制限することになる。身體は離れて居るものであるが心は同一體である。それだから先程申したやうに他人の喜ば即ち己の喜、他人の悲は即ち己の悲といふ其所に同情の働がある。他の動物にはそれが無い。隣の犬が死んださうだ實に哀悼の念に堪へないといふ犬はない。人間だけは見ず知らずの者でも悲惨の境遇に陥つて居ることを知れば、己の歎きして之を歎く。歎かぬ者があればそれは人間性が引込んで動物性が働いて居るときの話で、要するに同一體である。それを忘れて居るさいふのが現代思潮の通弊である。そこに目覺めるこゝもなくして一切の問題を解決するなごといふ者があるならばそれは嘘である。西洋文明の没落といふのはそれに行詰つたからである。今迄間違つた資本主の態度、之に反抗する労働者の態度、孰れも上述の同心一體といふことに著眼せずに、互に喧嘩して居るといふこゝは其間違から起つたのである。社會を根本的に改造しやうと思ふならば、精神生活の本質を自覺してそれを理解することを必要とするのである。

特殊即普遍主義

要するに吾々精神生活の本質は同一である。之を難かしい言葉を以て言へば特殊即普遍——同一の普遍といふことを生命として居るが、それが特殊——個々の姿に於て現れて居るさいふのである。個々特殊の姿に於て現れて居るけれども普遍である。差別で現れて居る同一——特殊化されたる普遍——吾々は特殊化されたる普遍である。尙ほ簡單に云へば特殊即普遍である。それが大切な點なんです。同一の普遍を生命として居るといふことを忘れて、唯だ自分は自分だけの自分

であるといふ。態度をとるならばそれは單なる特殊である。今日の通弊は單なる特殊主義に陥つて居るのである。特殊即普遍主義の精神生活の根本義に目覺めなければいかぬといふのが私の結論である。西洋文明が行詰つたさいふのは單なる特殊主義の病弊に陥つたからである。その極端なる形として現れたのは國家としては即ち獨逸の力主義の國家である。獨逸のみがさういふ間違つた態度を執つたのではない、他の國もさういふ態度を執つたのであるが、それを最も強く現はしたのが獨逸である。世界でこの弊害に陥つて居るのは國家としては自己中心的力主義、家としては前に申した汽車で出會した自己中心的主義である。あの主義などは結構な主義である。何さなれば世の中には夫婦喧嘩があり、親子喧嘩があり、兄弟喧嘩もある。又主人對召使の階級的闘争等いろいろの争がある。其中で和氣霽々たる家なんだから結構である。けれどもあれは矢張り單なる特殊主義の弊害に陥つた家である。國家もさういふ立場に於て單なる特殊主義の態度を執るならば、これは精神生活の根本義に悖つた國家である。日本が若しさういふ態度を執るならば憂ふべきである。明治天皇が「四邊の海皆はらから」と仰せられた御精神は同一普遍を生命として居られる。それを生命として居る日本の歴史、特別の事情を忘れないといふ意味に於て特殊即普遍の立場を執らなければ嘘だと思ふ。

人道的國家主義

故に私は愛國心も二様に考へられると云はなければならぬ。單なる特殊主義の愛國心ならば宜しくない。眞の愛國心は人道的國家主義の立場を執らなければいかぬ。彼のラッセルといふ人が先年日本に來て愛國心に就て批評を下したことが、愛國心は不都合である、即ち國家的自利主義であると批評したが、若し果して自利的の國家主義を愛國心とするならば、私もラッセルと同じく攻撃したい。けれどもラッセルの考は悪るかつた。愛國心は自利的の國家主義の外にはないと考へて攻撃したのである。併ながら特殊即普遍の主義を立場としての自利的の國家主義の愛國心——人道に反せざる或は己を善遍と看てそれを大切にする。その精神生活を全うする爲に己を愛するといふのは自利でない。これが眞の自愛自重の精神といふことになる。國家も失張り同様である。單に己の爲だけではない、實に人道の爲といふ意味に於て其國を大切にし、其國を立派に發展させるといふ意味に於て其國を發展させるのならば、これは排斥すべき愛國心にあらずして何處

までも立てゝ行かなければならぬ愛國心である。その點に於てソロヴィオフは正しいことを言うて居る。譯文が拙いから解り悪いかも知れないが一寸御紹介する。

善は生活の有ゆる巨細を含み夫自身不可分的である。徳としての愛國心は有ゆるものに對する正しき態度の特殊的に現れたものである。此ものは道徳的秩序に於て全體から離れ全體に反對することの出来ぬものである。恰度一個の人格の榮達が有ゆる他の人格に眞實爲になつて居るといふ事實から、其人格の積極的道徳的威嚴が認められる如く、道徳的原理に忠實なる國家の榮達といふことが必然的に普遍的善と結合して居る。國民は唯だ其國家のみの特殊主義的目的に貢献するが故にのみ善と云はるゝのみではなくして、實に絶對的善に一致し參與するといふ偉大なる使命の上に立てる國家に奉仕するが故に善と云はるゝのである。國家が凡ゆるものに對して正しき態度を執るゝことを根柢として居らねばならぬ。随つて他の國に對して正しき態度を執るゝといふことにならねばならぬ。他の國家に對して憎みを感じ惡意を持つ限り決して眞に善なる國家と云ふことは出来ぬ。他の國家をも己の如く敬愛せざる國家は眞に善なる國家と云ふことは出来ぬ。眞の愛國者の道徳的義務は善に於て國家に奉仕するといふことである。國家に取つての眞の善に奉仕するこゝである。さうして國家に取つての眞の善は人類に取つての善から不可離のものである。換言すれば眞の愛國者の道徳的義務は人道に於て國家に奉仕し國家に於て人道に奉仕すると云ふことである。

斯ういふ氣高い思想ならば宜い。所が個人的自利主義は不都合である。家的自利主義は不都合である。銀行會社の自利主義は不都合である。國家の自利主義も亦不都合である。然るに凡ての方面に於て自己中心の力主義が行れて居る。この流儀を獨逸が公然と名乗出してやつたから堪つたものでない。それで世の中が通るものならば宗教も道徳もあつたものでない。所がさういふ流儀では到底駄目だといふことに遅延ながら氣付いて來た。兎に角西洋の文明は行詰りになつた。彼の世界的大戰亂もその結果の一つである。今日騒ぎ立てゝ居る産業上の忘はしき階級闘争もそれである。單なる特殊主義である。特殊化された普遍主義といふ精神生活に目覺めない。目覺めない中は何時まで経つても駄目である。憎んで居つては駄目である。「憎むことも憎み返すな憎まれて憎みにくまればはてしなれば」この流儀で行かなくてはならぬ。同心一

體の立場に還つて始めて勞働問題其他凡ての忌はしき問題が解決されるのである。「世の中の人を惡しと思ふなよ我れたによくは人も善からん」「我れよきに人のあしきはなきものよ人のあしきは我があしきなり」そこに根本的に目覺めなければいけない。どうしても精神生活の特殊即普遍主義に着眼して來なければ駄目だと思ふのである。兎に角さういふわけで愛國心であらうか、家族主義であらうか、或は國際聯盟にした所が、今日のやうに單なる特殊主義の連中の集りでは眞物にならぬ。故に人類全体が先以て特殊即普遍主義の洗禮を受けなくては駄目だと思ふのである。

そこで此特殊即普遍主義を高く叫びたい。それは即ち社會的遺傳に依て可能である。キッドは此の社會的遺傳の極めて有效なることを説いて居る。今日は婦人の方が多數お見へになるが、キッドは婦人に敬意を表して婦人は男子よりも一層天才が優れて居ると言つて居る。而して社會的遺傳といふものは幼少の者が加はるこゝによつて能率が上るのである。年を取つては餘り影響はないが、幼少なる者の熱烈なる情緒感情に依てこの社會的遺傳を強めるゝ容易に脱けない。その社會的感化薰陶を通しての特殊即普遍主義の精神的生活に依て、世界の一切の問題を解決するやうにして欲しい。日本は昔から同心一体といふ美しい思想を持つて居るから、その美しい思想を善き方に導いて行くならば、日本に於ける凡ての仕事が比較的輒く成就されるゝ解釋して居る。そこで特殊即普遍主義に依て政治の事も勞働問題も、其他各種の問題を一切解決して見せる、成程あゝやらなければ嘘だ、吾々のやうに自己中心の力主義でやつては正當の解決が付くものでないといふ風に、世界の人をして考を翻へさせるまでにやつて見たらさうか。これはお互に骨を折れば出来ることゝ私は確信して居る。然るに此頃見るやうな政黨の中にも自己中心力主義——互に憎みを以てやつて居るといふ感があるのは西洋から社會的遺傳を間違つて受入れ過ぎたのではなからうか。もう少し普遍的の精神生活に目覺めなければ嘘であると思ふ。先程獨占ドミナツといふことをお話したが、それに付て獨占といふことゝ帝國主義の思想といふことを少しお話し見たいと思ふ。

モノポリーと帝國主義

帝國主義といふことが今日西洋邊で熾つて居る。さうしてその帝國主義の行詰りが實は先般の世界的大戰爭の起つ

た一の原因である。これは實は自己中心的力主義の一の現れであるが、其點を簡單にお話したい。それに付ては帝國主義とはどういふ意味であるかを一通りお話しする方が御参考にならうと思ふ。近代の帝國主義と昔の羅馬時代の所謂帝國といふやうなことは餘程意味が違ふのである。羅馬時代の帝國は産業生活の要求から來たので、今日のやうな意味での要求から來たのではない。むづかしく言ふと込入るから簡單に申すが、羅馬帝國なるものは實は今日ほゞ産業が盛であつたわけではない。それから又羅馬本國の製造業が盛であり物資がドンドン出るから、その得意先を拵へるといふ意味で、征服せる國々を多く持つて其處に捌口を設けやうといふわけでもなかつたのである。寧ろ其反對にいろ／＼な物資を羅馬本國が持つて居らぬから、征服した先から物資を自分の方に輸入しやうといふ目的で、多くの國々を征服しやうとしたのである。また羅馬本國そのものに今日の言葉で云へば労働者が少いから、征服した國々から労働者を澤山伴れて來る必要があるので征服主義——征服略といふことが行れたのである。さういふわけで羅馬帝國主義が存在して居つたと思はれるのである。所が近來の帝國主義はさうでない。儲けるといふことの必要上、殊に資本主等が事業經營の上から勢力範圍を擴げる必要上、即ち近代の帝國主義が起つて來たのである。羅馬時代の帝國と今日の所謂帝國主義の帝國とは意味が違ふ。一九一四年から一八年に亘る彼の世界的大戰亂は、その意味で自分等の勢力範圍を擴げるといふ即ち帝國主義の衝突から起つたのである。

然らば帝國主義とは如何なる意味であるかといふ定義は人によつてそれ／＼違ふ。その違つた點を一言して、最も新しく考へられて居る帝國主義とはどういふものであるかといふことをお話しする。ちよつと御注意までに申して置くが、これから私の言はんとする帝國主義の意味は、社會主義者の言葉を藉りて言ふのである。社會主義者が「資本主等が自分本位の儲主義から帝國主義を唱へてそれを實行するのは不都合だ。吾々社會主義者はその反動として現れたのだ」と言つて居る。即ち自己中心的力主義で、精神生活の根本義に戻るやうな態度に出でたのは甚だ遺憾であるが、兎に角社會主義者が帝國主義をさういふ風に解釋して居るかといふことを御紹介して見やうと思ふ。カウツキーといふ人の解釋によれば、帝國主義なるものは非常に高い程度に發展した時代の産業主義、資本主義の産物である。即ち資本主といふものが勢力を占

めて居る。さうして出來て居る國家即ち資本主義的の國家は、その周圍に在る所の他の農業を本位として居る地方を自分の勢力の下に置き、或は自分が之を征服して自分の方にくつ著けて了はうと努力するのが帝國主義である。斯様に解釋して居る。言ひ換へれば産業の進んだ資本主義的の國家は、太陽系で云へば太陽の系統となつて居る。その周圍の農業を本位として居る國が遊星で、それを自分の周圍に持つて居る。それが帝國である。即ち産業本位の國が中心となつて、それよりも産業の進んで居らぬ農業を主として居る地方を附隨して居る全体を、一つの帝國と看するといふ立場を執つたのである。併ながらこの定義は段々不十分だといふことが判つて來た。カウツキーにも其事が氣付いたのである。何となれば現代の帝國主義の國家は、必しも農業本位の國を自分の勢力範圍に置かうとはしない。寧ろ商工業の發達して居る地方を自分の勢力範圍に入れやうとして努力して居るのである。さういふ風に説を變へて來た。まだそれだけでも十分でないと思へる學者が現れた。それはヒルフェルディングといふ人が更に新しき主義で解釋したのである。どういふ風に解釋したかといふと、今迄と異つた形の資本主義の態度が現れて來た。それがどういふ態度か申すに、前には所謂銀行なるものが金を預つて、その利息でいろ／＼な儲をするといふやうなことの外に餘り大した仕事をして居らなかつたが、段々銀行そのものが預つた金を利用して、而して工場を建てたり其他いろ／＼な産業上の企をすることに來た。たゞ金の貸借の上で儲けるといふばかりでなしに預つた金そのものを資本として、いろ／＼な事業を起すといふことが西洋邊では盛になつて來たのである。そこで今迄は銀行でない他の資本主がそれ／＼事業をして居つたのが、今では銀行の資本の下に事業をすることに成り、その銀行へ金を出して居る者がその利益を受取るといふわけで資本主が儲けて居るやうな意味になり、さうした仕事の中心は銀行であるといふ風になつて來た。その實例を一、二申すと戰爭中に佛蘭西で何か武器等に關する化學の工場を起す必要があつた。その時に巴里銀行が株金を募集する方法で資金を集めて化學の工場を拵へたといふことである。さういふやうに銀行が活動の中心になつて居る。前には銀行といふものは唯だ金の貸借といふことで利殖を圖つた機關であつたが、今は金の有る者が銀行といふ機關を通して事業を經營することになつて來た。それで露西亞は佛蘭西の資本を入れて居つて國であつたが、資本を入れるときには銀行を通じて入れる。また資本家は銀行を通じて金を出

して居つた。所が露西亞があゝいふ運命になつたので露西亞に投資して居つた佛蘭西の金持が、貸した金の利息を取れない元金も入らないので非常に頭痛に病んで居るさういふことである。兎に角さういふわけで銀行資本の増大したことは著しいものである。さういふことになるのと他の國を自分の勢力範囲に入れ、さうして儲けるといふことに一つの變化が起つて来る。どういふ變化であるかといふと、金を澤山出して澤山儲けさへすれば宜いといふことになるのであるから、例へば自分の産物の捌口を得る爲に或は自分の勢力範囲から産物を持つて来て澤山儲けるよりも、兎に角金を澤山出せば宜いといふ風の意味合になつて来た。も一つ言へば亞弗利加のやうな餘り人口のないやうな處を自分の勢力範囲に入れて、其處で事業を起し鐵道でも敷設するといふことになれば資金が要る。銀行に澤山金を預けて居れば利子が澤山廻つて来る。銀行が仕事の中心者となつて地方の鐵道を敷設するに付て資金を募集して、幾許の利益を配當すると云へば金の有る者が募集に應ずる兎に角斯の如くにして資本を出さへすれば利息が附く。自分の産物を輸出しなくても宜い、資金を輸出することによつて利益を得るといふ事業が起つて来た。隨て自分の勢力範囲さへ廣くなれば宜いといふことで、茲に新しき帝國主義といふ政策が行れることになつて来た。つまり單に産業的の資本でなく金融的の資本——資金の運轉によつて儲けやうさういふ工風をしたのである。そこで資金を要する地方を自分の勢力範囲に入れやうといふ競争が起り、世界の大きな國々が衝突するやうになつた。それも世界的大戰亂を起すに至つた一の原因だに解釋して居るのである。

所がまだそれだけでも説明が不十分だといふので、御承知の通りレーニンが過激主義を主張して更に進んだ説明を帝國主義に加へて居る。それは何かといふに即ち獨占といふことである。資本主が互に競争することを止めて合同して事業を獨占する。さうなるに産業の頽廢になる。資本主が競争して居る間は、良い品物を製造して廉價に賣つて自分の方にお得意を牽付けやうとするから、或る意味に於ては産業の進歩になるけれども、獨占になるに競争の必要が無くなるから、粗惡な物を拵へて而も値段を下げないでも買手があるといふことになつて、甚だ都合なやり方ではあるが、資本主等さへ宜ければ社會一般の者がこんな迷惑を被つても構はぬといふ態度でモノボリーといふ政策を執ることになつた。資本を合同して利益のありさうなものを自分の勢力範囲に入れやうとした。それを帝國主義と解釋した。さうして資本主等が單なる

特殊主義、自己中心的力主義、物質主義一點張の間違つた態度を執つたのである。その反動として労働者の無産階級が起つて、社會主義を唱へ過激主義を唱へたのである。所がこの社會主義、過激主義も矢張り同様に單なる特殊主義に陥つたのである。資本主も己と同心一體のものである。それが唯だ特殊の形に於て現れたまであるといふ特殊即普遍といふことに氣付かずして、己が彼等にとつて代らうといふ態度を執つた。さうなれば間違つた資本主の態度と同じ態度を執つたものである。即ち同穴の狸と貉の喧嘩である。無産階級が有産階級の一層極端なる形に於て現れたに過ぎない。つまり同じ間違を繰返して居るのである。これが西洋文明の病弊の現れ方である。さういふ意味でなく特殊即普遍の根本義に目覺めなければいかぬと私は思ふのである。

そこで段々モノボリーが盛になつて来るに隨分ひどい話があるやうである。生産高も限定するらしい。モノボリーの組合から離れると他からぶつ潰される。お前等はこれ以上生産してはならぬぞ。餘計造り過ぎた物は海へ持つて往つて海底にぶち込んで了ふさういふやうに、一定の生産高を制限して價の廉くならぬやうにする。競争者が無いからそれで餘計な儲をしやうといふ甚だ質の悪い自己中心主義の立場を執つたのである。これは精神生活の根本義からいふと甚だ間違つて居ると云はなければならぬ。今では國家的さういふよりも寧ろ多くの國々に於ては手を盡してモノボリーを爲さうとして居るのである。各國が唯だ自分々々だけで競争して居るのならばまだ宜いけれども、更に國際的の獨占をやり而して暴利を貪らうといふことになつたならば、これは實に由々しき大事に思ふのである。儲けることか悪いとは思はないが何故に幸福を共にせぬか。即ち同心一體といふ立場に立つて資本主は資本主として目覺める。又労働者も自分等の立場を考へて分擔して行けば結構であるけれども、自己中心主義的の争、さうして互に憎みを以て争ふといふことになつたならば、世は倍々亂脈になるばかりである。兎に角さういふわけで獨占的の事業をして行かうといふ傾になつて来て、その爲に獨占主義といふ帝國主義になつた。鐵道政策などは此獨占的利益事業に多少關係があると思ふ。といふのは戦争前に於て獨逸がベルリンからビザンチウム、バクダッドに至る所謂スリー・ビーといふBが三つ附く大鐵道の計畫を立てた。さうすると英吉利がケイプタウンからカイロ、カルカッタに至る所謂スリー・シイスといふ鐵道を計畫した。露西亞が又ベテルスプ

ルグからペルシャ灣といふわけで所謂ツ・ピースといふ鐵道を計畫した。さういふ譯で獨逸なり英吉利なり露西亞なりが互に競争することになった。此等も彼の世界的戦争を起すに至つた一原因である。尙ほ此モノボリーに付て斯ういふ實例がある。モロッコといふ處に事業を起すに付て、佛蘭西と獨逸とがトラストの形に於て合同して事業を起さうといふことになった。その合同せる資金の割當は佛蘭西が百分の六十二、獨逸側が百分の二十、いふ割合で資本を出し合つて、モロッコの經濟を壟斷しやうとした。所が佛蘭西側では六十二パーセント以上を要求したり獨逸側では百分の二十以上の要求をしたりして、お互に競争があるので其間に衝突が起る。さういふ衝突も亦彼の世界大戰亂の起つた一の原因に數へられて居る。モノボリーに依て勢力範圍を擴げるといふことが帝國主義の説明になつたといふことである。而も利益一點張自己中心主義であるといふことは何處まで往つても同じことである。所が精神的な生活から云へば人間の生活といふものは極めて廣汎なるものである。然るにその中の唯だ經濟的利益、物質的利益のみを本位として考へるといふことは、少くとも既に一方に偏した特殊主義である。同心一體主義でなくして資本家の方から云へば、資本家を中心としての自己中心的力主義である。又労働者の方から云へば資本家を排斥しやうといふので己を中心とする。矢張り自己中心的力主義である。さういふのが現代に於ける産業の發達に伴つて起つて來た西洋文明の病弊たといふことになるのである。この西洋文明の病弊に付てそろ／＼目覺めて、其反動として前にお話したやうな方面の人々が出て來たのであるが、まだ／＼現代に於ては此病弊の勢力が非常に強いのである。

人種的偏見

そこで横路に少し外れるが、自己だけを中心として他の者の迷惑は構はぬといふ一種特別の現れがある。之を人種的偏見といふ名の下に一寸お話しして見たいと思ふ。それはどういふ事かといふは、私が昨年六月に日本を出て七月に亞米利加に到着した。亞米利加に這入つてから成べく新聞等には注意を拂つて居つたが、屢々私の目に觸れる譯の分らぬ記事が載つて居るのである。それは何かと申すとク・クラツクス・克蘭といふ秘密結社である。さうも非常な亂暴な事をして居る記事が屢々新聞紙上に現れるのです。これは一體何者であらうと注意して居つた所が段々仕舞には判つて來た。これが

即ち自己中心主義の一の現れで、非常な忌はしき人種的偏見であるといふことを知つたのである。それから其後猶太人の秘密結社なるものに付ても非常に注意を拂つて居つたが、そこにも人種的偏見から恐るべき事が行れて居ることを知つたのである。さうして爾ういふ人種的偏見を持たせるやうにした西洋の過去の社會も悪るかつたのであるが、他の者を敵として亡してつて自分等の勢力の下に社會を拵へて行かうといふ非常に偏見に充ちた方法を執つて居るのである。これも矢張り精神生活の根本主義に悖つて居るのである。

秘密結社の種類

ク・クラツクス・克蘭といふ秘密結社ではどういふ事をするかといふと、その結社の人々が仕事をするときに或は儀式のときに白衣を着け覆面して現れる。固より秘密結社であるから世間の眼からは判らぬ。さうして目指す人を捕へて自動車に乗せて何處かへ連れて行き、素裸にしてタールといふ油を身體中に塗付ける。そのあとへ鳥の毛をベタ／＼なすり付ける。之をターリング・エンド・フェザリングと稱する。さういふことをして町の中へ抛り出して姿を晦して了ふ。随分質の悪いことをする。それから成程亞米利加といふ國は物騒な國だと思つたのは、うつかりして歩いて居るミホールドアツプミ云つて手を擧げる。手を擧げずに居るとドン／＼やられる。さうしてポケットから金目の物を取つて往つて了ふ。抵抗するに銃丸を喰ふから黙つて取らせる。白晝でもさうだから夜など物騒な處は一人で歩いてはならぬと注意を受けたことがある。甚しきは汽車などでホールドアツプするといふ話である。いきなり汽車に乗つて來て運轉士始めホールドアツプする。更に甚しきはKKKといふ頭文字を額の所に烙印を捺すといふ亂暴なことをする。これらを取締る警察力が甚だ弱い。警察力のこゝで思ひ出したから一言するが、御承知の如く亞米利加合衆國は禁酒法案が布かれて、今日では酒を醸造することも輸入することも賣ることも禁じられて居る。所がシガコに居るときに新聞で知つたのであるが、酒を何處からか密輸入して來てそれを車に積んで運搬して居る者がある。その運搬して居る最中に巡査の一隊が之を襲つて奪取つて了ふ。これは法を犯して酒を運んで居るのだから奪取するのは如何にも尤らしいが、巡査等がその奪取つた酒を商賣人に賣付けて儲ける。買つた者がその酒を運搬する所を又引捕へて奪取つて之を他へ賣付ける。さういふことを再三再四繰返し

て金儲をするといふ事實があつて喧しい問題になつて居つたが、そんなことをするのだから警察力といふものは餘り強大なものではないといふことが想像される。

一体秘密結社は如何なる必要があつて出来たかといふことを、段々調べたり聞いたりして漸く素情が判つたのであるがその起原は黒奴に對する一種の秘密結社であつた。御承知の通り亞米利加に來て居る黒奴の数が非常に多い。その黒奴が自由市民権を得ることになつた際に、黒奴に對して迫害の手段を實行すべく秘密結社が出来た。それがク・クラックス・クラシクである。その後段々穩になつたのであるが此頃復活したのである。併ながらこの新しき働を始めたク・クラックス・クラシクの目的は黒奴反對といふのが中心ではないので、それも一の目的ではあるけれども主たる目的ではない。主たる目的は猶大反對、加特力教反對、舊教徒反對、移民反對等である。つまりク・クラックス・クラシクの連中の言ふ所によれば純粹の亞米利加主義だを號して居る。百パーセントの亞米利加主義即ち生粹の亞米利加人だけの事を考へて其以外の者は一切排斥する。即ち黒奴を排斥する。猶太人を排斥する。舊教徒を排斥する。それから日本人、支那人は勿論であります。假令白人であらうとも外國から亞米利加へ這入つて來る移民は排斥する。一切の者を排斥して生粹の亞米利加人の利益だけを考へやうといふ極端なる利益的偏見を持つ秘密結社である。さうして前述の如き恐るべき方法が堂々と實行されて居るのだから驚かざるを得ぬ。合衆國も南の方へ行くほど爾ういふ亂暴な事が頻繁に行れるので新聞紙上に喧しく論ぜられて居つた。なぜ爾ういふ風な偏見に富んで居るか、實に精神生活の根本義を知らざるも甚だしいと云はなければならぬ。實に自己中心的而も力主義——暴力主義と云はなければならぬ。黒奴は洵に氣の毒である。

今でも思ひ出すが、亞米利加合衆國の首府華盛頓市から合衆國第一の大統領ジョージ・ワシントンの産れた町まで電車に乗つて見物に往つたときに、その電車の中に貼札があつた。どういふ貼札かといふと「有色人は是から先は乗つてはならぬ」白人種の乗る場所と黒奴の乗る場所とちやんと別けて一緒に乗せないやうにしてある。一緒に乗せると感情の衝突から喧嘩でも始つては困るさといふわけであらうが爾ういふ風に區別してある。黒奴でなくても不平の念を起さざるを得ない。有色人と云へば吾々日本人もその中に這入るわけだが吾々でさへ腹が立つ。一つ頑張つて白人種の方へ座つてみやう

かと思つたくらゐだ。實に亂暴極まるやり方です。それだから隙さへあれば黒奴の側が復讐的態度を執るといふことは己むを得ない。これは兩方共に宜しくない。兩方とも本來同心一體であることを忘れ、人間の根本義たる精神生活を忘れて居るのだから實に不愉快極まる。また御承知の通り黒奴が不都合な事をした場合に私刑リトリを行ふ——白人が寄つて群つて撲つたり蹴つたり殺したりする法律以外の私刑がある。正當に法律を以て罰したら宜さうなものだが私刑が行れて居る。甚だ面白くないことである。尙ほ思ひ出したから申すが、先般ヴェルサイユに於て戦争の後始末をする會議のあつた際に我が代表者が人種平等案を提出した。これは亞米利加の黒奴に非常な感謝の念を以て迎へられたのである。これは紐育で聞いた話であるが、常に不平等の扱を受けて居る黒奴に人種平等案の提出といふことが非常に響いたと見えて、牧野さんの寫眞でもあれば直ぐ賣れて了ふ。何の必要あつてか判らないが、大方非常に有難いことだ。崇拜の的として飾つて置いたのではないかと思ふがドン／＼賣れたといふことである。之によつても如何に黒奴が不平の念に満ちて居るか判る。一體黒奴の自由市民の權利を國法で認めたといふことに對してク・クラックス・クラシクといふ秘密結社が反對の政策を執つたといふのは實に度量が狭いといふ云はなければならぬ。況や移民或は加特力教或は猶太人に對して反對の恐怖政策を執るこいふことは甚だ不都合と云はなければならぬ。さういふ偏見がなくなるまでに特殊即普通主義が世界に行亘るやうにならなくては、一切の問題の眞の解決なきは付くものではない。

悪い事ばかり言うて居つては相濟まぬ。善い事もある。善い事になれば日本に無いほごある。悪い事ばかり言へば亞米利加には悪い事ばかりだと誤解されては困るから、序に秘密結社で私の感服した事をお話する。さうでないに餘り不公平になる。私が亞米利加に最初著いたのはシヤトルで彼處から段々南の方へ下つてロスアンヂェルスまで往つて彼處からメキシコに這入つたのであるが、そのロスアンヂェルスに往つたときである。日本から參るまきに船で一緒になつて知合になつた人がある。その人がロスアンヂェルスで仕事をして居る。その人の家に往つて泊つたから困らなかつたけれども然うでないに非常に困つた。といふのは當時ロスアンヂェルスに於てオーダー・オブ・エルクスといふ秘密結社の總會が開かれて全國から多數の會員が集つて來て泊り込んで居るのでホテルは何處でも満員であつた。若し私が宿屋に往つたら満員

で断はられたのであつたが、幸に知人の家に泊ることが出来たから其禍に逢はなかつた。所がオーダー・オブ・エルクスといふのは前のク・クラックス・克蘭の偏見の方では反対で、質の良い秘密結社であつて人種の差別などは毫も問はないのである。さういふ人種であらうと苟も志を同うする者は直に會員となることが出来るさういふ博愛の精神を湛へて居る。さうして主義も實に面白い。他の悪い事は決して攻撃しない——悪い事は覚えやうとしない。善い事は記憶して其人の爲に稱讃して行かうさういふ態度を執るのである。さうして實にやさしい。自己を本位とし相手を倒してまで自分の利益を得やうさういふやうな唯だ實利主義——悪い意味に於ける亞米利加主義には反対、ゴツ／＼した事に反対して始終ニコ／＼して居るさういふ一種の團體である。そこで總會が終つて彼等の連中がロスアンヂェルスを辭し去るに臨んで新聞の記事を見るミ、何れの新聞も一齊に感謝の記事を掲げて居つた。それからバセドナミいふ別荘地へ知人と一緒に自動車で見物に往つたら、其處にオーダー・オブ・エルクスの會館がある。その會館を總會に集つた連中が郊外散歩に來たときの休處にして置いたさういふ見へて、私共を非常に歓迎して呉れた。暑い時分であつたからアイスクリームやソーダ水は何杯飲んでも宜いといふわけで非常に欵待された。その會館の壁にオーダー・オブ・エルクスの連中が常に守つて居る格言ともいふべき文句が掲げてあつた。さういふ文句がさういふ「汝の同胞の過失は砂の上に描け」つまり同胞の過失は少しも覺て居るなさういふ意味です。また一方には「彼等の徳は愛と記憶の板に書け」同胞の善い事は何時までも記憶して忘れるなといふ意味の格言が掲げられてあつた。これは非常に氣持の好い結社である。それから紐育に往きボストンに参りましたが丁度その當時ボストンに此オーダー・オブ・エルクスの地方的の總會があつた。新聞の記事を見るに色々の區別を問はない。黒奴などは非常に歓迎されてニコ／＼して居るさういふことであつたが、市中を歩いて見るに如何にもその通りで實に愉快に感じた。この秘密結社はク・クラックス・克蘭に比すれば實に雲泥の差である。斯ういふ善い秘密結社もあるが一方にはク・クラックス・克蘭のやうな人種的偏見に富んだものがある。どういふものか人種的偏見といふ考は西洋に往つて見るに未だ十分に取れて居らぬやうにあるが、これは大に注意すべきことであらうか精神生活の根本義に觸れるやうにしたいさ私は考へて居る。

尙ほ甚しい秘密結社がある。それはフリーメイソンリーといふ猶太人の秘密結社で實に驚くべき事をして居る。さうしてその秘密結社の原動力の下に彼の世界的大戰亂が起つた。獨逸の革命も埃地利匈牙利の革命も成された。其他いろ／＼惡辣な手段を執つて世界の各社會を混亂させやうとして居る、實に怖ろしい秘密結社である。猶太人をして斯の如き活動を爲さしむるに至つたのは、猶太人以外の白人等が人種的偏見の態度を以て猶太人を繼子扱にした爲で、彼等は之に對して反動的の怨を持つて居る。何時かは仇を取つてやらう。憎む者に對して憎まれて居る者が憎み返してやらうといふのでフリーメイソンリーといふ秘密結社を拵へて恐るべき陰謀を企らみ、怨を報ひやうといふ態度を執つたのである。勿論これは書物を通して私は知つたのであつて、その書物は一種の宣傳的のものであるから多少針小棒大に言ふて居るかも知らぬが、それにしても如何に怖るべき陰謀が秘密結社の内で企てられて居るかといふことを兎に角窺ひ知ることが出来やうと思ふ。

猶太人の國家建設運動

それから序に申して置くが、猶太人は猶太人自身の國家を持つて居らぬ。それで猶太人が自分自身の國家を持たうといふ希望を以て永い間運動して居る。その猶太人が國家を建設しやうといふ主義をチオニズムといふ。これはパレスチンに中心國家を置かうといふ一種の運動である。パレスチンは今英國の統治の下にあるのでチオニズムの運動に對しては或る程度まで同情を有して居るのである。それが爲に彼の土地では猶太人その他の人種との間に屢々衝突がある。アラブ人種と猶太人との間の衝突或は基督教と猶太教との間の衝突、或は猶太人の國家建設主義に餘り同情を寄せ過ぎるとアラブ人から英國が憎まれることになる。それからアラブ人種はマホメット教徒である。聽てそれが響いて印度のマホメット教徒の反感を買ふことになる。印度には印度教あり、マホメット教もある。以前は兩者互に反目して居つたが、今日は印度の獨立を圖るに付て宗旨の異同は第二にして、兩者相提携して運動するやうな氣運になつて來た。その機會に於て印度人の反感を招くのは策の得たるものでない。此間には政治上の難かしい問題もあるらしいが、兎に角猶太人が自分自身の國家建設の運動をして居るのである。このチオニズムの中の有力な連中が一八九七年にバーゼルさういふ處に秘密結社の會議を

開いた。これはフリーメイソンリーといふ秘密結社に属する猶太人自身の國家建設運動に關する會議である。書物によると二十四回ほどの會議をして種々なる決議をした事項を記載した秘密の出版物がある。それが元と佛蘭西文で出来て居つたのが露西亞に漏れて露西亞語に翻譯されたものが出た。それが更に獨逸に漏れて獨逸語に翻譯されたものが一九一九年に世に出て居る。それを讀んで見るミバーゼルに開かれたる會議に於て恐るべき陰謀を企んだのである。詳しいことを申す必要はない唯だどういふ性質のものであるかをお話すれば宜いのであるが、兎に角世界を亂すにだけ亂してはう世界の皇室の者をも暗殺してはう。さうして成べく國と國との間に戰爭を起させやう。世界を亂脈にしてさうして今迄猶太人を虐待し繼子扱した仇を取らう。而して最後には猶太人の勢力の下に世界の建直しをしやう。その爲には手段を撰ばぬ。革命をも企てやう。その手段の一としてボルシェヴィズム即ち過激主義といふやうな極端なる主義をも實行するやうになつたと見へるのである。さういふ風な事柄が今言つた書物を通して了解されるのである。さうしてその企てられた陰謀が著々實行されて事實の上に現はれて居るやうである。即ち一八九八年には奧地利の皇后エリサベスが暗殺されて居る。又一九一四年には御承知の通り皇太子のフルヂナンドが殺された。それが原になつて世界的戰爭の勃發といふことになつたのである。また一九一八年十一月九日の獨逸の革命の如きは、私の手に入れた書物によつて見るに、猶太人の秘密結社フリーメイソンリーの少數の約十一人の者が中心原動力となつて、あの獨逸の革命を成就したといふことになつて居る。就中特に中心となつて居つたのがアイスネルといふ人物である。彼はいろ／＼な變つた名前であつて居るが同一人である。さうして秘密結社の本部の所在地は獨逸のミュンヘンのブラインネル町五十一番地にあつたといふことも記載してある。尙ほ同じくミュンヘンのシュワンターレル町六十八番地にある本部に屬する秘密結社の連中も矢張り同様に獨逸の革命を帮けて仕事をして居るさういふことも書いてある。而してその秘密結社に屬する猶太人の中には普魯士の外務大臣となつて居つた人もあり警視總監になつて居つた人もある。さういふ人々が獨逸の革命をしでかすといふのであるから實に恐ろしい。即ち獅子身中の蟲といふやうな態度で陰謀を企て居る。その中にも日本語に譯すると蟲と名の付くヅルムといふ人がある。彼は恰も果物を内から段々腐らせて了ふやうな蟲の如き人物だと書いてあるが、斯ういふ人

々が一九一八年の十一月九日の革命には、五日から六日に亘つて猶太人のジョッフエーといふ人から四百萬ルーブルの金を受取つて、革命をしでかす資金の一部に充てたといふことまで書いてある。要するに獨逸の彼の革命は財政上からも又主義の上からも猶太の秘密結社の人々によつて企てられ仕遂けられたと思はるゝ節があるのです。さういふやうなわけで中々恐ろしい。到頭獨逸は御承知の通り革命の結果今日は共和國となつて居るやうな次第である。

匈牙利はどうであるかといふに、これも矢張り同様に猶太の秘密結社の連中が中心となり原動力となつて、彼の恐ろしい革命をしでかしたといふことになつて居るのである。匈牙利の首府のブタペストの議會の審などでは随分虐殺が行れて居るらしい。書物に載せてある所によると、其處で虐殺をするときに叫聲なきが外に聞へるといけないといふので、窓際に自動車を停めて置いてガタ／＼音をさせて悲鳴の聲が外に漏れないやうにして殺す。或は目指す人を捕へて川に抛り込むか或は目を抉り取つて了ふとかいふやうな、恐ろしい事まで秘密結社の人々がやつて居るやうに認められるのである。さういふ恐ろしい仕事を猶太の金持がさせて居る。前に申した十一人の中心人物の過半数は百萬長者、千萬長者といふやうな富豪である。革命などは無産階級の仕事だと云はれて居るが、その共産主義的、過激主義的なる革命を爲す連中に猶太の富豪があつて、革命運動の原動力となり指導者となつて居るさういふことは異様に感じられるけれども、若もこれが猶太人の復讐の仕事だとすれば、即ち革命を起させて此世界を亂せるだけ紊して結局猶太人の手で建直しをやらうといふ運動だと思へば、理解が出来るわけである。兎に角さういふ次第で最後の目的を達する爲には手段を撰ばぬ。これからも尙ほ同様の運動を続けやうとして居るのであらう。實に恐るべきことでお互に注意警戒をしなければならぬと思ふ。勿論私が讀んだ書物は前にも申した通り一種の宣傳的本であるから、多少割引をして見なければならぬが全部嘘ではなからうどうもさういふ事實があるらしく思はれるのである。その書物の中に載せてある事は針小棒大として見るにしても、兎に角さういふ傾のあるものだといふことは知つて置いて然るべきことと思ふのである。

これは猶太人を是迄取扱ひ來つた、その取扱方が都合であつたといふことは申すまでもないが、併ながらそれに對して猶太人の執つた態度も宜しくない。共に間違つて居る——共に自己中心主義である。他を敵と思ひ互に憎み合ふといふ

態度を執つて居るのであつて、本來同心一體のものだといふ立場に目覺めない姿である。これは甚だ宜しくない。日本の内でも特殊的の階級の者に對して特殊的の取扱をすると、其等の連中が怨を懷いて恐るべき陰謀を企てないとも限らない故に前車の覆るを見て後車の誠みするといふ考を以て、速に同心一體の精神生活の立場に還るといふ即ち本來の性質の如くなるものなるかを自覺することが必要であらうと思ふ。資本主と労働者との間の問題も皆同じことである。今迄の資本主のやり方も間違であるが、労働者側がそれを敵として憎んで、他を倒して労働者だけの利益を圖らうといふ態度も亦同一の間違を繰返して居るのである。改造々々と云つてもそれは眞の改造でない。眞の改造は特殊即普遍主義の立場に改めるといふことである。さうでない限りは唯だ一時を糊塗するに過ぎない。唯だ好加減の改造であつて眞の改造とは云はれない。私は眞の改造を叫びたい。そこでソロゾイオフの言つたことが大に味があると思ふ。彼は無産階級の文明は有産階級の文明を更に極端なる形を以て發露したに外ならぬと言つたが如何にもその通りで、無産階級の文明は有産階級の文明を覆して己れ之に取つて代つただけで眞の改造ではない。單なる特殊主義を捨て、特殊即普遍主義——同心一體主義の立場に還つたとき、始めて眞の建直しといふことが出来ると思ふ。猶太人を繼子扱にするこれが人種的偏見であるが、之に對して猶太人の執つた態度も亦人種的偏見の甚しいもので、それを一層極端なる形を以てやつたものである。

此に於て私は人種平等論、同心一體主義を以て世界の改造を講じて見たい。これは一朝一夕の事では出来ない。社會的遺傳を通して徐々と進む外はない。それに付ては先づ教育者の力に依り社會の識者が骨を折り、感化薰陶を通して小國民を相手として緩くりやつて行かなければならぬ。唯だ一時の間に合せの仕事ではない。上述の如きわけでは迄忌はしき人種的偏見があつた。歐米を旅行して見ると有色人種に對する取扱は實に不愉快極まる。英吉利などに於ては左程でもないが亞米利加に於て有色人種を劣等の取扱をして居るのは洵に歎はしい。それは同心一體——特殊即普遍といふことに氣付いて改めて貰はなければならぬ。日本人はこの點に付て大に自重しなければならぬと考へたのである。若も白色人種があゝだから有色人種は斯うといふやうな、單なる特殊主義的態度を日本人が執るといふことであつたならばそれは間違である。何處へ持出してても少しも間違のないやうな精神生活の根本義の上に立つて、大に有色人種の爲に氣焔を吐いて世界人

類の將來の爲に骨を折つて貰ひたいと希望して措かないのである。今の單なる特殊主義、自己中心的力主義に關聯して一言申したいことがある。それは職業に付ての考方である。詳しく申せば多くの時間を取るから極く簡單に止めて置きたいと思ふ。

人生に於ける職業の意義

職業と一概に申せば何んでもないやうであるが、西洋の人達の使つて居る言葉を以て言ひ現はせば二種類ある。私の理想の立場から云へば二種類あるといふのは間違だと思ふが、西洋に行れて居る言葉を用ひれば二つに分れる。其一はトレード、一はプロフェッションである。トレードといふのは早く云へば金儲の爲である。仕事的手段である。プロフェッションといふのは己の長所とし特長とする仕事を爲し自己の能力を發揮するといふことが主であつて、金を儲けるといふことが目的ではない。併ながら金儲はいけないといふのではない。唯だ手段としてやるのであつて主眼とする目的は仕事にあるといふのがプロフェッションである。そこで此處にお集りの諸君の中に教育者諸君がされだけの割合で居られるか判らないが、私自身教育を仕事として居る關係上、教育を例として申さうと思ふ。

教育といふ仕事はプロフェッションと認められて居るのである。金を儲けることが目的ではないので、己の特長として居る事柄であるが故に、其點に於て教育といふ仕事を爲すのが主たる目的である。併ながら教育といふ仕事を爲すに付ては金が必要。金が無くては教育の仕事は出来ない——詳しく申す必要はなからうと思ふが、普通に認められて居る如くにはそのプロフェッションを爲すには三つの條件が必要だ。その第一は自由である。少くとも經濟上の自由がなくてはならぬ。食ふに困つて居るやうでは教育の職業を完うすることが出来ない。教壇に立つて朝の米はどうして居られるかなどといふやうなことを考へ出しては教ふことが出来なくなつて了ふ。兎に角自由を有つて得らなくてはならぬ。第二には教ふるといふ仕事の能率を高める爲には己の仕事に關係ある研究が必要である。書物も讀まなければならぬ。また社會の實情にも通ずる所がなくてはならぬ。或る程度まで必要な社交も生活もしなければならぬ。それには矢張り金がなくてはならぬ。相當の生活上の餘裕がなくてはならぬ。教ふるといふことの外に内職としても閑さへあれば其爲めに働かなければ

ば、書物買ふことも出来ず、社交も出来ないといふことでは、到底教育者としての能率を上げることは不可能であるから矢張り金が必要である。それから又教育者としての威厳を保ち、品位を全うするに付ても或る程度まで金が必要である。若し金がなかつたならば教育者としての本能を全うすることが出来ないといふことになる。仕事そのものが目的であつて金が目的ではないけれども金が必要条件である。故に教育の事業に従事して居る者には、國家社會の方から適當の収入を與へるやうにして居るのである。併ながら今日の収入の程度が果して適當にまでなつて居るかどうかは問題で、私はどうも少いやうに思ふ。今の程度で果して能率の上る教育を施し得るや否や疑問であるが、兎に角さういふ點から教育者の収入があるやうになつて居る。さうでなければ其國家社會の組織が病的だといふことになるのである。單に教育者ばかりではなく藝術家に於ても、或は學者に於ても、宗教家に於ても、醫者に於ても、其他種々の職業に於ても、金そのものが目的ではなくして仕事そのものが目的であるけれども、その大切な仕事を爲すに付て必要なものとして金が這入つて來るといふ意味合になつて居るのである。さういふのを普通プロフェッションといふ。

トレードの方はそれと反對で儲けることが主である。併ながら私の考では、如何なる仕事でも只だ儲けさへすれば宜いといふのでは嘘だと思ふ。どんな仕事でもどんな商賣でも唯だ自己中心主義で、他人にはどんな迷惑がかゝつても構はぬといふことであるならば、それが即ち病的の態度に墮落した商賣、仕事である。殊に西洋邊で今迄間違つた態度でやつて來た資本主のやり方、殊にモノポリーなどで粗製品を造り而も値段が高いいふやうなことではいけない。矢張り商賣するのでも同心一體といふ立場を離れずにやらなければいけない。戦時中参加した國々に於ては生産業が一時中止の状態になつた。そこで日本で造り出すものが到る處で賣れた。いろ／＼なものを注文される。例へば鉛筆の注文を受けるミドン／＼製造して送り出す。中には兩方の端にだけ心を入れて内の方には心を入れずに拵へてドン／＼輸出したものもあるさうであるが、その爲に直接關係して居る商賣人は儲けたであらうけれども、それは自分さへ儲ければそれでよいいふ態度であつて、日本の商賣上の信用がどうならうとも構はぬ。あそこで不信用を來して商賣が出来なくなるといふことを考へずして、唯だ一時的に自己の利益だけを考へてやつた仕事では結局損をする。兎に角金を目的としてやるいふのがトレ

ード、仕事为目的で金が手段であるといふのがプロフェッションと斯う區別をして居るやうである。仕事を目的するには言ふまでもなく、己の長所を以て得意とする點に付て自己の能力を發揮するといふことが眼目でなければならぬ。さうしてその結果として或る程度の収入が付いて來るといふことにならなければならぬ。己の特長は何處に在るか、自己の能力の發揮を考へず唯だ収入の事ばかり考へるならば、それは眞のプロフェッション——眞の職業といふ意味になつて居らぬのである。けれども報ひられる所甚だ寡いといふことになる、遂にはさもしい心を起して金の爲に教へて居るのだといふ考を出さぬとも限らぬ。さうなつては大變だ。特殊即普通の精神を小國民から小國民へと吹込む神聖なる精神的生活事業に従事する教育者が、若も金の爲に教へるいふやうな卑しい心持を持つたらもうお仕舞である。故に精神的生活に従事する教育者に對しては、國家社會が注意して之を取扱ふことが必要である。獨り教育者ばかりではなく、學者に對しても藝術家に對しても其他に對しても皆同じことである。それから神聖なる意味の職業になれば、唯だ自己の利益を考へるばかりでなく一般の者の幸福を考へなければならぬ。その點になれば私の考は凡ての職業は皆さうならなければいかぬと思ふ。呉服屋であらうが左官であらうが大工であらうが、さういふ職業に従事する者でも唯だ己の利益だけを考へて、他の者の迷惑を介意せぬといふことでは人生に於ける職業ではない。人生の職業といふものは必ず同心一體の根本義に外れないといふことに制限しなければならぬ。今迄の資本主の態度になつてはいかぬ。間違つた事をする者があつたから、それに反抗する者が過激主義の運動、共產主義の運動を起すことになつたのである。その運動も共產主義に悖るやうな事をして、單なる特殊主義を亡さんが爲の單なる特殊主義であつてはいけない。それが特殊即普通の立場に戻らなくてはいかぬ故に私は職業を二種類に分けるといふことには賛成はしないが、どうしても精神的生活に立たなければいけない。さうして正しき収入を得るといふことが固より必要な事である。併ながら仕事そのものが目的であつて収入は手段であると看られるといふことは云へる。乃ち教育の仕事の如き其方に於て立派な高尚なプロフェッションと云つて宜しいのである。けれども此度世界を旅行して見ると、何れの國に往つても教育者は慘めな生活をして居る。どうも國家社會が教育者に報ふる所が薄い。他の連中がなか／＼派手な生活をして居る中に、教育者の身装は何時でも貧弱である。大學教授などを訪ね

ても様子が見すほらしい。その家を訪問しやうと思へば、イヤ私の家は混雑して居つて今お通し申すことは出来ないと思はれたこともある。それは斯んな處に來られては耻かしいと思つたからであらう。それから或る大學で或る教授を訪ねた所が、午飯を食べませうといふので大學教授が始終飯を食べる處に往つて一緒に食べたが、さうも滋養量が少いと思つた。自動車なきに乗る教授などは餘りないらしい。後姿がどうも貧弱だと思へばそれが教育者か或はそれに類する者らしい。勿論彼我の程度の比較などは判らないけれども、概して言へば教育者の待遇は世界的に薄いやうに思ふ。

成 金 新 貧

そこで想ひ起した事をもう一つ附加して置くが、戦争の結果として彼方此方に成金といふものが一時盛に出來たわけである。それと相並んで新貧といふものが出來た。今迄さういふ種類の貧乏人は無かつた。之を英語ではニューブーアと云つて居るがさういふ階級が戦後に出來たのである。新貧とはどういふ連中であるかといふは、第一番目は何であつたか一寸忘れたが、第二番目、第三番目には學校教授とか教育者とかいふやうなものが數へられて居るのである。墺地利や獨逸邊に往くに尙ひどい。彼處らは物價が非常に高くなつて居る。戦時中から引續いて今日は戦前に比すれば何倍と物價が高くなつて居る。その割合に收入の方が殖へないのである。所が仕合なこには日本に居ると新貧の一人たる私共が、爲替相場の關係で獨逸邊に往くと恐らい金持になつてしまつた。墺地利などは國內では物價が騰貴して居るけれども、日本の金を向ふで替へると恐らい金持になる。そこで墺地利に居る間は日本の一新貧が一躍して百万長者になつた氣分であつた何時も笑話に申すのですが、ホテルの一晚の宿泊料だけが向ふのクローネを圓として云へば一何千圓といふので、食事が何千圓、その約一割位の心付をやらなければならぬからマア千圓札を心付して與へるこいふわけで、なか／＼恐らい大盡振をやらなければならぬ。當時の一何千クローネは英吉利の貨幣に換算すると五シルリングくらゐで、百圓が丁度英吉利の一つの銅貨にしか當つて居らぬ。兩替するに墺地利の金が廉いから町を歩くとときに本當に百万圓くらゐの懐に入れて歩いた。書物一冊買つても一何千圓、繪葉書を買つても何千圓、煙草を買つても何千圓といふわけで、一萬圓札を束にして百万圓くらゐ持つて歩く。外國人には非常に都合が好い。たゞ金を使つて暮らすといふだけならば、墺地利や獨

逸に往つて暮らせば都合が好いから宿屋は大繁昌です。獨逸人から見れば内地は物價騰貴で困つて居るが、外國爲替の關係上さういふ事になつて居るので、これが爲に無産階級の反感を喚起して、日本で云へば恰も米騒動みたやうなわけで彼方此方の家の硝子を打壊はして歩くこいふやうなこゝがあつた。さういふ次第で彼方の新貧連は實に氣の毒である。兎に角そんな新貧の有様では、教育は神聖なる事業だ、金は手段だなき云つて居るやうな餘裕がない。さうかして金をく／＼と考へざるを得ない。甚だ情ないこと、云はねばならぬ。若も日本に居る新貧の吾々がその度が甚しくなつて、金を目的として教育するこいふやうなこゝになつたならば由々しき大事であるから、そればかりを國家なり社會の先覺者が注意して下さいといふのではない。私は教育者であるがゆゑに一例として申すのであるが、辯護士、醫者、學者その他の例を引いても皆同様のこゝで、餘り金々と唯だ金一點張になつて來れば、聽ては自己中心的力主義となり物質的一點張になつて精神生活に離れて了ふことになる。精神生活はこの意味に於て重要な位置を占める。教育者の連中が左様なさもしい氣分になるならば、人類の將來の爲に甚だ悲むべきことと思ふ。私は偶々教育に従事して居るがゆゑに教育者の例を引いたのであるが、さうか左様なことのないやうに上下舉つて同心一體的の立場に立つて、健全な社會國家を造つて行くやうにしなければならぬ。それには單なる特殊主義の蔓らぬやうに止めなければならぬ。又西洋に是迄蔓つて來た所の單なる特殊主義の弊害、その反動として起つて來た事を眞似して運動するやうなこゝは避けなければならぬ。就ては古來我國に傳つて居る所の家的生活に根柢を置いて、其處から改造して行くやうにして貰ひたいと思ふのである。要するに職業としても單なる特殊主義に陥り易いから爾ういふこゝのないやうに、今日日本でも物價が騰貴してなか／＼下らぬといふのはさうも自己中心的利益主義といふことの爲に、下け得られるものも下けずに居るといふやうな傾があると思ふ。さういふ連中が眞に自覺して呉れたならば下り得る見込があると思ふ。どうかさういふ物質的主義、自利的主義に惑はされないやうに希望して息まないものである。今日は此に止めて置きます。

同 圓 異 中 心 主 義

昨日私は特殊即普遍主義といふ言葉を屢次使つた。それは人間といふものは肉體の方面からいふと互に離れ／＼になつて特殊——個々差別の姿を具へて居るものではあるが、精神生活の方面からいふと全く同一のものである。同一の總てである。同一の普遍である。特殊の姿に於て現はれた普遍である。特殊であつて而も普遍である。特殊即普遍——佛教などの方では差別即平等といふ言葉があるがマアさういふやうな意味である。異つて居るが實は同じである。それはなか／＼解りにくい難かしい事であるが、それほど難かしい解りにくいほど人間の精神生活といふものはゑらいものである。人間以外のものは唯だ單なる特殊——個々別々のものでありきりで、同一體であるといふやうな靈妙な尊い方面はないのである。異つて居るが同じだと斯ういふのである。私はこの趣意をもう一つ又違つた言葉で自分の主義を言ひ表はして居る。それを御紹介すると「同圓異中心主義」といふ言葉を私は不斷用ひて自分の思想を言ひ表はして居る。同圓であつて異つた中心點を持つて居るやうなものだ。中心點の側からいふと、我である彼である、甲である、乙である、丙であるといふ風に別々であるけれども、それを中心として描いた圓は重なり合つて居る。同一體である。それで同圓異中心主義といふ言葉を使ふ。所がこの言葉に對して直ぐ質問が起る。さういふのは中心點が違へば圓もそれ／＼違ふ。——離れて居るさか喰違つて居るとかそれ／＼違ふぢやないか、斯ういふ質問が必ず起るに相違ない。併ながら中心點は違つて居つても圓は重なり合ふ場合がある。それは無限大の島を考へるときには尙うなる。昨日も精神生活といふものは——心といふものは無限性のものだといふことを申ししたが、之を圓に擬へるならば無限大の圓に擬へるが當然である。無限大の圓となれば中心點が異つて居つても圓は重なり合ふ。圓の内容實質さういふものは別のものではないといふことになる。無限の半徑を以て描いた圓ならば圓の實質は重なり合ふ。中心點が札幌に在らうが、函館に在らうが小樽に在らうが、無限大の半徑を以て描いたときには其圓の内容實質といふものは別のものでないといふことになる。有限大の半徑ならば異つた圓になるけ

れども、無限大の圓ならば何處に中心點が在つても重なり合ふ。さういふ無限大の圓を譬に用ひれば中心點は異つて居るが圓は同じである。我である彼である甲である乙である丙であるといふ別々のものであるけれども、それは中心點の方から云つた差別であつて、圓といふ無限大の内容實質を考へて見れば別に離れたものでないといふ意味で、離れて居るが實は同一の本體である同一體であるといふことを言ひ表はす爲に、私は同圓異中心主義といふことを唱へて居るので、同一體主義——特殊即普遍主義である。この立場からして精神生活を考ふれば我も他人も實は同一體である。私と諸君と又我と家とは同一體である。我と國家とも同一體である。これは大切な考方である。

精神生活といふ方から見れば凡て同一體であるといふことは非常な大切な點で、この點が人間と人間以外のものとの實に特色であると云つて宜い。人間以外のものは唯だ別々の存在物である。人間は異つた姿を具へて居るが同一のものである。隨て我と國家とは同一體といふことが言へる。既に我と國家とが同一體である又我と人類とが同一體であるといふことにならば、國家生活から云へば國法に遵ふといふことは實は己の衷心の要求に従つて行くといふことゝ別でないこととなる。國家の要求は己れ以外の者から宛行はれたものといふことにはならぬ。國家と我と同一體であるから國法に遵ふといふことは、實は己の衷心の要求に満足を與へるといふことである。遵奉の本旨は己を満足させるといふことゝ別でない己と國家とを別のものと看ると己れ以外のものから斯うせよ彼あせよといふ命令に己が遵ふといふことになつて、何だか己が屈服させられるやうになつて水臭くなるけれども、同一體といふ立場から見れば決して爾うはならぬ。國家の爲に盡すといふことは眞に己を満足させるといふことになるのである。凡て道徳とか法律とかいふものはさういふ事が土臺である。決して我れ以外から宛行はれた形式に厭や／＼ながら遵つて行くといふ趣意のものではない。これは非常に大切な點である。人間の人間たる特性を本にして考へればさういふことになる。

それから今の事に聯關してもう一つ立入つてお話をしておきたいことのあるのは、從來は國家とか社會とかいふものは離れ／＼になつて居る。澤山の個人が集つて組織したのだといふ解釋を多くは取つて居つた。私も前には爾ういふ考方を持つて居つたが、それでは眞の解釋ではないので、個人が即ち澤山の部分が集つて全體を組織するなどいふ考方ではまだ

本當でないと思ふのである。精神生活としては個人と國家と社會とが同一體である。澤山の部分が集つて全體を組織して居るといふのは、精神生活の本質をまだ了解しない者の考である。部分が集つて全體を組織するといふものの中に實は二種類ある。一は無機的組織といふ。これは生命の無い無機物、無生物の場合がそれである。一は有機的組織といふ。これは生物——人間の體の如きがそれである。無數の細胞が有機的に結合組織して居る。互に目的も手段もなつて一つを離しては他が成立たぬ。他を離しては一つが成立たぬといふ密接な關係を有つて成立つて居るのを有機的組織といふのである。そこで多くの學者或は普通の人も、國家も社會も個人も有機的に組織して居る全體である。と斯う考へて居る。私も以前にはさういふ解釋をして居つたけれども、これは未だ不十分だ。今は考へて居るのです。物質の生活の範圍また生物學的の範圍に於ては、部分が集つて全體を組織するといふ解釋で宜しい。有機的組織といふやうなことは宜いけれども、社會とか國家とかいふものには爾ういふ生活の外に精神生活といふものがある。その精神生活といふものが社會も國家もかかひ生活の最も重要な點であるが、精神生活といふことになれば最早部分が集つて全體を組織して居るのではない同一體である。個人も全體といふものも一致合體して居るのであつて、決して部分も全體との關係ではない。故に部分が集つて全體を組織するといふ範圍のものではないのである。同心一體的生活——その同一體たるべきものがそれ——特殊の姿に於て現れて居ると見るべきである。斯ういふ考を私は抱いて居る。さうして其處に精神生活の特色がある。苟も精神生活の方面から視るならば、國家であらうが個人であらうが家であらうが、或は會社であらうが銀行であらうが、如何なる團體であらうが皆同一體のものである。即ち特殊即普遍的のものである。然るに其點を忘れて單なる特殊主義、即ち己は己だけのもので他とは別のものである。他の迷惑を考へずに己だけの別の生活の態度を執るといふことは、上來述べ來つた西洋文明——西歐羅巴を中心とする——西洋文明の一の特色として出て來たものであつてその結果は社會主義などを喚び起すことになつた。これは甚だ宜しくない病弊に陥つたものと斯う考ふべきである。故に單なる特殊主義から目覺めて同一體主義の精神生活の根本義を明にするといふことは、人類文明に取つて必要なことになるのである。これは人類の將來を救ふ光となるべきものと私は確信して居る。さうして爾ういふ生活を我が大和民族

が今尙ほ自覺せずに居るか知らないが、本來具へて居るといふことに氣付かなければいかぬ。それを單なる特殊主義的思想に惑はされて居るのは甚だ遺憾である。元來吾々の精神生活の内に籠つて居る同心一體主義——特殊即普遍主義に復歸しなければならぬといふのが私の大體の趣意である。さうして一切の問題を同心一體主義——特殊即普遍主義——同心異中心主義を基として説明しなければならぬのである。さういふ考を基として爰に權利といふ思想を一つ説明してみやうと思ふ。

權利思想

現代思潮の一は權利思想である。これも權利として要求すべきものだ——あれも權利として要求すべきものだといふ云つて權利々々といふことを主張するのであるが、抑々權利とは如何なる意味のものであるか、之を精神生活の根本義から明にして置かなければならぬ。權利の意味を知るに付ては先以て本務或は義務——人間としてどうあらねばならぬか、どういふ事をせよならぬかといふ本務或は義務——といふことを知つて置く必要がある。そこで之を解り易く申せば、特殊即普遍的の生活を爲す——同心一體的の主義に基いた生活を爲す——同心異中心の生活を爲す——といふことが人間の本務といふことになるのである。吾々はいろ／＼な自利私慾がある。腹が減れば食ひたくなる。いろ／＼な事をしたくなる自己中心的慾がなかく／＼起り勝である。單なる特殊主義の態度で活動したくなるのであるが、さういふ事をしてはならぬ。同圓異中心主義、同心一體主義の生活をしなければならぬといふ務を感じるのである。一體義務といふ感を持つのは人間の外にはない。他のものは單なる特殊主義の生活だけを送つて居る。又それで矛盾を感じない。然るに人間だけは矛盾を感じるのである。單なる特殊主義で自利私慾の念が浮ぶと共に、己の本體たる同心一體的思想が現れて、爾うであれば斯うでなければならぬといふ考の起るのが人間だけである。人間には矛盾がある。食ひたい——けれども食つてはならぬ。斯ういふ矛盾が起る。人間は同心一體的性質を具へて居ると同時に自利私慾が生じて來るから、其處に矛盾が起つて義務本務の觀念が湧く。その意味に於て人格は二重性のものといふ云つて宜しいのである。兎に角さういふやうなわけで吾々は同心一體であるから、その同心一體である所の己を本當に満足させることが、同時に他の人々をも本當に満足させる

さいふことにならなくてはならぬ。之を學者は名けて「共通善」を云つて居る。自分だけ満足させる。自分に取つてだけ善いさいふことではない。凡ての人に共通の善が自分の本當の善である。眞に一般の者を満足させることが眞に己を満足させることになつて來るのを共通善といふ。この共通善の爲に活動するといふことが人間の本務或は義務といふことになのである。さうして何うしても爾うしなければ人間は満足出來ないといふのが、人間の人間たる本質の要求である。共通善の爲に生活する事それが即ち義務といふことになるのである。

昔から此義務の説明をするのに間違つた説がいろ／＼ある。その間違つた説の極端なるものゝ一は自然主義的の説明である。自分のしたい事をするのが務だ。慾の向ふまゝに満足して行くのが即ち道德だ。それが即ち人間の務だ。好きな樂な氣の向いた事をすべきだ。斯ういふのが自然主義的の説明である。これは倫理説としては始から成立たないが兎に角さういふ説がある。又その正反對の極端な説がある。何でも厭やな事をする。難かしい事をする。氣の向かない事をするのが即ち人間の務で此が道德だと斯ういふのです。これは不自然主義或は禁慾主義或は禁慾苦行主義である。何でも食ひたいと思ふものを食はない。食ひたくないものを食ふ。何でも自分の慾と反對の事をするといふ主義である。さういふ反對の主義が行はれたことが西洋にもあつた。或る家庭に親が禁慾苦行説を實行するものがあつた。或朝子供が今朝のスープは美味かつたと言つたら、阿父さんはスープの中に鹽を一掴みぶち込んで不味くして之を食へと言つたといふ話がある。美味いと云つては主義に反する、不味いから食ふのだ。さういふ立場から道德は根本的に厭やなものの窮屈なものと解釋するのである。

正しい解釋は己の衷心爲したいと感ずる事を行ふ。自己の本質の要求する事を爲すのである。併ながら其事を爲すのは容易なことではない、なか／＼爲し難いのである。けれども本當に爲したい。なぜ爲し難いかといふは、兎角吾々の自利私慾さいふものが湧いて來てそのために爲し難いのである。子としては親に孝行をしたいといふことが衷心の要求である。孝行は一番したい事であるけれども、朝寢もしたいし怠けたいし美味いものも食ひたいさいふので自利私慾が熾に起る。さうなるに孝行をしたいと思つてもなか／＼出來難い。それで一番自分の爲し難い事を行ふのが人間の本務だ、此が即ち

道德だ。斯ういふことになるので、吾々の衷心の要求は同心一體的の立場で活動したくて堪らぬのです。所が一面動物的の自利私慾が湧くから容易に自分の衷心の要求に満足を與へることが困難だ。けれどもその己の衷心要求して居る同心一體的生活を爲すといふのが即ち道德上の務である。人間としての本務であるといふのが正しい説明である。即ち共通善の爲に生活するといふことが人間としての本務といふことになるのである。詳しく説明すればまだ／＼色々言ふべき事があるが、時間が許さないから省略する。

そこでその共通善の爲に活動するに付て、所謂缺くべからざるものとして要求することが權利だ。斯ういふのです。さういふ意味に權利を解釋しなければならぬ。權利といふのは共通善といふ人間としての務を全うするに付て缺くべからざるものだ。さいふ要求が、即ち權利だといふ意味になるのである。財産の權利といふのは何であるかといふは、その財産は決して偶然徒爾の爲のものではない。好加減の性質のものではない。實にこの財産は共通善の爲に用ひらるべき性質のものである。その共通善の爲に用ふるといふ義務の性質——本務を全うするに付て所謂缺くべからざるものとして財産を要求するといふことが、財産要求の權利の意味を成す根柢である。共通善の爲といふ義務、本務さいふことが伴はないならば權利さいふ意味は成立たぬ。又生命の權利もさうである。この生命は決して偶然的生命ではない。好加減の生命ではない。この生命は實に共通善の爲に働くべき生命である。本務を果すといふ使命を全うするために擔つて居る生命である。故にその意味で濫りに侵害することを許さないさいふ所から、生命の權利さいふことが出て來るのである。權利は即ち同一體の生活を全うする上に成立つさいふことを忘れてはならぬ。單なる力さいふことゝ權利さいふことゝは非常な相違がある。たゞの力といふことは單なる特殊主義的の生活の場合には云へるけれども、特殊即普遍主義的の生活の場合であれば、たゞの力でなくして權利の意味になる。善い事をするといふ共通善の爲といふ條件を俟たなければ單なる力である。共通善の爲に働くさいふときに權利といふ意味になるので此は大切な意味である。さういふ道德上の意味が本になつて始めて法律上の權利などの事も定まるのである。法律上權利を與へてあるから構はぬ、當然要求するのだと云つて要求して居る人があるけれども、その根柢は義務を全うする本務を果すことに在るといふことを忘れたならば、それは實

に権利の賊である。権利を自ら壞るものであると云つて宜しい。故に財産を所有して居る者が唯だ法律の範圍だけから云へば、その財産を法律に規定してある事に背かざる限りに於て、どんな事に之を用ひても差支ない。どんな贅澤に使用しやうとも放蕩道樂に用ひやうとも差支ないことになつて居るけれども、その権利の權利たる所以の根柢に考を向けるならば、その財産所有者が、それを共通善の爲に同心一體主義に基いて用ひないときには、それは財産を盗んで居る人だと或る學者が批評したが當を得て居ることと思ふ。さう考へ來るときは今日世間には財産を争奪して居る者が澤山ありはせぬかと思ふが、財産を有する以上は、財産に付ての眞の権利を主張せん欲するならば、それと並行する所の義務を全うしなければならぬ。権利と義務とは常に並行して居るものである。その範圍を均うして居るものであるといふことを忘れてはならぬ。生命もその通り、法律だけに就て見ればどんな暮らし方をして居らうと、生命の権利が有るやうに思はるゝか知らぬが、その根柢を考へるときには、共通善の爲に同心一體的の生活をして居らぬならば、生命の権利は無いのであるから死ぬのが然るべきである。さういふ人は早くへたばつて了へば宜いと世間の人が考へて居るに違ひない。眞に共通善の爲に活動して居る人は惜しい人で、もつこく生かして置かなければならぬといふので、當然生命の権利を世間の人が與へることになる。道徳上の意味を離れて單に法律上だけの義務權利を考へるのは淺薄な考方である。權利あつて後人格が成立つものではない。本來精神生活を具へて居る同圓異中心主義なる人格が本である。人格あるがゆゑに權利あり、共通善を目的として生活を爲すがゆゑに權利ありといふことになるのである。故に人格とは何ぞやといふことに付て最も簡單明瞭に定義を與へんとするならば、實に權利と義務とが其主體であると云つてよい。人格こそ實に權利を有ち義務を有つて居るのである。人格以外にはそんなものがない。動物などには象、獅子の如き力あるものがあるが權利といふものは有つて居らぬ。あれは特殊的生活、動物的生活である以上たゞの力が有つても權利は無い。精神生活に至つて始めて只の力と違つた權利といふものが生じ來るのである。これは大切な點であると思ふ。

權利といふ言葉は或は正しい言葉にも用ひられて居る。英語ではライト、獨逸語ではレヒトといふ。これは道徳上「正」の意味が籠つて居るのである。然るに道徳の根柢を正——權利の意味に考へずして、唯だ力主義で一切の事を行はう

とする傾が現代の流行となつて來た。即ち力主義的の事が行れて、國家に於ても個人に於ても其他の團體等に於ても、階級闘争といふやうな上に持つて來るやうになつた。力主義的政策として國家の上に特に之を用ひた。獨逸などは専ら之を用ひたのである。力即正なり何でもやつつけさへすればよい、道徳もへちまもあるものか、さういふ思想を個人の上に持つて來たのが獨逸のニイチエといふ思想家である。随分亂暴な思想である。さうして進化論を取入れて自分の説明に供して居る。進化論といふものは昨日も言つた通り、他を倒して自分を立てるといふことの競争で、さういふ競争を爲して優れた者が生殘る。その生殘つた者が子供を産んで、それが又競争して生殘るといふことによつて進化して行く。ニイチエの説によれば「人間は段々その理法で進化して行くがよい。さうして最後の超人といふものが進化の結果生じ來ることになる。それが即ち理想だ。その超人を造り出すに付ては自己中心主義的の生存競争をして、他を倒して行くのであるから力主義を行はなくてはならぬ。所が間違をして居る。道徳だの宗教だのいふあんな不都合なものを擔ぎ出して來て他人を憐まなければならぬか又ヤレ同情だの慈悲だのと言ひ出して來た。あれはさんでもない間違だ。他人を憐んでは進化も何もありはしない。弱い者を助けてやるさういふやうなことでは進化も何もありはしない。弱い者は殴り倒して強い者だけ進んだ方が進化が早い。恰も猛獸の野を行くが如くせよ。仁義とか良心とかいふやうなことを言つてはいかぬ。吾々の祖先は動物なから皆さういふ競争をやつて來たのである。然るに祖先の遺風を顯彰せずして、ヤレ同情とか慈悲とか道徳とか宗教とかいふやうなことを擔ぎ出して來るのは何事だ。矢張り祖先の主義を繼承して力主義によつてやるがよい」と基督教徒にも反對し道徳にも反對して力主義を主張したのである。その流儀を國家の上に持つて來たのが獨逸のマハトポリチック即ち力主義であつたのである。けれどもさういふことでは人間は承知しない。そこで今漸く目覺めて來たのである。

獨逸の力政策の事に付て思ひ浮んだから一言附加して置くが、例の世界的の戦争が始つて、世界の列強が段々獨逸から離れて敵になるさうなことになつて來て獨逸が孤立の状態になつた。當時の獨逸の外務大臣が吃驚して「この上更に世界の國々が獨逸を敵にするやうなことになつては益々困つたことだ。さういふことにならぬやうにするがためには獨逸國民

たるものは考直さなければならぬ。それは何かさういふことの外にまだ大切な事がある。即ち正といふことがあるのを忘れてはならぬぞ。さういふことを獨逸國民が茲に覺らなければならぬぞ」といふ演説を戦争中にしたことがある。即ち今迄の獨逸の政策の間違つて居つたことを白狀したのである。今迄の力主義をやつつけさへすればよいといふ考ではいかぬ、力といふことの外に正——精神を本とした共通善の爲の生活を根柢させる正——單なる力でなくして權利といふ意味合のものが存在して居ることを忘れてはならぬといふ演説をして、從來の獨逸の政策を外務大臣自身が非難したのである。段々懺悔し始めたのである。それが理由になつたわけでもあるまいが間もなく外務大臣が辭職した。これは其當時力主義を中心とした軍閥團と意見が合はないうで辭職したのであらうと思ふ。所が獨逸は矢張り敵を益々殖して御承知の如く遂に敗北の結果となつたのである。そこで戦争を熄めて愈々談判に這入らうといふときに、當時の總理大臣……ミハエリス氏が在外獨逸人に發した布告がある。その中にも今言つたやうな一箇條がある。それを御参考までに申せば、戦争を段々やつて来て到頭五箇年目になつたが、我等獨逸民族は其間出來得る限りの骨を折つたけれども到頭駄目になつて敗北して了つたといふことを段々述べて、さうして其次に斯ういふことがある『併ながら吾々獨逸民族は更に一層偉大なる勝利を贏ち得たり。何となれば力即正なりといふ從來の信仰を打破し得たればなり』と言つて居る。即ち今迄は力即正なり力主義で飽迄やれといふ政策を執つて居つたが、その間違つた信念を打破することが出來たから、吾々獨逸民族は戦争なきさういふことよりも遙に偉大な勝利を贏ち得たさういふのです。從來力主義の政策を執つて居つた獨逸の而も宰相の口から、けういふ事を言はせたのは即ち精神生活の根本義から云へば、實に有意義な至言と云はなければならぬ。尤も爾う言はなれば平和條約を結ぶ上に障りになるから策略上言つたのであらうが、權利——正——道德——の威嚴を背景として居る側の勝利と云はねばならぬ。

それほどまでに力主義を執つた獨逸が到頭降参して了つた。随分獨逸は不都合な事をやつた。けれどもそれは獨逸ばかりではない。現代に於ける各方面のものが同一方針を執つて居つたのである。就中それを最も著しい形に現はしたのが獨逸であるといふだけで、皆同じ罪惡を犯して居るのである。速にその罪惡を懺悔して精神生活の根本義に戻らなければならぬ。然るに何れも憎み憎んで果てしなき態度になつて居るのは實に遺憾と云はなければならぬ。進化は生物界の理法であるけれども、單にそれだけで以て人類文化の發達を説明するやうになつたのは、それを應用した人の過である。ダーヴィンは成程さう考へて言つたのであらうが、之を他の人が都合好く應用した過で、就中獨逸の政策が最もさういふ間違をしてかした。その間違つたことを明瞭に白狀した事實が此にあるのです。それは彼の世界的大戦争を惹起した當時の獨逸の總理大臣フオン・ベトマン・ホルヴェヒ氏が議會に於ていろ／＼な質問を受けたときの答辯に『我等は汎ゆる罪惡を犯したる當然の報として意外なる事になつた』とその戦争を始めるときに責任ある宰相の口から汎ゆる罪惡を犯したといふことを言つて居る。それまでにデリ／＼悪い事をしたといふほどの態度で力政策を行つたのだから、實に泥棒たけ／＼しいと云はねばならぬ。さういふ立場が現代文明の一大特色で、それを遠慮なく發揮したのが獨逸であるが、かゝる態度を執つて居るものがザラにあるのである。洵に情ないことと云はなければならぬ。兎に角精神生活——同圓異中心的生活を本にして、權利の意義をも説明しなければならぬのである。それを忘れてたゞ徒らに力主義で説明して居つたのだから、國家にせよ、個人にせよ、社會にせよ、銀行會社にせよ、資本家にせよ無産階級にせよ、皆同じ畑の喧嘩で洵に困つたものである。どうか此改造運動をして本當の精神生活の根本義に根柢を置くといふことにまで進めたいと思ふ。さうでなければ同じ過を繰返すに外ならぬと私は確信して居るのである。

そこで權利の思想といふことに付て誤解のないやうにして貰ひたい。權利の權利たる所以は、實に共通善といふ本務を根柢としなければならぬ。本務と權利とは並行して居る。範圍を均うして居る。否な同一の事實を異つた方面から觀たに過ぎない。人間の人間たる生活を全うするには義務と同時に權利である。同じ食ふことでも飲むことでも、唯だ動物としての己の私慾を満足させることだけならば、それは權利にならぬけれども、若しそれが共通善を全うするに付て缺くべからざる要求として、食ふことといふことになれば其食ふこととは權利である。吾々が權利として食つたり飲んだりするといふことは、餘程の聖人でもなければ出來ない。大抵の人は動物慾として食ふ。食ふなら美味いものを食ふといふことになる。それを權利として食ふ。共通善の爲にとして美味いものを食はなければならぬ——滋養物を攝らなければならぬ

といふときに始めて堂々たる共通善である。國家も同じことである。唯だ力主義で彼の國が欲しいから併合して了はうといふので活動するのならば、それは權利としての行動でないけれども、人類全體として彼の地方を併呑しなければ、己の國の本務として活動する上に都合が悪い。己の國の本分を全うするに困ることがある。己の國家をして遺憾なく活動せしむるに付ては、彼の國を己の國の勢力範圍にしてはなければならぬといふときに、丁度共通善の爲に美味いものを食はなければならぬと同じく、權利として戦争をするのである。權利として併合するのである。さういふやうなことは精神生活の根本義から出て來ての解釋を俟たなければ嘘である。唯だ欲しくなつたから取つて食ふといふのならば、それは動物慾として食ふといふことになるのである。權利の意義を同圓異中心主義の立場から觀れば、大體さういふことになると思ふ。次に權利にいろ／＼な權利があるが、就中現代に於て特に注意して觀なければならぬのは、自由の權利と平等の權利である。乃ち現代のデモクラシーといふ自由平等の權利を要求する事は共通性を帯びて居るのであるが、その自由の權利、平等の權利といふことに付て同圓異中心主義の立場からさういふ解釋を下すかといふと、普通の人の考とは意味の違つたことがある。普通一般の考へて居る自由、平等は單なる特殊主義の根柢から解釋されて居るものがある。さういふ意味の自由、平等は反つて人類の文化を破壊し妨げることになる。そこで同圓異中心主義の立場から觀たる自由とは如何なる性質のものか、平等とは如何なる性質のものかといふことを説明して見たいと思ふ。

自由と平等

現代は自由を要求し平等を要求する聲が非常に強い。といふのは不自由な生活を送つて居る者が澤山ある。また不平等の取扱を受けて居るやうな事實が多いから、そこで自由を要求し平等を要求するといふことになつて居るのである。所でその自由と平等の意味はどういふものであるかといふことになる、立場が違ふと非常に解釋が違つて來るのである。今日普通に要求されて居る自由と平等は、私の考から觀るに個人主義的な——自己中心主義的な——單なる特殊主義的な——意味の自由と平等であるやうに思はれるのである。即ち個人主義的の立場、單なる特殊主義的な立場から觀る所の自由といふものは、個々が勝手氣儘に自分の欲するまゝの活動が多いほどそれが自由である。極端に云へばさういふ意味の自由と

いふことになつて來る。それから個人主義の立場から觀れば、凡ての人間といふものは生れながらにして同一の資格のものである、機械的に之を同一視して居る。恰も同じ鑄型で鑄出された貨幣のやうに視て了ふ。さうして凡ての人間を同等に取扱はなければならぬといふ意味に自由と平等を説くのである。然るに同心一體主義の立場、同圓異中心主義的の立場から觀るに非常に異つて來る。吾々は同一の普遍を生命として居るけれども、その現れたる姿から觀れば特殊——個々別々の形を有つて居る。親といふ意味に於て現れ、子といふ意味に於て現れ、或は夫といふ意味に於て現れ、或は妻といふ意味に於て現れるといふわけで、現れたる形の上にそれ／＼差別がある。けれども精神生活の本質に於ては同一の普遍を生命として居る。差別を認める所の平等を説くことになるのである。所が同圓異中心主義的の立場を執らないで唯だ自由と云ひ平等と云へば、一切の差別を無視して同一に取扱ふ。同じ鑄型から拵へた貨幣のやうに視る。乃ち同じ自由と云ひ平等と云つても單なる特殊主義、個人主義の立場に立てると特殊即普遍主義或は同圓異中心主義の立場に立てるとは、そこに非常な差異のあることを忘れてはならぬのである。

まづ自由と平等とに付て一寸考ふれば、さういふ個人主義の立場、單なる特殊主義の立場から云へば、自由があればあるほど不自由になる。個々勝手に活動し自己の能力を發揮するの自由、その發揮したることに付ての所得、結果といふものが即ち其者の權利といふやうなものになるにすれば、さうしても富める者は益々富み、貧しき者は益々貧しき者になる。さういふわけで不平等になるのである。さうして一方に富豪が出來、一方に無産階級の者が澤山出來たのは、産業上の自由といふことから來たと云つてよい。個々の活動に自由を與へ、その結果に付て自由の權利を與へたものだから富める者は倍々富み、貧しき者は倍々貧しくなつて非常な不平等になつたのである。兎に角單なる特殊主義な個々の自由を許せばその結果は不平等になる。それは宜しくないといふので平等を要求するやうになり、その平等も何等の差別をも許さないといふやうな平等になつて來た。即ち露西亞の共產主義、過激主義の要求する所の平等の如きはそれである。それだけ働いてもその結果はその人のものでない。その人の私有財産として之を許さぬといふまで差別を認めないほどの平等にするといふ。さうすると自由を無視することになる。それだけ働かうが働かずに居らうが其事に關係なく、一切の者に平等に分

配するといふことになるから人格の威厳、自由なる活動を無視することになる。極端なる自由平等になると自由を認めないことになる。自由を許せば不平等になり、平等を許せば不自由になる。然るに現代は一方に於ては何處までも自由を要求し、他方に於ては何處までも平等を要求する。さうするとは是は兩立出来ないことになる。自由があれば不平等になり平等にしやうとすれば自由を奪はなければならぬことになる。兩立の出来ないものを要求することが現代の社會だといふことになれば、現代の社會は其點だけでも行詰らざるを得ない破目に陥らなければならぬ。果して自由と平等といふことは其様に兩立の出来ないものであるか。現代の社會は兩立の出来ないものを要求するやうな、さういふ辻褄の合はないことをして居るのであるか。これは大問題である。さりながらそれは個人主義の立場、單なる特殊主義の立場に立てる間違つた意味の自由と平等であるから兩立出来ないものである。それは間違つた自由と間違つた平等であるから、衝突するやうな破目に陥るのである。若し特殊即普遍主義、同心一體主義、同圓異中心主義、精神生活の根本義から自由平等の意味を考へ來るときは、さういふ自由と平等とは立派に兩立し得て、圓滿なる調和が出來て社會が幸福なる状態に向ふことが出来るのである。

然らば特殊即普遍主義の立場から觀た自由と平等は如何なるものであるか、それを吟味する必要がある。個人主義的の立場の自由は、普通に無干渉の自由と云はれて居る。或は學者によつては之を消極的の自由と云つて居る。何等他から拘束を加へないで放任し置く。之を無干渉の自由といふ。これは眞の自由とは云はれないのである。眞の自由とは何ぞや。精神生活を具へて居る人格者の自由とは何ぞや。さういふと、人格の人格たる所以の固有の本性を遺憾なく發揮するといふことが眞の自由である。これは非常に大切な事である。人間でありながら人間たる本質を發揮することが出來ずに居る。何かの思想に惑はさるゝか或は種々の事情の爲に、人の人たる本質を發揮することの出來ない状態に在るときは自由でない、之を不自由といふ。尙ほ言ひ換れば同圓異中心主義的生活、特殊即普遍主義的生活、同心一體主義的生活を爲し得ないときには自由を得て居らぬ。さういふ精神生活を發揮する上に於て遺憾なく發揮出來ない。之を遺憾なく發揮するといふのが人間の眞の自由である。さういふ自由を發揮することの出來ない者は何等かの惑に陥つて居るのである。

さうして自利私慾の態度に出づる力主義的、自己中心主義的の間違つた態度の生活を爲す者は眞の自由を得て居らぬ人である。そこで眞の自由とは、前述の無干渉の自由、放任の自由或は消極的の自由に對して、學者が之を積極的の自由と云つて居るが、さういふ積極的の自由を能く理解しなければならぬのである。さうしてその積極的の自由を全うするに付て消極的の自由を或る程度まで抑へ付ける必要がある。自利私慾の要求を或る程度まで抑へ付けることによつて、同圓異中心主義的精神生活を發揮することになる。即ち消極的の自由を抑へ付けることによつて積極的の自由を實現することが出来るのである。自由の意味を能く理解しなければならぬ、唯だ消極的の自由さへ與へれば宜いといふことになれば、それは動物的自由を與へるといふやうな自由になつて了ふ。さういふ自由は人間の眞の自由ではない。それは放埒な自利私慾の我儘の自由である。眞の自由は人間の人間たる自由が何等妨げられずに行動するに在る。乃ちさういふ積極的の意味に於ての自由であればあるほど社會は調和状態に向ふのである。何となれば同心一體主義的生活を發揮するのが自由であるから、自由であればあるほど社會が調和し統一するのである。之に反して個人主義的、自己中心力主義的の單なる特殊な消極的の自由であるならば、自由であればあるほど亂脈になる。個々勝手氣儘に放埒な事をやれば、丁度蜂の巢を壊したやうに亂脈になり、不統一になり不調和になるのである。そこで希くば、今日の社會は積極的の自由を與へるやうな政策なり方針なりを執るといふことにならねばならぬ。凡ての人間が皆人間の人間たる本質を遺憾なく發揮することが出来るやうに、教育の制度なり社會の組織なりを改善して行くことにならなければならぬ。若し然らずして個人主義的の自由を與へることにすればとんでもないことになる。故に自由の意味を誤解しないやうに希望せざるを得ない。たゞ自由々と云つても兎角さういふ間違が生じ易いのである。

そこで前に國法に遵ふといふことは、決して自分以外の要求が自分を屈從させる意味ではないといふことを申ししたがもつと突込んで云へば不自由と自由とは同一であるといふことも言へる。特殊としての己と同一體である所の國家の要求それが自己衷心の要求である。己の要求に満足を與へるといふことと服従とは別でない。さうして己の要求に満足を與へるといふことは、詰り同心一體的生活を發揮する所以である。人間の人間たる本質を遺憾なく發揮するのが眞の自由である

とすれば、服従は自由といふことになる。そこまで徹底した國家的生活を送らなければ嘘だ。前にも屢次述べた如く元來「自分と國家とは同一體である。その同一體たるものゝ要來が、國家としては法律の意味になり、又己としては最も自由なる生活を發揮するといふ意味になる。そこまで徹底して來なければ人間の生活としては嘘である。それを互に離れたものゝ如く考へるから、資本主は自己の利益だけを圖るに汲々とし、勞働者は又自己だけを本位として考へるこいふやうなわけで、皆自己中心的立場、單なる特殊的の立場に立つて政黨は政黨、銀行會社は銀行會社、家は家こいふやうな風に皆間違った態度になるのである。それは單なる特殊に惑はされて居るから爾うなるので、特殊即普通の立場に還らなければいかぬと思ふのである。

平等に付ても矢張り自由と同じことで、精神生活の根本義から云へば、差別を認める所の平等が眞の平等こいふこゝになるのである。特殊の姿に於て現れたる普遍である。普遍から視れば同一であるが差別的に之を視れば個々別々である。その差別を考へずして親子も夫婦も師弟も同等の取扱をするこいふこゝになつたならば、それこそ反て不平等になるのである。能く勉強する者も不勉強の者も同一に報ひられる。どれだけ働いても又それだけ遊んで居ても収入が同じだこいふことであつたならば、それは不公平不公正である。眞の平等は五に報ふるに五を以てし十に報ふるに十を以てする。十だけ働いた人格の威嚴、自由の意義を發揮する者も、それを發揮しない者も同じに報ひられるこいふことは平等の本質に反して居るのである。或る意味に於ては、自分の働きから生じた所の財産に付ては其者の權利を認めなければならぬ。その意味に於て私有財産を認めないといふことに付ては人格の尊嚴を傷けることになる。現に飽迄も平等主義を執つて居つた露西亞の國家でさへも、此頃では或る程度までの私有財産を許す。また自分の財産を銀行なりに預けて置くとき其私有財産の制度を、或る程度まで許さずには居られなくなる。さうしなければ人間の生活を無意味にしてしふ。凡ての人間を何等差別なく器械的に視るといふこゝは、人間を器物の如く取扱ふ所以である。故にそれ／＼の價値に應じ、それ／＼の仕事に割合して報ひられるといふ所に眞の平等がある。併ながら精神生活の根本義に於て同一の本質のものであるといふこゝを忘れてはならぬ。さうして何處までも同一體であるといふこゝを立場として、それ／＼報ゆる場合の根本義を定める必要があるのである。

併ながらさうなつて來るこゝ或は諸君の中から斯ういふ疑問が出て來るかも知れぬ。それならば今日の如く一方に富める者が出來、他方に貧しき者が出來、さうして富める者は倍々富み貧しき者倍々貧くなり、成金も出來る新貧も出來るといふことであれば、これは正しいことではないか。何れ金持になる者はそれだけ機敏なる頭を有つたので貧乏になる者よりは賢いわけだ。即ち當然に報ひられものであつて貧乏人は何處か後れる所があるに相違ない。それが當然の報を受けて貧乏になつて居るのだから、貧富の懸隔は公平の結果ではないか。然るに今更社會運動だの改造運動だの勞働運動だのと云つて騒ぐのは何か。功績に比例して報ひられるといふことであるならば、社會改造などといふことは譯の分らぬことだと斯ういふ疑問が起る。私はその意味を徹底して置く必要があると思ふから、その疑問に答へて更に一言申さざるを得ない。その前に先づ斯ういふ事を考へる必要がある。成程それ／＼の働きに對して公正に報ふる——五には五、十には十といふ差別的の報をするのは宜いが、その人が同じ境遇の下に置かれて居つたか、同じ機會の下に置かれて居つたかこいふこゝを考へる必要がある。換言すれば均等なる機會が凡ての人に皆與へられて居るか、均等なる機會が與へられて居つて、その均等なる機會の下に於て勉強をして好成绩を挙げたならば其者には多く報ひ、同じ均等の機會の下に在りながら、勉強すれば出來るのに怠けて居つて成績が舉らぬから、不成績だこいふのならば公平であるが、果して現代に於て凡ての人が均等の機會が與へられて居るや否や問題である。その意味に於て差別がある。即ち差別のあることが眞の平等だとした所で、若し均等なる機會が與へられて居らないならばそれは宜しくない。私の言ふのは均等なる機會が與へられて居るといふことを條件しての、それ／＼結果を挙げた者に對してそれに報ふるに差別がなければならぬ。割合が公平でなければならぬといふのである。所が均等なる機會が與へられて居らぬこいふのが今日の社會の通弊となつて居る。

そこで私自身が教育の事に携つて居るから教育を引合に出してお話してみるならば、現代の状態では——西洋邊では殊に然うであるが——貧乏人の家にも産れたが最後、最高等の教育を受けるこいふやうな機會には一生涯出會はさぬのである。素質が良くてなく／＼頭腦が明晰であるから機會さへあれば優れた人物になり得るけれども、中學にさへ入るこゝ

が出来ない。況や高等學校を出て大學に進んで立派な教育を受けるといふやうなことは出来ずして、相變らず親父の後を襲うて貧乏な生活をしなければならぬ。之に反して金持の家には頭腦は左ほど良くないけれども、ヤレ家庭教師だとか何んとか大騒ぎをして、到頭しまひには大學まで出て社會の各方面にゑらく幅を利かして活動するといふことになる。これでは寔に困つたわけである。どういふ程度の家産に生れた子供であつても、人間としての本質を能く發展し、さうして人間らしく活動の出来るやうに所謂眞の自由を得るやうにする。教育の機關の如きはどんな程度の家産に生れた者でも、高等教育を受けやうと思へば何等支障なく受けることの出来るやうにまで、均等なる機會が與へられて居らなければならぬといふのである。さうして誰でも思ふやうに教育を受け得られるやうな機會の下に生れて居りながら、怠けて一向進歩しないで貧乏する者は自業自得である。その中に奮闘して成績を擧げて立派な事業を起して堂々たる生活を爲すことが出来れば、それは其人の當然の要求、權利といふことにもなるのである。兎に角一方は餘裕のある生活を爲して居るに拘らず、一方は均等なる機會が與へられずして相變らず貧乏といふのならばそれは不公平である。機會均等の下に差別があるならばそれは正當なる差別である。機會均等の下に置かれないうで差別があるならば、どうしても不公平なる差別といふことになる。例へば競走でもさうです。出發點が同じで均等なる機會を與へて置いて、而して自己が全力を盡して勝利を占め得たときに一等賞、二等賞といふことで賞與を與へるのは當然であるけれども、決勝點の傍に立つて居つて用意ドインとやつたときに飛込んだ者に、一等賞でもやらうものならそれこそ大騒ぎで、即ち均等なる機會を與へずに報ふるといふことになる。それは不公平不正で眞の平等でない不平等である。そこで均等なる機會を與へて居るかどうかといふことが問題である。殊に教育上の機會の如きは人間の人間たる本質を發揮せしむる根本問題だから、教育に付ての機會均等は、是から後の社會の理想的組織に取つての必要條件と私は考へる。先決問題が其處に在ると思ふ。

さういふ立場から私は教育に關する費用といふものは、父兄の直接の負擔といたくない。これは何處までも國家社會の負擔として一般の負擔にしたいのである。さうでないミ子供でも澤山あればあるほど親父は困つて了ふのである。私共にした所が自分の子供等が皆小學校から中學校、中學校から高等學校、高等學校から大學といふ風に進まうものならば破産

して了はなければならぬ。兎に角凡ての者が子供を思ふやうに教育する費用が無いといふ有様になる。それでは子供などは餘り産まない方がよいといふことになる。サンガー夫人なきの言ふことを本當だと思はざるを得ないことになる。子供が澤山産れると教育上親父が行詰まるといふやうなことを考へるのは頭の働のよい連中なんです。さういふ頭腦の良い連中が子供を産まないやうになり、さうしてあとさきの事を考へない連中が子供を澤山産むといふことになる。甚だ失禮な言ひ方だが、智能の上にて遺傳的に劣つて居る方の子供ばかり殖へて、智能の上にて優れて居る方の子供が段々産れなくなるといふことは、人類の發達の上からは甚だ忌はしき現象となるのである。子供が産れては困る考へる中の主なる理由は、差當り食ふことに困るのか主なる理由である。産れた以上は人間の人間たる能力を發揮する所の眞の自由を與へられる人にさせずには居れぬ。それだから同圓異中心主義から考へた親は爾う考へる。何處までも同心一體になつて來るこ、子供を眞の人格者として自由の域に到らしめなければならぬ。それには教育である。所が教育に關する費用が足りないゆゑに子供を産まぬやうに考へる。子供を産んでも國家社會が負擔して教育をして呉れるやうな政策に向いて來ればドン／＼産むことになる。さうなると教育の發達は勿論、延いて民族の發展、國家の發展期して待つべしである。少くとも人としての生活を發揮することの根本條件たる教育の上にて、均等なる機會を與へるといふことは、社會改善の上では先以て必要な條件と思ふ。それには金が要る。その金は儲け過ぎて居る側から取る途がある。租税をさういふ方から非常な重い率で取るがよい。今迄の制度が不公平であつた爲に、一方には餘り儲け過ぎる連中があり、一方には貧乏過ぎる連中があるといふのは矢張り病的である。さういふ場合には國家社會が適當な措置を執つて、さうして働いた者がその功績に應じて報ひられたる富が増加するやうにしなければ嘘だ。さうでなければ露西亞のやうな状態になる。いくら働いても働いただけ損だといふことになる。そこでレーニンも或る程度までは私有財産の制度を許すといふことになつた。如何に働いても働き甲斐がない、何時も貧乏で送らなければならぬといふことである。其社會は病的である。故に金持の側から相當の租税を取ること考へ、その取つた金を教育其他必要な費途に充て、機會を均等に與へるここの出来るやうな社會政策の立場に立つてやれば、此事の解決を圖るここの出来るこ私は確信して居る。さういふ事を爲す場合でも同心一

體主義の根本義を忘れてはならぬ。國民各自も、國家も政治家も、社會の識者も、同心一體主義の立場に立つて考へなくてはいけない。自分が勞力を費さずして儲け過ぎて居るさいふことは同圓異中心主義から観て甚だ宜しくない。これは何か考へて資本家の側から改造を企てるといふ美しき状態にならなくてはいけない。西洋では最早行詰つて居るから爾ういふ事は出来ない。所が日本ではまだ出来る。私は確信する。だから今の中に改造を企てて、成程あれは理想的だと向ふが此方を師匠として社會改善をするさいふやうに、此方から先を越してやらなければいかぬ。斯くして日本が世界の文化に貢献することにしようか。さういふ點に於て上下擧つて考へてみたかどうか。勿論教育上の機會均等といふやうなことを、今直ぐに理想状態にするには出来ない相談であらうが、當差りさういふ方針で改良の緒に就くことを私は要求して息まないものである。さうすれば子供を産むことを心配せずに済む。英吉利邊では子供を何人まで産めば租税を減らす。或は何人以上産めば租税を取らぬといふ政策を執つて居る。日本でも幾許かさういふことを加味した法律が出来て居るがまだく足りないからさうか理想的にやつて貰ひたい。さうして健全なる子供を産むやうにしたいと思ふのである。

一體今日の人間は、種々なる點に於て肉體的にも精神的にも墮落して居る。精神的の墮落は、唯だ自己中心主義的に物質的の利益のみを考へて、道徳もへちまもあるものかさいふ態度を執つて居る。肉體的にも詳しいことは省略するが種々なる事をして墮落して居る。他の動物などは所謂進化だけであつて、進化すればするほど身體も健康な状態になると思はれるのであるが、人間の身體は社會が進化するに伴れて段々墮落して來て居る。といふのは人間は智慧があるから學問の進歩も無論出て來た。學問の進歩の爲に醫術の發達さいふことになつて來た。隨て治療法及び藥の發見さいふことになつて好加減の病氣に罹つても死なずに居れるといふ状態になつた。所が文化の及ばない山の中に居る者は好加減の病氣でも大概死んだふから大した老人は居らぬ。生きて居る者は概して壯健だ。文明の都會に來てみると概して壯健でない者が多いさうして其等の者が藥瓶を提けてヒヨコくしながら生きて居る。醫術の進歩、藥の發見でさういふ状態に在るのは進歩した人間社會の一の特色である。さういふわけで實に質が良くない。遺傳するやうな病氣に罹つてもなか／＼死な／＼い物質主義萬能で金さへあればよいさいふので、藥瓶提けてヒヨコくしながら金力で社會に羽振のよいといふやうな連中

の多い社會の状態である。兎に角身體の上に於ても精神上の上に於ても、今日の文明社會さいふものは甚だ墮落の状態に在る。これは何とかして人間改良さいふことを考へざるを得ないさいふので、今日は人間改造學といふやうなものが出來て之を學者が優生學と云つて居る。優生學さいふのは人間が段々墮落するから之をどうしたら改造が出来るかといふことを研究する學問である。墮落したのは人間の働だが、それを改造するのも矢張り人間でなければ出来ない。これは悪いと思へば善い方に向かせるのも人間の働だ。兎に角今日の社會に於ては肉體的にも精神的にも墮落して居るから、之を何とか改良しなければならぬといふ研究まで既に爲されて居る。

そこで優生學の事を御参考までに申せば、その結論はどうなつて來るかといふは、肉體的に且つ精神的に優れたる男女の結婚を通して優れたる子孫の多く生れることを獎勵する。それが人間を改造するに必要條件なりとして優生學者の主張する要求である。無論結構なことであるけれども要するに優生學は昨日お話しした個體的遺傳——親から子、子から孫といふやうな生理的作用を通して遺傳をひつかけにしての改良案である。だからそれだけでは人類の改造發展を望むことは無理である。どうしても社會的遺傳の方から感化薰陶さいふことに俟たなければならぬのである。併ながら兎に角優良なる男女の結婚に依らなければ、優良なる子孫が生れないといふことは事實であるがゆゑに、優生學の結論は固より之を尊重しなければならぬ。けれども餘りに優生學／＼と云つて優生學を重んじ過ぎてはいけない。亞米利加邊では優良なる男女の結婚を獎勵する爲に、金品の懸賞までするといふ方法を執つたことがあるが、それは人格の尊嚴を認めないやり方である。甚しきは優良なる結婚を獎勵する爲に不良なるの結婚を妨害して、結婚しても子供の出來ないやうな方法を法律で實行することさへやつて居る。即ち去勢法案さういふやうな法律を實行して居る洲が亞米利加にはある。彼には質の悪い遺傳性の疾患があるらしいとか、或は精神病の系統があるらしいとか、或は犯罪的の傾があるとか低脳らしいとか、さういふ者の子孫が殖へては困るさいふので引捕へて、官憲が手術をして子供の出來ないやうにしてさういふ法律を實行して居る處さへある。是亦人格の尊嚴を潰すものである。結婚といふものは人倫の大事事件であるから、これは各自の良心を通して——各自の道徳心を通して——自ら進んでこれは不都合だからせすに置かう、これは結構だからやらういふ風に、自發

的に俟つのが本當である。一體優生學を主張する者は多くは生物學者である。生物學者は動物を多く取扱つて居るから人間を動物扱にして恰も馬匹改良の如きことを考へて居る。これは極端であるが多少その嫌がある。隨てズット以前に華盛頓に於てさういふ連中が萬國會議を開いた際に、一夫多妻主義を採用すべしなどといふことを建議した者がある。優良なる男子に唯だ一人の奥さんを宛行つて置くのは惜しいものだ。さういふ人には優良なる多數の婦人を配偶者にして、ドン／＼優良なる子供を産んで貰つたらよからうといふ。これは優良なる牡馬を伴れ歩いて到る處で優良なる牝馬に交配して、優良なる馬匹を拵へるさういふ恰も馬匹改良と同じやうなやり方である。人格者を取扱ふにはそれではいかぬが、兎に角優良なる男女の結婚といふことは非常に大切である。

之に付ても眞に理想的に行ふためには、社會的公正といふことが根本條件であることを忘れてはならぬ。といふのは一方には富める者が倍々富み、他方には其日暮らして食ふにも困つて居る者が澤山あるといふやうな、貧富の懸隔甚しい不平等、不公正な社會の状態であつては、いくら優生學者が優良なる男女の結婚を要求しても駄目である。西洋などでもさういふ事に付て迎も駄目だと言つて居る學者がある。例へば茲に優良なる婦人がある。それは優生學上肉體的にも精神的にも最も優れた婦人であるが、今日の社會の不公正な制度の結果食ふに困る。いよく今晚あたり餓死しなければならぬといふやうな場合に或る男から結婚の申込があつた。その男は精神上から云つても餘り質が良くない、肉體上から云つてもへんてこな病氣を持つて居る。けれども今日の社會制度の不公正な事情から成金になつて金は幾許でもある。その金持の男が俺の妻になれと言つたときに、お前さんは優生學上よろしくないから去勢術でも受けておいでなさい、さうしたら結婚しませうと言へば結構だが、さうでなく欣んで其男の要求に應じて結婚して家庭を持つ。その結果質の良い子供が産れるといふことになつては、人類の改善も何もあつたものぢやない。さういふことの起るのは即ち社會制度の不公正なためである。故にもう少し社會制度が改善されて皆が爾う金持になる必要はないけれども、少くとも經濟的に獨立し得るだけの境涯になれば、自己の理想とする事も實行することが出来る。婦人にしても結婚の申込があつた場合に、お前さんと結婚すれば優生學上不都合なことになる。お前さんなどは御免蒙ると云つて他に好配偶者を求めるといふことになる

から、優生學上不良なる者は何時までも配偶者を得られずして落伍者となり、さうして優良なる男女のみが結婚して優良なる子供を産むといふやうな、機會均等が與へられる公正なる社會状態になれば、忽にして汎ゆる弊害が除却されるであらうが、今日は未だそこまで到つて居らぬ。いろ／＼な事情のために優生學者の要求するやうな事が行はれぬことになつて居る。それは眞の自由、眞の平等が得られる理想的の社會になつて來ないと駄目である。個人主義や自己中心的力主義の蔓る自利私慾一點張さいふ現代の社會、さうして個人主義の間違つた自由と平等とが要求されるやうな社會では、到底望むことが出来ない。同圓異中心主義的精神生活の根本義に立てる自由と平等とが與へられる所の社會的公正が行はれることになれば、今の結婚問題の如きも、極めて圓滿なる解決を告げることが出来ると思ふのである。然るに今日は結婚問題すらも經濟的の獨立を得て居らぬ。政治問題でも眞の自由、眞の平等になつて居らぬ。選挙の投票權の如きも公正に行はれぬ。一票幾許といふやうに買ひに來るとよしてきたといふことになる。さういふ事も社會的公正が行はれて居らぬ結果である。社會的公正が行はれて生活の安定を得るやうになれば爾ういふ事がなくなり、或は婦人問題にしても、或は資本對労働問題にしても、凡て圓滿なる解決が出来ると思ふのである。自由と平等といふ要求が實に現代の特長である。所謂デモクラシーなるものは丁度自由と平等との二つの要求を基礎として居るものであるが、若し個人主義的、自己中心主義的の立場に立てるものならば、其デモクラシーは吾等の理想として要求する事とは反對の立場となつて來るのである。

デモクラシーの功過

デモクラシーにもいろ／＼な性質のものがあるらしい。詳しい事を申す時間を有たないから省くが、先般歿くなつた英吉利の名高いブライス卿が『亞米利加のデモクラシー』といふ著述をしてデモクラシーに付て善い點、悪い點を批評して居る『デモクラシーにも結構な點がある。例へばデモクラシーに於ては自分の違ふ法律といふものは自分が之を作つたといふ意味になつて居る。故に其の法律に違つて活動する態度が所謂理想的であるといふやうな美點もある。また己の違ふ所の法律、己を支配する所の政治といふものは己れ自らの働きの現れたものだと考へられ、さうして官憲と云はれるものが多く干渉しない性質であるが故に、そこに自由潤達の態度で自己自ら支配するといふやうな自立的の性質があつて頗る

結構のものと思はれる」といろ／＼褒めて居る。併ながら同時に又デモクラシーの缺點短所をも指摘して居る。どういふやうな缺點短所を擧げて居るかといふと『亞米利加のやうなデモクラシーの國ではいざといふ大事件の起つたときに、直ぐそれに適するやうな態度を執ることが困難である。一々寄つて相談をして其決議によつてでなければ、なか／＼大事件に對して咄嗟の間に適當な措置を執ることが出来ないといふ缺點がある。それから種々なる異つた意見があつて、彼方に動き此方に動くといふやうなわけで、首尾一貫した態度を執ることが出来ないといふ缺點もある。それから又權威を蔑にするといふ弊害がある。さうして勝手氣儘な態度で活動するといふ弊害に陥り易い。その結果之を統一するがために軍國主義的尙ほ暴君政治主義的態度で壓へ付けなければならぬことになる』といふやうないろ／＼の弊害を擧げて居る。それから又『デモクラシーの弊害の一として、凡ての人間を低い程度の水準に下げるといふ嫌がある』と言つて居る。即ち民主政治であるから優れたものばかりに標準を取るといふ態度でなくして均らすといふことになるから、程度の低い所に標準を下けるといふ虞があるといふのです。また『群衆政治即ち愚なる考が多数を占める所を標準にすることに於ては、その意味に於て多数者が少数者に對して暴君的態度を執る。多数者の壓制——その壓制も賢明なる壓制であればよいが不賢明でも多数者が少数者を壓制するやうになる。さうして愚なる多数者を標準として居る國だから、愚なる多数者を煽動する者の働に餘地を與へる。その煽動者が質が善ければよいが、質が悪ければそれに煽動されてとんでもない結果を來すことになる。デモクラシーには様々なる善い點もあるが又様々なる缺點もあるから、此は注意しなければならぬ』ミブライス卿がデモクラシーに就て批評して居る。尙ほ之に就ていろ／＼な事を述べて居るのであるが、その詳しい事を申す時間がないから省略する。

兎に角單なる特殊主義的、個人主義的を立場としての場合にさういふ自由と平等とを要求するのを特色として居るデモクラシーには、私は賛成することが出来ないのである。我々國家とは同一體である。特殊即普遍主義、同圓異中心主義を立場として立つて居るならば、國家の法律に遵ふのは自己の衷心の要求であるといふことで立派に説ける。個人主義的の立場に立てるデモクラシーからでなくても其理想として居る立派な政治の意義を、國家人民同一體で説く同圓異中心

主義的精神生活を基として解釋が出来るのであるから、何も單なる特殊主義的の立場に立つて居るやうな者の眞似をするには及ばぬのである。さうして向ふの長所は採り短所は捨て、精神生活の態度で實行するやうにすれば、寔に都合よく行けるであらうと私は確信して居る。而して眞の自由と眞の平等とは如何なるものなるかを察して、均等なる機會を與へられたる社會組織の下に在つて、それ／＼自己の特長を發揮し、各自が適當に報ひられるといふことであつたならば多少そこに差別はあつても理想的になる。それでも餘り金持となり過ぎ或は貧乏になり過ぎる懼ある社會現象即ち戰爭等の爲に餘り調子が狂ひ過ぎるといふときには、それに應ずる法律制度を設けて自ら按排することが出来るのである。之を要するに、同心一體主義の立場に立つて社會改善の方法を講ずるといふのが私の希望である。何處までも自己中心的力主義の立場に立てる西洋文明の陥りつゝあるやうな弊害に、自分が陥らないやうに注意しなければならぬと思ふのである。詳しく申す時間がないから自由と平等に付てはその位にして措いて、少し休んで他の問題に移りたいと思ふ。

社會問題の根本的解決

段々お話し來つた所の、この物質的利益を尊重し自己本位であるといふことは不都合で、精神生活の立場に戻らなければならぬといふ考は、歐米側でも識者が旺に唱へて居るのである。その中の一の代表として茲に引合に出して置きたいと思ふ。即ち私の段々述べ來つた事柄は日本人であるが故にといふ理由ではなくして、西洋人の中にも既に私の言つたと同様の立場に於て、社會問題を解決しなければならぬといふことを叫んで居る有力な學者がある。それを一寸御紹介して置きたいと思ふ、それは亞米利加のミソリー大學の社會學の教授をして居るエルワード・ミソリー學者が『社會問題』といふ著述をして居るが、その著述の中に大體私の言はんことを欲するやうなことを言つて居る。まだ私の要求して居る同一體主義といふ所までピッタリ合つては居らないけれども、殆どそれに近い言葉で大體私の言はんことを欲して居る事を言つて居るから之を御紹介して、斯ういふ考は私ばかりでなく、有力な西洋の學者も矢張り主張して居るといふことを明にしたいと思ふのである。即ち彼は

『文明の難關は戰爭の終局と共に通過したのでなく、此から始まるのだといふ感がある。但し人々が考を共にして分裂

せずに協同し生活の大事に對して協調して進めば……十九世紀には夢想にだに上らなかつた貴い文明を建設し得やう』つまり精神生活の根本に溯ればといふ意味である。

『社會的に特權を抱く階級が盲目に又私利に走つて居る事、之に對して特權なき階級の指導者が熱狂的の過激思想を抱き階級的憎惡を抱く事、何れも分裂した世界に調和と善意を建直さうとする計畫を妨害する。』

戦争は西洋文明の基礎に腐敗の存して居たことを暴露した。即ち主義主義又物質主義の社會哲學を基礎として、その上に安全な社會組織を築き得るか如く極め込み、個人も國家も主我欲、物質上の満足暴力を筋書にしてそれで安全融和の秩序が生ずるか如く考へて來た。野蠻生活の氣風を個人の生活にも國家の生活にも現はして活動した云々』

私の言つたやうな弊害を段々西洋文明が醸して來たのである。

『主我欲、物質主義、帝國主義、此等が理論にも實際にも十九世紀の文明に勢力を占め、それが大戰の主因となり又現在の紊亂を來しつゝある』

丁度私の言はんと欲する所を皆言うて居る。それから

『獨逸は團體的自我主義を實際生活の根據だと公然名乗り出たが、文明世界は之に對して驚かざるを得なかつた。……國家でも階級でも又は人種でも、一團體の自我主義を主張するのは個人の自我主義に優るといふことはない。……又人生の一方面例へば生存競争といふ生物上の特別な原理のみに偏して人生を解釋するか如きは頗る危険である』

丁度私の言つたやうな事を皆言うて居るのである。又斯ういふ事を言うて居る

『社會の統一が動物以上のものだとするれば、人類の精神的要素を閉却してはならぬ。意識ある人類の社會團結に於てはその運命を左右する決定的最終要素は、人類相互の精神的態度である。社會を造る人々は、相互間の同情と理會とを保持しなくてはならぬ』

又斯んな事を言ふて居る。

『現今の西洋文明に留意すれば、一見社會民心が歸趣點を失つて居ることを知るに足る……過去の舊理想觀念は多くの

階級にはじんで了つて、而も新な社會秩序を建てるべき理想の建設がない。今や家より國家に至るまで甚しい瓦解の兆を示して居ないものはない。家の制度に就て見るに、近世西洋社會に行れた一夫一婦の原則は今や行はれない。反つて相互の意志で易々と決行する離婚や、さては自由戀愛や一夫多妻や混合同棲などを主張する者が擧つて一夫一妻の家を攻撃する。今日では此の如き見解を抱く人々の數は捨置くことの出来ないほど増加して來た。若し現今行はるゝ文學を採つて、そこに反映して居る現代社會の内面状態を見ると、此處にも人生理想に關する不一致が著しく現れて居る。今日の文學は……人道的、道德的立脚點を顧みず個人をそれ自身目的とし法則とし、その結果は本能的行動と衝動とを以てさも人生最高善の如く考へて居る。奉公義務の觀念や犠牲の觀念は、今の文學にありては嘲弄的となつて居る。個人主義によつて傳來的道德を無視するものは少數でない。』

今此に犠牲といふ言葉が出たから、この意味を私の立場から説明して置くが、私の同圓異中心主義から云へば、我と國家とは同一體であるから、國家の爲に身を犠牲にするといふやうなことはないのである。即ち自己と同一體たる國家の爲に盡すといふことは、同圓異中心主義でないやうな自利自慾の働を抑へ付けて、己の本質たる同圓異中心主義の生活を全うすることになるので、自己の本質を棄てるのではない。所謂犠牲といふ言葉で表はさるゝ眞の意味は、自己を棄てるにあらずして本當の己を發揮するのである。故に自利自慾を棄てるといふ意味で決して己を棄てるのでない。己を全うするといふ意味である。國家の爲に竭すのは己を棄てるといふやうな詰らぬものではない。己の身を犠牲にするといふのは實に己の要求を全うするといふことである。そこまで國家と個人とが同一體の立場に徹底しなければいかぬのである。兎に角犠牲といふやうな言葉は今日は嘲弄的となつて居る。それから

『文學や藝術の範圍のみならず、それ以上に政治や實業又は生活の理想に於ても同じことであつた。勢力威力を尊び所謂成功を唯一の標準とし、西洋文明の中に相敵視する團體を發生し、最後の解決を威力に訴へるやうになつて來た。調和とか好意とかいふことは弱音に外ならずとせられ、實際の政策は威力政策即ちマハトボリチツクに限るやうになり。之に加へて經濟組織は自利を根本として、その爲には横領的商策をも敢てし、斯る實業家は勢力を世界に張る爲に外交

政策を自分の目的に利用するやうになつた。』
西洋文明の病弊がさういふことになつて来た。

『此等の傾向は何れも現代文明の諸方面に多少行はれたが、その先頭に立つたのは専制軍國主義の獨逸國家であつた。基督教の道徳は個人に限ること、政治に應用は出来ぬといふのはベルンハルチの言であるが、それは彼一人の考でなく、二三代に亘つて獨逸大學教授等が殆ど舉つて打建てゝ来た説明を反映したに外ならぬ。』
或人の説によれば獨逸の大學が知識的砲兵工廠であるといふやうなわけで、力主義の手段にまでなつたほどだと言はれて居る。

『獨逸人がニーチエ以下殆ど舉つて、悉く威力を以て最高の權利だにするに至つたのは敢て不思議でない。殊に恐ろしいのは交戰國相互の間に於ける憎悪心であつて、此の如き憎悪は一國家の範圍内でも階級間の憎悪となつて現れ、その國家生活の基礎たる理解と善意とが如何に危いものであるかといふことを示した。』

明治天皇の御製に『國のため仇なすあたはくともいつくしむへき事な忘れそ』——假令仇なすものは打懲らしても慈悲の心は忘れるな。戰爭をしてもそれは愛の戰爭でなくてはならぬ。兎に角憎み合ふといふ態度は人間の態度として間違つて居るのである。所が今は自己中心的力主義で國と國との争闘、政黨と政黨との争闘、銀行と銀行との争闘、會社と會社の争闘といふわけで實に争闘の巷である。

『言ふまでもなく、階級と階級との間に、又國家と國家との間に、理解と善意とが存しない限りは、世界は何時までも不安状態を脱し得ない。』

それから又革命の原因といふことに就て斯んな事を言つて居る

『現今の實際社會に於ては、社會の勢力を握る階級が……己の利己心と短見とによつて社會の漸進的改善の途を阻まうとして居る。下流社會に於ては自ら之に反抗する又不健全思想が蔓延して来る。而してこの思想は相寄つて現社會の制度を攻撃する武器となるのである。斯る反抗の精神は、現在の社會組織にては不利益の位置に在る凡ての階級に擴がり

感染するやうになる。今にして上流社會が讓歩しなければ、社會は上下二段階級に分れて、血腥き革命を起すに至るべし。』

さういふやうなわけで兎に角物質的、主我的を土臺にして居るのだから西洋文明は行詰りであるといふことを段々言つて居る。さうして

『現代の社會問題は全體に於て精神的のものである。その根本に於て人間の團體生活に關する價值、理想、意見に關する問題である。今の社會主義者は社會の經濟状態が變化すれば、他の事柄は自然に解決すると信ずる。人間の仕事はその境遇に左右せらるゝからと云つて、時間の餘裕や、娛樂機關を善くさへすれば、その他の改良が直に出来るといふ。……』

斯く第一義の社會問題は本來精神的であるとしても、必しも他の物質的方面を閑却するといふことにはならぬ……。併し斯る物質的社會問題を認める場合にあつても、尙ほ之を解決するには、其等を吾々の觀念や理想又價值觀念に關聯せしめなければならぬ。

物質主義、個人主義、偏した民族主義、帝國主義、階級的利己主義、此等は十九世紀から今日に續いて今尙ほ其等の風潮に導かれて居る。物質主義は文明の要件たる精神的價值を否定するものであり、個人主義は社會的責任義務の感を養ふ源たる共同生活を破壊するものであり、偏した民族主義即ち國民的利己主義は、人類の共同生活を否定し、何れの國民も人類全體に對して負ふ所の無限の恩義を無視するものである。帝國主義の野心は世界の平和を脅すものであるが、それは國民的利己から來たものである。』

これは判りきつたことであるが段々さうい事を述べて居る。

『斯る思想が全體を支配する間に在つて、人々が不具的人物となり不調和的性格のものとなるのは自然の數である。兒童にしても親にしても、又夫としても妻としても、勞働者にしても將た工場主にしても、公民としても官吏としても、

社會的生活に適せざる不具的人物となるは現今社會の實狀態である。實に今日の歐米社會は、高尚なる生活の價値を尊重せざる野蠻人を造りつゝある有様である。』

それから個人主義の事などに就て斯んな事を言つて居る。

『近世社會運動の最大なるものは個人主義であつて、この個人主義運動が最初に出現したのは、キリスト教界に於ける新教徒運動である。その運動は實に中世教會の敗徳專横に對する反抗には違ひないが、その根本では依然としてチュートン族の個人主義の發現であつて、宗教的權威に對する反抗運動に外ならぬ。次でこの運動の顯著に現れたものはデモクラシーの運動である。その初は既に宗教改革の時に發して居るけれども、その結果は第十九世紀になつて西洋諸國で民族政治の建設になつて現れた。』

權威の束縛から個人を解放する運動は、佛蘭西革命に於て其極に達し、又成功に達した如く見へたが、實はその運動はそれで終らず、個人主義の傳承は現今にまで及んで居る。それが爲に都會及國家の權力は漸次衰退するに至つた。

吾等の祖先は人間精神の解放といふことを、献身的事業の中で最も高尚なるものと信じて居つた。されど解放といふ考を進めて個人を家から解放し、婦人を母の務から解放し、個人を義理道德から解放するといふやうなことは、祖先等は考へ及ばなかつた。一方に於ては個人主義は少からぬ利益を歐洲文明に與へたことは明であると共に、他方にはそれが又同時に現代の最大危險で、社會の秩序や文明に危險を及ぼしつゝあることも之を確認しなければならぬ。』

それから又近代科學の勃興といふことに就て斯ういふ事を言つて居る。

『科學勃興の一部は個人解放運動に基因し、他の一部は往古希臘の文藝復興に基いて、近世になつて科學が大に盛に現れて來た。この科學的運動は近世文明を構成する第二の勢力になつたのであつて、精神的方面に關してもこの運動は重大なる意味を有することは否認することが出来ない。即ち科學は人間精神の眼界を擴げ舊信念を打破し、更に過去人の夢想したる所以上に人類の希望と向上を實現して、凡ゆる物質の世界を征服するに至つた。……遂には精神的要素を除

去して唯だ世界を物理的機械的に見んごするに至つた。それが爲に近世科學は一般に社會的理想を無視するに至つた。』

それから『工業の革命とその結果』といふことに就て、斯ういふ事を言つて居る。

『第十八世紀の末葉及十九世紀の初葉、機械が人工に代る頃になつて工業界は一大變革を起した。即ち機械の價格が莫大となり、勞働者の自營に任せぬ事情のある爲め、大資本家の手に成る大工業が發達するに至つた。斯くして社會一般には製造業の進歩で非常な利益を收めたけれども、他方勞働社會は非常な損害を招くに至つた。勞働者は斯る時勢の變遷の爲に自由と獨立を失ふに至つた。それが遂には資本制度の横暴を生み、加之資本的工業組織は勞働者の個人を機械視し、一家族の位置を剝奪して只だ生産上より見たる一單位と考ふるに至つた。男女兩性の區分の如きは斯る工業主義の暴力で益々削減されるに至つた。工業の發達は一方に於ては非人道的境遇の力で、益々物質的的人生觀の昂進を促すと同時に、更に個人主義を促進するに至つた。』

近世の工業的革命は一方非常に富の發達を促進した。而もその富が勞働者間には適當に分配せられなかつたに係らず社會の大部分は從來の歴史が未だ經驗せざりし生活上の餘裕を感じるに至つた。換言すれば、富力の増進は社會の人々をして奢侈と享樂に耽けることを得せしむるに至つた。

此等の理由の下に、社會は經濟上階級と階級との間に争鬭を促成し、益々社會の紛擾を滋くするに至つた。この形勢の爲に社會的協同性に必要な同情及理會を失つて、遂に兩者間の距離を連絡せしむる橋梁を失ふに至つた。社會的階級心には人類團結の傳統を破壊する仲介物となつた。』

といふのが社會運動なきの起る理由である。それから又近世思想に於ける『批評的』運動といふことに就て、斯ういふ事を言つて居る。

『近世文明の顯著なる他の運動の一は、晩近思想に於ける批評的運動である。この運動は一面に於て個人主義と關聯し他面に於ては科學的運動と深き關係を持つて居るものである。……批評主義は元來積極的建設的のものでなければならぬ。過去の社會が残したるものゝ中で建設的材料は之を探り、保存して新しき組織秩序を建設する資料としなければなら

らぬ。然るにこの批評主義は動もすれば極端に傾き次第に消極的破壊的のものとなる傾向を持つて居る。舊習に對する極端な反抗の結果は社會の道德、宗教、家、政治に對する消極的、破壊的思想のみが行れてそれが一般社會に廣く傳播した。されば斯る消極的批評主義は現今西洋文明に於ける唯一無二の危険物と看做すべきものである。この運動が又地方に於てニーチェの無道德主義やサンヂカリズムの激烈主義を産出するに至つたことを認めねばならぬ。斯る無道德主義が今日に於ては次第に世人に寛容さるゝに至つたが、その結果は矢張り文明の高尙なる價值を漸次破壊することとなつた。」

こいふやうに西洋文明の没落する有様を述べて居る。

『以上の原因に基いて第十九世紀は社會的大變動の世紀であつた。その間に勢力を占めたものは個人の自由と物質成功主義とであつたが、此等は一層高き社會的見地から觀れば甚だ消極的であつたことが段々明になりつゝある。又それを此儘にして置けば益々個人主義や物質主義の弊に陥つて、西洋文明の立場を破壊するに至るべきことも明である。』
それならば何うして之を改良するかといふこゝを又段々述べて、そうして資本主義に對する非難を一應述べて居る。それを簡単に紹介すれば

『現今の社會學者は如何なる人と雖も、現在の如き資本組織の弊害を認めないものはない。先づ第一に資本組織は勞力に對する絞取だといふこゝが出来やう。

資本組織に對する今一つの非難は、富の分配の不當であるといふこゝである。資本家と勞働者との以上の如き不自然な關係は、遂に勞働者に對する富の分配を甚だしく不公平にする。若しその境遇にして貧者たることを通れ得る場合には貧は必しも悲觀するに足らぬが、近世の工業的貧窮はこれと趣を異にし、力あり才ある者でも貧苦の境遇を逃れ得ないやうな組織に出來て居る。絶望の貧苦は喪心と共に不道德的墮落の境涯に人を陥れ、遂には向上心を失ひ惡徳犯罪を敢てせしむるに至る。

資本組織の結果富の分配が不當不平均になり、その爲に社會に於ける富者と貧者と二階級の闘争を惹起するに至る。……

現今に於てはこれが西洋文明の一特色となつて居る。

西洋に於ける貧富の争は結局兩者全滅の凶兆を示し、階級戦争は社會の滅亡を暗示して居る云ふべきである。

資本組織に對する第三の非難は、貧富の兩者孰れをも物質主義の奴隷とし、精神上の向上心を喪失せしむるといふことにある。即ち富者は富者自ら奢侈の爲に物質主義の奴隷となり所謂私利を貪る結果、社會的責任心を全く撲滅し去ることになり、富力の増進は人格の墮落を惹起するに至る。嗚呼斯る人民に向つて天國に入らんことを望むは、駱駝が針の穴を通るよりも難い哉である。

而して此の資本組織の弊害は、富者に止らずして貧者をも驅つて物質の奴隷たらしむるものである。勞働者までも出來得べくんば資本家の豪奢を學ばんことは人情の然らしむ所で、彼等は自己の向上を圖らずして目前の奢侈を獲得せんこととに腐心して居る状態である。勞働者の中で最も非運の者は貧苦の中に絶望し、その結果精神的の事柄には何等の價値をも感じないやうになる。即ち資本組織の結果は、貧富何れの社會をも單に經濟的、物質的方面にのみ走らしむることになる。』

そこで現在の資本組織の弊害を除く途として

『如上の三點即ち(一)勞働の絞取(二)富の分配の不公平(三)社會的物質化——この三點を以て見ても尙ほ能く現代西洋に於ける資本組織の弊を説明するに足る。……この弊害救済の途に付きては出來得る限り一步一步改善の途に就くべきであつて、急速に一時的革命の方法を執る如きは反つて不利に陥ることを覺悟しなければならぬ。

經濟的弊害救済の途は、先づ工業組織方法に對して社會的制御を施し、工業状態に對して社會的責任を明確にする方に進むべきであつて、俄に個人の所有權や個人の企業を廢滅する如きは當を得たるものでない。……個人的所有權や企業權の利益といふこゝは、最も極端なる社會主義者の間にも認められる所であつて、各個人間には各々異なる性質能力がある。……實に私有財産の組織は文明の基礎である。……共に社會組織の基礎たるべきものである。唯だ之に對する非難は私有そのものでなく、その濫用の結果資本組織の弊害を醸す點にある。……著者の私見

を以てすれば、個人所有権は適當なる國家的行政機關を以て之を制御し、加ふるに社會の適當なる理想を以て富者階級を利導して行けば、必ずしも社會に取りて不利益なるものでないこと信ずる。方法は社會に於ける事業が凡て公共的で私的性質のものでないといふこと、労働者、貧者に對する一般正義の實行といふ立脚地に存するのである。若し世人が如何なる事業でも常に公共的職業であると思ふやうになれば、労働者に對する世の僻見を除くことが出来るに相違がない。この精神を基礎として社會改善の途を圖るのはこれ眞の社會改良の意見である。

然らば汝の言ふ社會改良を行ふ資本は何處から出るか、從來の税制を改正して如上の社會的要求を充たし、且つ富の公平なる分配と商業上の機會均等主義とを實行し得る如くするは、敢て困難でない。

今日の社會組織の下に認容せらるる収入は二種類ある。一は『正利』で今一つは『暴利』である。而して後者は道徳的にも社會的にも前者の如く正當なるものと認められない。この暴利を許して居るのは唯だ社會の爲に認められた一時的權道であつて、自然斯る種類の収入は重税の負擔を負ふべきである。……個人的遺産相續等の場合に於ても、今後重税を課するは極めて至當の事云はねばならぬ。

尙ほ富者階級の不正當收入の一は、土地所有権より生ずる『自然増收』である。近代人口の激増に比して土地の狭小なる爲め特に大都會で土地拂底の結果、それより大なる利益を得ることである。此等の利益を單に土地所有者及土地賣買者の個人的獲得に任ずることは大に不可なること云はねばならぬ。近時發達したる國々では、此等の利益を以て公共的利潤の源とするに至つた。今一つの不當利益は所謂投機的利益である。……従つて斯る利得には重大の租税を課すべきである。今日文明諸國では多く累進的所得税なる税制が行れて居つて、それが又國家行政の上から甚だ都合の好いものになつて居る。』

さういふやうな方法で改善する方の費用を出さうといふのである。

『産業内部の組織は一層同胞主義的で共同的なるべく、労働を商品として扱はず人格的に扱ひ、使用者も労働者も共に同じく奉公の爲め伴侶たるを自覺すべきである。……各種の改良を要すること勿論であるが、最も重要なものは使用者勞

働者共に奉公の精神を抱くにある。

著者の説は『社會主義』を唱ふるにあらずして經濟政策を主張するものなり。社會主義は消極的で非人道的で破壊的である。

社會主義の悲劇は特に大戰を通じて現れて來た。その中でも露西亞ではマルクス社會主義の精神は内亂の精神になつて表はれ、革命後穩健なる民本的社會主義の政府が一度起つた後、極端な社會主義——ボルセビキが暴力を以て政府を轉覆し、所謂無産者獨裁政治を始めた。彼等は今迄の不公平に復讐する爲に階級戰爭を始め、マルクス主義の中に存するプロシヤ的精神である暴力を以て社會を組織しやうとし、進んでは凡ての自由を禁壓し、平等と稱して凡てを最下の水平に引下げやうとする。ボルセヴヰズムが企て居る社會主義の國家は、我等が社會的理想として居る自由の社會とは全然方向を反對にしたものであつて、下からの壓制と稱すべきものである。然るに今や西洋文明全体を通じて此の如き革命的社會主義の威嚇を受けつゝある。』

又斯んな事を言うて居る。

『現今の社會が切實に要求しつゝある點は、所謂新經濟組織ではなくして新精神である。實はこの新精神を要する爲に新經濟組織が改めが必要になるものである。而してこの兩者は兩々相並んで發達すべきものである。若しこの精神がなければ、假令新經濟組織が設定せられても、唯だ強者が弱者を虐待するという結果に終るに過ぎない。又之を他面から觀察すれば、産業の新組織なくしては如何なる理想も社會に實現する途がない。觀念や理想の力を信ぜぬことほど世に悲しむべきことはない。吾人は因より歴史が單に觀念で動くといふ説を採用するものではないけれども、尙ほ觀念や理想が社會的指導力として、文明の初期以來有力であつたことを疑ふことは出来ぬ。例へば四海同胞の觀念、自由の權利の觀念、此等が皆過去に於ける人類の歴史を形成する上に、異常の勢力たりしことは明かなる事實である。此種の觀念は決して物質的及經濟的境遇からのみ出來上つたものではなくして、反對に人性の根柢から現れたものである。斯くて經濟的定命論や其他社會進歩に關する唯物論の如きは、今日に於ては全然科學的根柢がないもの云はなければ

斯う言つて而して『西洋文明に於ける消極的觀念理想の發達』をいふことに付て左の如く述べて居る。

『然るに現今では不幸にも商業上の利害關係より、多數の社會人は過去の進歩を産んで來た價値に對して消極的態度を執り、只管利己的快樂を夢みる有様になつた。そののみならず甚しきは下等動物の生活狀態に逆行して、自然的本能及衝動を人生の唯一理想と考へるものさへあるに至つた。又今日は個人の存在を認めて社會國家の存在を認めず、遂に一端に力及成功を崇拜する人を多數見受けるに至つた。此等の消極主義はマルクス等を祖述する思想家の中に無限に流動して居る。實に近代の吾人の社會生活は一方に於ては野犬の喧嘩にも似たらん如き個人主義の哲學と、他方に於ては無價値の物質主義とに苦められつゝある有様である。』

然し若し精神的方面が社會生活上に必須缺くべからざるものであるとすれば、吾人は過去より今日に獲得したる精神的所得を如何に維持保存すべきか、又如何に未來の社會に傳ふべきが大なる問題と云はねばならぬ。現今に於ては社會の如何なる制度や階級に於ても、現にその精神的産物を喪失しつゝある有様で、特に四つの方面即ち家族、政治、宗教、道德の上に於て理想を失ひつゝあるは自明の事である。將來世界人道主義の上に寄與せんとする志あらば正に此間の精神的遺産を確然保持する覺悟が必要である。』

そこで彼は斯う言つて居る。

『現代文明の虚無的傾向を除去せんとするならば、特に家族的生活の價値を尙ほ一度評價し見直すことが焦眉の急であらう。家族生活ある爲に兒童は簡單ながら生産的、政治的、法律的、道德的、宗教的傳承を教へられ、又それあるが爲に同情と克己と献身との徳に入門することが出来るのである。……家族に對する愛情は遂に變じて社會、國家、人類に對する愛となるのである。その證據として家族的感情の強い國民は必ず愛國的感情に富み、社會的同情心に富めるものである。』

然るに斯る家族的訓練が、偶々廣く社會及人類一般に及ばざりし觀のあつたのは必ずしも家族制度の罪ではなく、國家

と同様に家族も亦人道的理想と相應じなければ、人類の大きな生活に對して障害物となることを示すに過ぎない實に義務の精神は自然的愛情を基とする家族生活から發しなければならぬ。過去の文明が家族生活によつて進展し來つた如く、今後の文明の中心も一に家族的生活にあることを忘れてはならぬ。健全なる社會的傳承を繼續せしめんが爲に此の如き家族生活の理想を維持しなければならぬ。また社會制度其ものも一般人をして如上の家族的生活を営ましむるやうに組織しなければならぬ。

家族制度といふものが從來その目的を果し得なかつたことがあるといふ爲に、その制度は全然價値なきものと認めらるゝは誤謬である。若しその流儀で家族制度を攻撃するならば、凡ての社會制度を攻撃しなければならぬ。社會の將來を憂慮するものあらば……文化の要求に従つて家族制度の勃興を期待しなければならぬ。人道的理想が家族制度を通して社會に人道的理想を行はしめるは固より、更にその家族制度によつて人類生活の價値を保存しなければならぬ。』

それから『政治の價値を見直す必要』と云つて斯う言つて居る。

『眞の愛國心の上に築き上げた政治は、眞の人道主義に敵對するものではない。現下の政治的要求は、全人類の利益を尊重すると同時に個人自發性の發達を期し、社會の進歩を障害するものを全く排除せんとするにある。而も世界の平和及秩序を建設せんとする國際的進運を妨害するが如きものであつてはならぬ。一國家内部の政治は、必ず世界人類の大發展に資するものでなければならぬ。』

何人も他人の自然の權利を犯さぬ限り何事をしてよいといふ考、即ち放任的主義をデモクラシーと同じだとする考は今迄亞米利加に行はれたが決して當を得たものでない。次に個人の間存する差別を無視し、公共事業を運用する上に特別な技能者の必要を見ず、如何なる責任ある位置を占めるにしても、何れの人も同等だと考へる如き無差別主義もデモクラシーと同一ではない。デモクラシーは又單に多數政治ではない。何となればデモクラシーは少數者の意見を尊重し多數黨にも専制を許さない。デモクラシーの基礎は同胞の感に在る。その原型、模型は家族若くは郷黨で、意志に於て一致し同情と理會で心を同うして居る者に在る。』

また『道德の價値を見直す必要』があると云つて斯う言つて居る。

『個人的道德主義は破産したが、さて如何なる道德主義が今日の複雑なる社會の要求に答へんとするか。一言にして答ふれば、個人的發達及幸福を眼中に措かずして人道全體の發達を期する如き道德主義これである。』

この點が私の聊か不満に感ずる點である。個人の發達及幸福を眼中に措かずして人道全體の發達を期するといふことは間違である。私の立場は個人と人類とは同一體であるから人道の爲に盡す。これ即ち人類の幸福を全うする所以である。個人の發達及幸福を眼中に措かずして人類全體の爲に盡すと云つたのは聊か水臭い。同心一體的思想が少くとも不徹底である。然れども大體の考が私と一致して居ると思ふ。

『即ち道德の原理は完全の人といふことを目標にせず、人道全體を包含する完全の社會として見るべきである。』
完全の人を茲に實現するといふことは人道の爲、國家の爲に盡すことと別でないからこの言ひ方は不満足である。けれども精神主義の立場に立つて居ることは同一である。

『更に換言すれば、個人の道德的理想は自己の利益幸福を人類に對する手段として考へるものでなければならぬ。この人道的理想は固より個人能力の十分なる發達を要求し、個人の幸福も皆この人道的義務の爲に用ひられなければならぬこれも拙い。人類として盡すのが己の眞の満足する所である。手段ではない目的である。それから又『キリスト教の價値を見直す必要』と云つて斯んな事を言つて居る。』

『實に遺憾とすべきは、現今人道的理想の必要を論ずる人にして尙ほ宗教の必要を閑却し、加之キリスト教が斯る種類の宗教として最も適切なることをも忘却して居る點である。』

これは基督教の人として言ふのは尤もであるが、何も基督教に限らぬのである。要は人間の人間たる本質に目覺めるそれが大切なのである。何も基督教には限らぬが基督教の権力さへ認めない。

『之を要するに、現代文明の精神は之を根本的に改造する必要がある。苟もこの文明が存続し且つ世界全體に及ぶべくんば、その基本たる道德觀念を改造する必要がある。その第一には人類といふ觀念、また人類共同の生活といふ觀念、之

を民族さか人種さか階級さかいふものゝ上に置くべきである。これと關聯して人類同胞の觀念で凡ての人を包括しなければならぬ。そこで社會的奉公といふ觀念は人道的奉公といふ觀念に在り、民族でも人種でも階級でも強者が弱者の爲に奉公するといふことに在る。そこで自己を發展するといふことと自己を犠牲にするといふことは相伴つたこととなり、それ自らが目的でなくて人道の爲に盡すべきこととなる。此に於て正義、平和、善意などといふ觀念は個人と個人との間にのみならず、人種、民族、階級それら相互の關係となる。此の如くすれば家族でも國家でも、人間が團體をなして調和的に生活する爲に必要な社會的美徳は凡て此から生じ、人類の文明は之によつて成立ち得る。此の如き人道的理想を學校で正しく教へ、教會で説く所の人道的宗教が之を助け、大學で教へる人道主義の科學と哲學とが之を助け、此の如き理想が文明の氣運を形造るに至らば、一時代の中に新天地を迎へ得るに違ひない。』

また斯ふ言つて居る。

『人生の理想は奉公にあり、近きから遠く人道に及ぼす奉公といふ理想を與へるのは、社會を目的とした教育の心髓である。』

大體に於て私の言はんと欲する所を述べて居るが、最後の人生觀に於て我と國家、我と人類と同一體であるといふ點が私から云へば不徹底の嫌がある。この説によれば何んだか人道の上に立ち其下にくつ附いて來て己を捨て家をも捨て國家をも捨て、それを手段として人道の爲に盡さなければならぬといふ弊害が出来ると思ふ。同一體であるけれども特殊の姿に於て國家を見るので、決して一方を捨て、一方を立てるのではない。己を捨てるといふことは眞に人道の爲に盡すのである。眞に國家の爲に盡すといふことは博愛に一致するのである。凡ての慈愛、博愛、人道といふやうなことは同一のものであつて別のものでないといふ所まで徹底して來なければ、眞に精神生活の根本に中つたとは云はれない。己を捨て、人道の爲に盡すのが即ち眞に己を全ふする所以である。人道を全うするのが即ち眞に國家の爲に盡し家の爲に盡すといふことになるのである。さういふやうに同心一體主義を離れては、之を國際關係の上に及ぼすならば國際を全うすることが出来ない。私の言葉を以てすれば、一切の關係は同圓異中心主義の下に始めて成立ち得ることになり、之に依て一切

の問題を解決し得ると確信するのである。何んだか最後の時間は他人の著述を朗讀的に述べたやうな形になつたが、併し斯ういふ事を考へて居るのは東洋に居る人間ばかりでなく、西洋の人も考へて居るのであつて、その西洋の人の考へて居る事が、丁度私共の考へて居るに同じやうな事を考へて居ると思ふたが故に、諸君には御迷惑であつたが殆ど朗讀的に話したのである。時間の都合もありますから私の講演は此で終ることに致します。(拍手)

(文責在記者)

納谷直次郎速記

社會生活の進化に就て

法學博士 森本厚吉 述

第一回

(一)

今日の社會は非常な病氣に罹つて居るから、之を普通の方法で醫すことは不可能である。近來よく社會改善と言ふ言葉が用ひられて居るが改善の出来ない程度に社會病は進んで居る。今となつては社會は改善でなく改造しなければならぬ。普通あり觸れの社會政策の類でもつと善い社會にすることが出来ればそれは所謂改善であらうが、私の觀る所に依れば非常な重患に罹つて居るから到底かゝる改善手段では癒らない、根本的の改造をしなければならぬと私は思ふ。

然らばどうしたら改造することが出来るかといふことに關しては、要するに今迄社會がどういふ工合に發達して來たかといふことを科學的に秩序正しく調べて、さうして過去に於て斯ういふ經路を取つて來たのであるから將來の社會は斯ういふ方針に進むべきものであるといふ所に目を注いで、茲に適當なる方法政策を樹てなければならぬと思ふ。社會が病氣に罹つて居ることに氣が付かないで之に對して色々な方法で改良を企て、見ても何等役立つべきものではない。

今日此處にお集りの諸君は皆所謂國民の先覺者であつて、私共が互に手を取合つて我帝國の將來の隆盛の爲に此社會を今少し健全なものにし、我が國民の生活を今少し幸福なものにしなければならぬ大使命を帯びられて居る方々である。さういふ諸君の前に立つて私が爰に僅ばかりの時間を費して、如何にすれば吾々の目的を上達することが出来るかといふことを考ふる時に、先決問題として私共の頭の内に明白に今日の社會は病氣に罹つて居るといふことに注意を喚起したいと思ふのである。病人扱をしなければならぬのに健全なものだと思ふて政策を樹てた場合にそれは何の役にも立たぬ。恰も狂人に對して普通人と同じ取扱をするに同様である。

そこで今日の社會がさういふ病氣に罹つて居るかといふことを一々詳しく申す時間が無いから省略して、爰に最も明白なる事を一二御話することにする。即ち今日は二十世紀の大正の御代である。既にワシントンに於てはあゝいふ立派な進歩的の國際開議が開かれ、今迄我邦の經濟、教育其他凡ての方面に非常な壓迫を加へた軍備も斷然縮少せねばならぬといふことが今日世界の常識となつて居る。是からは國民は何れの國の如何なる人であらうが人間として持つて産れた本能を充分に發揮し得る世の中に進んだと云ふことが少なくも理論として認めらるゝやうになつた。さういふ時代であるから茲に最も明白な事は、人間として生れた以上は如何なる人でも生活權を持つて居るといふことは動かすべからざる眞理であるけれども、此生活權の行使を全うするには吾々の慾望を満足しなければならぬ。少くも生活に絶對的に必要な衣食住を全うし現代人として十分に活動し得るだけの能力を養成しなければならぬ。それには相當の物質的準備が要る。夫れを今日の價格で計算して見るならば、大都會に一家を構へて一族五人くらの生計を立てて行くには、日本日本人でなくして世界の日本人として現代の文化人としての行動を自由にして行くには、どうしても一箇年に少くとも三千圓位の金が要る。夫れは最少限度の金高であるから餘程上手に家計を立てて行かなければ不足を生ずる。所で今日所得税の方から調査した統計上の事實から觀ると、それだけの所得のある人は非常に少い。大正九年度で所得税を納める人は我國全世帯數の一割二分で、其内で三千圓以上の所得を有するものは納税人員の又約一割二分しかない。即ち日本帝國は實に堂々たるもので五大強國の一だと言つて居るけれども、其國に於て人間らしい生活をして而して活動を自由にし得る人は國民中ほんの一分四厘位の人よりない。其僅少者の内の富者の多くは不勞所得に依つて奢侈生活を送つて居るもので九割以上の大多數は苦しい勞務に一生懸命従事しても尙生活の資料を充分に得ることが出来ないのである。

スコット・ニヤアリング著書を繙いて見るに一の挿繪がある。其繪は實に能く現代の眞相を描いて居る。夫れは立派に裝飾を施した舞臺の上で盛裝を凝らした幾組かの男女が互に手を取合つて妙なる音樂に伴れて舞踊をやつて居る。まごころがさうかしたひやうしに其舞臺の一方に孔があいて、其孔から二本の腕がニョキツと出たので踊つて居つた人々がそれを見て非常に驚いて居る。そしてよく氣を付けて舞臺の椽の下を視ると無數のプロレタリア即ち無産階級者が其椽を持上げて居るのでそれを見たブルジョア階級の男女が吃驚して居る繪である。是は實に能く今日の社會の一面の眞相を描いて居ると思ふ。今日進歩して居ると言つて居る社會で其文化の恩恵を實際味ひ得る人は極く僅くの人である。夜會を開いて踊るまご其他各種の浪費をなし得る者はホンの僅くの間で、其椽の下には無數の貧民階級が在つて少數のブルジョア階級者を持上げて居るのである。

元來どんな人間であらうが人間として生れた以上は、さうしてそれが人類の舞臺であるならば椽の下でなくして椽の上立つて人としての發達をしなければならぬのである。地方を巡つて視ると其事を一層強く感ずる。過般農村巡りをした時に岐阜縣、愛知縣等に於ては小作人と地主との問題が仲々悪くなつて居つた。數百戸の農村で極く少數の三四軒は實に立派な御殿のやうな邸宅を構へて居る。是れ即ち地主の邸宅である。其邸宅を造ることの出来るやうに小作米を供給した小作人の家へ住つて視ると、實に哀れな豚小屋同然の家に住んで居るのである。僅ばかりの地主階級を支へる爲に無數の小作人が働いてそれに捉米を提供しなければならぬ。小作人も人間であり地主も人間である。昔スミス其他の資本主義の經濟學者が全盛を占めて居た時代はそれが當然のことと思ふた。彼等は貧民階級は貧乏になる運命を有ち、地主階級即ち有産階級は安樂に暮し得る運命を有するものだと上手な理屈をつけたのであるから、それは何も不思議はないが、今日此世界平和の時代になつて而して人間として生れた以上は生活權を有つて居るものだといふことが凡ての方面に於て認められて居る時代に於て今尙ほさういふ状態に在るさういふことは、是れ取も直さず今日の社會が非常な病氣に罹つて居ることを意味するのである。さういふ實例を挙げれば幾許でもある。

(三)

私が非常な同情を持つて居るのは小學校の先生である。どうかして彼等階級をもう少し高くして、さうして其先生の能力を十分發揮し得るやうにしたいと思つて色々計畫をして居るのである。或時には日本全國十六萬の小學校教員が大きな教員同盟を造つて社會運動を起さなければならぬさういふ意見を、中央公論其他に於て發表して諸方から共鳴者を得た。今

少し経つたならば何等か具體的の案が出来ても日本の將來の隆昌を圖るには國民教育から改良して行かなければならぬ。それには其國民教育を掌つて居る小學校教員の向上を先づ第一に圖らなければ、如何に他の殖産興業に力を盡しても日本の將來は幸福で無いと思ふ。如何にすれば今日の社會は改善でなく改造しなければならぬ。即ち表面の制度や組織ばかりでなく人心其ものを根柢から改造しなければならぬ。人心を根柢から改造するには小學校の先生の力に依りて子供の中から現代的に教育して貰ふより外はない。もつて力強く申すならば、今日の中老以上の所謂先覺者が死んで了つて、小學校の生徒の時代にならなければ眞に健全の世界にならぬと私は思つて居る。然らば黙つて居つても今に舊思想の老人株の人が死んで了ふのであるから、夫れで宜いぢやないかと云ふが爾うでない。若し唯黙つて居る場合には小學校の生徒も同様になつて了ふから、一方に於て現代思想を持つた者が出て、勇ましく社會改造の運動をしなければならぬ。それには小學校の先生の力に依らねばならぬこゝが非常に多い。而して其小學校教師は昔は世人から非常な尊敬を拂はれて居つた。實際社會も非常な優遇を與へて居つた。然るに今日のやうに經濟的壓迫が強くなるに、口では相當の敬意を拂ふと言つて居つても、實際に於てはナンダあの先生たつた是だけしか月給を取つて居らぬぢやないかと言つて輕蔑して居るものが少くない。さういふ言葉を聞かされた子供は段々さういふ考を持つやうになる。私は過去五六年の間生計費の調査をやつて居るが、物質的の方面から考へて見れば小學校の先生は實に哀れなもので、今日の如く生活費の高いつて居る。勿論普通の人は五人も六人も産む權利を有つて居らぬと思ふが、少くとも二人や三人位は産む權利を有つて居る。さうして彼等を教育する義務を有つて居る。それが今日の小學校の先生に果して出来るであらうか。何程立派な大學が在つても大學の教育を授けるには非常な學費が要る。私共の大學では一箇月七八十圓の學費を使つて居る學生は珍しくない。甚しきは百圓、百五十圓の學費を取つて居る者がある。さういふ學生の中には一生懸命勉強して卒業しても都會では月給七十圓位しか取れぬから、寧ろ怠けて落第して何時までも父兄から學費を貰つて居る方が氣樂だといふので落第政策を執つて居る人さへあるのは無理もないと思ふ。今日は大學生活は非常な金が要る。親としては折角斯ういふ進歩した

時代に生れて來たのであるから、何うかして之を一人前の人間にしたいといふ親心から無理算段をして、段々高等教育を授け大學に入りたいと思ふけれども夫れは現代では至難の事である。私は貧乏の家に産れて苦學の經驗を有し種々と不時の災害にもあつたから貧苦の辛さは能く知つて居るが、貧乏は人をダイナシにするものである。勿論百人の中に一人か二人は非常な堅い決心を持つて貧苦を潜つて勉強して成功する人があつて彼等は社會の注意をひくことが多い。だから偉人は貧乏人から居るとか偉い政治家は田舎から出るとか言つても誰も否まないけれどもそれは随分間違つたことである。成程さういふ事實もあるけれども夫れは百人中のたつた一人か二人の實例に過ぎない。多くの貧民は貧家に産れて貧乏で死んで了ふ。其中の除外例を捉へて彼此れ言つても何等教訓にはならない。今日の社會は前述の如く小學校教員のやうな尊い職務を持つて居る人間をも貧乏取扱にして居る。生活權の保障は勿論、生命の保障さへ與へて居らぬ。金持が病氣に罹つた場合には電話で以て直に醫學博士を招聘して生命を助けるこゝが出来。けれども貧民長家に住んで居る貧乏人は重病に罹つた場合には、電話も無し使賃も無し自ら瀕死の子供を背負つて名醫に往つても、斷はられる場合が少なくない。一時間早く藥を貰つたならば助かるべき命も貧乏であるが爲に死ぬ者が澤山ある。私が去年仙臺市で講演をしたときに「仙臺には立派な醫科大學があつて何々醫學博士といふ大家も澤山居るが之を利用する人が何人あるか、大多數の人は斯ういふ醫學博士に診て貰ふことが出来ない。仙臺に往つて此處の名物は何かと問ふとコレ〜と言つて良い醫者の在るこゝを誇として居るが實に馬鹿氣きつた話である」と悪口を云ふた。所が私の處へ同情を喚び起す手紙が五六通舞込んで來た『本當に然うだ、あなたの言つたことは間違ない。私の家で斯ういふ實例がある。可愛い六つになる子供が斯ういふ病氣に罹つて大學病院に往つた所が跳付けられた。それから某々開業醫に往つて頼んだけれども矢張斷はられた。其爲に到頭手後れになつて死んで了つた』といふやうな手紙が來た。兎に角吾々貧乏人は生命さへ保障されて居らぬ。此責任を持つべきものは誰であるかといふと言ふまでもなく國家の責任である。今日の此進歩の時代に於て國家といふ一の有機體が在る以上は、其國家の力を以て生命の保障を與へるのが當然であらうと思ふ。進歩した外國では皆やつて居る。貧乏人の爲にも病の時には立派な名醫にかゝることの出來得るやうな施設がある。然るに我が日本の政府は五大強國の一だと言

つて居るけれども國民の生命さへ保障することが出来ない。けれ共政府は吾々が造つて居るのだから結局夫れは國民の罪である。

(五)

所でそんな病氣に罹つた社會を果して改造することが出来るだらうかといふと、私に言はしむれば出来ると思ふ。チエーリオの本を読んで見ると『普通の人は毎日自分の體力の五割と腦力の二割五分を使用して居るばかりである』と書いてある。つまり普通の人間は自分の體力をもつゞ使ふことの出来るのに半分しか使つて居らぬ。頭の力も二割五分しか使つて居らぬ。まだ七割五分の餘裕がある。どうして爾うかといふことは病氣に罹つて居る社會に生活して居るのだから自然に斯ういふ事になるのであるが、他の一つは吾々の努力が足りない結果である。若し此チエーリオの言ふ事が間違つて居らぬならば此社會は大に改造の餘地があると思ふ。斯の如く空費の多い此社會をもう少し改造して吾々お互の心身の狀態を變へるならば、吾々は今日より二倍三倍の仕事が出来るといふことは確である。此の重大な問題を説明する爲に甚だ失禮だけれども昨日私が自分の家で實驗した極く最近の卑近な一例をお話する。

(六)

私の家に尋常小學五年生の男の子がある。其子供に裏の畑の草を薙れと屢々命するけれども厭がつてしない。私は生産的年齢の子供だからそんなことは出来ないものだとはばかり思つて居つた。ところで苺畑に段々雜草が生茂つて之を改善でなく改造しなければならぬやうになつたから、昨日朝から人夫を半日七十錢で傭つて草取をやらせた。其畑は約二十坪ばかりであるが雜草をスベートで起してやるのだから、中々手数が掛つて正午までに半分ばかりしか出来なかつた。其起して居るのを子供が注意して視て居つたが其人夫は正午に歸つたので、あゝは子供がやつて見やうと言つて靴穿きのまゝスベートで人夫のやる通りにやつて見た所が巧く出来るので非常に面白がつてやつて居つた。そこで私が子供に向つて『人夫に七十錢拂つたがお前が残つた分をやつたならば一圓遣る。一生懸命にやつたならば二三時間くらゐで出来ると思ふがお前やつて見ないか』一圓呉れるか』一圓遣る』私は經濟學をやつて居るから自分の子供には幼時から經濟的教育をやら

うと思つて成るべく金錢に關する事を教へて居るのである。私の父はスバルタ式の武士であつたから金を弄ることを非常に嫌つて居つた。今でも覺えて居るが私が十四五歳の時に天保錢を持つて遊んで居つた。所へ父が役所から歸つて来て『お前何を弄つて居る……怪しからぬ、武士の子であるから錢などを弄ると人間が駄目になつて了ふ、いけないと言ふのに何故弄つて居るか』とひどく叱られて泣いたことを覺えて居る。其父の教育の精神は今でも感謝して居るけれども、金錢を弄ることを堅く禁じられて居つたから自分が經濟學をやるのに非常に困つた。それで自分の子供には父の反對で、出来るだけ幼い時から物の値段を教へ金錢の尊いことを教へるやうにして居るが、なか／＼私の家の子供は一圓の金を儲けることが出来ない。其一例は、私の家庭では子供が三人あるが養鶏株式會社を設立して牝鶏七羽ミヒヨッコを二十羽ばかり飼つて居る。私が十株、家内が七株、子供が各十株くらゐ臍繰金で出資して私が顧問役となり、一株五十錢總計二十餘圓の資本金を以て養鶏株式會社を拵へたのである。牝鶏は西洋人から安く分けて貰つたのだが、それが卵を産んで居る。相當の収入があつたから先月計算して見たら一割二分位の配當になるやうです。鶏舎の改築で資本金が足りないといふので友人の病院長橋本醫學博士に子供が話をしたら、宜しい俺も株主にならうと言つて五六株持つて呉れたので夫にも利益配當をしなければならぬと云つて居つた。子供等は何んでも十何錢かの配當を受けた様に記憶して居る。斯して利益を得るといふことは非常に困難だと云ふことを教へて居る。

(七)

其外に蠅捕を獎勵して二匹で一錢つゞ遣ることにして居るが、私の家では金網を張つて居るから蠅が這入つて來ない。偶に這入つて來るのを一生懸命に捕つても五錢か六錢しか儲からぬ。そこへ持つて往つてお前が是だけの事をやつたら一圓遣ると言つたものだから『阿父さん本當か』本當だ。阿父さんは嘘を言つたことがない。遣ると言つたら屹度遣る』そんならやる』と言つてやり始めた。私は窓から時計を出して斯ういふやうな實驗は始終やつて居るからチャンシ記録を取つて、いつ何うしたといふことを書いた。私の考では一時間とは續くまいと思つた。其動作の速力の速いこと夥い。果して一時間位やると子供だから餘程くたびれたらしい。少しやつては後の方を振返つてどれだけ未墾地が残つて居るかと思

る。又やり始める。到頭やつて丁度半坪ばかり残つた時分にへこたれて了つた。私がそつと往つて見るに、悲しいのか何か知らぬがメソク泣いて居る。手も動かぬ程に疲れて居るらしい『さうだ手傳つてやらうか』と云つたら『それには及ばぬ。全部やる』と言つて終に全部を耕して了つた。つまり大人の七十錢の人夫のやる仕事を其人夫よりも速い速力を以て起し切つて了つたのである。

此實驗に由て私は熱々感じた。家の子供は悪戯ばかりして生産的には全然無能だと思つて居たが、適當の指導と適當の方法を與へてやればたまへ一時的にせよ普通の人足以上の仕事をする。吾々が無能力だと思つて居る人間でも、若も社會が改造されて適當に勞働に従事し得る機會が生じたならば家の子供と同様立派に仕事が出来ると相違ない。

中央公論の八月號に『官吏夏休廢止の功過如何』と題して私が書いたことであるが官吏に夏休を與へるの可否といふやうなことは、適當の方法で休を與へれば却て好い結果を來すが又悪いこともあるから一概に論ずることは出来ないが、私は官吏の夏休を廢めるといふことは宜いと思ふ。けれども是は仕事を遊戯化することの出来る能力を有つて居る人は夏休などは無くても宜いといふ意味である。私の尊敬して居るスマートといふ經濟學者の助手が『先生、今年は何處かで夏休をとりませぬか』と言つたら『ノー、若い者は元氣が充ち満ちて居るからそんな必要は無い。又自分のやうな年取つた者はもう老先が短いから、しなければならぬ仕事は澤山あつて夏休などを取る餘裕は無い』と言つて叱り付けた。さういふ精神で吾々が仕事を遊戯化するこゝの出来る精神を持つて居れば夏休などの必要は無い。けれども強ひられた仕事に従事する人は爾うはいかぬ。結局夏休を廢するといふことは宜いけれども、それと同時に増俸を行はなければならぬ。増俸をやるには金が要るから無能な官吏は減つて了ひ、有力な官吏の増俸を行つて、さうして夏休などは無くして了つたら宜いだらうと私は考へて居るのであるが、要するに制度を變へて適當な状態を茲に造り上げることが出来たならば、人間といふものはもつと働けるものである。吾々が今日三の力より働いて居らぬものが環境を良く改造し人間の心を改造したならば十の働が出来ると。其十の働を爲し得る人間が茲に在りながら不幸にして體力に於て五割、腦力に於て二割五分位しか働いて居らぬといふ状態になつて居るのである。故に之等の浪費をなくすれば此社會を改造するといふことは出来る

こゝであり、又社會を改造したならば人間といふものはもつと立派な幸福なものになり得ると私は確信して居る。

(八)

そこで爰に一つ考へたい事は、社會生活改造の順序方法は如何にするかといふと、夫れには生活は昔から今日までどういふ道を辿つて來たかといふことを觀て、これだから將來は斯う行かなければならぬといふことを考へなければならぬ。つまりお互は此社會を善くしもつと人間の幸福を増進しやうといふ目的の下に働いて居るのであるが、其目的に達するには茲に二つの方法がある。一は進化させるといふこと、一は革命に依つてするといふことである。進化させるといふことは英語のデヴェロプメント或はエヴォリューション、革命はレヴォリューションである。即ち同じ目的を達するには進化の普通の道程を順次進んでもやれるし或は改革を行つてもやれる。それで進化の行程を取つて吾々の目的を達しやうとする場合に、昔の歴史に於て社會が今日に至るまで取つて來た所の進化の道程を知り其精神を能く酌取つて漸次改造して行かんとするのである。他の方法は過去に於て進化の状態を辿つて來たけれども、其進化の勢力を昔の古い思想とか制度とか法律で以て抑へ付けて了ふ。さうするとそれが何うなるかといふ革命になつて血を流すことになる。佛蘭西革命或は其他の血を流すやうな茲に恐るべき破壊的の事柄になつて來る。それだから吾々の目的は破壊的方法即ち革命で之を達することも出来る。露西亞のボルシェヴィズムは即ち破壊的の革命である。けれども一方に於ては茲に進化の方法で以て自然の成行に依て何等血を見るやうなことなくして目的を達することが出来る。私共が此に社會を改善し改良しやうといふ場合に孰れの方法を執るべきであらうか。私はどうしても血を見たくない。破壊的の事は出来るだけ少くしたい。どうかして建設的、進歩的方法で吾々の目的を達したいと思ふ。破壊的の目的でやることは譯なく出来る。此點に於て或る社會主義者殊に堺枯川氏などは、森本のやつて居る文化運動は骨抜だと言つて攻撃するのである。いくら攻撃をされても私共は出来るだけ血を見たくない。是迄随分苦しい事をして來たのだから此れ以上苦しい事はしたくない。今日ブルジョア階級とプロレタリア階級と喧嘩しやうとして居る。それを種々なる方法を以て煽動して喧嘩させやうとして破壊的運動をせらんとする或る一派の社會主義者が、私共のやつて居る事が生温いと言つて攻撃するのは無理もない。

けれども此世の中には幸に智識階級がある。私は智識階級が労働者に比してゑらいとは言はない。吾々智識階級は精神的労働をし、普通の労働者は肉體的労働をするだけの差で兩者甲乙がない。けれども智識階級者が適當の方法を撰んで或は小學校教員の同盟を造るゝか或は中産者階級の同盟を造つて行つたならば、茲に無産階級と有産階級と衝突して血を流さぬやうな方法で吾々の目的を達することが出来ると思ふ。さういふ方法で社會を改造したい。さうして私共は社會の進化を見たいので、社會の革命を見たくないのである。

(九)

そこで社會生活といふものがどういふ工合に進化して行くものかといふことを出来るだけ明にしたい。所で此大きな問題を捉へて無論私は全部爰にお話することが出来るとは信じない。私は初から此大きな社會生活進化のお話をするに付て其頭と尻尾だけ話さうと思つて來たのである。そして頭の方は序論的に大體お話しした積りである。先づ吾々は此社會とてふものがどういふ工合に進んで來たかといふ社會生活の進化を知らなければならぬといふ理由をお話して、次に今日の社會は非常な病氣に罹つて居るから此病氣を癒す方法を考へなければならぬといふことをお話しして來たのであるが、最早段々と私の時間も迫り來つたから詳しい事は申されぬ。唯だ是から少しお話ししたいと思ふのは、然らば今日の社會生活といふものはどういふ工合に進化して來たかといふことに關して極くざつと取摘んで話して見たいと思ふ。詰り社會生活の進歩して來た行程からお話をして而して將來どうししなければならぬかといふ話をしやうと思ふのである。今迄の話は詰り前置に過ぎない長い序論である。

社會生活はどうして出て來たかといふと非常に古い話で、元來吾々の住んで居る此地球の生命といふものは十億萬年だに稱して居る。此古い歴史を有つて居る地球に於て、人間が斯ういふ社會を造るやうになつたのは極く最近のものだといふことを頭に入れて置かなくてはならぬ。御承知の通り一番初に地球から現れたものはアミーバのやうな状態であつた。それが段々進化して爬蟲類になるまでは八億萬年かゝつた。動物學者が言つて居る。そして爬蟲類の時代が一億萬年あつた。其後に其動物が進化して漸く哺乳動物の時代になつた。大きな象のやうなマンモスといふ動物が動物の王様になつてから五千萬年経つて漸く哺乳動物の時代の末に人間の時代が出來た。つまり十億萬年の歴史を有つて居る地球の上でアミーバから爬蟲類になるまで八億萬年、爬蟲類の時代が一億萬年、爬蟲類から進んで哺乳動物になるまで五千萬年、其期末に於て人間が生れたのだから結局人間の時代といふものは極く僅である。人間の時代になつたからとて初から吾々のやうな人間が居つたのではない。

(一〇)

動物學者の研究した所に依れば、一番最初にはプロリオピスカス(猿人)と云つて猿と人との間の子のやうな動物が哺乳動物の終の時代に出來た。それが共通の祖先となつて一つは猿になり一つは人間に分れて來た。即ちプロリオピスカスが人間になるまでの初の時代にエーブマン(猿人)といふ動物の時代があつた。其猿人といふ動物と他の動物とどういふ點に於て異つて居つたかといふミ、他の動物は凡て四本足で四つ匍になつて居るが猿人は前趾を始終動かして居つた。是が人間に進化し得た第一の特徴だと進化論者は言つて居る。前趾を活潑に動かして自由にすることが出來た爲に遂に後趾で立つことを覺わなくてはならぬやうになつた。他の猿は樹の上に登つて居るけれども猿人は後趾で立つて前趾を動かすやうになつたから樹の上に居ることが不便だ。そこで他の猿は樹の上に住み猿人は地の上に生活するやうになつた。地の上に生活するやうになつても前趾を始終動かして居る。其結果はどうなつたかといふと指が自由に動くやうになつた。指が自由由に動くから物を握ることが出来る。棒を握ることを猿人が覺わつたといふことが彼等の非常な武器となつた。それが爲にゴリラの如き大きな動物が向つて來ても棒を持つて敵對が出來た。そこで猿人が凡ての動物を虐待して遂に地球の王様になつてしまつた。其子孫が段々發達して來て吾々お互のやうな人間になつたのである。

人間の世の中になるまでの事を考へると何も爾う大してむづかしいことはない。他の動物に比して手で色々な物を握る力を有つて居つたと云ふことだけで吾々人類社會といふものが段々進歩して來たのである。其物を握む力のないものは何時迄経つても四つ匍で、何時迄も猿たるを免れない運命になつて了つた。

(一一)

人間が物を握ることを覺えた爲に、二つの著しいことが起つた。一つは道具を用ふること——棒も一種の道具であつたけれども鋤のやうな道具を持つことを覺えた。二は火を利用することを覺えた。此二つの事を人類の祖先が覺えた爲にそれが基になつて段々人類社會が進歩發達して來たのである。若も吾々の祖先が之を覺えて呉れなかつたならば到底吾々が今日のやうな社會生活をする事が出来なかつた。此事實を異つた方面から觀ると詰り人類社會といふものは二つの時代を經過して來て居る。第一の時代即ち道具を十分使へなかつた時代には自然の物を見出して夫れを食べて生活して居つた。即ち木の實を採つて食ひ或は川に往き魚を捕つて食つて居つた。其次の道具を使ふことを覺えた時代には自然の物に加工又は製作して人間の欲望を充すやうな物を造つて生活するやうな社會を造つた。人間々々と言つてゑらがつて居るがナニ大したものでもない、道具を使ふからゑらいのだ。日露戰役の當時私は米國に居つて諸方講演して歩いたが『お前達のやうな小さな人間が露西亞人のやうな大きな人間と戰をして能く勝つことが出來た』と講演が濟むと聽衆から訊かれたのである。私はそれに答へて『さうです。吾々は角力取とは違ふ。鐵砲で戰をやる。日本人の持つた鐵砲が露西亞人の鐵砲よりも良かつた。腦味噌も日本人の方が少しは良かつた。つまり道具が良かつたから勝つたのだ』と言つた。つまり良い道具を使ふと否とに由て人間の働に差異が生ずるのである。

(一一)

諸君の顔を見ると甚だ失禮だが熊襲の血の混つたやうな顔もあり、アイヌの血の混つたやうな顔もあり、馬來人種の血の混つたやうな顔もある。併し皮を剥ぐと何人種だか判らぬ。何處の人種も皆同じだが凡ては皆猿に似て居る。諸君お髯に手をやつて御覽なさい尾骨がある。人間に何んで尻尾の必要があるか、それは人間の祖先が猿の祖先と共通のものであつた證據である。又チエツピンといふ人の著書を見ると、人間の毛の寝形と猿の毛の寝形と能く似て居ると書いてある。又斯ういふ事が書いてある。産れたばかりの人の子供は其顔面から體格等猿とチツとも異らぬ。又赤子の握力は猿の子と同様に非常に強い云々と。それで私の子供が産れた時に其小さい手を開けやうとするとなかく開かない。何の爲にそんなに握力が強いかと云ふと、猿が子を産んで敵の攻撃に遇つた場合に親猿が子供を抱えて樹から樹へと飛移つて逃げる。

其時に子猿が墜ちないやうに一生命に親猿の毛に噛り著いて居る。つまり握力の強いのが猿の子の生命の保障となつて居るのです。夫れと同一の作用を人間の子供が持つて生れて居るとチエツピンが言つて居る。更に握力の強い證據として産れたばかりの子供に手頃の棒を持たせるとウンと握つて夫れに全身體を支へてブラ下がる。

人間として生れたものがそんなに手を握つて居る必要は無い。何も母親に攜つて飛んで歩く必要も無ければ棒にぶら下る握力の必要も無い。然るに赤ん坊がシツカリと手を握つて生れて來るのはつまり人間の祖先が猿だといふ證據である。私は家に赤ん坊が産れた時分に實は試みて見た。産れて直ぐといふのは氣が濟まぬから六日か七日経つた時に棒を握らして見たが非常に握力が強い。夫れで抱えた手を放して見やうかと思つたが家内が心配するから止めたが、諸君やつて御覽なさい。若し危いと思つたら布團を二三枚敷いてやれば大丈夫です。

それから又赤ん坊の面を御覽なさい、人間の面と云ふより猿の面をしてると云ふ方が正しい。親であればこそ猿の顔をしたものを可愛いと云つて育て上げることが出来る。人間らしい顔になるには生後七八ヶ月位はかゝる。私の家で二番目の子供が産れた時に近所の奥さん方が來て、猿の子が寝て居るとばかりしか思はれぬ程の赤い顔をして居る赤ん坊を見て眞面目くさつて『マア可愛いお子さんが産れましたこと』なんて言ふが、それは嘘の皮でお世辭です。親でさへ赤ん坊の顔の恰好やら顔の色には厭氣がさす。それは猿が祖先であつたといふことを餘りによく示して居るからである。それが段々生長するに人間らしい顔になり美はしい感情を持つ。赤ん坊の時分は我利々々一方で自分が欲しいと思ふ物は他人の物でも何でも取つて了ふ。丁度猿と同じことだ。人間は段々年を取ると色々訓練を積んで衰れな者を見るに可哀相だといふ情緒が發達して來る。けれども昔は猿と同じ状態であつた。猿から人間の世の中になつたのは結局之を煎じ詰めて見ると道具や器械を利用することを覺えたが爲に到頭斯ういふ世の中になつて了つたのである。

(一二)

社會生活のあらはれた最初の時代から二つの力強い人間の慾がある。第一は食慾、第二は性慾である。此二つの慾が人間を支配したものである。人間が道具を用ひることを覺えたが爲に食慾を相當に満足させることが出来るやうになつた。

性慾はどうかといふも、古い時代に於ては男女間の關係は殆ど野獸の如き關係が永い間續いて其頃は夫妻の區別は付かなかつた。餘程人類社會が進歩して來てから夫婦結婚といふ事が出來たのである。其成立を調べて見ると野合の結果子供が出來てから止を得ず結婚したのである。即ち子供が出來た以上は子供を育てなければならぬ。そこで『この子供を拵へたのはお前さんだからお前さん私と結婚して夫婦になつて此子供を育てやう』それぢや仕方がないから夫婦にならう』といふので結婚することになつた。今から考へるならばそんな馬鹿な事はないと思はれるけれども昔はさうであつた。さうなるまでには随分長い間かゝつた。結婚が行れてからそれが基になつて茲に家族が出來たのである。結婚しない中は家族といふものは無かつたから社會生活は成立たぬ。社會生活を爲すにはどうしても結婚といふ事が必要であつた。而も其結婚をするのは子供が産れるといふことが第一の動機になつて茲に家族團體が出來るやうになつた。家族團體が出來るやうになつてから今日に至るまで種々の形式の結婚が行れて居る。一最初は群婚といふことが行れた。假に私の兄弟が五人あつて其中四人が男で一人が女とする。そして私の知つて居る家に二人の女と三人の男があつたとする。さうするに私の四人の兄弟が向ふの家族の二人の女と同棲する。つまり吾々四人の兄弟が向ふの二人の女の各自夫となる。其二人の女は詰り吾々兄弟の共有物のやうなものである。之を群婚と云つて居る。さういふ時代が永い間續いた。

又女の数が少い部落に於て一妻多夫の結婚が行れた。即ち澤山の男が一人の細君を持つて居る。又一夫多妻の結婚もあつて一人の男が澤山の妻を持つ、是は力の強い酋長のやうな者が細君を澤山持つのだが、此札幌邊に於ても澤山の女を一人の男が持つて出る奴がある。此等は何が動機かといふと、詰り金の力を以て澤山の女を自由にして居るのである。つまり昔しの一夫多妻主義を實行して居るのです。其次に出て來たのは稍々健全な異族結婚といふ社會生活が出來た。例へば茲に一つの部落があつて、其處の男女が結婚する時分には同族間で結婚しなければならぬ。夫れで同族と結婚することを禁じたり又は嫌つて他部落に住んで居る女を奪略して來るか或は他の部落に這入つて戦争をして自分の好きな女を伴れて來る。之を奪略結婚といふ。是は尙武の心を養成するに有力なものであつた。苟も男子たる者が結婚をしようといふ觀念を持つて居るならば奪略する位の勇氣を持つて居らなくてはいかぬといふので、其當時は奪略結婚を非常に稱讚したのである。さういふ時代が永く續いた。若も其時代に今日行れて居るやうな結婚を行ふものがあつたならば彼は非常に馬鹿にされたに相違ない。『お前さんが私の細君になつて呉れなければ死んで了ふ』なんて云ふ調子で男が女に頼んで細君になつて貰ふ者があると云ふ様な今日の結婚は其當時如何に見苦しいことであつたであらう。私は勿論奪略結婚が時代に適しないと思ふが此に立派な精神が在ると思ふ。立派な心掛で以て正々堂々と正當の方法で細君を探して自分の好むものと結婚するのは、今日自分の何も知らぬ人を親爺か或は伯父さんが是が宜いだらうといふので好加減に決めて來た女を有難がつて自分の妻とする方式よりも優れりとも劣つては居ない。さういふ結婚が永い間行れて其處に稍々健全な社會生活が出來た。

それが今日はどうなつたかといふも共諾婚になつたのである。即ち私があの女と結婚したいと言ひ、親もこれならばと思ふ者を能く詮議して愈々宜しいといふことになると『どうだ某氏と結婚して差支ないか』宜しうございます』と言つて双方共諾して本當の結婚が成立つ。それが今日の理想的の結婚である。勿論表面は共諾婚が行れて居つても内實は随分衰れたな結婚が澤山ある社會を改造するには社會の單位である家族の改造を考へなければならぬ。家族の改造を唱へるには結婚の改造を論じなければならぬが、併し此問題は今回私がお話しようと思ふ目的でないが、兎に角共諾婚に依て結婚が合理的に茲に行れることになつて健全な家族が成立し得るのである。

此に於て今迄の自然生活が破壊されて立派な社會生活が成立つやうになつたのである。其當時は社會生活は未だ非常に幼稚なものであつたが過去百年程の間に非常な變化をした。其過去百年程の間に社會生活に及ぼした變化の曲線の狀態を観るに、其前五十萬年經過した結果に根本的には少しも異ならぬ。故に社會といふものは絶へず變動して一定の曲線を描いて進化して行くものである。そこで今後の社會をさういふ風にしてもつゝ健全なものにして行くかといふも、過去に現れた所の狀態を以て將來の進歩の狀態を考へなければならぬ。其問題は明日お話しすることにして今日は主として總論だけに止めて置く。

昨日は定時より三十分遅れて私自身は非常に心苦しかったのである。其理由は主催者側の不注意に歸するが是は日本の社會では一種の不可抗力とでも謂ふべき事柄で餘り責めたくない、然し社會改善講習會に於て三十分も遅れたといふことは話す者に取つては甚だ苦痛であつた。けれども今日は正一時に開くこゝが出来たのは非常に愉快に思ふ。昨日人間の能力には餘程餘力があると申したが、譬へば此例に就て考ふるときに、昨日私の話が三十分遅れた爲に五百人の聴講諸君が爰に二百五十時間空費をした譯である。二百五十時間の空費は大したもので、今日は一分間に汽車が一哩つゝ走つて居る世の中であるから、ほんの一回の講習會に於て主催者の不注意の爲に二百五十時間空費をしたといふことは非常な損失である。今日は正一時から始めたから五百人の聴講者が豫定通り著々やつて行く一寸の事柄でも直に二百五十時間は浮いて來るのである。そこで社會を改造するには凡て斯ういふやうな工合に小さい事柄から段々改善を加へて行くならば、まだこゝ此社會の能力といふものは増進して吾々の希望するやうな美はしき社會が實現されるであらうと私は思ふのである。時間通りに始めることが出来たのを私は非常に愉快に思ふ。

昨日はすつと昔から今日に至るまで此社會生活がどういふ工合に進んで來たか、極く近い頃になつて猿人から段々今日の人類に進化して、人類が萬物の靈長となつて世界を支配することが出来るやうになつた。其成行に付て二つの理由を擧げたのであつた。其第一は人間が他の動物と違つて道具を使用したこと、同時に道具の一種と看るべき火を利用したこと、道具と火を利用することに依て茲に人間の能力が他の動物以上になつて而して人類社會を産み出すことが出来るやうになつた。是が第一の理由である。第二の理由は人間の男女の關係の性慾が段々訓練を重ねて來て茲に正當な結婚といふものが社會に行れるやうになり、家族といふ團體が此に現出して來た。其家族の團體が結婚制度が段々進化するに伴ひ倍々有力な一の團體となつた。其有力な家族が澤山集つて此に社會が組織され社會生活といふものが段々進化し得るやうになつて來た。斯ういふ二つの理由によつて、自然生活が破れて美はしい現代の社會生活といふものが現れて來た。此社會生

活を行ふときに當つて當然の結果として經濟生活に非常に重きを置くこゝになつた。そして社會生活と經濟生活とは殆ど同一義のものであるから密接の關係を持つやうになつた。今日の社會生活から經濟を除いたならば社會は成立しない。故に社會生活の將來と經濟生活の將來とは殆ど同一義のものとして見て差支ない。

(一四)

さうして此社會生活に於て經濟生活が大切であるかといふこゝ、詰り人口と食物との關係から起つて來るのである。曩にも申すやうに人間が道具を用ひて單に自然物を見出して生活するばかりでなく、自分の力で或は他人の力で生活に必要な物を造つて吾々は生活の安定を得られるやうになつた爲に、それと同時に家族的の團體が鞏固に發達するやうになつた。個人生活でなく家族生活が出来た。家族生活といふものが道具の發達に伴つて此に安定を得るやうになつた。猿人の世の中から人類の世の中になつた當時は確に或る意味に於て黄金時代であつた。今日のやうに生活難の爲に首を縊つて死ななければならぬといふやうなこともなく、周圍には澤山の樹があり樹の實が成つて居る。川に往くと鮭などを自由に捕ることゝが出来た。自然が人間の欲する物を澤山供給して呉れた所へ持つて來て、人間が不完全ながら家族生活で楽しく暮らすやうになつた。殊に其時代は人智がまだ發達しないから人間の欲望といふものが爾う澤山發達して居らぬ。

ゲエテであつたか智識は禍の本であると言つたが、今日苦しいこゝ悲しいこゝ色々さういふ不幸な感じが吾々の中にあるが是は皆智惠の實から起つたのである。即ち智惠が吾々の心の中に發達するが故に苦痛といふものが起つて來る。欲望が發達して來てそれを満足することが出来ないやうになつて來る。所が餘り欲望の進歩しない状態に在つた人間は、周圍に天然自然の恩惠物が澤山あつて非常に安樂な生活をして居つたのである。私は其時代を非常に羨しく思ふのである。其時代の人間は今日吾々がやかましく言つて居る生存権が保障されて居つた。腹が減れば木に登つて木の實を採つて食へば宜い。或は地を掘つて種子を播けば地味が豊沃であるから食物が得られる。丁度今日墨西哥に在る部落のやうに、一週間の間だけ一生懸命労働すれば一箇年間の食物の資料が得られるやうな状態であつた。さういふ幸福な社會生活が何故其後の時代に於ては今日のやうに生活難といふやうな色々新しい病氣に罹つて苦まなければならぬことになつたか、是は結局

人口と食物との衝突から起つたのである。つまり其後に人間の増加する程度が食料の増加する程度と並行して進んで往くことが出来たならば、矢張社會は其當時と同様に何の苦痛もなく經濟的の壓迫もなく實に美はしい時代であつた。けれども不幸にして人間の子供の産み方が食物の増加の力よりも激しかった。そこで自然が如何に澤山な色々な自然物を供給しても、又地味が豊穡で一才努力を加へれば澤山の收穫物を得られても、其力以上に人間の性慾が強く無暗に子供を遣る。乃ち人口と食物との調和を缺くやうになつて來た。其爲めに段々楽しい所の社會生活といふものが、其後時代の進歩と伴うて苦しい社會生活に變るやうになつて來た。それが段々激しくなつて到頭今日のやうな社會になつてしまつたのである

(一五)

所で其人口と食物との不調和を何うして調節しやうといふことに付て人間は又一生懸命に努力したのである。併し如何に努力しても人生に於ては絶へず三つの衝突といふものが附纏つて居る。第一は自然がどうも吝嗇である。即ち自然の生産能力が思ふやうに十分でない。人類の望む程自然が澤山に物資を供給して呉れない。段々繁殖する人間を十分に養ふだけの食物を何故に自然が供給して呉れないかといふ感じが起つて來る。其處に自然と人との衝突がある。第二は人間が段々多くなつた爲に人間同士の間にも不調和といふことが起つて來る。例へば此處にコップがある。私一人しか此處に居ない時分には水を呑みたいと思ふ時分に之を自由に使ふことが出来る。何等コップといふものに對して私と他人との間に衝突が起らぬ。けれども假に此處に五人の講演者あつたとすれば、咽喉の乾いた時分に五人の人がコップを欲しくなつて來る。此に於て、五人の人との間にコップを早く使はうとか或は之に對して所有權を握りたいとかいふので衝突が起る。それと同じやうな譯で人口が多くなつたが爲に同一物を澤山の人が欲求するといふ人と人との間に争が起つて來た。第三は人智が段々進むに従つて自分の欲望の中に色々違つた種類の欲望が起つて來る。例へば水を呑むにしても人智の進まぬ最初の中は斯んなコップなどは要らなかつた。掌の扁に水を入れて呑めば宜かつた。けれども智恵が発達して來ると掌の扁では面倒で仕方がない、木を抉つたものを用ひたいといふ欲望が起る。段々進んで來ると冷いものを呑むのだから斯ういふ透明なものに容れて呑んだら宜からうといふ感じが起つて來る。それがもう一つ進歩すると斯んな普通の硝子ではいけない

カットグラス(模様を彫付けて拵へたもの)の一ヶ二十圓位もするコップを使ひたいといふ欲望が起る。吾々は智恵が進んで來ると色々な欲望が起つて欲望と欲望の間に衝突が起る。

斯くして如上の三つの衝突が茲に起つて來た。今日の社會事情を觀ると皆此三つの衝突即ち人と自然と喧嘩して居るか或は人と人と喧嘩して居るか、或は自分の欲望と欲望と喧嘩して居るか、此三つの衝突の裡に吾々がどうかして安定した生活を送りたいと云つて社會生活といふものが行れて居るのである。隨て今後に於て吾々が此社會生活をどういふ工合にしたならば進歩して行くことが出来るかと申せば、勿論此三つの衝突に出来るだけ打勝つて行かなければならぬ。此に於て此社會生活といふものが奮闘生活といふものに變遷して行くのである。奮闘生活といふのは一生懸命に努力して自然と人との衝突に勝を占めやう、或は人と人との衝突に勝を占めやう、或は自分の欲望と欲望との衝突に勝を占めやうといふ目的で奮闘するのである。此奮闘生活に依て社會生活が進化するやうになつて來た。昔のやうに自然の恩恵が多くて人間の少い時代には奮闘生活は無かつた。けれども自然の供給する生活の資料以上に人間の數が多くなつたが爲に三つの衝突が起つた。其衝突に打勝つべく努力主義の奮闘生活といふものが社會生活の本體となつて來たのである。

(一六)

此奮闘生活を十分に全うするには茲に道具を利用するところが一番良い方法だ。同じ道具でも出来るだけ良い道具を使ふことが必要になつて來た。猿人の時代から人間の時代に變遷した初期に於ては、手が自由になり指が自由になつて道具を使つたといふことを申したが、奮闘生活が社會生活の本體となつた場合にその原理が矢張適用されねばならぬ。即ち出来るだけ良い道具を使ふことの出来る人間が偉い人間になつた。人間界の牛耳を握る者は良い機械を自由に又澤山に使ひ得る者であつた。其後の社會生活といふものは結局道具の進化の歴史に過ぎない。だからして其後どういふ道具が用ひられるやうになつたかといふことを調べて見るならば、其間に社會生活がどういふ工合に進歩變遷したかといふことが能く判る。それであるから文明史は機械の發達史であるといふことが出来る。昔は旅行する時分に駕籠に乗つて歩いたものである。先年私が支那を旅行した時分に屢々駕籠に乗つて歩いたが随分香氣極まるものである。

それが進歩すると人力車のやうなものになり、今迄二人で擔いだものが一人で曳くこゝが出来るやうになる。それが更に進歩するに今度は馬鐵のやうなものを使ふとか或は馬車を使ふか、それが一層進歩すると自動車のやうなものを用ひるやうになる。社會生活の進化の状態を知らんと欲せば、其時代々々に於ける機械の進化の状態を調べて見れば判る。昔駕籠に乗つて歩いた時代にはそれに適應した社會生活が行れた。自動車が用ひられるやうになれば昔駕籠夫が百人位かゝつたものを自動車一臺でやつて行けるからそれに適應した社會が出来る。今日の成功者は結局其社會に最も適應した所の道具を自由に使ひ得る者であると言つて宜い。

當札幌に於ても今日は自動車が數臺あるがそれは極く少數の傑い人の所有物である。而も其中には自分の金で買つた自動車ではなくして、お上の金とか或は市役所の税で成立つた金で買つた自動車を自分の所有物の如く乗廻して歩くゑらい人もある。甚しきは是は札幌ではないが政府の金で買つた自動車を藝者なごを乗せて公私混淆的に使用して得意然として居る者がある。所が同じ自動車を使ふといふこゝでも例へば米國の如きは自動車を持つて居る人が都會人よりも田舎人が多い。殊に西部から東部に掛けて多くは農家が持つて居る。今日中農にして自動車を持つて居らぬ人は殆どない。私は四年前に米國の農村を講演して歩いたが、地理不案内の村から村へと輾轉して講演する場合に會場が何處かさつぱり判らぬ。日本では講師を俾か何かで送迎して呉れるが、向ふでは「何日の何時に何村で講演會を開くから來て呉れ、宜しいか」「宜しい。」といふのは其日に掛けて行く。知らぬ村に往くこゝ一寸まごつく。そこで私は田舎に講演に往く場合に停車場に降りると直ぐ「今日講演に來たが會場が判らぬから何んでも自動車の澤山集つて居る處へ伴れて往つて呉れ。」宜しい。今日自動車が澤山往つたのは此方の方だ。」と其方面へ自動車を驅らせる。さうして何百臺といふ自動車の集つて居る處へ來て「彼處だ。」といふ。往つて見ると日本で云へば土百姓が皆自動車に乗つて來て居る。私が十年前前に米國に居つた時分は貧乏であつたから講演して歩いて金を貰つて苦學した。其當時は馬車であつたが最近に往つて見るとすつかり自動車に變つて了つた。中位の農家には自動車がなかと營業が成立たぬ。當市には自動車を利用する人が指を屈する程しかないが、民衆が舉つて自動車といふやうな精巧な機械を自由に利用するこゝの出来るやうな世の中にならなければ社會生活は向上

せぬ。であるから社會の進歩といふことは機械の進歩を表はして居る。良い機械を出来るだけ多くの人が利用するこゝによつて本當に社會生活が進化するのである。

(一七)

道具の變遷の状態を観ると最初は武器であつた。其次に鍬とか鋤とか鎌とかいふ器具になり、それが進歩して什器になつた。それが又一層進歩して今度は道具が機械になつた。而して其機械を動かす力も初めは人であつたのが後には人間以外のものが動力になつた。夫れも最初は動物の力を用ひて居つたが段々進歩して自然力を用ひるやうになつた。即ち水力風力蒸氣力等を用ひるやうになつた。最近に於ては瓦斯、電氣などを動力に使ふやうになつて段々精巧の機械が發明されるやうになつた。此機械の發達變化によつて社會生活の様式が非常に變つて來たのである。

更に他の例を擧げるに御承知の通りアダム・スミスの書いた富國論——一七七六年に書いた經濟學の一番古い富國論を繙いて見るに、其中にペンが書いてある。昔は留針を拵へるのに手で拵へて居つた。所が十八世紀になつてペンを機械で製造するやうになつてから非常に能力が發揮されてアダム・スミス時代には一日に五千本のペンを拵へることが出来た。斯ういふやうに分業が發達し機械を用ひると生産能力が増加すると云つて文明の效力を非常に稱讚して居る。然るに。後更に精巧の機械が出来て一日に一人の職工が百二十万本のペンを拵へるこゝが出来るやうになつた。其昔アダム・スミスが一日に五千本のペンが出来ると云つて驚嘆した時代を今日とを比較して考へると馬鹿けて話にならぬ。即ち人の能力が百二十万を五千で割つただけ約二百年間に發達した。是は詰り機械のお蔭なんです。同じ例を擧げて見るならば、靴を製造するのに昔は一足に十八時間かゝつたのが今日は二時間で出来る。札幌邊では注文に往くと一週間乃至十日の時日がなければ拵へて呉れない。不完全な機械でやつて居るから時間を要するのであらう。そして時間を要するこゝといふことは高價といふこゝを意味して居るのである。それが精巧の機械でやると二時間で立派に靴が出来ると之に關聯した事であるが日本は今日非常に物價が高く靴の價格なども非常に高い。殊に靴の修繕料などは馬鹿に高い。なぜ高いかといふと良い機械が無いからである。私の知つて居る外國人が靴が破れると仕舞つて置いて三足か四足たまると小包郵便で米國に送つて修繕

させる。さうするに一七七八十錢で立派に修繕して返つて来る。なる程私共が米國に居つた頃三十五仙(日本の金で七十錢)で破れ靴をすつかり修繕して呉れた。而も待つて居る間にやつて呉れる。大きな機械が廻つて居つて新聞を見て居る間に十分間くらゐで直して呉れる。今日は一層精巧の機械が出来て居るからもつと早く出来るであらうと思ふ。今日日本では輸入超過で大騒ぎをやつて居る。其筈です。單に靴の修繕でも日本で作るよりも運賃を掛けて外國に送つて修繕した方が廉くて巧く出来るさういふ事實なんです。是は何を意味するか。即ち日本人は腦力が發達しないから良い機械を用ひないといふことを意味して居るのである。機械の力は實に恐ろしいものである。

又百斤の毛糸を拵へるのに機械の未だ十分に發達せぬ時代には三千百十七時間を要したが今日は二十時間で出来る。農業の方でも同じことです。大麥六石を收穫するのに不完全な機械を用ひると六十三時間かゝつたものが今日は二時間で出来る。トウキビ八石を收穫するのに昔は三十六時間かゝつたものが今日は十六時間で出来る。斯様な實例を挙げれば際限がない。米國の農務省から出た報告書を調べて見ると色々な事が書いてある。

(二八)

物價調節の中で一番大切なものは何かといふに賃銀を廉くすることにある。労働賃銀が今日のやうに高いのが禍の基であるさういふ論者がある。従来は日本人の賃銀が非常に廉かつた。それが漸く戦争の好景氣に伴れて少し高くなつて来た。今日は不景氣になつて来たから又それを戦争前の賃銀にしてはなければいかぬ。賃銀を廉くしなければ將來の經濟界變ふべしと言つて居る人があるがそれは大間違だ。賃銀を廉くするよりも能率を上げることが急務であると私は思ふ。昔一圓の労働賃銀を拂つたものが今日二圓拂つても、其労働者が良い頭を持ち良い機械を用ひると昔よりも三倍四倍の仕事が出来る。それで以て今後の經濟界は成立つて行くのである。今後日本人が世界の人を相手にして商賣をやつて行くには労働賃銀を戦前の如く廉くしては駄目だ。労働賃銀が外國労働者の程度に高くつても若し能率の大を以て競争することが出来、向ふが拵へるならば此方は十五拵へるといふ風にしなければ、到底今後の經濟戰に打勝つことは出来ない。今日のやうに日本の労働者が豚小屋の如き家に住み生活の保障を與へられぬやうな有様では、今後世界の人を相手にして經濟戰をや

るさういふことは到底出来ない。そこで一番大切なのは労働者自身、百姓自身の生活を高めて人間らしい社會生活を営まむるやうにし、出来るだけ良い機械を自由に用ひさせるやうにして生産能力を増さなければいけない。北海道の田舎を歩いて私が熟々思ふのは、農場を視ると木の伐株が澤山ある。あの伐株を取るのに何年位かゝるかといふと、先づ平均十年位はあゝして置いて段々腐つて行くのを待つて伐株を伐り起す。日本の労働者の力では伐株を起すのに少くとも十年位はかゝる。私が加奈陀を旅行した時に蒸汽の拔根機を使つて見るのを見たが、大きな伐株を恰も草でも起すやうに五分間に一本位つゝ抜いて居つた。向ふでは拔根機械會社が出来て居つて精巧な機械でドン／＼やつて居る。それだから百姓の方で非常に速く且つ廉く伐株を抜いて貰ふことが出来る。今迄の歴史を見るに皆機械の利用に依つて進歩の行程が進んで行く。將來も同じ理窟で機械を利用することを考へなければ到底成功は出来ない。さういふ世の中になつて来たのである。

(一九)

此に於て次に考へなければならぬ事は、又其機械を動かす所の土臺になつて居る土地さういふものがどういふ場合に人間に依つて利用されて居るかといふことが大問題として横はつて居る。自然は吝嗇であつて自然力には制限がある。土地は時には埋立仕事をやるが大體限定されて居る。そして地力漸減法則が働いて居るから地味は段々衰へて行く。此段々衰へて行く地力、限られたる土地の面積を吾々が生産の土臺にしなければならぬ。此上に生産が成立つて行くのである。而も其土地を利用しやうとする所の人間の數は段々無限に増加して行くそれだから土地の價値が年々歳々高くなつて行く。北海道でも昔此邊の地面は一坪一圓か二圓位で買へたものだ。すつと昔は只でも取ることが出来た。それが今日は三十圓四十圓さういふ値段を有つやうになつて来た。それは何の爲かといふに土地又は地主が特別に動いた爲めでない。夫れは土地と人間と喧嘩する結果次第に土地の價が高まつて行くのである。そこへ持つて往つて人間は不幸にして抑付けらるゝの出来ない性慾があるものだから子供を無制限に拵へる。これだけの地球といふものは例へば十億の人間より養ふことが出来ないとするに。人間の數が年々殖へて十五億になり十六億になるといふ譯で土地はデツミして居るが人間の方が絶へず殖へて行く其利用の程度も高くなる。それだから土地の値段が段々高くなる。マルサスなどの本を見るとそれが當然の事で、人

間さいふものは野獸性を帯びて居る。無限に子供を産んで行く性質のものだ。さういふ性質を有つて居る人間が固定した地面の上に生活して居るのだから、大部分の人は貧乏にならなければならぬ運命を有つて居ると、言つて居る。生産の土臺として一番大切なのは土地である。其土地を若も私が一定の面積を占有して居ると、夫れを利用する者が澤山出て来るから地價が段々高くなつて来る。それだから土地を持つて居ると社會生活が安定して来る。此處で人の名前を擧げるのは如何か知れないけれども事實だから仕方がない。當市に藪さか五十嵐さいふ有名な地主さんがある。此人達が今日立派な社會事業をやつて居るとか云ふが。彼等がどうして今日のやうな金満家なる事が出来たかといふと勿論土地を持つて居るからである。土地より生ずる所の不勞所得が段々増加してそれに由つて今日の富を致したのである。世界に澤山富豪があるが何うすれば富豪になり得るかといふと、一番の早道が土地を持つて居ることである。富豪の大部分は不勞所得で金持になつたのである。正直に働いて居る無產者では一生金持になることが出来ない。若し勤勞に一生を捧げて居る者で金持があるならばそれは少々怪しい。私の如き或は大部分の諸君の如き一種の精神勤勞に従事して、其勤勞所得に依つて生活して居る者は富豪になることが絶対に出来ない。若も吾々の仲間にして勞力だけで富を成した者があるならば、それは砂利を喰ふとか或は吾々の知らぬものを喰つて居るに相違ない。道廳の役人も亦然り社會課などに働いて居る人も皆其通りだそれはさういふ世の中なんだから致方がない。所が土地のやうなものを握つて居るミ寢て居て金儲が出来る。

(二〇)

今日の社會組織では無產者の生活の安定を與へられてない。毎度私自身の例を引出すのは如何であるが、自分の例が一番力強いから申すが、私なごは貧乏に生れたので一生貧乏で終らなければならぬ。今日の社會は冒頭に申した如く病氣に罹つて居るから、勤勞所得のみで生活を立てゝ行かうとすると、何時どういふ運命に陥るか判らない。今假りに自分が病氣に罹つて死ぬか、或は死ななくとも不慮の災難に遇つて不具になつて働けなくなつて了つたミすると、何も他に収入の途がないから自分は勿論家族も共に餓死をしなければならぬが。私の思ふに進歩した社會ではそんな事があるべきものでない。若も己むを得ない理由で生活能力を失くしたならば社會が助けてやるが宜い。前にも申した如く人間は生れながらに

して生活權を有つて居るのだから、其國民にして正直に働いても生活が出来ないといふ者があつたならば國家社會が生活を保障してやるべきである。けれども國民の生活權を保障しないから、自分でまさか、かの時の生活を保障する準備しなければならぬ。それに就ては今日少くとも二三萬の財産を持つことが必要である。所が吾々のやうな職業に従事する者は勞働を得るのみでは到底さういふ金が生出来はしない。それだから藪某のやうに小さいながらも土地を持つのが一番宜い。そこで私は五十年前に醫科大學の近所の地面を一千坪ばかり一ヶ所は一坪九十八錢で買つて地主となつた。それを買ふに直ぐ私は家族を引纏めて外國に三年程住つて居つた。外國へ往つて居る間俸給の三分の一貰つて居つたから、其一部で東京に居る父に頼んで月賦を以て其土地の代金を拂つて貰つた。三年経つて歸つて見ると醫科大學が出来、病院が出来るといふので彼の邊は非常に景氣が好い。或日『あなたの御所有の地面をどうか賣つて呉れないか。』と申込んで来た者がある。私は實は今迄氣が付かなかつたが成程自分は地面持だと思つた。『一體幾許で買ふ。』坪七圓で買ひませう。』と言ふ。私が昔坪九十八錢で買つて所有權の登記だけして置いた地面が、外國に研究に往つて勝手な事を言ひ氣樂に暮して三年程経つ間に七倍になつて居る。斯んな旨い手品のやうなことは土地でなくては出来ない。此手品を巧く利用するに直ぐ金持になつて了ふ。

(二一)

私はさういふやうな譯で之れでも微小な有産階級の一人になつて了つた。けれども若も私の主張するやうな社會が出来て國家社會が國民の生活を保障して呉れるならば私は地面なごは全然不必要である。併し今日は誰も生活を保障して呉れないから自分で保障しなければならぬ。それには此土地を持つといふことが非常に結構な事である。

其次には機械—機械は今日世の中で非常に大切なものである。良い機械を持つて居ると其人は働かなくても機械が動いて勞働者が澤山使はれて、さうして出来上つた生産品の大部分の利益が機械の持主の所得になつて了ふ當市の麥酒會社或は製麻會社等に於ては巨額の資金を投じて機械を備へなければならぬが、一旦資金を投じた曉は資本主が黙つて居つても其機械が生産能力を有して、居るからそれから得た所の利益は一部分勞働者に與へて残の大部分は資本家が取る。だが

ら黙つて居て金持になることが出来る。資本を持つて社會生活が安定になる。元に戻して無資本者は何時まで経つても貧乏で終らなければならぬ。此病氣を癒さなければ社會生活が完全なものにならない。

然らばどうしたら宜いか、之に對して色々な學説があるが私は時間が無いから詳言は出来ないし、又私の思ふ所を遠慮なく言ふに危険思想など悪口を言はれて彼れ迷惑な次第であるから省略するが、私は此問題の一部に就て眞面目に考ふべく少く諸君の注意を惹きたい。前述の如く土地や資本を有する者は働かずして所得が段々多くなつて富者になることが出来る。之に反して一生懸命働いても貧乏に生れた者は一生貧乏で畢らなければならぬといふ。斯ういふ特徴を有して居る社會生活は決して健全なものではない。

そこで社會はさういふ工合に發展して行くかといふに、マルクスの言ふやうに資本主義の社會が熟すると有産階級と無産階級と衝突して社會の造直しをしなければならぬに至る。つまり土地なきは持つて居つても利益にならぬやうにしなければならぬ。元來空氣も水も土地も皆自然の造つたものであるから土地を空氣や水と同様に人類共用のものにしてさふ。此高等女學校に來て諸君が大きな呼吸をして幾ら空氣を吸うても校長さんが怒りはしない。又井水を私が幾ら飲んでも泥棒になりはしない。けれども若も誰かの所有に屬して居る所の地面に無断で家を建てるとか、或は疲れたから休まうと思つて小屋掛をして休むとか自分の所有に屬さない土地を空氣や水と同様に利用した場合には、所有侵害とか何ぞかそれ、法律が出來て居るから其法律に照されて牢屋に打込まれてさふ。空氣も水も土地も自然に出來たもので些つとも變りはない、然るに土地ばかりは爾うなつて居る。然らば如何にせば土地を空氣や水のやうにしてさふことが出来るかといふと土地を社會全體の共有財産にしてさうして使ふ場合にはお互に相談づくで決める。機械も其通りである製麻會社や麥酒會社に備へてある大きな機械は誰のものであるかといふと株主のものである。株主から資本を集めてあゝいふ精巧な機械を備付けるから生産能率が上がる。東京の鐘紡は此不景氣の折に最近七割の利益配當をやつて居る。どうしてさういふことが出来るかといふと人口が殖むるに従つて消費が増す、そこへ持つて往つて精巧な機械を備付けてあるから生産能力は偉大である。若し其生産するものを社會の力で出來たと云ふて相當に社會に返すならば勿論七割なきといふ利益があら

う筈はない。土地といふものは前に述べたやうな性質を持つて居るので、其土地は人間が多くなるに従つて價值が段々上らうとする。其價值を人類全體のものにしてさふばよいのである。併し今日の社會組織ではそれは出來ない相談である。

(二二)

昔二宮尊徳翁式の道徳では「稼ぐに追付く貧乏なし」と教へられたが、昔時は今日のやうなセチ辛い世の中ではなく土地を持つて居つてもそんなに利益がなかつた。土地や機械を持つて非常な暴利を貪るやうになつたのは最近だ。今の世の中に於ては二宮翁の教訓も何の效力も無い。どうして稼ぐに追付く貧乏がないと言へやうか。此目の環りを視るならば數千の實例が稼ぐに追付く貧乏があるといふことを證明して居るではないか。巡查なきは國家の爲に社會の秩序を保ち人民を保護しやうと思つて著苦しい制服を著、面倒な剣をガチャ／＼させて朝から晩まで忠實に職務を盡しても僅ばかりの收入しか得て居らぬ。お互もさうである。若も稼ぐに追付く貧乏がないならばお互もつゞ／＼立派にならなければならぬ。土地を持つて居れば働も何もしないでノラクラして居て金が儲かるといふやうな今日の如き社會の有様では社會生活が進歩しない。社會生活をもつと／＼良くするには何とかして斯ういふやうな制度を改革しなければならぬ。所が今日の法律制度は私有財産制度の上に築かれて居るのであるから、之を無くしてさうして共有財産の制度を拵へるといふ様なことは爲す可からざることである。それであるから私は之を根柢から覆さうと主張するのではない。けれども社會改造といふ點に考へ及ぼしたならば、今日の法律制度を少く改正する範圍に於て社會は改造されるのである。現に我が政府は此方面に盛に改造を行はんとして居る。外國の政府がやつて居るやうに例へば土地増價税が實施されたに假定せよ。此税は一番先に獨逸政府が膠洲灣で行つたのである。膠洲灣を獨逸が占領するや立派な建築物を拵へて現代的都市を青島に築き上げた。それが爲に周圍にある一坪一厘もしないやうな地面の價が／＼と騰つて來た。それを見て獨逸人が考へた。此處は獨逸が巨額の資金を投じて是だけのものにしたのである。然るに支那の地主が只黙つて居つて暴利を貪る。之に對して相當の制裁を加へるのが至當であるといふので案出したのが土地増價税である。それが成功したので獨逸政府が本國で其法律を施行した所が非常に成績が良い。そこで諸方で行ふやうになつて英國でも之を行つて居る。日本でも大阪市では今やらんと

して居る。

(三三)

どうしてやるかといふに假に私が一坪一圓で買った土地を七圓で賣つたとするに其所に六圓の差益がある。それに対して土地増價税を何割か課するのである。假りに九割の土地増價税か課つたとするに大部分取上げられて了ふ。それが何の爲に使はれるかといふと租税であるから社會全體の爲に使はれて了ふ。さうすると土地を持つて居ることが餘り利益でない。若し土地を賣らない場合には此税はどうするかといふに、各地を五年又は十年毎位に評價して其價格の差額に對して税を課ける。それだから土地を持つて居るといふことは損はしないけれども餘り有利でない。日本で何故斯んな解り切つた事を行はないかといふに國會の議員達が迷惑するからである。日本の國會議員は地主が多い。それだから自分等地主達に不利益な事は一切知らぬ顔をして居るのである。外國の實例に鑑みて我が政府當局が之を行はんとして議會に持出さうとすると寄つて群つて打壞はして了ふ。それだから社會生活が進化しないのである。是は危險思想でも何でもない外國ではどん／＼行つて居る。不勞所得を取つて居る者は財産が多くなつて居る。今日は累進税を課して収入の少い者には低い税率を課け収入が多くなるに従つて重い税率を取つて居る。それであるから極端な社會主義者が主張する様に現在の制度を根本的に變じないでも私有財産制度を其儘にして措いても他の法律を少し改正すると、斯ういふ社會の病氣は或る程度まで立派に醫すことが出来る。私共が或る一部の社會主義者から非常に悪口を言はれるけれども、所謂生温い方法でも宜いから其精神を吾々が尊重して今日の法律制度を改造して行つて。さうして萬民が一生懸命に働いたならば働いただけの所得が得られるやうにし、而して勞せずして多くの所得ある者の収入を引下げ下の者の収入を上げるやうにする。

是は昔から今日まで引續いて來た社會生活の理窟が吾々に教へるのである。將來は必ず斯ういふ風に進んで行くに相違ない。幸に露西亞のやうな急激な革命が起らぬやうにするには、お互が今一層努力して斯ういふ理論を明にし其原理に近いやうな施設を爲し、救貧等の種々な社會政策を熾に行ふならば、血を見るやうな革命を見ないで穩健著實の方法で社會を段々新しく建設して行くことが出来ると思ふ。若し然らずして今日の有様で往つたならば、近き將來に於て或は露西亞の

二の舞になりはせぬかといふことを懼れて居るのである。確に日本にも進化の道程を示す立派な新しい思想が燃えて居る。それを明治初年か出來た治安警察法に云ふ種類の古い法律を以て抑付へけやうとする。此日本の状態が今より七八年以前の露西亞或は佛蘭西革命時代に起つた状態と似て居る様にも思はれて實に恐しく感ずる。故に早く社會生活進化の示して居る眞理に適つた主義方針を以て法律の改正を行ひ又現代に適する社會政策を立派に行ふ爲に同志協力して大に努力すべきである。繰返して言ふが今日の社會は非常な病氣に罹つて居るから根本的の治療を加へなければならぬ。時には魔睡劑を掛けて治療しなければならぬやうなこともあると思ふ。私の講演は之を以て終ります。(拍手)

社會政策

內務省囑托 生江孝之

一六

序 目 次

- 第一章 社會問題の範圍
- 第二章 社會問題解決方法の二大種別
 - 第一節 社會主義
 - 集産主義と共産主義
 - 第二節 社會改良主義
- 第三章 社會政策の意義
- 第四章 社會政策の範圍
- 第五章 社會政策の本旨
 - 自由、平等、公正
- 第六章 社會政策實行主體の内容
 - 第一節 老癯保險
 - 第二節 養老年金
 - 第一項 保險制度と年金制度の可否
 - 第二項 扶養義務觀念の彼我の相異
 - 第三項 我國將來の施設
- 失業保險
 - 第三節 失業保險
 - 失業保險の弊害

- 第四節 自助的機關、勞働組合
- 第五節 公私團體の社會事業
- 第七章 社會事業の意義
 - 第一節 社會政策と社會事業との關係
 - 第二節 社會事業の對象物
 - 第一項 社會貧
 - 第二項 貧の定義
 - 第三節 社會連帶責任の觀念
 - 第四節 自家療能性の作用
 - 第五節 社會奉仕の觀念
- 第八章 防貧施設
 - 第一節 小資融通事業
 - 第一項 外國に於ける公設質屋
 - 第二項 我國の營利的質屋
 - 第三項 我國に於ける公設質屋
 - 第四項 今後の施設
 - 第二節 住宅問題
 - 第一項 紐育及倫敦の貧民窟
 - 第二項 我國に於ける公營住宅施設
 - イ、倫敦の市營住宅
 - ロ、白耳義の模範的住宅施設
 - ハ、本道移民住宅問題
 - ニ、外國に於ける住宅問題に對する施設
- 第九章 教化問題
 - 禁酒事業

一七

今回は社會政策といふ題の下にお話をする事になつて居るが、實は今御紹介のあつた如く、社會事業に付ては多少講演なごも、致したことがあるけれども、社會政策といふ限つた題では實は私は其人でないと思ふ。併ながら與へられた題であるが故に、社會政策と社會事業との關係のやうなことを結局お話しすることになると思ふ。その點は豫め御了承を願ひたい。

第一章 社會問題の範圍

社會政策といふことを大體申述べる前に、所謂社會問題といふやうなこゝにも多少觸れて申述べる必要があると思ふ。社會問題に付ては他の講師から既に詳しくお話があつたかも知れない。或は今後もあるであらうから唯だ大體の事を申すに止めるが、社會問題には申すまでもなく狹義と廣義とある。これは如何なる問題、如何なる事業にしても其解釋に於て狹義と廣義とあるこゝは勿論であるが、之を狹義に解釋すれば、社會問題といふのは詰り労働問題と同じものであつたといふことが出来やうと思ふ。今日社會問題と絶叫高唱されて居るものは、その源を労働に起したことは申すまでもない。故に今日社會問題と云へば矢張り労働問題のみ考へて居る人があるやうである。それは其起源なり或は道程から申しても、労働問題が社會問題の大部分であつたことは勿論であるが、今日の所謂社會問題なるもの、範圍は必しも労働問題のみでないことは明である。然らば如何なるものが其間に含まれて居るかといふと、これは人によつて幾分かその内容範圍を異にして居るが、大體から云へば労働問題には勿論婦人問題、人口問題、思想問題、貧民問題、境遇問題、或は兒童問題なきが含まれて居るであらう。社會問題を斯く廣義に解釋すれば非常に内容が廣くなつて、今日所謂社會に存在して居る多くの大問題がそれに含まれるわけである。併ながら私はさういふ廣い範圍の問題を捉へ來つて爰にお話しする考もなし又その時間もないのである。

そこで社會問題の中の狭い方から申すと、即ち社會問題はさういふわけで發生したかといふ其原因に就て釋ねれば、これは主として現在の産業組織の缺陷から起つたのである。前述の如く社會問題は其最初に於て労働問題であつたとすれば、

その労働問題は産業組織の缺陷を矯正しやうといふ點から大體起つたものであるといふことが出来るであらう。現在の産業組織には勿論長所もあるが如何なる缺陷を有して居るかといふと、それは個人主義、自由競争主義といふものが極端に行はれた點に弊害があつたと思ふのである。個人主義必しも不可なるものではない。競争主義勿論必要である。併ながらその競争主義が極端に行はれると其處に弊害が生ずる。また個人主義を極端に遂行する場合に其處に弊害を醸成するのである。之等の弊害を矯正せんとして起つた問題が即ち労働問題である。それが段々に敷衍擴張されて今日のやうな社會問題といふ廣き範圍になり來つたものであると大體から申し得るのである。

第二章 社會問題解決方法の二大種別

第一節 社會主義

社會問題——この場合に於て社會問題といふのは主として労働問題であるが——此の解決には如何なる手段方法があるかといふと、之には解決の二大種別ともいふべきものがある。即ち一は社會主義、一は社會改良主義である。この二つを以て現在の産業組織の缺陷を解決しやうと考へ、また之を實行しつゝあるのである。

然らば社會主義とは何であるか、これは學者によつていろいろな定義がある。私はまだ社會主義に對して何等の知識を有して居らざるが故に、徒らに社會主義とは何ぞやといふ問題を捉へ來つて、此に解決を與へんとするとは稍々危険に陥る嫌あれども、併ながら學者の申すことを簡單に述べればいろいろな解釋のある中で「社會主義とは社會全體の利益の爲に個人の利益を必要以上に制限せんとするものなり。」といふのが穩健な解釋であると思ふ。即ち自由競争、私有財産制度といふものを全廢して凡ての生産事業は政府の事業として之を經營し、多くの人民は單に労働者として何等かの労働に服従しなければならぬといふ主義であつて歸するところ現在の産業組織を破壊せんとするのが社會主義の主張である。又或る學者は「社會主義とは現在に於ける私有財産を廢止し自由競争の制度を打破して共有財産とし共同生産制度にせんとするにあり。」と定義を下して居るつまり現在に於ては私有財産制度を認めて誰でも財産を所有することが出来るのであるが、その私有財産制度は種々なる弊害を來すものであるが故に、之を廢止しやうといふのが一の社會主義の綱領である。さうして自由競争

制度或は主義を打破して、財産を共有にし共同生産を営まうといふのが社会主義であると斯う申して居る。さういふやうに學者によつて定義を異にし社会主義と共產制度或は共產主義を別に考へて定義を與へて居る人もあり、また社会主義の中に廣く共產主義をも包容して解釋して居る人もある。前述の學者の説は社会主義の中に共產主義をも加へて論じて居る議論のやうである。要するに社会主義の主張は、現在の社会には種々なる病弊があるこの病弊は改良とか矯正とかいふことでは解決の出来るものでない。根本から社会組織を破壊して了はなければ理想の社会を造ることが出来ないといふのである。

集産主義と共產主義

これには又二つの主義がある。一は集産主義、一は共產主義である。集産主義といふのは凡ての財産、凡ての産業、少くとも大部分の産業を國家の所有にし、さうして個人の財産といふものは認めない。大部分の産業を國家のものとする。今日日本に於ても或る事業は國有である。即ち鐵道の如き或は鹽及煙草の專賣の如き國有であるが、大部分の産業を國家が營むことにして個人の企業或は財産権といふものを非常に制限せんとするのである。共產主義といふのは御承知の如く露西亞が數年前に於て實行せんとして、現在に於ては全然失敗の状態に陥つて居る所の共產主義で、財産は各人の財産であつて個人の財産は認めないといふのである。この共產主義は今日までの經驗によれば成立たない。必しも露西亞のレーニン政府だけが共產主義の社会主義を實行したのではない。斯ういふやうな大袈裟な共產主義の實行が露西亞に於て始めて試みられたといふことは出来るが、今日まで理想的の社会主義者と云はれた人々が、小さい範圍に於て共產主義を實行したのであるけれども何れも失敗の蹟を見るのみであつた。露西亞のレーニン政府が之を實行した際に一時、無智なる農民が共產主義の眞の意義を知らずして之を謳歌した傾があつたけれども、現在に於ては私有財産制度を或る程度まで許さなければ、國家は到底生存が出来ないやうな状態になつて居ることは諸君も御承知の通りである。

元來私有財産慾といふものは人間の本能である。所有權を獲得したい、自分が或物を所有したいといふ慾は生物の本能である。その所有慾が人間界に於て最も發達したといひ得るのであるが、人間には所有慾といふ本能があるが故に、一面に於て今日のやうな文明に進んだのである。この人間の所有慾を無視する所の共產主義といふものは、人文が非常に發達し

て理想の社会を實現するやうな状態に凡ての人が達した場合に於ては或は成立し得る餘地があるであらう。即ち凡ての人々の社会に對する考が自分の家庭に對する考と全然一致するやうな状態にまで人間の文化が進んだならば、或は共產主義といふものを認める餘地があるであらう。例へば今日家庭に於ては一家の主腦者が働いて、その勞働には或は筋肉勞働或は精神勞働といふ區別はあるが、何れにしても或種の勞働に従事して、さうしてそれに依つて得た所の賃銀或は報酬を以て一家を維持する自分の得た収入の全部を擧げて家族を保持するのが一家の主腦者の務であると考へて、それに對して誰も不平を起さぬ。家庭はそれで圓滿に行くのである。若し家族内に不平があつたならば家庭は保てない。何となれば家族は言ふまでもなく、性の愛、夫婦の愛、親子の愛といふ人間愛の中に於て最も強烈なる愛情によつて結び付けられる。もう一つは自己保存慾、種族保存慾といふものが家族を結び付ける連鎖をなして居る。これらの慾望、愛情は家族によつてのみ満たされるのである。此に於て家庭が鞏固になり、一家の主腦者が働いて家族を養つて行くといふことに付て、何等の不平なく圓滿に家庭を保持して行けるのである。斯ういふ考を社会全體に擴めることが出来て、社会全體が一家族と同じ考になつて社会を維持することが出来るやうな理想的の社会になつたならば、或は共產主義といふやうなことが成立し得るかも知れないが、まだ其處まで達して居らぬ今日の社会に於て、文化が極點に發達した場合に或は出来るかと思ふやうな制度を實際に行はんとするのであるから、露西亞のやうな無智な農民は一時、共產主義といふやうな言葉に眩惑されてそれを謳歌するであらうが、自己に財産の所有權がないのみならず、自己の生活以上の勞働をして餘剰の所得があれば全部之を沒收されて了ふ。社会全體が今お話ししたやうな家族と同様の考であればそれでも辛抱は出来るけれども、さうでなければ殊に今日の社会文化の程度に於ては誰も怠業する。怠業されては困るから政府がいろ／＼な法律を出して怠業した者は罰するといふので、法律の力に依て人間の本能に逆行しやうとする。そんなことをしては政府の威力といふものが永續するものでない。或は一二年の間は出来るであらうが併ながら政府の威力を以てしても、人間の所有慾を無視して財産平等といふことを圖ることは出来ない。レーニン政府が今日私有財産制度を認めねばならなくなつた主なる理由は、私は其方の専門でないから判らぬけれども、蓋しさういふ所に在るのではないかと思ふ。そこで共產主義といふものは會て小

さい範圍に於て幾多の社會主義者が實行したけれども全部失敗に了り、尙ほレーニン政府が之を實行して失敗したといふことは公知の事實であつて、誰人も之を否認することは出来ないものである。元來財産を共有にして凡ての人間が公平な生活を営まうといふことは、實は此れくらゐ不公平なことではないのである。人間の所有慾といふ本能を無視しては人間は生存することが出来ない。縦へばそれが一時生存し得るやうに見へても假面に過ぎない。事の真相が理會された場合には、誰人も今日の文化の程度に於て共產主義の社會主義が成立つとは信ずることが出来ないのである。

つまり現在の社會を破壊して然る後に理想の社會に達しやうといふ考は、専門家でない私共の考としては、人間といふものを假想的に理想化視して居るさういふこと、進化の理法によつて人間も社會も今日の狀態になつて居るといふ考を無視して居るものであると信ずる。人類が進化の理法によつて發達して今日に至つたさういふことは今更めて申すまでもない。社會組織に於ても一躍して現在のやうな狀態に達したのではなくして、矢張り進化の理法によつて今日の狀態になつたものであると信ずる。然るにその進化の理法を全く無視して、現在の社會を破壊しなければ新しい社會を建設することが出来ないといふ立場に立つて居ることは、要するに餘り個人主義の弊害が多くなつたから、その反動として極端なる社會主義が起り來たものと考へる。さういふ極端なる社會主義を今日直に遂行せんとするならば、茲に非常な病弊が生じ來るのである。

第二節 社會改良主義

此に於て私は恐らく眞理は其中庸にあると思ふ。蓋し中庸の穩健なる主義主張は微温的であり不徹底であると看られて居るが、凡そ物には順序方法がある。その原則を許すならば中庸に從はなければならぬ。中庸は微温的であるが極端に陥らぬ所に眞理があると私共は信ぜざるを得ない。然らばその中庸主義さでもいふのは何であるかと云へば、社會主義にあらずして社會改良主義である。社會改良主義は何ぞや云へば、現在の産業制度を大體に於て是認するのである。即ち所謂個人の私有財産を認めるのである。また自由競争も大體に於て認めるのである。併ながらその私有財産制度を極度に、また自由競争を極度に之を伸張せしめんとする場合に其處に弊害が起るから、その弊害の部分だけは努力して取去つて、

而して今日の所謂私有財産制度と自由競争主義から起る長所を利用して、社會を改善して行かうといふのが即ち社會改良主義である。

第三章 社會政策の意義

社會政策は社會主義の立場に立つて居るものではなくして、社會改良主義の下にあるものである。而して社會政策によつて社會改良主義を實際に行はんとするのである。所で此社會政策なるものは初は國家が法律制定の下に、國家の權力を以て行ふ政策さういふ意味に狭く解釋して居つたのである。つまり今日でいふ社會問題が最初は労働問題であつたと同様に最初の社會政策は國家の權力の範圍に於て行使するに限つて居つたと申して宜しいのであるが、現在に於ては爾う狭く限らないで之を廣く解釋するやうになつたのである。今日では『社會政策は之を行ふ主體が個人なるミ公私の團體なると將た國家なるとを問はず、廣く社會改良主義の精神を實行せんとする政策をいふ。』斯ういふ風に解釋して居るのである。

第四章 社會政策の範圍

次に然らば社會政策とは如何なる範圍を有つて居るのであるかといふことを考へる必要が起つて來る。これも亦狹義と廣義とに考へることが出来るのである。之を狹義に申すならば『社會全體の利益を害さざる範圍に於て、所謂無産者階級の利益を保護増進せんとする國策なり』といふべし。『斯う最初は考へて居つた。今申した通り社會政策の起りは、主として國家の權能の下に所謂労働問題といふものを解決しやういふやうな考から最初起つたものであるから、爾く狹義に之を考へて居つたのである。然るに今日に於ては大分廣義になつて、單に國家ばかりではない、或は公共團體が行ふ場合に於ても、或は個人が行ふ場合に於ても、矢張り無産階級の利益を保護増進して行かういふやうな政策は、その主體の如何に拘らず總て之を社會政策といふことが出来るといふ風に解釋するやうになり、更に進んで社會事業』これは後にお話するが『社會事業といふものが社會政策の内にあつて、社會政策が事業として行ふものが即ち社會事業であるといふ風に解釋をして、社會政策の範圍を次第に廣くするやうになつたのである。斯ういふものはまだ明に科學となつて居らぬので定義は學者によつていろいろ違ふのである。これが明に科學となつて其内容、性質、範圍が定つて了らば隨てそれに関するに定義

も一定するわけであるが、現在に於ては場合により又學者によつて自ら其範圍に廣狹があるために、隨てそれに對する定義も一定して居らぬやうな状態である。故に今私が申したやうなことは主として私の考から申すのではなくて、他の立場から之を論究するやうな傾になる嫌があるけれども、まだ明に科學として一定の定義を下すことの出来ない場合に於ては已むを得ぬことである。それは後にお話を致さんとする社會事業に付ても同じで、社會事業とは何ぞやといふ定義の如きは學者によつて一樣でない、その間に非常な廣狹がある。社會政策とか社會問題とかいふやうなものに付ても今申したやうに、狹義にすれば斯うである、廣義にすれば斯の如きものであるといふ風に、寧ろ理窟は措いて思想の發達を申すやうになるのである。

第五章 社會政策の本旨

次は社會政策の本旨である。一體社會政策といふものはさういふ本旨によつて之を行つて居るか申すと、その目的は個人的救済にあらずして、個人の集合たる社會全體の福利を増進するにある。即ち勞働者階級だけの福利を増進することのみが目的でない、又資本家階級だけを保護することのみが目的でない。勞働者の福利を増進すると同時に資本家の福利をも増進する。つまり社會全體の福利を増進するといふのが社會政策の目的であると申すことが出来るのである。併しさうすれば非常に範圍が廣くなるので、現在に於て大體認められて居る社會政策の本旨は、無産者階級者が無産者であるがために生活上不幸に陥つて居る。その社會上の諸種の弊害を矯正し除去しやうといふのが即ち社會政策の本旨であるといふことが出来るわけである。

自由、平等、公正

無産階級の不幸に陥つて居る状態は種々なる方面から觀ることが出来るのであるが、極端なる論者の主張によれば、所謂自由とか平等とか公正とかいふ考から之を觀て、凡てを平等にし凡てを自由にしやうといふやうな考が即ちそれであるやうに思つて居る人もあるが、これは矢張り間違であると思ふ。凡ての自由といふことは人間の強烈なる欲求である。併ながら今日の弊害は矢張り自由といふことが産業の上に經濟的に應用されたときには是が自由競争といふことになる。その

自由競争は他より秀でやういふやうな自由競争にあらずして、他を壓迫して自分が勝たうといふやうな自由競争になる。自由競争が濫用されたために其處に弊害が起つたのであるから、若し經濟的自由を許すならばどうしても今日のやうな弊害に陥るのは免れ得ないのである。故に自由といふことは凡ての方面の自由にあらずして、多くの場合に於て政治的自由といふことが詰り所謂自由である。今日社會生活の上に於て自由といふことを誰人にも要求されて居るのは政治的自由である。今日の社會生活といふのは多くの場合に於て政治的要求が段々進んで来て、さうして政治的自由といふものを段々に贏ち得て來て居るわけである。併ながら生存競争の自由を總て許すことになる今申したやうな弊害が生ずるのであるから、その意味に於て經濟的の極端なる自由といふものは之を抑止しなければならぬのであるが、何處までも擴張して行かなければならぬのは政治的自由である。

また平等といふことも凡てが平等であるといふことは、今の意味からいふと意味を成さぬことになる。また凡てが平等であるといふことは社會の進歩發達を無視すると同じことになるであらうと思ふ。然らば平等とは何であるか、何の平等を要求して居るかといふと、それは人格價値の平等である。人間といふ資格は皆同じものであるといふ此要求である。社會政策も一面からいふならば人格價値の平等を認める運動であるといひ得るのである。今日まで資本家と勞働者との間にいろいろ軋轢を來して居るこいふやうな所謂階級間の争は種々なる原因はあらうが、要するに資本家が勞働者の人格價値の平等を認めなかつたのが問題の根本義になつて居ると思ふ。無論賃銀問題或は時間問題もあるが、今日の勞働者の要求は、この發達した意味からいふならば、必しも賃銀問題或は時間問題だけではない。此等の問題の外に人格價値を認めて貰ひたいといふのが、勞働者の要求の最も熱烈なるものであると信ずる。法律運用上に於ては人格價値が認められて居らぬやうな點もあるが、法律が精神に於ては人格價値を認めて居る。法規の上に於て不平等になつて居るのは遺憾であるが、法律の目からは大體上人格價値は平等である。これは産業の上からも經濟の上からも、矢張り人格價値を平等に視ることが必要である。資本家も勞働者も人格としての價値は同じであるから、之を平等の人として取扱はねばならぬのである。

けれども此平等を延長して凡ての人間の能力をも平等にしやうといふことになれば是は非常な間違になる。人間の能力を平等にしやうといふ運動があるが、さういふ考で社會を進めて行かうとするならば、社會の進歩は全く阻碍され若くは社會の存在が破壊されるのである。能力は平等でないといふことが公正なのである。能力が平等でないといふことは、生物の遺傳の關係で甲乙が面の異なるが如く、能力も皆異つて居るのである。その能力の不平等によつて社會が進化して行くといふ妙味が在るのである。若し人間の顔も身長も體量も皆同じであるとしたならば何も彼もムチャクチャになつて了ふ。自分の夫はどれであるか自分の細君はどれであるか判らなくなつて了ふ。所が生物は進化の理法、遺傳の作用によつて人間の容貌は誰人も異つて居る。偶々兄弟なごに瓜二つといふやうな人もあるがそれは珍しい。多少似た所があつても何處か異つて居る。その變化その差等といふ所に凡てのものの發達がある。人間の智能も生物の進化の理法若くは遺傳の作用によつて皆異つて居る。その異つて居るものを各々異つたやうに發達せしむるといふのが詰り文化に必要な點である。文明が進むに隨つて智能の差異を多くするといふことが詰り文明の一つの働である。

教育の機會均等といふことが叫ばれて居るが、これは凡ての者を皆同じにしやうといふ意味ではない、能力ある者が各々その能力に應じて教育して貰ひたいといふのが即ち教育均等である。現在に於ける教育の機會均等は小學校だけである。小學校以上のものは機關均等が與へられて居ない。金さへ有れば能力の無い者でも高等の教育を受けることが出来るけれども、無産階級の者は優秀の能力を有し將來有望の人間であつても、高等教育を受けることが出来ない。故に無産階級の者でも能力有る人間は適當の教育を受け得るやうに機會均等を與へなければならぬ。教育は必しも智育ばかりではない、徳育其他いろ／＼あるが、兎に角廣い意味に於て自分の能力の計すだけの教育を受け得るやうになれば、そこに自然に差等が生ずる。その差等の生じたことによつて文化といふものが起るのである。教育の機會均等は公正であるが併ながら人智を平等にしやうとする運動ならば、それは間違つた運動である。そこで平等といふことも凡ての人間が平等になるといふ意味にあらずして、今日の場合に於ては人格價値の平等である。自由といふことに於ても經濟的自由を極端に要求するのでなくして、少くとも政治的自由を要求して居るのである。公正といふ考は今の教育の機會均等の如きそれである。誰が之

を行ふかといへば、社會政策の見地から國家若くは社會が、凡ての人に教育の機會均等を與へることにする。それが即ち社會政策である。社會政策は一切の階級を保護するといふことであるにしても、無産者階級に對して凡ての自由と平等を與へるやうな意味に若し解釋するならばそれは間違である。自由と雖も自ら範圍がある。平等と雖も或る極つたものに對しての平等であつて凡ての平等でない。さういふことを總て理解してそこで始めて労働者、無産者階級を保護して行く。無産階級の人は其程度に於て人格價値を認められ、法律の前に於て自由を與へられ、人間が労働者として働く公正な位置を認められる。これが即ち社會政策の立場であつて、社會政策といふものは總て今日の社會組織を破壊して、さうして凡ての者の自由平等を認めるやうな考で行くものではないといふことを、繰返して申すやうではあるが、最初社會政策に就て考へるときに相當に考量して置くことが必要であると思ふ。

第六章 社會政策實行主體の内容

次に社會政策實行の主體の内容を申述べる。社會政策を國家が行ふ場合に於て、どういふやうな種類のものを管むかといふと労働組合法、工場法、最低賃銀法、強制仲裁裁判所法、労働保險法、この労働保險法の内容は災害保險（或は傷害保險ともいふ）疾病保險、老癯保險、失業保險及救貧法に依るものも社會政策の中に數へて居る。次に自助的の機關によるものは労働組合産業組合等の如きものである。次は公私の團體の經營による職業紹介事業、住宅供給事業、授産事業、宿泊保護事業、小資融通事業（即ち質屋のやうなもの）公益浴場、實費診療、簡易食堂、公設市場、兒童保護事業及其他の福利増進事業、斯ういふものが大體社會政策の範圍に於て行はれる事業若くは法令である。今此等に就て詳しいことを申す時間はないから、國家といふ主體によつて行はるゝ事業の中、老癯保險或は失業保險の二つに就て簡単に申述べて、國家の經營して居る社會政策の事業の一端を明にしたいと思ふ。

第一節 老癯保險

老癯保險は國によつて各々違ふが、例へば獨逸なり或は獨逸の流儀を汲んで居る國々に於ては、労働者若くは之に準ずる者が十六歳以上に達すれば、總てこの老癯保險に加入しなければならぬことになつて居る。一定の金額を毎週支出して

それに國庫の補助或は資本家雇主の支出さうなものと相俟つて、さうして六十五歳或は七十歳に達したときに、その保險によつて生活を営むことの出来るやうにする。それは老衰の方であるが癡人の方になれば例へば半年以上とか永い間疾病が繼續して、さうして根治の困難なる者は癡疾といふことになつて矢張り老癡保險によつて一定の期間生活をやる。

第二節 養老年金

もう一つは今列舉した中に入れてないけれども、英國其他ニュージーランド或は丁抹或は佛蘭西の一部に於て行はれて居るところの養老年金法といふのがある。これは社會政策に於て重要なものである。無論老癡保險と養老年金法とは、その法を作つた骨子は同じであらうが法の働き方が根本に於て異つて居る。英國では一九〇八年から養老年金制度を施行したのであるが、これは保險とは違つて年々保險料としては支出しないのである。これも國によつて内容は幾分か違ふが、英國の法律に依れば、年齢は七十歳以上にして二十年間英國の臣民であつて、或る一定の収入例へば日本の金に換算して一年に五百圓以上の収入の者に對しては、その収入の程度によつて一週間に日本の金に換算して五十錢乃至二圓五十錢の範圍に於て（現今は物價が高くなつたので違ふが）國庫から支給するのである。これは前の老癡保險とは異つて労働者が何等の掛金をも支給せず、七十歳以上に達して條件が具備すれば何人も權利として年金を受ける制度である。

英國に於て養老年金の支出を受けて居る老衰者がどれだけあるかといふと約百萬内外である。さうして之に要する金額は段々に物價騰貴の今日に於ては二億圓を突破して、年々支給額が二億三三萬圓の巨額に達して居るやうな状態である。而して權利として年金を受けて居る百萬内外の老衰者が、英國に於ける七十歳以上の總人口の幾許に當るかといふと六割強に當るのである。これは言ふまでもなく社會政策の見地から労働者、無産者階級を國家が保護しなければならぬといふ考から起つた政策の重なるもの一つである。

第一項 保險制度と年金制度の可否

保險制度に依る方がよいか或は年金制度に依る方がよいかといふことに付ては大分議論の餘地があると思ふ。英國に於ても種々攻究の結果遂に年金制度を採つたので他の國も同様である。保險制度に依るがよいか或は年金制度に依るがよい

かといふことは、その國情によることと一概に論斷することは出来ないけれども、老衰者を保護しなければならぬといふ社會政策の見地に於ては居ることは二者同一である。若も老癡保險なり或は養老年金制度といふものがなかつたならば、今日の所謂無産者階級の大部分が老衰に達した場合には生活上非常な脅威を受ける。その場合に爾ういふ制度の無い以前には何に依つて之を保護して居つたかといふと、これは保護にあらすして救助である。即ち救貧法といふ救貧行政機關によつたのである。その當時に於ては國家が貧民若くは窮民として取扱つたのである。その當時に於ては國家が義務は認めて居つたけれども被救助者の權利は認めなかつたのである。故に救助するに否は一に國家の立場からのみ觀て救助して居つたのであるが、今日の養老年金法或は老癡保險法によれば、その條件を具備して居れば權利として國家に保護を要求することが出来るのである。國家が國民に其權利を與へて居るのであるからそれに対して支給する義務があるので、國家の都合によつて之を斟酌することが出来ないことになつて居るのである。即ち今日に於てはさういふ見地から社會政策として國家が法律の下に於て之を行つて居るのである。

第二項 扶養義務觀念の彼我の相異

そこで私等は日本に於ても將來は老癡保險若くは養老年金といふものを設けなければならぬと思ふて居るけれども、現在に於ては我國は御承知の如く家族制度である。外國に於ては家庭といふものは重んずるけれども、併ながら日本若くは東洋に於ける意味の家族といふものは絶対に認めない。家庭は如何なるものから成立つかといふことは申すまでもないが外國に於ける家庭は夫婦と子供から丈成立つて居つて、戸主は卑族即ち子供に對する扶養の義務は有つて居るけれども、尊親族即ち親に對する扶養の義務といふものは、法律の上では之を認めて居るが實際に於ては認めて居らぬ云つても宜しいのである。そこで結局老衰に達すれば自己の力で生活の出来ない者は自己以外の者が之を保護してやらなければならぬ。即ち社會が之を保護するか國家が之を保護するか、孰れか保護することになるのだけれども、社會の任意に委せることは出来ないから國家が救貧行政によつて之を救助したのであるが、さうなるに人格を認めない嫌があるので矢張り無産者階級労働者の人格價値を重んずるといふ見地から、今日は國家が法律を以て彼等の權利として、國家から云へば義務として保

護してやらなければならぬといふことになつたのである。所が我國に於ては尊親族に對する孝養或は扶養の義務といふものは、法律の上に於ても或は慣習の上に於ても一家の戸主が之を行はなければならぬことになつて居つて、古來から非常な尊い道徳として尊重され、親不幸といふことは罪惡の中でも最も重い罪惡として、酌量情狀などは法の上に於て認めないといふほどになつて居るのである。さういふ譯合から日本に於ては古老者は重んぜられるけれども、外國に於ては子は親に對して扶養の義務は有るが同居する義務が無いのと、同時に家庭の生活を營んで餘裕のあつた場合に親を扶養することになつて居つて、まづ第一に自分の妻子を扶養するのである。親は多くの場合別居することになるから結局は誰人でも自分の家庭を第一義に考へて、さうして餘裕のあつたときでなければ扶養しない、爾うなれば事實は扶養の義務を果さぬと同じ結果になる。同居して居れば何うにか互に食つて行くが、別居すれば親の方では生活が困難になる。況や以前は生存だけで満足して居つたのであるが、今日は生存より生活へいふ状態で、人間は衣食住の最小限度で満足して居るべきでないといふ考が段々充實して來て矢張り教養が必要であるといふ。教養の中には娛樂があり或は教化といふことがあるこの娛樂とか教化とかいふことが衣食住と同じ意味に於て人文の發達には必要があるので、さういふものを満たさなければ人間は生活の價値がないといふ議論と、議論に伴ふ實行が段々に蔓つて來て、今日に於ては自分の家庭の生活費を控除した以外のもので、父母を扶養するといふことは實際に於て出来ないことになつた。此に於て七十歳以上の老衰者の人口の六割は、國家が義務として保護しなければ、歐羅巴の文明は現狀を維持されないやうになつて來たのである。故に外國に於ては社會政策の必要といふことは日本よりも強烈に感ずるし、又實際に於て爾う行つて往かなければならぬ状態になつて居るのである。

第三項 我國將來の施設

日本も將來は爾うなるであらうと思ふ。(これは私一個人としての考だが)何ミなれば親に對して孝養を盡さなければならぬといふ考は變るべきものではない。また其觀念は變つてならぬが、併ながら一家の戸主といふものが今日のやうな生活状態では、親を扶養するといふことが事實の上に於て非常に困難を來すことは明である。その場合に國家が之をそのま

ゝにして措いてよいかさうか、親子が別居すると否とは其人の随意に委してもよいが、兎に角日本のやうな家族制度を維持して行くにはそれに對して國家が經濟的の保護を與へることが必要であらうと思ふ。つまり一家の生計上多少餘裕のあるやうな程度までに進めて行く。それは勞銀を上ほせるといふことも一方法であらうが、家族の多い者に對して、殊に老衰者のあるやうな家庭に對しては、國家がその老衰者に對して經濟的保護をしてやる。それは老癯保險に依るか或は養老年金制度に依るか別問題として、兎に角老衰者を保護するといふことは國家の政策として社會政策上、考査研究し且つ之を實行しなければならぬ時期が日本に於ても來るであらうと思ふ。併しそれは外國に於ける意味とは違ふが、國家が老衰者を保護するといふ點は同じことである。

爾ういふことをすれば、日本の家族制度の美風を破壊すると考へて居る人もあるやうだが、私は爾うは信じない。今後さうしなければ無産者階級は自己の生存が出来ないことにならうと思ふ。今日までは自己の子女を犠牲に供してまでも親孝行を盡すのが尊い道徳とせられて居つたが、之を國家的に考へるならば實に残酷である。例へば自分の娘を遊女に賣り、娘の貞操を犠牲に供してまでも親を養ふのが孝行であると考へて之を實行して居つたのを、是まで國家社會が看過して居つたといふことは實に矛盾の大なるものであると思ふ。それは何等かの方法を以てどうしても保護してやらなければならぬ。その方法は社會政策的の見地から徹底的にやり得る途があると私は思ふ。日本が數年前まで之を等閑に附して居つたやうな考を今日も尙ほ依然として有して居るならば、それは時代錯誤であると云はざるを得ない。

第三節 失業保險

それはその位にして措いて次は失業保險である。これも國家社會政策としての最も重要なものゝ一つである。失業保險制度を國家として設けたのは、矢張り英國が始めて一九一一年に之を設けたのである。その以前に於ては或る都市若くは或る地方の一部分に於て、失業保險といふ法律ではないが自治團體の規定などの上に於て、之に類する制度を認め且つその方法を實行したことはあるが、國家が法律として之を實施するやうになつたのは英國が始めて、實施してからまだ十年ぐらゐしか経つて居らぬのである。而してその當時に於ける失業保險の範圍は、主とし英國に於ける季節職業に限つた

のである。

季節職業といふのは冬なら冬の職業といふ意味で、歐羅巴の北の國は御承知の如く夏は非常に日長であるが冬は之に反して非常に短い。丁度日本の樺太とか或は薩哈噠のやうな北緯に當つて居るから冬は非常に日が短い。それで夏は仕事が澤山あるけれども冬は少ない。所が冬の温度から申すと餘り強い寒さではない。これは潮流の關係で即ちメキシコ灣の暖流が非常な關係を有つて居るのである。若しメキシコ灣の暖流がなかつたならば歐羅巴の文明が維持されないことは申すまでもない。潮流といふものが文明或は文化に非常な影響を與へる。例へば英國或は丁抹に於て、あれだけの冬の温度で済んでゐることは大體暖流の關係である。水の温度が蒸發するときに、私は何等その方の知識を有たないが學者の申す所によれば、今はつきり覺えて居らぬけれども、空氣に對して十倍二十倍の廣さの温度を保つことが出来る。即ち暖流が流れて來て水の温度が蒸發或は解放されて空氣を温める場合には、何十倍といふ廣い空氣量の温度を保つことが出来るさうである。さういふ理由からメキシコ灣の暖流が英國、丁抹邊の温度を高めて居るのである。それで北緯が非常に高いに拘らず而もその温度は北海道よりも暖くあり得るわけである。併ながら日の長短は如何にもすることが出来ない。そこで多くの仕事は日の長い夏季に於て行はるゝが故に、冬季に至れば失業者が澤山出来る。例へば道路の修繕といふやうな土木工事の如き已むを得ざる仕事は冬季に於ても行ふが、その外の仕事は春から夏にかけて行ふことが非常に經濟的であるから、季節職業といふものが歐羅巴の北方に於ては何處でも行はれて居るのである。季節職業を行ふ國は無論賃銀が高い、けれども労働生活を營んで居る者は何處でも同じこゝで概ね貯蓄心が乏しい。それで冬季失業の場合に至れば非常に生活上困難を來すのである。その場合に元と英國に於ては冬季失業者は矢張り之を窮民として取扱つたものである。けれども社會的に或は慈善的に失業者を窮民として取扱ふといふことは、人格價值を認めないこゝになるから、何等か彼等の權利として取扱はなければならぬといふ所から、思ひきつて季節労働者に對して失業保險制度を設けたのが、即ち英國が最初であつたのである。爾後英國以外の國々に於ても之を行ふやうになり、獨逸或は佛蘭西等に於ても英國の失業保險は意味が違ふけれども、大体失業者は國家が保護しなければならぬといふので、直接或は間接に國家が之を保護して居るのである。

尙この失業保險は戦後重なる國に於て實施されることになつたのである。英國に於ては以前は失業者の範圍は季節職業に限つて居つたけれども、現在に於てはそれを擴張して如何なる仕事に對しても、失業者は保險法によつて失業の期間だけ保護してやる。併し無制限ではないけれども兎に角一定の間の之を保護してやるこゝになつて居るのである。

労働者の最も苦痛とする所は何であるかといふは、賃銀の低廉或は労働時間の長いこゝも苦痛であるけれども、それ以上の苦痛は失業である。失業のために生活を脅威される。また實際に於て失業者は一家舉げて悲慘の境遇に陥らねばならぬのであるから、失業は労働者として最も苦痛を感じるものである。それで以前はさういふ場合には窮民として取扱つて居つたのであるが、今日は國家が義務として之を保護する。又失業者は權利として失業の期間中保護を受けるこゝになつて居るのである。

我國に於ても近き將來に於て失業保險法を制定する段取になつて居るに宜い。一体斯ういふ失業保險のやうな事を何處でやるべきであるかは其國の事情に依らなければならぬ。即ち労働省が起れば労働省で、或は社會省が起れば社會省で、法律を制定して之を實施するのが本體であらうと思ふ。若しさういふ獨立の省が無い場合には日本としては内務省の社會局に於て此等の制度を制定し、而して社會局が經營の主体となるべきものであるといふので、現在に於ては社會局に於て失業保險法を立案中であると申してよいのである。併し本當は之等の保險制度は或る一省に於て統轄した方がよいので外國に於ては此種の制度は或る一省で纏めて實施の主体になつて居ると申してよい、所が日本に於ては國民の健康保險といふやうなものは、農商務省が經營の主体であるといふことになつてゐて、一は農商務省でやり一は内務省で實施するやうになつて居るのである。なぜ失業保險制度だけを法律制定の後に置いて社會局が經營主体となるかといふと、職業紹介所といふものが社會局に屬して居るのが主なる理由である。それは一九一九年に華盛頓で開かれた國際労働會議の協約に基いて爾うなつて居るので、この失業保險を實施する處が職業紹介所と密接の關係を有たねばならぬために、失業保險制度は我國では内務省に於て實施するやうなわけで、つまり其國の事情によるこゝで何も内務省の社會局でやらなければならぬとか、農商務省の保險課でやらなければならぬといふやうなことが、決つて居るわけではない。若し労働省若しくは社會省

といふものが將來出来れば、其處で全部一括することになるであらうが、職業紹介の事業が農商務省の労働課或は商工局に移つたならば、失業保険法實施の主体も矢張り農商務省に移るであらうと思ふけれども現在に於ては今申したやうな状態に在るのである。

失業保険の弊害

所がこの失業保険法といふこともなか／＼時弊があつて、容易にその是非を決しかねるのである。被保護者の権利として國家が之を保護するといふことは、所謂労働者の人格を認める横斷的の社會政策を考へるといふ點は現代の主張に合致するわけである。以前のやうな可哀相な者は助けてやるといふ方は被救助者の権利ではなく、唯だ之を實施する所の社會又は國家が自衛のために救助するのであるから縱斷的のものである。今日に於ては横斷的の考でやらなければならぬけれども若し法の立て方が其當を得ず或は法の運用宜しきを得ざるときは、他の制度と同様に弊害が伴ひ易いのである。その弊害の一は失業者とは何ぞやといふ定義にも依るけれども、兎角に斯ういふことが今日に於ては爲し得るわけである。失業者が先づ職業紹介所に行つて自分は職業を求めるといふことを要求する。さうして其者が與へられた職業に必ず就かねばならぬかどうかといふと、自分に適當した職業と思へば就いてよいのであるが、若し自分に適當しないと思ふならば就かないでもよいといふことに大体上なをつてゐるのである。例へば自分が大工である。而も一日に五圓の賃銀を得るといふ高等大工である。さうして職業紹介所より與へられたる職業が左官の仕事で一日の賃銀が二圓五十錢であるといふ場合には、自分は左官でないから其仕事はやらぬと云つて斷はることが出来るのである。また大工の仕事はあるけれども、大工の間合ふので賃銀は二圓五十錢しか得られぬといふ場合には、それも厭やだと斷はることが出来るのである。それは労働者としての職業の價値を重んじた結果である。つまり自分は五圓の賃銀を得ることの出来る大工である。併し物價が下つたために平均して四圓になることは已むを得ないが、さうでなければ自分は五圓以下の労働に従事しないと頑張つて居つても、それは矢張り失業者と認めなければならぬ。さうすると結局は此に怠け者があつて自分に適當した職業でない限り、私は他の仕事は厭やだと云つても法律が認めることになるから、失業した場合に失業保険法に依つて賃銀は得られ

るのである。勿論金額ではない。今はつきり覺えて居らないが確か二分の一内外の賃銀は得られるのである。遊んで居て幾分でも賃銀を貰ふ方が得であるから狡い者は怠けることになる。失業保険が出来ると今例に申したやうに他の仕事に従事することは厭やた云つた場合に、理窟上さうしても職業紹介所では就業を強要することが出来ないから、厭やだと云つて撥ねつけて賃銀を得るといふ傾になるのである。つまり労働者を保護せんとする制度が労働者を遊惰に導くやうになり、隨て國家の負擔を重からしむるやうな結果になる處が一面にあるのである。

凡そ制度といふものは制度だけでは到底全きを得るものではない。運用その宜しきを得るか、人の精神生活といふものが相當に發達しなければ、制度といふものは反つて非常な弊害を惹起することになるのである。疾病保険でも同じである。病氣を稱して休んで賃銀の支給を受けて怠ける者が大分あるといふやうなわけで、疾病保険も矢張り弊害の伴ひ易いものである。つまり斯ういふ制度は人格價値を認めて法律が出来、政策を實行することになるのだから、人格價値を認められた人は所謂自己の精神價値を重んじて、自己の精神から割出して其法律を濫用しないやうに兩者相合致しなければ、制度も社會政策も動もするに非常な弊害に陥り易いのである。故に社會政策を實行したといふことが蓋しそれ自身萬能ではないのであつて、一害を防がんとして他の弊害に陥ることになるのであるから、法を實行する人は非常な注意を要すると共に、此等は前述の如く人格價値の問題であるが又精神價値の問題である。人が精神で生きる氣分がない限りは唯だ經濟眼だけで社會を觀やうとするから自然、自己目前の利益を獲やうとする處があるのである。要するに斯ういふ問題は法の運用宜しきを得るやうに若くは人格價値を認めると同時に各人が自己の精神價値を重んじて、それを出発點として凡ての事を考慮しなければならぬ必要があると思ふのである。マア兎に角時弊の伴ふものであるが併し社會政策の見地から無産者階級の人を保護しなければ、現代の社會を現在の状態に保つて行くことが出来ないのみならず、無産者階級といふものが所謂社會貧に陥つて何うしても現在の位置から脱却することが出来ないやうな状態になつて來るのであるから、社會政策は今申した通り必要ではあるが運用宜しきを得ると同時に、保護を受ける人の精神といふものを加味して、然る後に全きを得るものといふことをお互に考へて置きたいと思ふのである。

第四節 自動的機關 勞働組合

一三六

次は自動的機關のことであるが、勞働組合といふものが即ちそれであると申してよい。勞働組合の起源は言ふまでもなく、社會主義の見地ではなく、現在の産業制度を認め其弊害を防止するためには、勞働者が資本家と同様の勢力を實際上に於て獲得しなければ到底、資本家に對抗して同一の權利を主張することが出来ないといふ點から、勞働組合を設けたのであると大體上言ひ得るのである。つまり現在の産業制度を破壊せんとするために勞働組合が起つたのではなしに、結局の目的は調和に在るのである。所が現在の状態を觀るに、組合の大方針は協調に在るとしても其活動して居る精神には、破壊的の潮流が組合内に今日は大分横溢して居るといつてよいのである。勞働組合が英國に始めて起つたのは一七〇〇年であるから今から二世紀前即ち十八世紀の時代である。その當時に於ては相當に壓迫を加へられたが、現在に於ては英國の勞働組合の立場といふものは最も鞏固なものである。亞米利加に於ける勞働組合は英國のそれに比すれば左ほど鞏固なものではない。英國の勞働組合がその鞏固な勢力を以て、所謂自衛的に自動的資本主に對抗したといふことは、之を善意に觀るときは、勞働問題の解決に對しては相當の力の有つたことは申すまでもない。資本主義が一面に於て今日の文明を齎したと同時に、今日の弊害をも持ち來したと云ひ得るわけであるが、勞働組合も矢張り今日に於ては遺憾ながら或る意味に於ては同じ弊害を來して居る。勞働組合の長所は、資本主義の極端に高唱されて居るのを防止しやうと努めた點に於て大なる威力のあつたことは認めねばならぬけれども、今日は動もすれば勞働者の威力が、單に資本家を壓迫するばかりではなく社會を壓迫するところになつて居る。少數の資本家の横暴に代ふるに多數勞働者の横暴を以てするといふ傾になつて來た。それがために社會國家といふものが非常な苦痛打撃を受けるといふ状態である。即ち暴を以て暴に代ふるといふことでは社會の存在が困難になつて來るのである。

今日の問題は之を經濟的に申すならば、つまり能率が非常に減少し隨て生産が滅殺したといふことであるが、それには種々の理由があるけれども、一は凡ての勞働者が怠業氣分になつたといふことも重大な原因であらうと思ふ。この怠業といふことは甚だよろしくない。ストライキの方ならば正當の理由によつて之を爲すならば已を得ざることであると思ふ。今日の制度に於ては資本主と相對峙して相當の解決を得ない場合には、勞働者が同盟罷業の手段を執るといふことは已を得ないこととして認容しなければならぬ。蓋しこれは或る一派の人でない限りは誰人も否定せぬであらう。所が怠業の方は私は如何なる場合に於ても之を認めることは出来ない。怠業は言ふまでもなく働かないで働いたと同じ賃銀を得やうとする。或は現在の社會組織の根本を破壊しやうとするのである。併し怠業は獨り勞働者が之を行ふばかりではなく、資本家も怠業するところがある、今日幾多の資本家の中には、單に資本の利息だけで生活して何等積極的の仕事を行はず、唯だ妾宅くらゐを拵へて歡樂に耽つて居るといふ人がある。今日までの資本家殊に成金といふやうな人の不勞利得に對する消費の手法といふものは此處でお話するに忍びないほどの行爲が遺憾ながらあつたのである。誰人でも怠業はいけない。近頃官吏間にも怠業氣分が溢つて居るやうであるが、私如き囑託でも怠業のために大分困らせられることがある。現代に於ては誰人も自己の勤勞によつて生きるといふことを信條としなければならぬのに、若し資本家が怠業で行くならばそれは大間違である。況や多數の勞働者が怠業によつて同じ賃銀を得て生活しやうといふことは結局、産業の基礎を破壊せんとすると同じ企であるのみならず、自分等が不勞所得を攻撃しながら反つて不勞所得を獲やうとするので、即ち暴に代ふるに暴を以てするところになるのであるから、斯うなつては産業組織は遂に破壊せざるを得ない。今日物價問題が大分喧しくなつて來たことは御承知の通りである。これはいろいろの理由があるので一を以て全部を推すわけにはいかぬけれども、凡ての人が怠業氣分になつたといふことは物價問題に相當影響して居ると思ふ。故に勞働者でも資本家でも誰人でも、勤勉努力といふ緊張した氣分で生きて行くといふ覺悟がなければ到底駄目なことだと思は信ずる。

然るに勞働組合の強大なる力が、動もするに資本家を壓せんとする手段として産業を壓し社會全體を壓せんとする傾があつて、勞働者あるを知つて社會あるを知らず、勞働者の利益のみを圖つて國家の利益を顧みぬ。また資本家は資本家あるを知つて勞働者あるを知らず、資本家の利益のみを考へて國家の利益を慮らぬといふ状態になつたならば、共に同じ弊害を社會國家が受けなければならぬのであるから、社會政策として勞働組合の設立といふことは今日、日本に於て放任主

一三七

義を執り之を是認することが必要であるとしても、その悪弊を防ぐことに力を盡さなければならぬと思ふのである。社会政策も唯だ一方面からのみ考へて解決が出来得るものではない。

第五節 公私團體の社会事業

次は社会政策としての公私團體の事業である。これは通常所謂社会事業と稱するもの、中の範圍に屬するのである。この社会事業と稱するもの、中——以前の言葉で云へば防貧事業——近頃の言葉で云へば生活改善事業——とも申すべきものが即ち社会政策の中に於ける公私團體の社会事業といふことが出来るのである。今私は之に就て一々申述べない。或は後で其中の幾部分を申上げるこゝになるかも知れないが、爰には保留して置きたいと思ふ。

第七章 社会事業の意義

次に社会政策と社会事業とは如何なる關係を持つかといふことを大體申述べやうと思ふのであるが、兩者の關係をお話するに先だつて、社会事業とは一體何であるかといふことを考へる必要がある。そこで社会事業といふものは種々なる沿革を経て現在に達したのであるが、沿革的から申す必要するに、今日普通に吾々が社会政策的の社会事業と云つて居るのは、元と慈善事業と稱したもので或は救済事業と稱したものをも含んで居るのである。それから純然たる社会事業は慈善事業を含まないのである。即ち純なる社会事業と普通所謂社会事業との間には内容の相異がある。それを孰れも社会事業と稱して居るのであるから、純然たる社会事業と社会政策との關係と、普通の所謂社会事業と社会政策との關係に付て考へてみるならば、實際方面と理論方面と合致しないことになる。故に社会事業と社会政策とは如何なる關係を持つかといふことを考へる場合に、前提として今申したやうなことを考へて置かねばならぬのである。

第一節 社会政策と社会事業との關係

社会政策と社会事業とは如何なる關係を持つかといふと、大體三通りに考へることが出来る。第一は「社会事業と社会政策とは互に相接觸して居るが交叉して居らぬ。同一の内容は有して居らぬ。」斯ういふ考方である。併ながらこの場合に於ける社会政策といふのは大體、國家が經營主體になつて居る場合をいふのである。つまり最初獨逸などに起つたときに於ける意味合の社会政策である。さうして爰に社会事業といふのは慈善事業のこゝである。さう碎いてお話しすれば明である。慈善事業と最初獨逸が行つたやうな國家が經營主體である社会政策とは同一の内容は有つて居らなかつたのである。全然異つた範圍の下に在るけれども併ながら目的は稍同じ點がある。無論目的から云へば慈善事業は個人を對象として行ふ事業であるし、社会政策から行ふ事業は、社会を對象とし或は團體を對象として居るのであるから其點に於ては違ふけれども、兎に角廣い意味に於て或る對象物の福利を増進するといふこゝからいふと、同じ目的を持つて居るとも云ひ得るのである。併ながら一方は國家經營主體の社会政策であり一方は慈善事業であれば、互に相接觸して居るが交叉して居らぬといふことになる。

第二は「社会政策と社会事業とは互に相交叉して居るが——つまり同一内容を或る部分に於て有して居るが——併し又全く異つた範圍をも兩方に有して居る。」斯ういふ考方である。この意味に於ける社会事業は普通の所謂社会事業で、つまり生活改善の意味で出来て居る社会事業も含んで居るし、また個人だけを對象として居る慈善事業も含んで居る。さうすれば社会政策と社会事業とは同じ範圍を有して居るが、慈善事業といふやうな部分は社会政策ではないと看することが出来るのである。その政策若くは方策といふのは「或る目的を達せんとする意思の發動なり。」と申して居る。即ち或る目的を達しやうと思ふにはいろ／＼な道程がある。その道程が政策若くは方策である。例へば無産者階級を保護するとか勞資の協調をしやうと思ふ目的を達するためにはいろ／＼な道程がある。その道程が即ち政策である。所が慈善事業は政策ではないと云はれて居る。慈善の行爲が組織的に或は永續的になつたものが慈善事業である。慈善行爲は個人對象のものであつて而してその基調となるべき觀念は、慈悲とか博愛とか或は同情とか惻隱とかいふやうなものが土臺になつて起る本能的發露である。故に慈善事業は政策或は方策を加味しなくても成立ち得るものである。つまり慈善を爲すといふことと自己自身が目的である。政策から云へば或る目的を達するための道程である。斯う區別し得るならば社会政策と慈善事業とは區別すべきものである。故に社会政策の内に慈善事業が含まれて居るにすれば、その部分だけが社会政策でないといふこゝになるのである。

第三は『社會政策の内に社會事業が含まれて居る。』といふ觀念である。これは社會政策が事業として現れた場合に社會事業といふ意味である。例へば弱者を保護するといふ立場に立つて保護を行ふ場合に之を社會事業といふ。さうするに社會政策といふ廣いもの、内に社會事業といふものが含まれて居るのであるといふことになる。この意味に於て慈善事業といふものは別に取扱はれて居ると言ひ得る。さうするに眞の社會政策と眞の慈善事業とは別に考へなければならぬことになる。

併ながら現在の社會學者、現在の社會政策學者は爾うは考へないのである。少くも爾う考へることを嫌つて居る。多くの學者は慈善事業といふものは認めずして、凡てのものを皆社會事業と斯う見て居るのである。これは動機論から論じないで結果から見る議論である。結果から之を看れば第三のやうになる。要するに動機論から云へば、政策から起つた事業と側隠とか同情とかいふ本能から起つた事業とは違ふ。けれども之を社會の方から見た場合には、社會は動機の如何に拘らず、その結果が社會を利するものでなければ存在を希望しないわけである。假令動機が如何に良くとも其方法が悪いために、その仕事が出来ばやるほど社會を害するといふ事實が現れて居れば、さういふ事業は慈善事業として残らないことを社會が希望するのである。故にさういふ害毒を遺す社會事業は社會が之を取去らなければならぬ。また爾ういふ慈善事業は社會的には存在の價值が無いものである。さうすれば詰り慈善事業の中で効果の良いものだけが残ることになる。またそれが社會的から考へた正當の考方である。さうでないものは社會が干渉して之を亡したり或は國家が干渉して閉鎖して了ふことになる。效果論から社會に有要なものだけが残るとすれば、社會の福祉を増進するものだけが、社會政策としても或は慈善事業としても残るのである。さうすれば結局は結果論からいふと或は功利論からいふと、社會の福祉を増進するものだけが残る理窟になるから、社會の福祉を増進するために起す事業を社會事業といふので、隨て慈善事業の如き社會的に價值の無いものは認めないことになる。乃ち動機論からなく效果論から爾ういふ慈善事業を含んだものをも、今日の眞の意味に於ける社會事業と稱するにすれば、つまり其意味に於て社會政策の内に含まれて居ると云つても敢て不都合はないに斯う論ずる學者が多いのである。それが果して徹底した議論であるかどうか、效果論からは徹底するけれど

も、理論的に推論してその議論が通るや否やは疑問である。或る學者は今でも慈善事業と社會事業とを別にして論ずる人がある。

私は之に對して斷定を與へかねるが、動機の如何といふことよりも效果の無いものは社會的の價值が無いといふ點から、矢張り凡て社會的に價值の有るものだけを社會事業と認める。さうすれば詰り社會事業といふものが社會政策の内に含まれて居ると見た方が、理論としては稍々一貫しない點はあるが、取扱の上から少くとも爾う見た方が便利であるから、私も矢張り實際論者として其方に左袒したいと思ふのである。併し純理論から云へば、今尙ほ依然として慈善事業と社會事業とは別に考へなければならぬ。隨て別に取扱はねばならぬといふことを強硬に主張して居る學者があるといふことを御承知置き願ひたいのである。

慈善事業といふものは今申した通り、動機からだけ論ずるといふことは時代錯誤である。動機が如何に良くも方法が之に伴はずして、慈善を受けた個人及び其影響を受けた社會に害毒を遺せば、さういふ慈善事業が全體に價值が無いといふことだけは明である。今日迄の純なる慈善事業は結果を問はない性質のものである。結果の如何に拘らず慈善の行爲をなせばよい。慈善の行爲を望む所のもが慈善事業であるといふ風に考へて居る。けれども以前のやうな個人と個人との場合に於て、社會といふものを考へないときにはそれで宜いかも知れないが、今日のやうに社會の存在を非常に重んずる時代に於ては、個人と個人との關係でそれが社會にどんな悪影響を及ぼしても問はないといふことでは、假令慈善としても社會的に全く價值が無い、寧ろ有害なものである。故にさういふものは段々無くなることを希望するのである。まづ大體さういふ風に社會事業と社會政策とを別ける。つまり社會政策が事業として現れたものを社會事業といふ。それから社會事業といふものは矢張り弱者保護といふことを主として居る事業であり、社會政策といふものは或る意味に於て強者を抑へるといふ意味があるけれども、社會事業には積極的には強者を抑へるといふ意味が含まれて居らぬ。故に社會事業の範圍よりも社會政策の範圍の方が廣いわけである。乃ち社會事業といふものは社會政策の内に於ける一部分であると大體考へられて居るのである。

更に進んで社會事業は沿革的に申すに慈善事業、救濟事業及び社會事業といふ風になるのであるが、前に申したことゝ重複の點は成べく避けて述べる考である。そこで慈善事業が救濟事業となり或は救濟事業が社會事業となつた。その社會事業を慈善事業と別けて考ふるときに、社會事業は何を對象として起るかといふと、社會貧といふものを對象にして起るものである。貧には大體に於て自然貧、個人貧、社會貧の三つの種類がある。その中慈善事業は救濟事業とかいふものは主として個人貧を對象として起つたものであるが、今日の所謂社會事業は社會貧を對象として起つたものである。

第一項 社會貧

然らば社會貧とは如何なるものを稱するかといふと、これは現在の社會制度の缺陷から起つたものをいふのである。その社會制度の缺陷から起つたものを一は勞働者といふ方面から觀、一は生活の方面からだけ觀るといふ二つの方法があるが、生活の方面からだけ觀たのを社會貧といふのである。尙ほ之をもう少し明にするために繰返して申せば、社會組織から起つたいろいろの弊害を矯正するために所謂勞働問題が起つた。勞働問題は所謂人格價値の平等を認めるさかいろゝ大きな意味がある。それが一方の觀方である。所がもう一つの觀方は爾う大きな觀方ではなくして、唯だ生活といふ方面からだけ現代の産業組織を觀る。さうして産業組織の結果、多數の者が生活の脅威を著しく受けて居れば、その狀態を社會貧といふのである。而してこの社會貧といふものが詰り社會事業の對象物となるのである。

然らば社會貧に該當するものがどれ程あるかといふと、英國に於ては人口の二割五分乃至三割が社會貧の有様で、その實數から申すと千萬人乃至千二百萬人である。亞米利加に於ては一割五分乃至二割で實數に於て千五百萬人乃至二千萬人である。日本に於ては内地だけで八分乃至一割で實數に於て五百萬人乃至五百五十萬人といふことになつて居る。それだけの者が全部社會貧とは申しかねるが其中の大體は社會貧といふことが出来る。即ち社會組織の缺陷から淘汰原因によつて同じ境遇に生存して居るものであるから大體上社會貧と申すのである。此等の貧民を如何に取扱ふべきやは、勿論一面に於て貧といふ方面から觀た解釋上、社會貧に屬する者の大部分は社會事業に於て取扱ふ。即ち社會組織といふ廣い意味

に於て大體社會事業に於て之を取扱ふといふことになるのである。

第二項 貧の定義

今私が社會貧と云つたが一體どういふものを貧といふのであるか或はさういふものを貧民といふのであるかといふと、此定義は昨年申上げたのであるが「貧民とは個人若くは家族が全收入を以てして辛うじて最少限度の生活を営み若くは營み得ざるものをいふ。」最少限度の生活の出来るもの若くは出来ないものといへば大體に於て食ふや食はずに居るものといふことになる。併し唯だ一口に食ふや食はずに居るものを貧民といふ簡單のものではない。爰に最少限度の生活といふのは科學的の最少限度である。然らば科學的の最少限度とは何かといふと、例へば食の問題にしても人間の健康保持のためには、どれ程の滋養物を攝取しなければならぬかといふ最少限度が、性別により年齢により勞働の種類によつて科學上一定して居るのである。その意味に於ける最少限度である。その最少限度を保つて居るといへば詰り人間の健康を保持するだけの滋養價値を攝取することの出来るものである。それも出来ないもの。それから住居でも最少限度がある。それは空氣量の問題である。日本の家屋では密閉して居る場合に疊二疊半乃至三疊に大人一人住むのを最少限度としてある。所が貧民窟などでは三疊に三人も四人も住んで居る。尤も日本の家屋殊に貧民長屋などになるミ戸がゆがんだり或は障子が破れたりして、完全に密閉が出来ないから隙間から空氣が勝手に流通する。況や屋根が壊れてゐて寝ながらにして月を眺めるといへば風流だが雨の降るまきには困る。兎に角諸方から空氣が自然に流通するから、三疊敷に三人寝て居ても氣量問題に關係はないかも知れぬが、外國人をして言はしむれば空氣量から死んで了はなければならぬといつて憤慨する。それは兎も角一體三疊敷に三人も住んで居るといふことは、社會意識が發達して居らぬからである。外國人が視て日本では弱者を虐待すると言つて居るが、社會意識が發達して居ればどうしても爾う感ぜざるを得ないであらう。どうも戸がゆがんだり或は障子が破れて居るからそれで宜いといふわけにはいかない。況や屋根が壊れて居るから宜いぢやないかといふわけにはいかない。三疊敷に三人はまだよい甚しきは五人も住んで居る。さういふものは最少限度の空氣量を得て居らぬ。窒息する——直ぐ窒息しなくても長期の窒息で恰も終身牢獄に這入つてゐると同じことである。その結果呼吸器を害した

り何かして身體が弱くなつて了ふ。尤も貧民などは漫性的に馴れては居るであらうが結局健康を害することは明である。その意味に於ける衣食住の最少限度を辛うじて充たすか若くはそれすらも出来ないものを貧民といふ。さういふ貧民が今申した通り英國邊の都會では人口の三割もある。之を自分が悪いために爾ういふ境遇に陥つたのだといつて抛つて置くことは出来ない。これは畢竟するに社會組織の缺陷から來た一の病弊であると誰人も同情を吝まぬことと思ふ。一八九九年に英國のヨーク市に於てエス・ラウントレイ氏がチャールス・ブース式に依て貧民調査をしたときに斯ういふ線を引いて貧病線といふのを作つた。その結果による人口の約三割もあるといふ實に驚かざるを得ぬ。

第三節 社會聯帶責任の觀念

そこで爾ういふ社會組織の缺陷から貧民に陥つた者を如何に取扱うべきか、或は誰が取扱はねばならぬかといふことになる。固より個人關係として篤志家だけに此保護を委して置くことは出来ない。誰がこの問題の解決に對して盡すべきであるか、誰が責任を持つべきであるかといふは、社會自身が責任を持たねばならぬのである。社會意識が段々發達して吾々は現在のやうな社會組織の下に在つて生活して居るのであるから、或る弱者に對してはお互が之を保護する義務が社會的にあるのだといふ考に今日はなつて來たのである。この意味に於て、社會事業は今や個人對象でなしに社會的の事業——縦斷的の對象の事業となつて、さうしてそれが社會の義務であるといふことになつたのである。この社會の義務といふ觀念は社會改良主義によつて解決が出来る。乃ち社會政策によつて解決しやうと思つて居るのであるが、近來はその意味を幾分か擴張して、單に社會を改良するといふ見地からだけになしに、社會聯帶責任の觀念で此問題を解決しやうといふことに段々進んで來たと云ひ得るのである。社會聯帶責任と云へば今言つたやうに、社會の各員が社會に對して直接若くは間接に責任を有つて居るのである。そこで各人が社會の他の部分に對して利益も享ける代りに、又弊害のあつた場合にそれを防止する務も果さなければならぬといふ聯帶責任を感じるやうになり又之を主張するやうになつたのである。社會聯帶責任の觀念は社會改良主義の觀念とは違つたものであるけれども背馳した考ではない。

社會聯帶責任の觀念は、社會が有機體であるといふ觀念から起つたのである。有機體といふものは皆從屬的關係を持つて居るもので一つだけ獨立して働き得るものではない。國家の組織は違ふが社會の組織は皆從屬的關係で成立つて居るのであるから、各人が皆責任を持つて各部分のものを保護して行かなければならぬ。お互が社會的にどんな位置を得て居ても、社會の一員として十分な働をしなければならぬといふことになるのである。そこで例へば茲に富豪或は特權階級の者があるとすれば、その富豪或は特權階級の者は社會に對して普通人よりより、以上の責任がある。頭が足の爪先よりも、以上の責任があるといふやうなわけで、兎に角多く働き得るものが多く働くといふことが身體の組織の上に必要なのである。社會もさうであつて多く働き得る人が多く働き、多く盡し得る人が多く盡すといふことが公平であり公正である。所が社會意識がないと社會組織の爲に自分が財産を造つたといふことを忘れて社會の務を怠ることになる。それではいけない。能力有る者は能力一ぱいに働き、能力の無い者もそれ／＼分に應じて十分に働かなければならぬ。それが所謂聯帶責任である。

ところが茲に非常な間違が起り易い。それは何かといふと自己の財産は自己の力で造り得たやうな氣分で、その消費の方法には餘り重きを措かないやうな傾のあることは、どうも私等の考としては間違であると思ふ。誰人も現在の狀態を進めて行くためには、自分の立場に對して出來得るだけ社會の爲に貢獻しなければならぬ。即ち社會を發達せしむるためには財産家が自己の財産を善く使ふことをしなければならぬ。つまり産業の上に使ふこともそれであるし、或は社會事業に使ふのもそれであるが、兎に角自己の財産を社會的有用に使はなければならぬ。若し資本家が労働者に對して出來るだけ賃銀を廉くして働かせ、さうして得た利益は全部之を自分が取得して自己の勝手に使用するといふことであれば、それを今日の社會意識が是なりとは認めないのであるから、富豪若くは特權階級者は自分の財産を出來るだけ善く利用することを考へ、自分の立場を其處に置かなければならぬと思ふ。それと同時に所謂無産者階級の人々或は私が此處で言ふ生活の脅威を著しく受けて居る人でも、社會の一員として生存を保つて居る以上は、各人が自己の立場に立つて最善の努力をするといふことが義務である。ところが今日は動もすると特權階級の人だけの利便のみを要求し、無産者階級は又保護を受けることが自己の權利であるが如く思つて、各人自己の立場に立つて最善の努力をしやうといふ氣分が缺けて居る。それ

は非常な間違であると思ふ。況や社會が有機體であるといふ考から云へば瞭かに誤謬である。何となれば生物には最も尊き本能性もいふべき自然療能或は自家療能といふものがあつて、自分の悪い所は自分で癒すといふ自然の力がある。この力が生物になれば生物といふものは現在のやうな状態には發達して來なかつたと思ふ。

第四節 自家療能性の作用

自家療能性とは何であるかといふと、文字の示す如くに、自分の身體の一部が傷害を受けたまか或る一部に病が起つたときには、最善の力を盡して自分が自分を癒すといふ力である。若し生物に此能力がなかつたならば生物といふものは疾に死滅して了つたであらうと思ふ。自家療能が働かなければ他から如何に力を盡しても疾病或は傷害といふものは根本的に治らぬものであると思ふ。よく世間では醫者が病氣を治したとか、或は例へば皮膚を傷けた場合又は骨を挫いた場合に名醫にかゝつたから癒つたと思つて居るが、如何に天下の名醫であつても破れた皮膚や折れた骨を癒着する力は持つて居ない。それは全く自家療能性の作用によるので、それを醫者が他から過なく保護してやるだけである。癒すといふ力は自分に有るのである。これはお互が社會生活の上に於て明に認むる必要があるのである。今日社會組織の缺陷によつて弱者と稱せられて居る者は之を救済し保護しなければならぬが、單に外界の保護救済だけに頼つて居ては駄目である。どうしても自家療能の本能を働かせるやうにしなければ完全に總ての問題を解決するといふことが至難である。若し各人が社會の爲全體に最善の努力を盡すといふ考で凡ての事を運んで行くならば、今日の社會問題でも或は勞働問題でも貧民問題でも、今日よりも比較的容易に解決が出来るであらうと思ふ。故に凡ての働が社會聯帶の觀念を以て上述の自家療能性を十分に働かせるやうにして、さうして各人が自分の立場に立つて最善の努力をしなければならぬといふことを覺悟することが必要である。

第五節 社會奉仕の觀念

尙ほ一言時間の許す限りに於て附加へて述べたいことがある。それは各人が社會意識の見地から社會聯帶責任の觀念を以て自分の立場に於て最善の努力を爲すといふことをお互が高唱しなければならぬし、また爾ういふ時期の速く來ること

を希望しなければならぬのであるが、之を實現するといふことは實際問題であるがゆゑに非常に難事であると思ふのである。例へば問題が一寸外れるかも知れないが納税問題の如きそれである。所得税にしても其他の税にしても各税則に従つて各人を眞に納税の義務を盡して居るであらうか、私は遺憾ながら否と言はざるを得ない。どうも脱税連税を圖る者が頗る多いやうに思ふ。而も下の方は爾うでもないが上の方になる程さういふ弊害が多いやうである。乃ち納税問題だけに就て考へてみても結局、各人が自分の立場に立つて社會的に國家的に眞の義務を盡して居らぬのである。さうすればお互に高唱して居りながら、その高唱して居る事を十分に果して居らぬといふことになるので吾々も時々苦痛を感じる。けれども苦痛を感じる人は社會奉仕の觀念の有る人である。各人が自己の立場に立つて義務責任を眞に履行することになれば、社會が安泰であるし理想的の社會であるが、そこに達するまでには社會奉仕の精神が必要である。

社會奉仕の精神とは何ぞやといふと、吾人の社會に對する義務以外——例へば義務が十であるとすれば十五にも十八にも二十にもする——自分の義務以外の事をするのを奉仕といふ。若し各人が自分の義務を自分の分量に應じて盡すならば或は奉仕といふことがなくても濟す時期が居るであらうけれども、納税の如きも逃れ得るだけは逃れんと企て、居る者が多數ある今日に於ては、奉仕の觀念がなければ此社會といふものは益々暗黒だ。此に於て一面に於て理想として各人が社會聯帶責任の觀念を持つて、各々その立場に立つて十分に過のないやうに責任を果すことを要望すると共に、一面に於て其要望を達するまでの捷路として、先覺者たるものが現代社會の實相を究め現代社會の傾向を察知し率先、社會の爲に奉仕して社會問題を解決するやうに、諸君と偕により多くの奉仕生活を送らなければ現代の社會を其れ奈何せむと絶叫せざるを得ないのである。

今日は社會事業に付てお話をしたいと思ふが、昨年の講習會に於て私が社會事業一班と救貧事業と兒童保護といふ題の下に相當の時間でお話をしたのであるから、今回は昨年お話ししない範圍即ち防貧施設に付て主として申述べたいと思ふ。昨日は社會政策の内に社會事業を含んで居るが、其等は如何なる事業であるかといふ事を例示的に述べて、併し結局社會事業の全部が社會政策の内に含まれて居ると申したのであるが、それは昨日も申した通り人によつて多少見解を異にして居る。併し所謂社會事業の間に防貧事業若しくは生活改善事業などと稱するものゝ含まれてあることは、誰人も異議のない所である。故に其等の事業に付てお話をし、尙教化事業といふやうな方面に付ても時間の許す範圍に於て申述べたいと思ふ。而して防貧事業或は生活改善などと稱する事業の範圍は昨日例示的に申したやうに種々あるが、その中小資融通事業、住宅供給事業といふやうなことに付て主としてお話ししたいと思ふのである。

第一節 小資融通事業

小資融通事業は大體に於て何を意味するかといふと質屋問題である。今日防貧事業、生活改善の事業としては質屋問題は諸君に直接の關係が無いにしても、社會公益の方面から研究をする價值があると信ずる。細民或は細民に近い人の金融機關は何であるかといへば、多くの場合に於て質屋か高利貸である。その外にも何々講などといふ種類も相當にあるが大體に於て質屋、高利貸が大分廣く行はれてゐる。昨日市制施行に關する祝賀講習會に於ける森本博士のお話の中に、いろ／＼なる金融機關が存在して何々銀行と立派な看板を懸け巍峨として聳へてゐる建物があるが、其等の銀行は中産以上の人の金融機關であつて、其以下の者の金融機關には殆どなつて居らぬと言はれたが、事實その通りであると思ふ。擔保がなければ資金の融通を受けられぬといふことであれば、中産以上の人でなければならぬ。労働者階級の他多數の者が簡易に金融の便宜を有する金融機關は何であるかといふと質屋である。併し質屋も雖も典物所謂質草なしには融通して呉れない。さういふことは私が説明しなくとも諸君が實際上……否な實驗はないにしても、少くも他から聞いて御熟知のことであらうと思ふ。兎に角質屋といふものが金融機關として多くの人々に利用せられて居る。今日は洋服細民といふやうな言葉が無くなつて、洋服を着て居る人は數年前からみると比較的裕かのやうに見えるが、矢張り洋服細民とか或は細民でなくても洋服を着て居る人が質屋を金融機關として居る事實が、北海道はどうか存せぬが内地なきには相當にあるのである。これはなかく重大な問題である。この重大な問題を今後社會的見地から如何に考へねばならぬか、如何に取扱はねばならぬかといふことに付ては今日まで多くの人が餘り注意を拂はずに閑却して居つたやうであるが、之に對して社會政策的に如何にすべきかを研究することが非常に必要であると思ふ。そこで先づ外國の事例を述べ然る後に我國はどういふ状態に在るか、之を如何に改善しなければならぬかといふことをお話ししたいと思ふ。

第一項 外國に於ける公設質屋

質屋といふ事業は外國に於ても大分古くから存在して居つたのである。希臘なり羅馬なり猶太なり支那なり餘程早くからあつたものである。而して營利的のものであることは言ふまでもない。營利的のもので細民の生活に關するものは得ていらく／＼な弊害が伴ひ易い。この質屋といふ營利的の職業も金融上多大の利便を與へたと同時に又弊害をも來したのである。そこで結局これではいかぬといふ聲が段々起つて公設質屋といふものを設けることになり、今日歐羅巴に於ては大分その數が殖へて來たのである。無論これは國によつて違ふが公設質屋の多く存在して居るのは拉典民族である。伊太利、佛蘭西、白耳義或は和蘭——獨逸なきに於ても一部分に公設質屋はあるが、全體としては拉典系統の國に於て公益的の質屋が最も發達したのである。最初公設質屋の起つたのは伊太利であつて一四四五年即ち今から四百六七十十年前に始めて出來たのである。それは日本語に譯して申すと伊太利及佛蘭西では「信仰の山」に稱して居る。質屋と信仰の山といふことゝは文字の上にて何等の交渉はないが、どういふわけで爾う申したかといふこと、最初公益的の質屋を設けたのは基督教會であつたのである。一體中世紀に於て或は現代に至つても同じであるが、基督教と慈善事業——今日の所謂社會事業といふものゝは密接なる關係が有つたのである。基督教が慈善事業に對して種々なる講策を爲し多大の貢獻をしたことは勿論であるが、同時に慈善事業の發達を阻碍し又弊害を醸したといふことも明な事實である。併し兎に角基督教と今日の所謂社會事業とは

密接の關係を有して居つたものである。當時即ち十五世紀頃には暴利的な質屋が多かつたために細民の負擔が重かつた。それを教會が認めて他の慈善事業を營む傍ら質屋を公益的のものとして行ふやうになつたのが此種事業の創めである。その當時耶蘇教の會堂といふものは多くは山の上に建てられて居つたものだけである。基督が十字架にかゝつたのが丘の上である山の上であるといふ關係上、山の上或は丘の上に教會を建てた。信仰の丘或は信仰の山といふのは詰り教會といふ意味である。それで基督教會が質屋を營んだために信仰の山といふ名稱を附するに至つたものだけである。爾後白耳義或は佛蘭西等に於ても公設質屋を設けるやうになつた。

佛蘭西は十八世紀の末期即ち一七五五年に始めて質屋を公設にし、現在に於ては全國に五六百の質屋がある。さうして拉典系統の國に於ては營利的の質屋、即ち日本でいふやうな普通の質屋といふものは今日は絶無で總て公設である。つまり日本でいへば勸業銀行といふやうな意味に於ける性質を大體上有つて居るのであつて、他の私設若くは營利的の質屋の存在を認めないのである。本部の外に二十四五の支部があつて全體の事業を經營して居るので、本部だけでもなかく規模の大なるものであつて吏員も稱すべき職員が三百名もある。この吏員の中に於て重なるものは鑑定人である。貴金屬或は寶石類或は時計のやうなものが大分入質するので、その鑑定人といふものが重要な位置に居る。鑑定人が十人ほども居つて毎日鑑定に従事する。その以外には爾う重要な仕事はない。

而してその營業振は日本などとは餘程趣が異つて居つて、典物に對してどれ程の割合で金を貸すかといふと價格の三分の二位を貸す(その譯は後に申す)さうして巴里だけに於て一箇年の貸付金額が三千萬フラン(日本の金に換算すれば千二百萬圓)に達して居る。利率はどうかといふと時によつて多少變りがあるが餘り廉くない年六分五厘位である。無論日本の三割内外のものに比すれば廉い。低利の銀行の金を借りると同じくするものである。公益のものとしては今少し廉くいければ結構だと思ふ。さうして期限は一箇年である。今利率が六分五厘に申したが特別の取扱がある。それは最低三フラン以上五フラン(日本の金で一圓二十錢乃至二圓)までのものは最初の二箇月間だけは無利子である。斯ういふ點は明に營利的のものとは異つて、細民の生活保護といふことに重きを置いて居ることが判る。さうして期間内に若

し火災其他の損害があつた場合には全部その價額だけのものを償還する。日本の普通の質屋ではさういふ場合には兩損とする。即ち入質者と營業者と兩方の損失に歸することになつて居るが、公益事業としては典物の價額だけのものを償還するのである。つまり最初三分の二だけ貸して損害のあつたときにはそれを三分の三にして還してやるのである。例へば百圓の價格のものに對して初め七十圓だけ貸して、災害のあつたときに百圓にして還すといふことになるのだから、災害に對して十分豫防の途を講じて置かなければ、公設質屋は非常な損失を被るのである。故に公設質屋の建築は(私は巴里以外の質屋に就ては直接視察しなかつたから判らないけれども)巴里に於ける質屋殊に本部は非常に嚴重な建築である。全體を防火壁で圍んでその周圍に水が一ばいに湛へるやうになつて居つて、如何なる事があつても火災などの起らぬやうな十分な設備がしてある。さうして入質期間は一箇年であるが利息さへ拂へば何年でも流質しない。私が視た物でも七十年八十年といふものがあつて親の代から同じものを質入して居つたものがある。それは貴金屬類であつたが多分、阿母さんが結婚のときに用ひたものを永眠する際に記念とでもして貰つたのであらう。流質の出来ない相當價額のものである。それを受出す力がないので七十年も利息だけ拂つて留保して居る。さういふのが三口か四口あつた。勿論公設質屋と雖も期限が来て利息を拂はなければ流質する。流質した場合に競賣に附して剩餘金の生じたときは留保して置いて、入質者が一箇年以内に請求すれば戻すことになつて居る。つまり入質者がそれに依て幾許か損失を回復することが出来るわけである。一年經過した後には於て尙ほ自分の權利を請求しない場合には質屋の所得になるが、その所得は直に社會事業の方に移すことになる。つまり社會事業の經營費の一端に充てるので質屋の收入にはならぬのである。さうして此種の事業は固より純益の多くあることを希望しないのである。純益が多ければ利率を下けるのが斯ういふ事業の本質であるから、多くの利益はないけれども、併ながら何千萬フランといふ巨額を一箇年に融通するのだから、其間に幾許かの利益の擧ることは勿論である。その利益はさうするかといふと、矢張り直に都市の公設社會事業費に充てる。その金額は年によつて一定しないやうだが私が視察したときには、日本の金に換算して二十萬圓乃至三十萬圓位しか利益がない。利益のないのが經營として賢い策なのである。この點が普通一般の質屋とは違ふ。營利的事業は成たけ利益の多からんことを望むが、公益の質屋

は利益があれば利率を下げて行く。それでも尙ほ利益があればそれを公益事業に投ずるさいふことになるから所謂一舉兩得である。一つの石で二つの鳥を撃つこゝが出来ないか、或は二兎を追ふものは一兎をも獲ずさいふ諺があるが、これは営業それ自身が公益であつて細民若くは細民以上の人の金融機関となり、その得たる利益は社会事業費の一端に充てるさいふのであるから、即ち二兎を追うて二兎を獲たと申すことが出来るのである。

それからどういふ人が質を置きに来るかさいふも無論、細民が主なるものであるが併し細民以上の中流階級の人もなかく多い。さうして質草として最も多いのが貴金屬である。金時計その他いろ／＼なものがある。それから婦人用の寶石類、自轉車、家財什器などが澤山ある。貴金屬の多いのはどういふ譯かといふと、多くの場合に於て小商人が営業の資金に供するために、一方の貴金屬屋から時計なら時計を信用で低利月賦拂といふこゝにして借りて来て、それを一方の質屋に入れる。さうすると例へば二百圓の價格のものであれば三分の二借ることが出来るから、百三四十圓ほどの融通を受けることが出来るわけだ。それに對して年六分五厘の利息を拂へばよい。この方法を利用する者が多いために貴金屬が澤山入質するのださうです。その意味に於て生活の脅威を受けて居る細民が朝、鍋釜の類を持つて来て僅かばかりの金を借りて夕方それを出して一月の利子を拂ふといふ日本のやり方とは餘程趣が違ふ。價格の低いものを入質すれば前述の如く二箇月間は無利子であるから、細民などには鍋釜のやうなものを持つて来る者もある。殊に自轉車などは冬になると澤山入質する。何となれば佛蘭西邊では雪が降りたりすると自轉車を用ひない。居に置くと邪魔になるから入質して營業資金の一端に充てる。さうして春になつて自轉車を使ひ得るやうになればそれを出して活動するといふこゝになつて居るので點數からいふに貴金屬と自轉車が最も多い。無論外國でもいきなり質屋に往つて質を置くといふこゝは出来ない。矢張り日本のやうに名前を書いた帳面のやうなものがあつて、それを持参しなければならぬといふやうな制限はあるけれども、それさへあれば誰でも極めて自由に簡易に融通を受けるこゝが出来るので、公設質屋に依て細民の受ける利便は實に多大なものである。まづ佛蘭西及び拉典系統の國々に於ける公設質屋の状態は大體斯の如くなつて居るのである。

第二項 我國の營利的質屋

我國に於ける質屋の状態はどうなつて居るかといふと、これは私から詳しく申述べるまでもないが、質屋の数は大分澤山ある。全國を通じて約二萬七八千、東京市だけで約二千ある。本道はされ程あるか今覚えて居らないが相當にあることと思ふ。利率は御承知の如く一圓以下のものは百分の四であるから一箇月に四錢に當る。五圓以下は百分の三、十圓以下は百分の二、五といふ割合で金額が多くなるに従つて利率が安く、少いほど高い利息を拂はなければならぬことになつて居る。一圓に付一箇月四錢の利子さいふの一寸聞くに高くないやうだけれども、一日であつても一箇月分を拂はなければならぬ。故に朝鍋なり釜なり持つて往つて一圓借りたとすれば、夕方受戻すときには四錢の利息を拂はねばならぬ。若し毎日さういふこゝを繰返して居るとすれば一圓借りたものに對して一箇月に一圓二十錢の利息を拂ふことになる。さうなると非常な高利です。それから曆月を以て一箇月として居るから、例へば月末に借りて翌月の三日までは普通一箇月分の利子を拂へばよいこゝになつて居るが、四日に受戻すとすれば二箇月分を拂はねばならぬことになつて居るのである。

この利息の高いといふことと曆月を以て一箇月に計算するこゝは不條理であるといふ考から、四年ほど前に内務省に於て質屋取締規則の改正を企てたことがある。その改正の骨子は三十日を以て一箇月とするこゝ、つまり今月の十五日に入質したものは翌日の十四日までを一箇月とするさいふことで、月が跨つたからとて二箇月と計上しないといふこゝが一つ、それから流質期は四箇月を以て最短期とするこゝ、それから三十圓以下のものに對しては一箇月の利率を百分の二にしやうさいふ改正を企てたけれども、或る事情から遺憾ながら議會の問題にならずして中途で姿を消したといふことになつたのである。勿論今日の營利的質屋は質屋取締法によつて出来てゐるのでそれ自身暴利であるとは申さないが、細民の立場から考へて本當の金融機関として、營利事業でなしに公益事業でやり得る途があるならば、今日の營利事業を如何にすべきやといふことは第二の問題として、先以て公益事業を如何にして進むべきかといふことを考慮して、恰も職業紹介所を設けて中流以下の者に幾多の利便を與ふる施設を爲すと同じ意味に於て、社会政策の見地から公設質屋を設けるこゝが今日の急務であると絶叫せざるを得ないのである。

第三項 我國に於ける公設質屋

然らば日本に於て現在公益的質屋が絶無かといふと爾うではない。二三あるけれども甚だ微々たるものである。その中比較的古いものとして今尚ほ存在して居るのは、大正元年七月から創めた所の宮崎縣南那珂郡細田村の公益質屋である。これは日本に於ける最初のものである。それから社會事業の方面で東京府社會事業協會が大正八年に東京市外の日暮里に武藏屋と號する公益質屋を創めた。まづ此二つのものが現に質屋として公益的に働いて居るのである。實は當初町村に於て營利を認めらるゝやうな事業を營むことが出来るや否やに付て法の解釋上疑義があつたので、その解決のために一二年を要したわけである。所が現在に於ては公共團體と雖も公益を目的とする營利事業と同じやうな性質を有つてゐる事業を營んでも差支ないことになつて居るから、各公共團體が今後公益質屋を設けることは法の解釋上差支ないといふことに一定したのである。

宮崎縣南那珂郡細田村が公益質屋を營むやうになつた動機は、矢張り其地方に於ける質屋が大分暴利を貪るゝいふやうなこゝまゝ、また細民の金融機關とする高利貸などから、生活上著しき脅威を受けてゐるといふ所から遂に之を起すやうになつたのである。この村は半農半漁といふやうなわけで半ば漁村である。隨て村民の収入が甚だ不確定である。漁獲物の多いときには相當の収入があるけれども兎角濫費の弊があるので、不漁の場合には忽ち生活の脅威を受ける。それを幾分か緩和しやうといふので創めたのである。此處は小村であるから無論成績といつて大したことはない。役場でやつて居るのであるが一箇年間に總支出が六百三十圓、利益が八百五十八圓、純益が二百二十八圓といふやうな程度であるから極めて小規模のものである。利率はどうかといふと大體上普通の質屋の半額である。公益事業として營む場合に斯の如き小規模のものでも利率を半減して尙且つ利益を擧げ得るといふことは、細田村の經營によつても之を知ることが出来るのである。尤もこれは役場吏員が取扱つて居るのであるから、給料等は質屋事業の方から出して居らぬので、その點は考量しなければならぬけれども、兎に角經營宜しきを得るならば利率を半減しても確に經營し得ると思ふ。

東京市外の日暮里の武藏屋の方は矢張り利率は半減である。併し此方は質屋事業の方から俸給を拂はねばならぬためにまだ純益を見ることが出来ない状態に在るが、俸給以外の收支を計算すると利率を半減しても損失にはならぬのである。

第四項 今後の施設

故に今後に於て細民の救済若くは金融機關として質屋を公益的若くは公共的に施設する場合に、規模が大であれば利率が半減しても多少純益を見ることが出来るであらうと思ふ。縱し純益を擧げることが出来ぬにしても、利率を半減しただけでも細民の享ける利益は尠くない。又斯ういふ公益事業であれば前に申した三十日を以て一箇月とするといふやうなことも無論やり得るし、また朝に鍋釜を入質して夕に受出すといふやうな零碎の金を利用する眞の細民に對しては、特に利率を下げるやうな方法もやり方によつては出来るわけであるから、恐くは公益事業として存在すれば、本當の細民は之に依て利便を受けることが多いと信するのである。或人は餘り利率を下けると、酒を飲むとか或は博奕を打つとか悪い方面に利用する弊が生ずるといふけれども、それは何事業にしても一利あれば一害の伴ふは免れぬことで、縱し害用する者があつたとしてもそれは何等かの方法で防止することが出来ると思ふ。

そこで私は前述の如く現在の營利的質屋を如何にすべきかといふことは第二の問題として措いてよいと考へる。何となれば近來公設若くは公益の職業紹介所といふものが、職業紹介法によつて諸方出来て居るが、従前から在る所謂口入屋をさうするかといふ問題は、當局に於て相當考慮されたのである。併ながら口入屋の数は餘程減じては來たけれども依然口入屋は口入屋として營業して居るのであるから、その方は別に法規の上から干渉せず、一方に於て職業紹介法によつて紹介所の増設を圖つて、勞働者全體の便益を計つて居るに同じやうな態度を執るならば、或はそれで宜しいのではなからうか。政府が近い中に法律を制定するや否やは與り知らざるも、縱んば法律を制定しないにしても、政府が公益若くは公益的質屋を法律以外の方法即ち通牒或は訓令で之を奨勵しても増設の方法が付く、それに對して低利資金を供給する途も具はるであらうから、公益事業として細民の便益を圖ることが出来やうと思ふ。

この問題は本道と如何なる關係が有るか私は能く判らないが、本道に於ても此種の機關即ち質屋といふものが相當にあるわけであるし、また利率を低くするならば無産者階級其他の人の利便を圖ることが多いであらうと思ふ。内地に於ては營利的質屋業なるものは根柢が深く隨て勢力が強いために、或は之に反對する理由も相當にあるかのやうに思はれるけれ

ども、本道に於ては舊慣といふやうなことも内地の如く根強くないのであるから、恐らくは公設若くは公益の質屋を經營する場合に於ては、内地よりも障碍なしに進め得るではなからうかと思はれる。

日本帝國の領土内に於ては既に臺灣に於て公設質屋を營むことになつて、臺灣に於ける無産者階級若くは質屋を利用する幾多の人々が之に依て便益を得るの途が開け、尙ほ朝鮮に於ても公設質屋を設けることになつて居る。朝鮮人が日本人に對していろ／＼な反感を抱いてゐる原因の一は、所謂高利貸の連中が朝鮮人から暴利を貪つたためである。朝鮮通の人が申して居る。弱者に對して保護の考でなしに反つて搾り取らうといふ態度を執るならば、反感を招くことは當然である。北海道のアイヌに對しても現在は特別の保護を與へてあるが、以前は内地人が種々なる壓迫を加へ暴利を貪つたりした事實が大分あつたやうである。何としても弱者を虐けるやうなことをしては宜しくない。お互が文化生活を營んで人格を尊重しなければならぬといふ時代に於ては、弱者を虐けるやうな機關は一日も速く取除いて之を保護してやらなければならぬ。營利事業は弱者を虐けるために起つて居るものでないことは勿論であるが、併し中にはさういふ傾のあるものもなきにしもあらずと思ふ。固より營利事業であるから過去の利益は之を認めざるを得ないけれども、現在若くは今後には於て質屋營業は今のやうな状態だけで濟むべきものであるかといふは、私は明に然らずに答へざるを得ない。故に上述の如く何等かの形式で公益若くは公共的の質屋が各處に起つて、さうして細民若くは細民ならざるも現に質屋を利用して居る多数民の金融機關として、今日よりより多くの便益を與へなければならぬと深く信するのである。質屋の事は此位にして措きます。

第二節 住宅問題

次は住宅問題である。これは所謂社會政策的の意味に於ける住宅問題で、今諸君にお聽を願つても直接に餘り多くの關係がないといふことに歸著するかも知れない。私は他でも時々批評を聞くことであるが、どうも都會に於ける講習會などは農村問題に觸れた話が少いので、農村から來た者は一向利益を得ないといふやうなことを間接直接に聞くことがある。如何にも爾うかも知れないが併し材料蒐集の仕方は、外國に於ても日本に於ても同一でどうしても都會中心になる。農村

を中心としての問題に付ては外國に於ても近頃のこと、日本に於ても農村の大切であることは勿論の話で、政府に於ても十分に考慮を拂ひ研究してゐる次第であるが、まづ農村に於ける社會問題といへば多くは地主と小作人との關係であらうと思ふ。農村の施設といふことに付ては餘程今日は詮議されて居るが故に、社會問題といふものは都會に於けるよりも切實に起つて來ない。性質の方からいふと農村の社會問題は、殊に日本などに於ては社會全體に大影響を及ぼすやうな問題が横つて居るけれども、種類から申せば大した種類はない。一方に偏した事業になり易い。故に社會政策殊に社會事業といふやうなことになる比較的都會中心になるので、材料が多く其方面にあることは已むを得ない。無論住宅問題をお話するときに、農村に如何なる關係を持つか或は或國ではどういふ風になつて居るかといふことを申述べるけれども、矢張り都會中心であることは已むを得ないと豫め御承知置きを願ひたい。

凡そ人間として生存上直接必要なものは衣食住であることは言ふまでもないが、細民などが之をどういふ風に考へて居るかといふと衣食住と申すのが當り前である。細民は大體に於て食が第一、次に衣といふ風に考へて住に付ては左ほど重く視て居らぬやうである。そこで餘分の収入があつた場合でも、飲食か性慾か然らずんば著物を被るこいふ方に大部分を費して、家は如何にきたなくても念頭に置かぬといふ風がある。例へば戦争中に労働者の賃銀が非常に昂騰した場合に住宅を改良した者があるかといふは、それは家賃も高くなつたから爾う良い家には住めないといふ關係もあらうけれども、大部分は今申した衣食それから性慾などの方に費して了つて、住の方は依然閑却されて居るこいふわけである。併ながら住宅問題といふものは人間生活には實際上非常に大切なものであるに拘らず比較的閑却され易いのである。

この住宅問題を社會問題として若くは社會政策の見地から、更に積極的社會事業の立場から之を研究し、且つ研究の結果之を施設の上に及ぼすやうになつたのは割合に最近のこと、三十年内外のことである。その以前までは如何なる國に於ても細民窟とか或はそれに準ずるやうな無産者階級の住宅そのものは随分哀れなものであつた。詰りそれは細民それ自身が自らを救ふことが出來ないといふ境遇に在つて、自ら自己の住宅を撰んで住むといふ力がないからである。恰も誰人も自分の父母を撰ぶことが出來ないと同じことである。偉い人を自分の父母にしたいと思つてもそれは唯だ思ふだけであつ

て、さういふ権利もなければ又實際に於て不可能な事である。これは既定の事實を承認するより仕方がない。細民の住宅問題も矢張りそれと同じことで、自分が撰んで改良した住宅に住むといふことは到底出来ない。矢張り與へられた家に住む外はない。さうして細民は申すまでもなく廉い家に住むことを原則として居る。衛生上悪るからうが狭からうが何んであらうが、そんなことは構はないで廉い家／＼と探してゐる。さういふわけで住宅問題の如きは彼等自ら改善することが出来ないのであるから、社會的施設を以て之を保護してやらなければならぬ。所が日本に於ては遺憾ながら今日まで此等の問題に對して没交渉であつた。多くの人は個人貧だけを視て社會貧を視て居らぬ。細民は個人貧だ。自分が悪いから爾ういふ境涯に在るのは自業自得だ。彼は彼、我は我といふ態度を執つて居たのであるが、個人貧もその原因を究めてみれば、矢張り社會組織の缺陷が原因を爲して居るのが非常に多いのであるから、彼等だけを責めるのは無理である。彼等を責めるよりも共榮共存の見地に立つて、彼等に同情し彼等を保護するといふのが吾々の義務であり、而も人間の尊き任務の一であるといふことを考へなければならぬと思ふ。この點から觀ると住宅問題も決して小事なりとして閑却することは出来ないのである。

第一項 紐育及倫敦の貧民窟

住宅問題の事をお話するときに私は何時も貧民窟の話をする。或は昨年もお話したかも知れないが、十數年前までは紐育の貧民窟は、住宅の方面からいふと最も悲惨な状態に在つたものが現在は大に改良された。詳しいことは時間の關係上避けるが兎に角五六階の建物である。さうして間口が割合に短く奥行が非常に長い。さういふ建物が幾つも列んで居る。五階六階といふ高い建物であるから光線の通らない所謂暗室が非常に多い。十數年前に暗室の數が紐育市だけに於て三十六萬あつたと稱して居る。暗室は倉庫にでもなつて居るかといふに爾うでない人が住んで居る。一人づゝ住んで居つても三十六萬人這入つて居るわけである。晝尙ほ暗しといふ状態で空氣の流通も頗る悪い。隨て住んで居る人は蒼ざめて居る日本の貧民窟或は細民窟に居る婦人の顔なごも相當に蒼ざめて居るが、紐育の貧民窟に住んで居るおかみさん達が外へ出るに一見して判る。随分衰れなものだ。採光通風の不完全であるといふことは身心の上には有害なことは申すまでもない。そ

れで紐育市に於ては一九〇〇年（今から二十二前ほご前）に細民長屋改善局なるものを設けて、年々一萬づゝの暗室を撤廢することを企てたのである。年々一萬づゝとしても三十六年かゝる。所が十數年前に往て視ると今申した暗室が無くなつて居つた。これは非常な努力である。斯ういふことは公共團體の力を以てやらぬと到底實行不可能である。私は再々紐育の細民窟を訪問して悲惨の状態を目撃したが、暗室だけから申すに殆ど全部改善されたといふ其努力の結果に對して驚歎せざるを得なかつたのである。併し亞米利加でも細民の爲に新に住宅を建設して彼等を轉住せしむるといふのは紐育のみで他には殆どない。

尙ほ倫敦に於ける細民は二百萬人もあるといふのであるから、北海道の全住民と殆ど大差ないといつてもよいであらうと思ふ。貧民問題は大きな問題である。之に對して如何にすべきか。固よりは住宅問題だけで解決の出来ないことは明であるが、併ながら住宅問題は非常に大切な事である『居は氣を移す』といふ諺があるが自分の住居は自分の心に影響する。外國の諺に『其友によつて其人を知り、其住宅によつて其人を知る。』といふ言葉がある。其友達を知ることによつて其人を知ることが出来ると同じく、其人を知らうと思ふならば其住宅を知るがよいといふ諺によつても、住宅問題は人生の生活上重大事であるといふことを直接に證明し得ると思ふ。

倫敦の細民窟は所謂東部倫敦に多いのであるが、これは多く二階建てであつて五階六階といふのはない。併し地下室が非常に多い。これは倉庫若くは物置用であるが地下室に住んで居る者が可なり澤山ある。さういふ處に住んで居る者は倫敦ばかりではなく伯林にもある。尤もこれは法規があつて全く地下で光線の通らぬ處は許さない。いくら光線の通ることを條件としなければならぬが、兎に角さういふ處に住んで居る者が澤山にある。而して倫敦に於ける二百萬人の貧民の中東部倫敦だけで百萬人の貧民窟がある。東部倫敦は案内なしには迎も這入れないといふ一種の迷宮とでもいふべき處で甚だ危険である。どんな災害に逢ふかも知れない。私が倫敦の貧民窟を視察に往つたときに實は泥棒に案内して貰つたのである。元と感化院に這入つて居たが成功しないで出て遂に泥棒になつて前科九犯といふふらい人間に出逢つた。その人いろいろ話をしたところが私が案内してあげやうといふので、その男を案内者に頼んで視察して大分倫敦の細民窟通にな

つたわけであるが、兎に角ひどい處である。けれども住宅の方からいへば以前の紐育のやうな暗室みたやうな處はないが犯罪といふ方になると紐育には倫敦の細民窟に於けるやうな犯罪はない。倫敦の貧民は萬年貧民といつて、親の代から或は祖父の代から六十年も八十年も其處に居るので、貧民を以て本能と一致して居るかの如く考へて其境涯から免れやうと思ふ氣分もないらしい。漫性になるに矢張りその境遇が好いものと見へる。人間といふものは自己の境遇と自分が合致して居れば餘り苦痛を感じない。それで萬年貧乏といふわけで自分の境遇に對しては疾に絶望して居るから苦痛を感じない。その代りいろ／＼な犯罪が行れて倫敦の警察權を以てしても容易に犯人を捕縛することが出来ないといふことが屢々ある。東部倫敦の貧民窟に獨りで往けないといふのは其爲めである。殊に外國人が往くとどんな目に遇ふか判らぬ。そこで私が申した前科九犯の先生を案内に頼んだわけであるが、最後に夜分案内して貰つたときに實は日本に歸る間際であつたので大分金を持つて居つた。それで私は非常に不安に思つた。ところがその男が私は二階に這入る泥棒だ。下に這入つたり往來で人を毆つて物を取つたりするそんなけちの泥棒さまではない。私が附いて居れば大丈夫だといふ。餘り大丈夫とは思はなかつたけれどもマアその男の案内で兎に角一通り無事に視察することが出来て、御馳走をして別れたやうなわけであつた。住宅は左程ひどいものではない。殊に便所の設備の如きは銘々の家に便所がある。日本の貧民窟のやうな共同便所でも六階でも丁度日本の共同便所のやうなのが一番下にある。それで用を達すときには五階若くは六階から下まで降りて來なければならぬ。尤も外國人は夜になれば便器を自分の所に備へて置くけれども、それは寢てからのこゝで晝間は下まで降りて來なければならぬ。随分厄介な話です。それも私が二三年前に往つたときには、便所が二室或は二軒に一つ必ず附いてあるといふ風で幾らか改良されて居つたけれども、まだ／＼その點に付ては前途遼遠らしい。

そこで結局どうするかといふことになる、國情によつて多少違ふけれども大體上、社會的施設を以て彼等に住宅を供給してやるといふ途が具らざる限りは、住宅問題の解決は付かぬのである。さうしてその住宅は今住んで居る細民窟の家賃よりも餘り高くないといふことを程度にしなければならぬ。故に營利的事業では細民窟の住宅を改良することは難事

である。どうしても是は公益の公共團體若くは國家の經營に俟つより外に仕方がないといつて宜いのである。さうして市内に於てさういふ住宅を造るといふことは困難で、どうしても郊外に新しい住宅を設けなければならぬ必要がある。一體貧民地區といふものはどういふ處に多く設けられてあるかといふと所謂町外れである。つまり貧民窟といふものは大體に於て帶を造るものである。市内が段々膨脹して來ると其處には居れなくなるために市外に移るのである。つまり場末が彼等に一番住みよい。なぜかといふに家賃が廉い。それで市外に移つて段々に帶を造つて行くのである。その意味から云つてもどうしても貧民窟に對して改善をするために新に住宅を造る場合には、相當の地區を設けて而して交通機關を以て聯絡の便を圖る方法を講ずるのが最も策の得たるものである。

第二項 外國に於ける公營住宅施設

この方針の下に近頃外國に於ては多數の細民或は無産者階級の爲に住宅を供給する。供給の仕方は國によつて違ふ。歐羅巴大陸と英國とは違ふ。英國は公立の住宅供給が非常に多い。つまり自治團體が低利資金を政府から仰いで住宅を造つて、其處に貧民を住はして居るといふのが大英國のやり方である。大陸のやり方は、大體に於て低利資金を個人に貸して直接の場合と間接の場合とあるが——結局個人が住宅を造るといふことに重きを置いて居る。その代表的ものが白耳義が其點に於て最も發達した國である。尤もその以外に社會事業として或る篤志家が住宅改善のために相當の金を寄附して、それによつて住宅を造つたといふ實例も澤山ある。それは時間の關係上述べることは出来ないが、兎に角大體は公共團體であるか然らずんば國家が銀行の手を経て低利の金を個人に貸して、個人が住宅を建築するといふことになる。

1. 倫敦の市營住宅

英國は倫敦の郊外に市營の住宅が何萬とあつて其處に多くの者が住んで居る。但し戦後の今日は住宅に非常な不足を來して、今申したやうな状態と餘程趣が異つて來た。この問題に對しては倫敦のみならず英國全體に於ても又その他の國に於ても頗る困難を來して居るのである。併しこれは戦争の結果であつて平時を以て論ずることは出来ないが、兎に角現在は今述べたやうな状態である。故に倫敦その他に於ける細民は段々公營事業の住宅に移つて、さうして低廉なる家賃によ

つて生活を営み得る。其處に住む前に申したやうに居は氣を移すまいふわけで餘程心が變るのである。その住宅には小さな庭園があつて花なども植ゑてある。また或處には何百といふ戸數に對して若干の耕地がある。細君がそれを耕して野菜でも作る。子供は庭で花卉を作るといふわけで、お父さんが工場から歸つて来る時間を見計つて途中まで迎ひに出て庭で咲かした花一輪を持つて待つて居る。お父さんは非常に喜んで、その愛を籠めて持つて来た花一輪を労働服の上衣に挿して、愉快けに子供の手を曳いて歸つて来る。家に歸れば細君が裏の畑から新鮮な野菜を摘んで食卓に供へる。さうして日曜日には子供は日曜學校に行く、細君と主人は其村若くは近所の教會に往つて禮拜するといふやうなことで、住宅が變つたといふ其一事によつて、永い間殆ど經驗することの出来なかつた愉快な新生活を営むことが出来るといふ事實を明に認め得るのである。この意味に於て細民生活と細民住宅とは非常な關係を有して居るまいふことを、私の見聞の範圍を以てしても證明することが出来るのである。況や白耳義に行はれて居る方法の如きは更に一段の進歩の觀るべきものがあるのである。

そこで英國に於て現在住宅の不足を感じて居るのは英本國が約三十萬戸、それから蘇格蘭の方が十萬戸、總計四十萬戸と稱せられて居る。若しそれだけの家屋を新築して住宅難を全部解決しやうと思へば二十四億圓程を要するといふことで英國に於ては此問題の解決に頗る困難を來して居るのである。それで戰後新に設けられた衛生省の大臣が、住宅問題の解決難のために責任を負うて辭職しなければならぬといふ状態に立到つた。さういふ次第で住宅問題に付ては英國其他の國々に於ても非常な困難を感じて之が緩和策に努めつゝある状態である。これは臨時の事であるが若し幸にして緩和されて平時の状態に復した場合には、細民の住宅改善まいふことにより、多く力を盡すことになるだらうと思ふ。

ロ、白耳義の模範的住宅施設

次に白耳義の状態を簡單にお話すれば、此處は多く労働者の住宅問題であつて、細民と申してもさう底生活を営んで居る者の住宅ではない。労働者が自己の住宅を建築するまいふ方面に對して、政府が、より多くの努力を致して居るのである。その方法は政府の手を通じて銀行から低利資金の供給を受けるのである。その金額は建築費の總額に對して九割を供給し

て貰ひ得るのである。例へば二千圓の建築をしやうといふ場合には千八百圓だけの資金を借り得るので、残りの二割は自分の貯蓄を以て充てなければならぬわけであるが、若し自己の貯蓄がないにしても其人の信用さへあれば、個人の信用を以て信用組合若くは産業組合から低利の資金を融通し得るのであるから、二千圓内外の建築であれば何等自分に資力がなくても住宅を建て得るわけである。利率は年三分四厘くらゐで而して二十五年乃至三十年くらの長期掛金で自分の住宅が出来るのである。但しその金額だけの生命保険に加入しなければならぬといふことが條件になつて居る。若し掛金の中途に於て本人の死亡した場合には、その不足金は保険から得た金を以て補充することによつて保證されて居るから、銀行に於ては大體上損失がなくて済むわけである。その方法によつて白耳義の多くの労働者が都會の近郊に散在的に個人の家を造つて住んで居るといふ状態である。都會は地代が高いが近郊は地代が廉いし空氣も新鮮であるし、況や若干の庭園もあり畑もあるといふことであるから、新生活を営むには最も都合がよい。

併ながら交通機關の設備を要する。所が白耳義は國が狭いからでもあるが交通機關の完備して居ることは世界に冠たりと云つてもよいくらゐである。亞米利加の各都市或は英國の各都市も交通機關の非常に發達して居ることは申すまでもないけれども、併し白耳義のそれに比較するときは未だ大なる遜色を有して居る。白耳義の國有鐵道と軌道といふものは實に四通八達である。さうして交通機關の賃錢が又非常に低廉であつて、労働者に對しては一週間づゝ乗車券を賣渡すのである。その賃錢が五哩往復のものに對して一週間日本の金に換算して三十六錢——一哩六厘の割合である。それが長距離になればなる程廉い。十二哩半の往復であれば一週間六十錢——一哩四厘の割合である。それが長距離になればなる程廉い。一哩二厘強である。さうして六十哩までの間は此割合で利用することが出来るやうになつて居るので非常に低廉である。六十哩先へ毎日通ふまいふことは如何に交通機關が發達して居つても出来ない。米國若くは英國邊では急行であれば一時間六十哩走るけれども、白耳義のやうな狭い國ではさういふことはないから六十哩先から通ふといふことは出来ない。六十哩までの間を土曜日に歸つて日曜日を家で過して翌日また通ふ。その間に要する交通機關の費用が極めて廉い。それで白耳義に於ける労働者の多くは都會の近郊若くは十哩及至二十哩先に住宅を建て、其處から工場に通ふ。朝早く

停車場に往つて視てみると汽車若くは電車から労働者の群が吐き出されるやうにぞろ／＼降りる。また夕方になると多数の者が吸ひ込まれるやうに汽車若くは電車に乗つて自分の住宅に歸る。その點がなかく徹底したものである。尤も如何に込合つても日本の東京の電車のやうなことはない。東京の電車は混雑をする點に於て天下無比である。いつかも新聞に出てゐたが或るおかみさんが赤ん坊を背負つて電車に乗つて居つたところが、非常に乗客が込合つて混雑をしたので知らぬ中に赤ん坊が壓されて死んで居つたといふ。それを外國人が外國で新聞に轉載されたのを見て驚いて私の友人に向つて質問した。東京市の電車内で負ふた子供が壓されて死んだといふことが新聞に出てゐるが本當か訊いた。東京に於て實際を知つて居れば成程さういふことはあり得るといふ感があるが、東京の實狀を知らぬ外國人にはさういふ想像がさうしても付かない。その時に私の友人がそれは事實だとは日本の面目上言へないから、何か新聞の誤報であらうと答へたさうであるが、東京市の電車は混雑の場合には全く命賭けで乗らなくてはならぬ。

却説白耳義に於てはさういふ状態になつて居るから、自分の住宅を所有して田舎に住んで居る労働者が失業した場合に於ては、農村にそれ／＼相當の仕事があるので、都會に住んで失業した者とは餘程趣が異つて、一家の生計は或る程度まで營んで行くことが出来る。さういふ徹底した方法は白耳義が殊に發達してゐる世界に範を示して居るわけである。英國は今申した通りで多少の差はあるにしても、國家が労働者の爲に殊に貧民ともいふべき無産者階級の爲に住宅を供給して、曾て有りし昔に比べてより、心持好き生活を爲さしむることに多大の努力を爲して居ることは明なる事實である。

ハ、本道移民住宅問題

この問題に對して直に之を以て本道に當嵌めることが出来るや否やに付ては、今俄に斷定することは出来ないけれども北海道の移民の住宅問題も相當考慮を要することと思ふ。併し都會地に於けるほど痛切なる問題ではないかも知れないが早晩農民の住宅問題も起つて來るであらうと思ふ。農民が生存を離れて生活したいといふ氣分になつた場合に、現在の状態では満足出来ないことになる。その時分にそれは農民自身の問題であるとして閉却して居つては何時まで経つても解決が出来ない。矢張り社會的に公共的にさういふ人々に對して住み心持の好い住宅を供給してやらなければ自然、開拓の進

捗を阻碍することにもなるを考ふるが故に、今日からさういふ問題に付て諸君と共に研究することは極めて適切且つ必要であると思ふのである。

ニ、我國に於ける住宅問題に對する施設

然らば日本全體に於てはどうであるかといふは、今申したやうな小住宅若くは細民住宅の問題だけではないので、矢張り中産若くは中産以下の人々も推均べて住宅難を感じて居ることは御承知の通りである。それを緩和するために政府に於て住宅組合法を制定し、議會の協賛を経て昨年から實施になつた。併ながらそれに伴ふ低利資金の供給が十分に出来ないために、遺憾ながら豫期の効果を奏することが出来ないやうな状態に在るけれども、兎に角その途が茲に備つたわけである。所が一方の細民地區の住宅問題に付ては未だ解決されて居らぬのである。尤も細民の住宅がどれほど不足して居るかといふことを調べるのは餘程困難である。況や貧民の中には一家族と稱するものゝ中に甚しきは三疊敷に五人も六人も住んでゐるものがある。斯んなことは世界中何處にもない。

外國に於てはどんな處でも大概住宅に對して氣量が定つて居る。例へば二疊半又は三疊敷に一人住むといふことに定つて居つて、それ以上住むことが出来ないことになつて居るから、貧民窟に於ても規定以上に住んで居れば一應警告を與へその警告に應じないときは罰金を科することになつて居るのである。それが最も徹底的に行れて居るのが英國のグラスゴー市である。私は獨逸の或市に於て之と同様の例を視たがそれ以外に於ては餘り視ない。それは貧民窟或は貧民地區の宿屋の部屋毎に、此處は三人、此處は四人といふ風に札が貼つてある。たゞ札だけ貼つてあるのならば夜分のことであるから判らないが、夜半の十二時から翌朝の四時までの間に巡視員が巡視して何人寝て居るかといふことを調べる。さうして定數以上に住んで居れば警告を與へる。もしその警告を肯かずに犯則二三回に亘れば科料に處せられる。巡視員は三箇月に一回くらゐ巡つて調べるさうです。私は外國に於ける貧民地區に對しては相當に研究の便宜を得た積りであるがグラスゴー市の貧民窟の、状態を夜半十二時から翌朝の四時まで巡視員と同行して視察した。その時に私は醫者と稱して往つたのであるが随分悲惨な事が多かつた。グラスゴー市の貧民窟のベッドは普通のそれとは違つて丁度日本の押入のや

うな處がベッドになつて居る。それにしても五人居れば五つなければならぬのだが、五人で一つのベッドで済ましてゐる。さうするかといふと横に寝る。真中にテールブルミたやうなものを置き椅子を足の方に置いてベッドを枕にして寝てゐる。縦に寝るべきものを横に寝るから一つのベッドが五人で使へるわけです。巡視員が下の方から段々ノックして調べる。その時に三人定員の處に四人住んで居つた場合には一人が逸疾く飛出して空室を探して隠れて了ふ。それを發見されたときには警告を與へる。さういふことを實見して私は貧民の夜の生活は如何にも惨めなものだと思つた。法律の結果ではあるけれども人の寢静つた頃にさういふ人權を蹂躪するやうなことをやるのは善いか悪いか判らぬけれども、併ながら一面から衛生上の見地に立つて、人命を重んずるといふ點からいへば、矢張り人權を尊重する意味が加味されて居ると解釋が出来る。

衛生を重んずるさういふ點から日本の東京邊の貧民窟の状態を視ると、三疊敷に五人も住んで居る。その中で一方に病人が呻吟つて居る。一方にお産があるといふ悲惨事も往々見聞する所である。彼等はさういふ生活を私等が側で視るやうに感じないであらう。併ながらそれを感じないのは未だ野性が残つて居るか、然らずんば漫性で自分の哀れな境遇をそれ自身すら感ずることが出来ないであらう。之を私共が一步進んで、自分等が悲惨な境遇に在るのだといふことを彼等に自覺させることは必ずしも社會を擾亂するためではない。彼等が自分の境遇を自覺するならば、如何にしてこの哀れな境遇から免れることが出来るかといふことを考へる必要がある。此に於て社會問題が起る。社會問題なからしむるために彼等が漫性的に何等の自覺もなしに、蠢爾として動物と同じやうな生活を營んで居るのを其儘に捨置くといふことは無慙であると思ふ。故に日本に於てまだ爾ういふ問題が餘り細民其人から叫ばれない時代に於て、吾等が諸君と共にさういふ方面にまで手を伸ばして研究し、彼等の状態を先づ住宅の方面から改善して之を保護してやるさういふことは、當に然るべきことであると信するのである。東京邊には御承知の如く、みんね、長屋、棟刺、長屋といふものがある。これは丁度暗室みたやうなものである。さうしてその家賃は所謂日掛であつて家主からいへば三十日の中二十五日くらゐしか金が這入らぬけれども、随分利率の高いものであつて一面からいへば暴利である。縦に暴利でなくても住心持好く住はせるといふことは、

森本博士の言葉を藉りていへば文化生活を營ませるといふことになる。この意味に於て是は外國だけの問題ではない。我が日本に於ても住宅問題は重要な問題として諸君と共に研究しなければならぬと思ふのである。この住宅問題に對しては内務省及大藏省などに於て住宅組合法によつて、住宅問題の解決をなさんがために低利資金約三千五百万圓を供給したといふことは寔に喜ばしいことであるが、尙ほ未だ細民住宅、小住宅に力が及ばぬのであるから之を以て勿論日本の住宅問題を解決したといふことは出来ないであつて、今や小住宅、細民住宅の問題が吾等の眼前に提供されて居るのである

第九章 教化問題

禁酒事業

最後に時間の許す限りに於て申述べたいのは、教化問題の中の禁酒事業である。酒といふものは教化問題中の重大なる問題である。この問題に就て此處でお話することは、反つて諸君の誤解を招き或は不徹底に了る虞があるけれども、兎に角暫時の間申述べてみたいと思ふ。私は結論から申すと絶対禁酒論者である。國家としても將來は廢酒主義を執らなければならぬと思ふ。併ながらこの結論に達する道程に於ても相當議論はあるが、結論を申せば私はさういふ立場に立つて居るのである。けれども絶対に酒を廢止する或は禁止するさういふことに付ては、酒に代るべき何物かなければならぬといふことを同時に考へなければならぬのである。殊に労働者の如き一日營々として働いた勞苦を酒によつて休養する。或は酒によつて娛樂を得るといふ現代の社會状態であるから、それらの人々から酒を取去るといふことを絶叫するのは、或る意味からいへば同情がない——深い意味からいへば同情があるのだが——その點から絶対禁酒を絶叫するのは當を得ないかも知れないけれども、凡ての點から綜合考査の結果、結局個人としては絶対に禁酒を爲すべきもの、國としても將來は絶対廢酒を爲すべきものであると信する一人である。

凡そ絶対に害がある絶対に利益があるさういふものは恐らくないであらう。あつても極めて少い。物の利害如何さういふことは其人によりそれを用ひる人によつて定まる場合が多いのであるから、酒を禁ずることが絶対に利益がある。酒を飲むことが絶対に害があるといふことは言へないであらうと思ふ。けれども物は詰り利益綜合の結果、利益が多いならば其利

益に従ふさいふこそが、社會を改良し若くは個人を改善して行く途である。絶対のものでなければ服従しないといふことになればそれは宗教であると思ふ。併ながら宗教であつても其人の信する絶対真理によつて服従するだけであつて、他の人に同じやうな信仰を強ふることは出来ないものであるから、結局これは利害を考へ利益が多ければ其利に従ふといふ所に社會若くは個人の改良の途があると認めざるを得ないのである。その立場から考ふるときに私は個人としては絶対禁酒、國家若くは社會としても遂に絶対廢酒の域に達することが、國家若くは社會を幸福の道に導く所以であり、殊に個人の場合には然りであると思ふのである。それらの理由に付ては勿論いろいろなる理由はあるが、之を經濟上から或は之を衛生上から論じても其他道德上から考へても、酒を飲む利益よりも酒を禁ずる利益の方が多いやうである。然るにその利害は明にして利益の方が多いと假定しても、之を實際の方面から觀れば酒を飲む者がなかく多いのである。飲酒の習慣のない人は極めて少い。寧ろ飲酒といふものに對する嗜好若くは經驗のある人の方が非常に多い。それにはいろいろなる理由があるでせう。併ながら一つは酒は麻醉劑であるから一度さういふ慣習に陥ればなかく廢められない。丁度それは煙草の中毒若くはモルヒネの中毒と同じくアルコールの中毒である。程度の厚薄はあるけれども何れも同種類のものである。

凡そ人は一度中毒に罹れば自分の力で癒すさいふことは極めて困難である。煙草の中毒に罹つた人が之を廢すといふことはなかく出来ない。私は煙草を吸ふた經驗はないが經驗ある人から聞けば困難であるといふ。けれども煙草を吸はぬ者から見れば餘り賢くはない。煙草を吸うて鼻から吹かして無益なことをしてゐるなと思ふ。諸君からいへば休養であり娛樂であるかも知れないが、どうもあんなものを吹かして休養娛樂にしなければならぬさいふのは可哀相だなと思ふ。けれども習慣でなかく廢められない。誰人も煙草を初から喜んで吸ふ人はないでせう。初め試みに吸ふたときは頭痛がしたり眩暈がしたりするが、洋服姿で斯んなことをして吸うてゐる様子が、粹だとかなんとか言はれるもんだからハイカラ氣分で、吸ひたくもないのに吸ひ始めるのが習慣になつて了ふ。最初から美味いと思つて吸ふ人は恐らくなからうと思ふ。にも拘らず廢められないといふのはもう中毒に罹つてゐるのだ。諸君の多くは中毒に罹つてゐる。中毒さいふものは實に恐ろしいものです。中毒に罹らぬやうにするには初から吸はぬに如くはない。酒も同じことである。

殊に酒の害は煙草の害よりも一層甚しい。飲酒家の子供が多くは低能兒、劣等兒になる。之には二種ある。アルコール中毒に罹つてゐる人の子供は大概低能兒である。併し中毒に罹らぬでも酔の醒めない中に性交を行つて出來た子供は概ね來るならば實に容易ならぬ問題である。況や中毒に罹つて了へば凡ての細胞といふものが退化して了ふのであるから結局何人子供が産れても中以下の子供が多く生れることになるといふ。此點からだけ考へても所謂自己保存の爲にもいかぬが殊に種族保存の爲に宜しくない。縦しさうでないとしても飲酒家それ自身が早死をするし子供も夭折をする。これは統計上明かだ。事實が之を示して居るのだから事實の前には誰人も兎を脱がなければならぬ。酒の害は子孫に遺るのみならず自身自身にしても經濟的に或は道德的に或は衛生的にどれ程の損害を受けてゐるか判らない。それを考ふるときに成程酒は娛樂であらう或は實際の道具であらう。併ながら酒なければ娛樂を求められない、酒なくんば實際が出來ないといふやうな娛樂、實際は大體に野卑である。もう少し高尚な意義ある娛樂、實際を人生の間に多く求めたい。また之を經濟の點から考へてみても、酒は凡ての人を貧乏にはしない。けれども貧困者の大多數が酒に關係あることは事實である。私等が貧民問題を解決するときに酒を貧民から取去ることにしたいと思ふのは無理でないと思ふ。併ながら労働者などは酒によつて娛樂休養を求めるとすれば、酒を取去るには何物が之に代るべきものを與へなければならぬ。けれども今遽に彼等に高尚なる娛樂、高尚なる休養を理會させて實行することは困難であるが故に、酒以外に彼等の生活に順應した何物かを求めるといふことになる、實際問題として甚だ難事である。酒々たる労働者、酒々たる凡ての細民といふものが酒のために彼等の生活が脅威を受けて居るといふ事實を目標したときに、之に代るべき適當なものを見出すことは現在に於て一寸出來ないが、併し出來ないといつて之を此儘に抛つて置くわけにはいかない。矢張り個人に付ては宗教に依り或は其他の道德的信念に依り、或はそれより以上の希望を持たせて、酒といふ境遇から脱却せしむることが必要である。英國をこゝで一寸田園都市の事に就てお話しして置きたい。私が英國に往つたときに田園都市を視察に參り田園都市經營者のエ

1. ハワード氏から親しく教を受けて多少學ぶ所があつたのであるが、當時の事を追懐するときは快感禁する能はざるものがあるのである。此處は絶対に酒屋を置かぬ。酒屋を置くか否やといふことを二十歳以上の人の投票によつて一年毎に決めるのであるが、投票の結果絶対禁酒といふことで酒屋を置かぬことに決したといふ。今でも恐らく酒屋はないであらうと思ふ。酒に代るべき高尚なる娛樂機關がいろ／＼備はつて居るがゆゑに、今まで酒なければ娛樂を得るこゝが出来ない。或は疲勞を回復することが出来ないと思ふて居つた者も、遂に酒なくして自分等の家庭をより多く幸福ならしむることを實驗することが出来て、労働者の多数が愉快に生活してゐる状態を視たことがある。そこで酒に代るものは何ぞやと問はるれば今遽に答が出来ないけれども、凡ての状態を改良して行けば、現在の労働者と雖も酒なくして娛樂を満たしてそれによつて幸福な生涯を送ることが出来得ると信ずる。故に酒なければ家を持たないといふ感じの下に研究せずして、酒なくして如何に彼等を救ひ得るかといふことを研究すれば其處に研究の餘地がある。その結果は彼等を酒なくして人生のより多き幸福を享けしむることが出来るのである。

而して禁酒問題は直接運動である。住宅改良などは間接運動であるが直接運動は禁酒問題である。亞米利加に於て禁酒問題を絶叫して熾なる運動を起し、遂に絶対禁酒を爲すに至らしめたのは誰人の力であるかといふと婦人である。亞米利加の婦人の社會上に於ける勢力は大したものである。殊に教風教化の上に於て最も力あるものは婦人であつて其次が宗教家である。婦人と宗教家が相提携して運動を起し、一年間に三四十億圓を費したといふ酒の絶対禁止を實行せしむるに至つたことは、一面からは暴舉であるといふ批評の餘地があるにしても、兎に角一億の人口に對して憲法を改正してまで、絶対禁酒を斷行せしむるに至つた努力と勇氣とに對しては、他山の石として學ぶべき餘地が十分あると信ぜざるを得ないのである。米國に於ては憲法を改正するといふことが非常な大問題だ。これは詳しく申さずとも御承知であらうが、上下兩院を三分の二以上の多數で通過した後には於て、四十八州の中の四分の三即ち三十六州がそれに同意をしなければ憲法の改正は出来ないのである。それほど憲法の改正は難關である。さういふ憲法の改正まで敢てして全國任意に絶対禁酒を實行したといふ勇氣決斷に對しては敬服せざるを得ぬのである。

但し世間では之を絶対禁酒であるとして誰人も酒が飲めないと思ふのは誤解である。現に酒を所有して居る人は自分の家庭に於て飲んでもよい。酒の醸造、販賣、廣告等を禁じて居るので酒を飲むことは禁じない。それだから現在の弊害からいへば、中産以上の人が絶対廢止になる前に酒を澤山買込んで、今尚は倉庫に藏めて晩酌をやつて居るのである。労働者は明日の食事に困るから麥酒の一本も買占めることが出来ない。そこで翌日から酒が無いといふことになる。そこに不公平があるのである。併ながら何處の國でも法の力を以て、自分の家庭に貯藏して居つた酒を沒收するといふことは出来ない。さういふことになれば大問題が起る。それが出来ないゆゑに法の上からは他へ持つて往くことは出来ないけれども自分の家だけで飲むことは許してある。アルコール中毒に罹つて酒なくして生活することの出来ないやうな人は、アルコール分を含んだ他の藥品や何かを飲んで遂に斃れて了ふことになるのである。これは法の實施の上から觀たのであるがその以外に密造或は密輸入があつて悪い意味からいへば相當に緩味されて居る。けれどもそれが爲に絶対廢酒が失敗であつたとはいへない。之を幾年かの後に付て考へてみれば、この絶対廢酒といふ一の斷行は結局大なる成功であつたといふことを、亞米利加人及び其他の國々の人が事實に於て考ふる時が来るであらうと思ふ。

何となれば今日まで酒を飲んで居つた人は或は隨力で飲むであらう。併ながら今まで酒を飲まなかつた婦人の大多數それから二十歳以下の少年少女が段々生長して數十年経てば、飲酒の習慣を知らぬ人だけが残つて世の中に働くやうになる。また酒は貯へてあつても何十年といふ貯はないのであるから、矢張り十年か十五年の間には亞米利加に於て密藏のない限りは絶対に酒が無くなるわけである。併ながら法の上で賭博を禁じても事實に於て禁じられない。竊盜を禁じても世に泥棒の種が盡きないといふわけで、一方に禁止する法律があつてもそれを犯す者のあるこゝは明であるから、酒の密造だけ無くなるこゝを豫期することは出来ないけれども、密造があれば政府の威力で之を處罰するこゝは、現在に於てもやつて居るし又やり得る力があるのである。また憲法を逆に改正するといふことは極めて面倒な道行を経なければならぬのであるから、先づ今日に於てそれは不可能であると云はなければならぬ。結局幾年か経過すれば酒を飲まない人だけが世の中に活躍するといふことを豫想することがより多く常識的であるといふ信ぜざるを得ない。況や現在に於て貧民或は窮民若くは

犯罪者などが、紐育に於てもボストンに於てもシカゴに於ても其他に於ても、非常に減少して居るといふことを數の上に明に示して居る點を見れば、現在に於て著々相當の効果を擧げて居ることは明瞭である。

併ながら之を部分的に見るときに、而も酒を飲む便宜を有して居る人から見るときに、亞米利加の處にまだ酒があるといふけれどもそれは部分的である。日本の通信員の多くの人は亞米利加の廢酒問題は失敗であると通信してゐる。隨て日本に於ては失敗であるかの如く了解して居るのであるが、それは一部分に於て理想的になつて居らぬことのあるのは事實であるけれども、その通信は自分等が親んでゐる状態を目撃して通信するのが多い。即ちシカゴであるとか紐育であるとかいふその弊害の最も多い處に根據を据へて、さうしてそれが全部であると看して居るのであるから、私は偏見であると斷言して憚らぬのである。固より亞米利加に於て絶對禁酒を行つたことを移して以て、直に日本に絶對禁酒法を施行しなければならぬといふことを主張するのは宜いが、實行としては不可能であるといふことは我等も承知して居るのである。併ながら私共が日本に於ても將來酒を取去りたいと思つて運動するのが悪い考であらうか。私等個人々々が絶對禁酒をやらうといふこの精神が悪いであらうか。諸君と我等とが飲酒家の生活状態が如何にも酒のためにより、多く破壊されて居るといふ實狀に顧みて、或は個人の爲或は社會國家の爲に斷乎として酒を禁ぜんとする勇氣を出すことが間違つて居るであらうか。縦んば酒を禁ずるといふことが多少利己の上に害があるとしても、社會公益の爲にそれはさうしても禁ぜざるべからずといふ勇氣を、諸君が持つのが善いか悪いか。私は斯くあることを諸君に希望せざるを得ない。私は斯くあることが自らを救ひ世の中を救ふ道であると固く信じて居るのである。

それでどうしても是は運動です。所謂宣傳といふことが必要である。然らば斯ういふ宣傳、斯ういふ運動は誰に俟たねばならぬかといふ問題に到着したときに、之を外國と同様に考ふることは固より無理であるけれども、私は矢張り主として婦人の覺醒に俟ちたい。婦人の覺醒に俟たなければ家庭に最も密接な禁酒の宣傳は難かしい。今日は此處に婦人の方が少數であるけれども婦人の代表者に對して、この禁酒問題に付ては婦人の覺醒に俟つ念の甚だ切なるものあるといふことを訴へたい。また私は之を宗教家に望みたい。私が爰に宗教といふのは佛教家を指すのである。私は痛切に日本の佛教家

諸君に望みたい。佛教家諸君が自らの信仰を普く衆生に及ぼし、自分の位置を高め更に進んで社會の位置を高めんと欲するならば、自ら酒を禁ずるといふことに没交渉であるとは私は信じない。また私は諸君の如き篤志家に、また諸君の中に教育家諸君が居らるゝならば教育家諸君に對して、同じやうな痛切な考を以て願ひたい。

殊に日本に於て久しく問題になつて居つた。未成年者の飲酒禁止法案が漸く今度の議會を通過して先般實施になつたが世間は之に對して如何に感じて居るであらうか。新聞紙の傳ふる所によれば、冷評的態度を以て之を迎へてゐる者が尠しきしないやうである。けれども私は未成年者の飲酒を禁ずるといふことは大問題であると思ふ。各種の方面から考へて決して等閑に附すべき問題でない。この問題の解決は固より各家庭の父兄の熱心なる努力教訓に俟たなければならぬが、教育家諸君も亦自ら範を示すやうにといふことを痛切に望まざるを得ない。殊に教室が酒を飲む場處に變るといふやうなことは、今後絶對に禁止しなければならぬと思ふ。教室は神聖なり學校は神聖なりといふ其學校、其教室を時折酒宴の場處として而して生徒を其處に侍らしたといふ事實を、中央の大都市に於て見ることは、實に諸君と偕に遺憾させざるを得ないのである。どうも時間がないので不徹底の嫌があるけれども、私は結論として之を婦人の覺醒に俟ち、宗教家諸君に俟ち、教育家諸君に俟ち、また奉仕的生涯を送らんとする篤志家諸君の誠意に俟つて、少くとも未成年者の禁酒、或は諸君自身の禁酒、更に進んで社會多數の人の酒を禁じて、さうして酒を禁じたことによつて酒によつて得た以上の幸福を個人と社會とに與ふるやうに、諸君の一段の努力を切望して息まぬのである。時間が來ましたから私の講演は之を以て終ります。(拍手)

(文責在記者 納谷直次郎速記)

婦人問題

成女高等女學校長

宮

田

修

一七四

目次

- (一) 過去の婦人
- (二) 過去の婦人は何故に虐けられしか
- (三) 婦人問題發生の動機
- (四) 婦人とその道德問題
- (五) 婦人とその教育問題
- (六) 婦人とその職業問題
- (七) 婦人とその政治問題
- (八) 將來の婦人

其 一

婦人問題は一言以て申せば、從來取扱はれて居たその境遇に満足しない婦人が、茲に男子と平等の機會を與へて貰はうといふ要求の叫である。隨て是からお話することも要は其處へ落ちて行くのであるが、何分八時間の講演では十分深い所にまで立入つてお話することの出来ないのを遺憾とする。けれども、お手許に差上げて置いた大體の目次の各項に就て出來得るだけ廣く各方面に亘つて一應申述べやうと思ふ。

(一) 過去の婦人

第一にこの問題の發生するまでの過去の婦人の状態を知ることが前提であると思ふから、それを少し申述べてみたいと思ふ。婦人問題を取扱ふべきに何時も私の頭に偶と起つて來る言葉がある。それは自分が青年の頃に愛誦措く能はざるものであつた孟子の言葉である。即ち『天下の廣居に居り、天下の正位に立ち、天下の大道を行き、志を得れば民と與に之に由り、志を得ざれば獨り其道を行ふ、富貴も淫する能はず、貧賤も移す能はず、威武も屈する能はず、此れ之を大丈夫と謂ふ。』との孟子の大丈夫論の一節である。吾々は之を非常に歎んで誦んだもので、男子たるものは須らくこの大丈夫にならなければならぬと心に誓つたものである。今日も雖も矢張り多くの青年男子の理想は此に在ると思ふ。

これは孟子の言つた言葉であるが、西洋に於ても今日の倫理思潮の大勢は彼の人格主義の倫理が最も理想的のものとして取扱はれて居る。教育などの目的も倫理思想の人格主義から來て今日の教育に於ては人格主義の教育といふやうな言葉もある。教育は要するに被教育者の人格を完成するに在るこいふことが理想になつて居る。無論教育の實際に於てはいろいろ異なる主義もあるけれども、目的論からいへば先づ大體此である。西洋の人格主義の倫理說の中には孟子の言つたやうな調子の強い言葉は無論使つてはないけれども、その精神からいふと、蓋し孟子の彼の嚴肅な考を人の頭に起させるやうな力強い思想が存してゐることは疑を容れない所である。即ち人格主義の倫理說の淵源は、彼の獨逸のカントが從來の道德の種々なる說を批判して茲にカント獨特の倫理思想を樹てた。之を倫理學史上では嚴肅說といふ言葉を以て表はしてゐるほど、カントの人格倫理は極めて嚴肅なものであつた。カントがどういふことを言つて居るかと申せば、カントの道德說を代表した言葉として知られてゐるのは彼の『汝及他人の人格を尊敬し目的そのものとして取扱へよ、決して手段として用ひるなかれ』これは普通の倫理學にしてもカントの說を述べて居る所には常に用ひられてある言葉であるが、それはごく代表的の言葉である。尙カントのもう一つの言葉を引くと更にその意味が明瞭になる『人格の價値は即ち品位と名くべきものであつて、他の物件の値打を有するのと違ふ。斯ういふ言葉が添へられてある。即ち人間の値打はその人間の品位が値打であつて品物——例へばコップとか机とかいふやうな物件の値打を有するものとは違ふ。凡そ物件といふものは金に換算される程の値打を付け得られるものである。併し人間の具へて居る人格はその人の品位といふものが價値にな

るのであるから、市場の賣買する物の如き金錢を以て計るべきものではない。これは無價の寶である。故に人間はその無價の人格をば尊重するに目的以外に、手段として取扱つてはならぬといふ結論を生じて來るのである。更にカントは之をもつと詳しく説明して居る。即ち人間の人格に價値のあるといふことは、吾々には吾々の一身を支配する立派な心がある。その心は吾々に斯くせよ、斯くしてはならぬといふことを常に命令する力を持つてゐるものである。それを人格が皆具へて居る。カントは之を無上命令と言つてゐるが、この無上命令は或る條件を付けて命令するのではなくして絶対の力を以て命令するのであるから、人は之によつて自分の行爲を指導して行かなければならぬ。此れ即ち自由意思である。自分の良心の叫によつて右せんと欲すれば右し左せんと欲すれば左する。換言すれば自分の自由意思によつてやつて行く所に人格の價値が存在する。そこに人格の尊嚴が在るといふことになるのである。

この意味を孟子の言葉と比べて見れば、孟子が威武も屈することが出来ない。富貴も淫することが出来ない。貧賤も移すことが出来ないと言つた心持が即ちカントの所謂自由意思である。またそれがカントの所謂物を以て交換することの出来ない品位の價値である。近頃よく選舉の場合などに投票の賣買が行はれてゐるやうであるが、金錢の多寡によつて投票を行ふに自由意思でない。金によつて自分の意思が牽付けられるのだから是は富貴も淫する能はずでない。富貴に淫したわけで、そのときには人格が失はれて居るのである。私共が選舉界の腐敗を慨くのはその意味である。出る人も自分の自由意思で出る。投票する人も自分の自由意思で投票するといふことではなければ、眞の選舉といふものか行はれるに云へない。これは別の話であるけれども大丈夫は即ちそれではない。この心持からいふとカントの言ふ所も孟子の言ふ所も同一と看られる。而して此が人間の履むべき道で人間の人間たる所以である。但しカントの學說の方は最近の學說であるだけ、それだけ西洋では男女共通に唱へられて來たのであるが、孟子の考の方は古いだけそれだけ茲に一の矛盾を感じる嫌があるのである。乃ち其所が吾々の疑點とする所であつて、また同時に婦人問題といふやうなことを考ふるにきき一應考慮しなければならぬ點である。

それは彼の大丈夫論をお讀みになつた方は直ぐお解りになる筈であるが、本來孟子が彼の大丈夫論を唱へたのは、あれ

だけを偶々抜き出して來て論じたものではない。當時景春といふ人が孟子の處へ來て大丈夫論を話かけたのである。そのときに景春が先づ問を發せんがために自分の意見を發表したのが、孟子の大丈夫論の前に出てゐる。景春がどんなことを言つたかといふと、『公孫衍張儀は豈に誠の大丈夫ならずや、一たび怒れば諸侯懼れ、安居すれば天下熄む。』公孫衍張儀なきは誠の大丈夫といふべしだ。何となれば彼等が一たび憤ると天下の諸公が懼を爲す。彼が安らかにして居ると天下は靜まる。即ちあの人等の心の働き次第で天下が平にもなるし浪風をも起す。あゝいふやうな人物こそ大丈夫ではないかといつて問を發したのが問答の始である。そのときに孟子が何と答へたかといふと、その要領を申せば『彼等は大丈夫ではない。お前は禮儀の事を學んだか、禮を學んだ者は知つてゐるわけだが、男が冠をする即ち元服をするときには父親がその心得を諭す。女が嫁入をするときには母親が之に命令をする。嫁入をするときに先づ母親が送つて往つて、お前は汝の家即ち夫の家に往け、往つたら必ず敬しめ必ず戒しめ夫子に違ふことなかれ、順を以て正し爲すは妾婦の道なり。』といつて居る。これからお前は嫁に往くののだぞ。お前の家に往くのだから必ず敬しめ必ず戒しめてお前の夫たる人の言付けに背いてはならぬぞ。何でも彼でも順つて行け。順を以て正と爲すのが女の道である。つまり公孫衍張儀はこれと同じことだ。といふのは彼等は成程天下に知られてゐるし諸侯も懼を爲してゐるけれども、彼等が威張つてゐるのは彼等の後に之を援ける大諸侯があるからである。即ち公孫衍張儀はこの大諸侯の威を藉りて而して小諸侯に向ふのであるから、そこで彼等の一喜一憂によつて天下に波瀾を起したり平靜にしたりするのである。若し彼等を大丈夫とするならば、彼の順を以て正と爲すといふ婦女も大丈夫でなければならぬか、さういふやうなものは決して大丈夫でない。大丈夫といふのは斯うであるといつて最前申した言葉を以て景春に答へたのが、孟子の大丈夫論の一節である。

そこで段々考へてみるに、若も公孫衍張儀を大丈夫であるとすれば異議はないけれども、男子たるものゝ由て以て立つべき大丈夫といふものと公孫衍張儀とは違ふ。彼等は眞の大丈夫の中に入られないのみならず虎の威を藉る狐の如くしか見へない。さうすると其所に非常な懸隔があると思はなければならぬ。そこで『以順爲正者妾婦之道也』といふことは虎の威を藉る公孫衍張儀が卑しむべきものであるとすれば、婦女が貞順である柔順であるといふことは、卑しむべきもので

あるといふ意味にも解される。併し由來東洋に於ても西洋に於ても、婦人の方は何時でも以順爲正といふのが根本の道義になつて來て居るのである。何故婦人が男ミ違つて順を以て正としなければならぬかといふことは、どうも西洋の本にも東洋の本にも説いてない。東洋の倫理思想などの淵源を爲すものが印度の思想を基としたる支那思想ミすれば彼の易經であるが、易などの中にも初から乾坤と別ち陰陽ミ別ち、乾道男を成し坤道女を成すといふ風に初から定めて了つて、何故男が乾であつて女が坤であるか、何故男が天であつて女が地であるかその解釋が付けてない。最初から爾う定めて了つて進んで來たのであるが其所に疑點がある。そこで一時我邦に於ても新しい女といふ一の團體が現れたときに、女は太陽なりミいつて大に叫んだ人が出て來て、丁度今迄ミは反對のこゝを言ひ出した。さちらが本當かわからない。とにかく往昔は乾道男であつた。而して此の乾道は天行健なりで太陽を意味する。女は陰であつて坤即ち月である。西洋にもさういふ諺がある。尤も西洋のは『女は月である。月は太陽の光を藉りて光るものだ。』といふ皮肉な意味に於て月と譬へられた句がある。がそれをひつくりかへして新しい女は太陽なりといつた。これは水掛論でさうすることも出来ないほゞ過去に於て理由がない。それはそれとして孟子の言つた『以順爲正者妾婦之道也』といふ言葉は餘程考へなければならぬ。換言すれば孟子の意は、公孫衍や張儀は所謂奴隸的の道德である。自分獨りの力によつて立つものではない。他の者の光によつて強きを天下に示すのであるから彼等は決して優れた人物ではない。他の御機嫌を取つてそれによつて行ふのだから獨立的のものでないと看る。それと同じであるから女の守つて來た道德は奴隸的の道德であるといふ結論に達するのである。さうすると女子が過去から最近に至るまで生命づくりに守つて來た道德は、爾うした奴隸的の意味を免れることが出来なくなるのである。また此の理由が明にならないだけだけ茲に一の問題が挟まれる餘地があつて、一種の疑が婦人問題の上に起されて來たのである。

尙ほ之を事實の上に就て觀るに、固よりさういふやうな心持で女が段々仕付けられて來たのであるから、事實の上に男女待遇の相異の生ずることは明であるが、その相異がどんな風に現れて來るか、一々例を擧げるのは面例であるけれども之を總括して云ふた言葉に斯ういふのがある。十九世紀の中頃獨逸人でオーグスト・ベーベルといふ人がある。この人は婦人に非常な同情を有ち諒解を有つた人だけそれだけ意見は過激である。殊に社會主義者の領袖であつて其方の眼で觀るから一層議論は過激であるが『婦人ミ社會主義』といふ書物を著した。この書物は獨り獨逸本國に於て多くの人に讀まれたばかりでなく、英吉利に於ても佛蘭西に於ても其他殆ど文明諸國の語に譯されて可なり廣く讀まれた書物である。我國では僅に抄譯が一部出たばかりで汎く傳へられて居らぬけれども、これは婦人の爲に大に氣を吐いた面白い本である。嚴密な學術的眼で觀れば缺點は段々ある。旁々學者の間には随分殘酷な批評をしてゐる人もあるけれども、なか／＼人を啓發するに足る書物である。この『婦人と社會主義』といふ書物の巻頭にベーベルは斯う述べて居る。『凡そ壓制されるこゝは婦人ミ勞働者にとつて共通の運命である。尤も壓制の形が時と場合とによつて違ふが、壓制そのものは常に同一である。婦人は勞働者からも壓制を受ける状態であつて、これは一般人類の社會的位置から觀れば古今東西婦人は常に抑壓されて來たものである。』といふ意味は古來勞働者と婦人といふものとは孰れも社會から壓制を蒙つたものである。無論その壓制の形式は違ふ。或は自由を束縛して壓制を加へたこともあらうし、場合によれば衣食住の上に壓制を加へたこゝもあらうし、その他の方法で壓制を加へたこともあらう。時と場合とによつて壓制の形式は違ふが兎に角自由を束縛し來つたものである。その中でも女は一層壓制を加へられて來た。さういふのは勞働者にさへも壓制を加へられて來た。だから勞働者は社會の一部の人から壓制を加へられたが、併し自分より下の者にその餘憤を漏すことが出来る。ところが女はずつと上から下のさん底まで壓制されて來た。それが過去に於ける女の状態であると斷言して居るのであるが、實際に於て歴史を繙いて見ても各國何れもこの言葉に副ふものが多いのである。尤も永い間の歴史には何處の國でも或る時代には、女の子孫があつたり或は國王があつたり、更に未開の時代に於ては女の酋長があつてその部落を押へてゐたといふこともある。また社會學の上でいふと原始時代には母權時代といふのがあつたといふことである。母權時代は亂婚の時代であつて丁度その時分の男女の關係は其邊にゐる犬や猫と同様の風で、去年の夫婦が今年の他人であり、今年の夫婦は來年の他人であるといふ風に、自分が思ふまゝにその時々男女が一緒になつて子供を産む。そこでその子供は母あるを知らせ父あるを知らずといふ状態で勢ひその子供が母に従つて行く。また母はその子供を養つて行くといふ風であつたから、その時

代に於ては母の権力が強かつた。母に離れて了へば子は育たぬ。また母はその子供の親権を持ち得るといふわけで此の時代のことを母權時代といふ。その時代には女が非常な権力があつたわけだ。さういふやうな時代があるけれども普通の事實としては所謂『弱き者よ汝の名は女なり』で、女さういふものは弱いものにされなければならぬことになつて居る。

まづ一例を引いてみると、今日に於ては女の生命は愛だといふことを言つて居る。事實今日に於ては女に取つては何物にも代へ難い最も大切なものは愛であるさういふ外はないと思ふ。過去に於ては一層さうであつた筈である。然るにその生命に次ぐ大切な愛を女が常に贏ち得てゐたかといふに、過去に於ては贏ち得られなかつた。亂婚時代は始く措き、段々社會を成して來た人類最初の結婚方法を考へてみるに最も能くわかる。原始時代を離れて小社會を成した時分の結婚は掠奪結婚に始まるらしい。掠奪結婚は何かといふに細君を盗んで來るわけで、自分の部落に適當な配遇者が得られないので、隣の部落に於てあれなら宜からうと思ふ見當を付けるに、一個人で往くか或は友人を語らつてその女を盗んで來る。隣に盗みに往く方は愛を撰擇する権利があるし餘裕があるけれども、盗まれる方はまるつきり何も知らぬ。夕食を濟まして夕涼をして月でも眺めてゐると後から偶と伴れて往かれて了ふ。何處の何者だか判らぬ。偶と見ると斯んな人かといふ男に引張られて往く、けれどももう引張られて往けば否應なしに一生その人に連添はなければならぬ。斯ういふ風で男の方は夫婦になる前に愛を撰擇するこゝが出来るが、女の方は自分の運命が定められたときに無理にそこから愛を呼び起して來るといふ違がある。而もそれが女の唯一の生命である愛であつて、今でも我四國の土佐地方にその風俗が遺つて居る處があるさうです。併しそれほど強くない唯だ形式に遺つてゐるのであらうが、過去に於ては御同様に皆それをやつたわけである。西洋の文明國に於てもさういふ遺風が面白い形式になつて遺つてゐる處がある。例へば英吉利に於ける軍人の結婚式なきには、お嫁さんが來るに左右から劍を交叉して門に擬へる。その下をお嫁さんが潜る。即ち降服を意味するわけだ。また亞弗利加の未開國になるに夫が劍を持つて待つてゐて、門を這入つて來るお嫁さんの頭上に一刀を浴せかける眞似をする。それらは掠奪結婚の遺風が今日何等かの形式によつて遺つてゐるわけであるが、お嫁さんがお婿さんにさういふことをするといふ風習は決してない。それは殆ど全世界舉つてないらしい。西洋の儀式としては甚だ面白いと思ふ。今の西

洋婦人はなか／＼威張つてゐるけれどもその時だけは柔順に内を潜つて來る。それは永い間の習慣の結果であると思ふ。けれども掠奪結婚は危険だ。向ふが不用意の所へ往つて掠奪して來るのは安心だが、若もその部落の男に目付かれればメチヤ／＼に毆られる。また女の中にも腕つ節の強いものがないとも限らぬから反對にボカリリやられるこゝになるかと命賭けでやらなければならぬ。そこで人智の發達と共に往はれるやうになつたのが賣買結婚である。吾々も賣買ではないけれども殆ど賣買の形式を執つて知らず識らず結婚をやつた。私はそんなことを考へると自分でも可笑くなつて時々獨笑することがある。今日でも結婚のときには結納の交換をするさういふのが普通の禮だ。此方などはどうか知らないが東京などでは目録と書いて、さうして男の方から女に遺るさういふには帶代金幾許、あとは末廣だとか昆布だとか書いて右芽出度御受納下され度候也。何某として金を包んで持つて往く。昆布と書いてあるけれども昆布は持つて往かない。また末廣と書いてあるけれども末廣は持つて往かない。中には白髮、柳樽など書いてあるものもあるけれども樽なきは持つて往かない。唯だずらりと書列べてあるだけだ。昔は目録に書いてあるものは皆持つて往つたものだが、段々人間が猾くなつて字だけで御免を蒙るやうになつて了つたのだらう。どうせ遣らぬものならば書かなくてもよいわけだ。やかましい家では貰受けたといふ受取をやる。後で破談になつたさういふには證書があるから甚だ危険だけれどもさういふにいかく受取證書をやる。そのさういふの方からも同文の目録を遺る。中には御服代幾許とあるものもある。東京邊ではお聲さんの方から百圓遣ればお嫁さんの方から五十圓遣る。さうするに差引五十圓の差が生ずる。これ即ち賣買の形式になる。之をもつと甚しくしたものが過去に於ける賣買結婚であつたらしい。基督教の舊約全書を見ると、ヤコブといふ人が妻を娶らんがために妻の親の處へ往つて勞働をして、その報ひとして娘を買つたさういふことが載つてゐる。それから支那の古い書物によると（これは矢張り時と場合とによつていろ／＼あるが）嫁を買ふときに牛何匹と交換する。牛などはまだよいが豚何匹、まだ酷いものになる。鶏二羽さういふのがある。まさか只だ鶏と交換するのではあるまいと思はれるけれども、古い文書などによると此方は鶏二羽、此方は豚三四、此方は牛何匹さういふ風に羅賣の行はれたこゝがあるらしい。この賣買結婚の事實などを調べてみるになか／＼面白い。佛蘭西のルートルノールといふ人が『婚姻の進化』と云ふ本を書いて種々な事實を擧げて居る。是等によ

つても實に豫想外の事を段々見るのである。これ亦女はその愛を撰擇するさいふわけにいかぬ。即ち自分の運命を定めるのは買人、賣人、の意思で定めるので、自分は賣られるものであるのだから自分の自由意思が少しも現れて居らぬ。それで愛を定めなければならぬのだから孟子の所謂奴隸的の道德さいふのはそれだといふ。自分は唯だ品物として取扱はれるだけだ。お嫁に往くときに親がサー是からお前はお前の家に往くのだが凡てのこと夫に従へよ——従はれるか従へないか判らぬのに何でもかでも従へさいふ。だから縦し従つても自分の内心から出て来たカントの所謂無上命令とはいかない。これに従はないと家に歸つても敲き出されて了ふ。また夫に従はないさいふには貴様はさいふつて何時捻り潰されるかもわからんさいふ條件付です。だからその道德は神聖な尊いものといへないさいふになるのである。夫が幸にして善良な人であり又自分を眞實愛して呉れるならばよいが、此方が如何に柔順であつても随分苛酷に取扱はれる場合がある。さいふ場合でも女は只だ盲従しなければならぬ。更に女の常に弱つたのは苛酷に取扱つた末に放逐されて了ふといふ風俗を造つた。

世界最古と稱せられる法典は恐らく波斯のハンブラビーであらう。その最古の法律でも近代の法律でも、男が女を離縁することは比較的容易く出来ることになつてゐるが、女が男を離縁するさいふはなかく出来ぬ。その半面には女は何時抛り出されるか判らぬさいふ運命を擔つて居つた。日本でも女の離縁は三くだり半さいふ定まつてしまつて、只だ三くだり半で一生を棒に振つて了はなければならぬ運命を擔つてゐるのだから決して尊重されて居らぬ。殊に三くだり半の條件として昔數へられて居るのは、所謂七去さいふつて七つの場合に於て離婚が可能である。その一箇條は子なき場合に去るといふのである。この一箇條は一面からは確に理由があるわけで、家族制度の盛な過去の日本に於ては、子供の有無といふさいふが一家の幸不幸の岐れる所であつた。子供の無いのは一家の非常な問題である。そこで子供の無いさいふにはその妻を無能力者として逐ひ出して了ふといふことは全然理由がないことでもないかも知れない。けれども子供を産むといふさいふは女ばかりの責任であるかどうか疑問である。成程子供を産むのは女の仕事であるけれども女ばかりで産むのではないとするならば、そこには男女の共同責任を考へなければならぬ。現に私の友人に斯ういふのがあつた。細君を迎へて暫く連添うてゐるが子供が無い。そこで常に子供の無いことを悔んでゐる中に、他に一人これならばよからうといふ女が出来たので子

供の無いのを理由として逐ひ出して了ひ、さうして後妻を迎へたが依然として子供が無い。逐ひ出された奥さんの方は暫く獨身でゐたがその中に或る軍人と再婚した。ところが臆て子供を産んだといふ事實がある。何方に責任が在るかは自ら明であるが、爾ういふやうな場合でも子なきは去られる。去られるのが女の過去に於ける運命であつた。

また一體男女の愛といふものは、獨占すべき傾のあるものだから非常に強烈に働くのである。若しこれが神様が衆々の人を愛するが如く、佛様が衆々の人に慈悲を垂れるが如く博愛であつたならば、其間に喧嘩も何も起らぬ。寧ろさういふ場合には人々を誘ひ合つて、神佛を信心して偕に愛を受入れやうさいふ心持になる。けれども男女の愛はさうはいかぬ。私も愛するからあなた方も一つ彼の人を愛しなさいといふわけにはいかぬ。さうなるさいふ愛は冷めこそすれ熱くはならぬ。それだからやきもちも時々やくがよいといふのは詰りこの眞理を道破した言葉であると思ふ。夫が自由に遊び廻つて歩くのを細君が虚心坦懐で一向平氣であるのは何んだか物足りない。偶にはやきもちをやく所で段々夫婦の愛情が濃厚になるそれが恰も隣の人が出たり入つたりすると同じさいふであつたならば、逆も愛は深くなるものではない。殊に婦人は愛が生命であるから明けても暮れても其愛のために生きることになるべき筈だ。ところが實際はどうであるかといふと、その生命にも代へるべき大切な愛を、他の婦人、分けて味はなければならぬといふ運命が起つた。即ちその夫の愛する妻若くは情人、自分の生命たる夫の愛を分有しなければならぬ場合が少くない。分有するのみならずその愛を裂いてやる。その人の爲に更に自分が情をかけてやるさいふを以て、貞婦なりと云はれなければならぬ。實に氣の毒なる運命を擔つて来たのである。

更に茲に驚くべき事實は徳川時代の田沼時代——徳川時代の末期で政治の極く腐敗した時代——その田沼時代に彼の田沼親子が賄賂を取つて政治を紊した。當時矢張り田沼の一家で同醜類たる松平伊豆守、安藤對馬守さいふやうな面々に對して頻に賄賂が行はれた。その賄賂はいろ／＼な工風があつたらしいが中には斯ういふ例がある。田沼か松平かそこは能く判らないが兩人の中でせう。或る同僚の役人が京都から歸つて「聊かだがお土産を持つて參つたからどうかお笑草に」さいふつて大きな箱を仲間に擔がせて運び込んだ。その箱の内には京人形が入つてゐるといふので、その家では「大層大

きな人形だ定めて立派な人形であらう」と非常に欣んで受取つて、奥座敷に運んでどんな人形かと蓋を明けて見るに驚くべし、その人形がニコニコ笑つた。オヤツと思つてよくよく視ると人形ではない、盛装を凝らした所謂解語の京美人であつた。即ち京美人を伴れて来て人形に擬へて箱に容れて、さうして歡心を得べく賄賂に贈つたのである。そこで主人公が大に満足してそれを受入れたといふ事實がある。これは當時巧妙な賄賂の行はれた事實を載せた本の中の或る一節であるが、この事實は前のよりも一層ひどい事實であることを吾々は認めなければならぬ。乃ちこれは後にもお話するけれども最近西洋に於て婦人問題の最も痛烈な例として擧げられたイブセンの『人形の家』を連想させる。それは人形といふ言葉を用ひて女の境遇を説いたものであるが、今のは人形といふ言葉ではない。人形に擬へて人間を取扱つたといふ事實でそれほどに女は人間扱をされて居らなかつたものである。斯様な事實は單にその當時ばかりではない幾多の例があるわけである。

今世界の中で最も女を理解し女に同情を有してゐるのは基督教であると云はれて居る。併し同じ基督教でも羅馬舊教殊に新教の興らぬ中世紀の羅馬舊教に於ては、寧ろ女を非常に侮蔑し迫害したのであつた。第六世紀の頃のこゝであるが、メソンの宗教會議云へば有名な會議の一つであるが、此會議に於て婦人に靈魂が有るや否やといふ問題が當時の學者達によつて大に討論された云はれて居る。一體人間が他の動物よりも優れて尊い點は靈があるからである。然るにその靈魂の有無に就て討論の結果、遂に女には靈魂なしといふことに決した。靈魂が無いのであるから女は人間扱にされる権利がないといふので、例へばお寺に説教があつても男は往つて聴くことが出来るけれども、女はそれに加はることが出来なくなつた。そこで女の篤信者はお寺の窓の下に佇んで外から説教を聴き、或は下足番をしながら説教を聴いたといふやうな時代があつた。つまりその時代は男女を非常に區別したものです。これは他にも理由があるが、その意味を特に女の方に強く適用したものである。今回此方に來てトラビストの様子を聞いたが、彼處では特に女を侮蔑するといふわけではないやうですけれども男女を非常に嚴重に區別して居る。この遺風は矢張り羅馬舊教の當時から來ものだと思ふ。随分酷い話ですね。靈魂が有るか無いかといふやうなことを議論するさへお可訝いのに、靈魂なしと斷じて了ふに至つては、今日から云へば甚だ不都合な話である。左様に女は人格を認められないのが過去の婦人の境遇であつたのである。

(二) 過去の婦人は何故に虐けられしか

過去の婦人は前述の如く非常に虐けられて來た。さうして斯く虐けられて來たかといふこゝが次に起る問題である。普通之に對しては女は男に比すれば生理的の組織からいつても、心理的作用からいつても劣つて居る。故に自然の結果として男女の差異があるのだといはれて居るのである。更にその説を明にするために古來の解剖學者、或は生理學者なきが發表したものがあつた。例へば男と女の脳の量が違ふとか或は骨格が違ふとか、或は内臓の機關が違ふとかいふやうな説も段々あつたのである。現に昨年あたり新しく發表された書物などの中にも此等の相違點を段々擧げて、男女の優劣を説いてゐるものもあるから、今日は餘程その點が變つて居るにも拘らず尙ほ之を執つて動かない人もあつたが、その論點は今日は大分變つて來た。その一例を申せば、男女の優劣は詰り脳量に於て輕重がある。人間の精神作用は腦が中樞であつて、この中樞たる腦の輕重によつて賢愚を生ずるのである。ところが目方を量つてみると女の腦量が少い、隨て智慧が廻りかねる。この點に於て婦人が男子に劣るといふのが最も根據の強い男女優劣論であつた。併し後に他の學者が現れて段々實驗の結果、女の腦量よりも少い腦量を持つてゐる男子に隨分立派な人もあつた。してみると腦量の多少によつて必しも人間の賢愚を別つべきものでない。また女の腦量が男より少いといふけれども實驗の結果、身體の大きさに比例して寧ろ女の方が男の腦量の割合よりも多いといふことを見出したのである。男の腦量の多いのは身體に比較して割合が多いのであるから單に腦量の多少によつて男女の優劣を論ずるとすれば、女子の方が反つて男子よりも優れたものになるべき筈であるといふ結論に到達した。此に於て曾て男女優劣論の根據を爲してゐた腦量の多少論は、最早今日では容れられないやうになつて居る次第で、之に對してはいろいろな議論もあるが、要するに今日までの優劣論は畢竟一の獨斷説であつて、科學的に研究された結果と看るわけにはいかない。寧ろ今日の大勢からいふと心理の試験なきの結果は、從來の豫想を破つて段々女の方に有利なことが證據立てられつゝあるのである。

また身體の組織なきも從來醫者などの説では、男の方が力業なきしても活動に堪へる性質がある。それは何が基をして

るかといふことに付て生理學者の意見は、女は胸で呼吸をするが男は腹で呼吸をする。此に於て男女の活動が違ふ。腹で呼吸をする男はどうしても活力が壯になるが女の方はさういふわけにいかない。事實今日でも多数の男女に就て呼吸を實驗してみるとその差別がある。何故さういふ差別があるかといふは生理學者の言ふ所では、女は妊娠する、妊娠すると段々に横隔膜を壓迫するために呼吸が腹部に入らぬといふ先天的の約束があるから、女は自然胸で呼吸するやうになるのだといふ風に説かれてある。ところが亞米利加のスタンフォード大學の校醫のモツシャーといふ人が、多年醫學上から婦人に就て種々なる方面の研究をした結果、一昨年亞米利加で開いた女醫大會の席上に於て発表した意見によると決してさういふものではない。從來婦人が胸部で呼吸したといふのは古來の習慣から來たものである。自分の試みた所によると、腹部で呼吸するやうにさういふので段々練習してみると、男子と同様に腹部で呼吸するやうになる。同時にいろ／＼筋力の試験を試みたのに、寧ろ男より女の方が重力に耐へるといふ結果を見出した。私も一通りはそれを讀んだけれども専門のことで十分に理解出来なかつたが、専門家の眼から觀て男女の各部の比較をして論ぜられた結論によると、要するに男女差別を見ない。即ち體力の上に於ても或は活力の上にも、男女同等であるといふ結論になつてゐるのである。けれども是は何處まで眞理であるかは未だ定めることが出来ない。どちらかといふは今日は研究時代に屬して居ると看なければならぬのである。

果して然らばどうして過去の婦人はさういふ風に虐けられて來たのであるかといふ原因は、そんな根據の薄弱な理窟からではない筈だ。茲にその原因を數へると凡そ次の三つが重なる原因になると思ふ。第一は女が男の扶養を受ける即ち男に養はれるといふことが、女の弱點を作つて來たものと思はなければならぬ。第二には女は一層多く子供の愛に惹かれるといふことが、弱點になつて來た數へなければならぬ。第三には矢張り事實に於て體力が弱いといふことを數へなければならぬ。この三つのものが原因を爲して過去の婦人は虐けられて來たらしく思はれる。

第一の女が男の扶養を受けるといふことであるが、人類の原始時代に於ての多くは男から扶養を受けて居らなかつた。それは後に詳しくお話ししたいと思ふから此處ではざつと申して置く。太古の時代に於ては男女が共に働いて生活したわけ

だから、當時の女は何等男の扶養を受けたものでない。男は寧ろ女が居なければ完全な生活が出来なかつた。同時に女も矢張り男が居なければ完全な生活が出来ない。やかましい言葉でいへば男女互に平等の權利と義務とを有して居つたと看られるのである。事實に就ていへば男が山に往つて獵をし或は川に往つて漁をする。女は植物から木の實を取つて來たり或は穀物を集めて來たり、若くは夫の獲つて來た獸類の皮を剥いでそれを以て屋根を葺くとかいふやうな仕事を引受ける。つまり男女性の分業はあるけれども、働に於ては同じであるから決して扶養を受けてゐなかつた。それが段々社會を成して行く中に智慧が発達して來て、従來自分の腕でやつたことが器械に變つて來た。即ち最初は物を捕るのでも自分の拳固で殴る。或は傍にあつた石ころを取つて撲つといふのが人類最初の働であつた。それが今度は同じ石ころでも上の方を圓くするとか、或は物を壞はすにも皿のやうな形にして壞はした方が便利であるといふので段々緻密になつて來、さうして遂に齒車のやうなものを考へ出すやうになつた。それが段々發達して今日のエンジンや成したわけである。さういふわけで段々文明が発達するに隨ひ、人間の働が機械力によつて助けられることになつたために、男が段々その方に向つて進んで行つた。そのために人の力が剩つて來るので段々、女の働が自然少くなつて而も生活には餘裕が生じて來た。原始時代はその日／＼の生活であるからなか／＼餘裕はなかつたが、さういふことになつて機械力によつて多くのものを産出して貯蔵が出来るやうになり、日々働かなくてもよいことになつたから、そこでその餘裕の間に於て娛樂を求めやうになつた。女は家にゐて頻に飾り立てる。男も女に飾り立てさせた方が氣持がよいから許して置く。女自身は悪くないことであるからそれに隨つて飾る。女が白粉を塗けるのはさういふ所から來たのである。同じ人類だから女が白粉を塗ければ男も塗けるやうになる。併し中には塗ける人もあるが多くの男子は面倒臭いから塗けない。女が飾り立てるやうになつたから働が鈍くなり、同時に生活力が弱くなつたから已むを得ず男子の扶養を受ける。此に於て男女の間に權利の厚薄が生じて來た。殊に分業が行はれるに伴ひ益々人間の働が分化されて來た結果、女が家にのみ引込んでゐる男の機嫌を取らなければ生活が出来ないことに定められて了つた。やはり何といつても經濟的の生活をして居る間は、經濟の源を握つてゐるものが一番強い。資本對勞動の争の如きも、今迄勞動者が常に負けてゐたのは矢張り經濟の源の所屬が違ふからである。

男女の關係に於てもその通りである。それが段々強くなつて女の生殺與奪の權は男が之を握るといふことになつたから茲に主従の關係を生じ、孟子の所謂順を以て正と爲すといふやうな状態にならざるを得ぬわけである。

第二の原因は『女は弱しされど母は強し。』といふ諺にも顯れて居るが如くに、女の生命は愛であるけれども同じ愛の中でも子供に對する愛は一層深い。その場合には母は何物にも優つて強い力を持つことになるのであるが、また同時に一面に於てはそれだけ弱みを覚えて来る。自分獨りであれば何處をどう流浪しても構はぬが、子供が出来るると所謂子は三界の首枷であつて足手纏ひになる。その足手纏ひになるものを非常に愛するといふ心持が一方にあるのだから倍々此に弱みを感ずる。彼の常盤御前が平清盛の寵を再びしたといふやうなことなども、詰りその意味を最もよく表はしてゐるものであると思ふ。之に就てはいろ／＼議論もあるけれども私の觀る所によれば、義経はじめ大勢の頑是なき子供を如何にすべきかといふ問題に當惑して、彼女は敵の門に降つたを觀るのが正當の觀方である。即ち母の愛の弱點に附込んで清盛が無理難題を言つて通した。斯ういふやうなことは一人常盤のみではない。一般婦人の間に起るべき問題である。さうなつて來ると子供を保育することが女の役目であるが、その保育の原動力を與ふべきものに頼らなければならぬ。その原動力を與ふるものが是れ即ち父親であるとすれば生存上、父親は自分及子供の爲には必要缺くべからざるものになつて來る。そこでその父親に對しては有形無形に保護され監督されなければならぬ。斯様なことになつて來て段々男女の間に懸隔を生じた、さうする人といふものは妙なもので一つの力を得ると動もすればその力を濫用したくなる。濫用しないまでも、既にそれだけ段階を異にしてゐるのであるから、何時でもそれで以て臨むといふことになつて來る。この差異が纏て女が男に抑へられて即ち社會的に地位を墮さざるを得なくなつた一の原因である。

第三の原因は體力が男子に比して弱い。これは前述の如く原始時代には男女平等に働いて居つたのであるから少しもその間に懸隔がない。或る野蠻地方などに往くとき男が只だ獵をし獸を斃すだけはするけれども、それを背負つて來るやうなことをするのを男子の耻辱とするといふ民族もある。故に女がそれを背負つて來るだけの體力を當然具へてゐなければならぬ。さういふやうな民族になると男女體力の相異はないのである。現に今でも亞弗利加のダホメー族の如きは、武器を持つて戰に臨むのは女の役目で、男は子供の守をして家の番をするのが任務である。丁度他の國々の男女をひつくりかへしたやうなのが現代にもある。さういふやうな處では女の方の權力が強い。寫眞などを見ても女が如何にも嚴めしい骨格をして、槍を持つたり或は弓を持つたりしてゐる。男の方は赤ん坊を背負つて火を煽いだりしてゐる。さういふのになると無論優れた力量を有つのが當然であると思ふ。それは野蠻時代ばかりではない。文明に達したスバルタの婦人などもさうであつた。

スバルタがその市民に對して武斷教育を施したといふことは有名な話で誰でも知つて居る所であるが、單に男のみならず女にもその時分身體を鍛へさせたものを見へる。スバルタその文明を競つたアテネのアリストファネスといふ詩人が作つた脚本の中に、最もスバルタ婦人の當時を思ひ知らしむべき一挿語がある。それを私は大層面白い話だと思つてゐる。當時希臘にはスバルタとかアテネとかいろ／＼の市があつて、各市互に對立して争闘が絶えなかつた。その時に希臘各市の婦人が聯合して男子の間に行はれる此等の争闘を鎮壓しやうと企てた。そこで各市の代表婦人が集つたときにアテネ婦人とスバルタ婦人との間に交換された挨拶に面白い言葉がある。當時スバルタ婦人を代表して來たラムピトといふ婦人がアテネ婦人の前に來たときに、アテネ婦人が『よくお出で下さいました。遠路誠に御苦勞でございました。お見受けするところ實に優れた顔容を有たれ又勝れた體格をお有ちになつて入らせられる。その御體格では恐らく牛の一匹ぐらゐは打殺すことが出来になります。』この挨拶も随分面白い挨拶である。初めて會つた人にあなたは立派な體格をしてゐらつしやる。その體格では牛の一匹ぐらゐは打ち殺すことが出来ませうといふ挨拶は一寸變つて居る。さうするラムピトが『ハイ、私は神々に誓つてさういふことが出来ると思ひます。日頃から力業をしたり高飛の稽古などをして居りますから……』といふ挨拶をした。これは當時のスバルタの武斷教育を代表した言葉であると思ふ。それは決して皮肉の話でも何でもない當時スバルタは事實さうであつたらしい。場合によると青年男女共にオリンピックゲームをやつたり、縦し女が加はらなくとも一度婦人から彼の青年のやり振は駄目だと思はれると、終生此青年は細君を娶ることが出来ないし又大勢の間に這入ることが出来ないといふやうなこともあつたらしい。だから若い婦人の批評が青年の生命に關する問題であつた程、そ

れ程當時に於ては女子の力量が優れて居つたのである。

斯様な工合であつたけれども段々社會が變つて來て、さうして遂に女子が男子の扶養を受けなければ立つことが出来ないうやうになつた結果、身體を弱くするやうに／＼と仕向けられて了つた。現に我邦に於ても神代に於ける服装は男女共に働くべく造られたところの筒袖ミ股引といふ服装であつた。男女の區別はあるけれども大體同じやうな服装であつた。それが奈良朝から平安朝になつて段々變つて、女の方は袖が長く又裳もブク／＼した裳にするやうになつた。男の方は外に出て自由に歩けるやうな服装であつたけれども、女の方は外を歩けないやうな服装に段々仕向けられて來た。殊に段々下つて徳川時代になると、元祿時代にはまた所謂元祿袖といふ働き易い袖になり、また著物の幅も可なり長く長さも長く、帯は幅の狭いのをしめ細い紐で結へて、さうして此處でたるみを付けて皮膚の露出しないやうにし、而も身體を緊縛しないやうな服装であつた。それが段々下つて所謂徳川文明の頽廢期になつてからの服装はどうかといふと長い袖、帯も幅廣の帯をしめて體格を悪くするやうに／＼と仕向けた。だからその當時の浮世繪などを見ると直ぐ理解が出来るが、著物の幅が廣いのか狭いのか判らないけれども、歩けば直ぐ脛の露はれるやうな拵方になり、また著物の著こなし方もさうなつた。それは何故かといふと當時の男子の好によるので、裸で飛び出されても困るけれども時々皮膚がチラ／＼見へる所に興味を感じたいといふ注文であつた。だから元祿袖よりも袖は長くなつたけれども、偶々腕を上げると腋の下が見へるやうな拵方になつた。男のは結びつけて了ふが女のは此處を明けてをく。何の必要があつて明けるかといふと、腋の下が見へるやうにといふ外に意味がない。女だから餘計風が通らなければならぬといふわけはない。もしも暑くるといふためならば男も同じやうにしさうなものだが、女だけさうしたのは全く腋の下を見せるためさう思はれない。女はさういふことは知らないで是が流行ださうだからといふので腋の下を明けて了つた。

西洋婦人が背中を明けるのも蓋しそれと同様に違ひない。やはり是は社會的反映だ。浮世繪を見ると當時の廢頽氣分がよく顯れてゐる。兩國の花火の浮世繪などを見るに、女が太股などを露はしてゐる繪がある。それはお轉婆といふ意味ではないので當時あゝいふ所を遊治郎に見せつけて誘惑する。誘惑するのが女だけでも誘惑するやうに導かせたのは當時の社會である。その社會を形造つてゐるものが即ち當時の男子である。斯ういふやうな工合になつて來た。それだから脛を出すのは太い脛では工合が悪い。どうしても細そりしたやうな蒼白がかつた脛でないに工合が悪い。段々體力が薄弱になる。

曾て露西亞のトルストイが『女が白粉をつけたり何かしてゐる間は婦人問題も參政權問題も意味を成さぬ。』と言つたが實際さうであると思ふ。女が白粉を塗けるといふ心理狀態を解剖すれば一の虚偽だ。有の儘を見せるのなら何れも白粉なごを塗ける必要はない。黒いのを白く見せるといふのだ。日に焦けるべきものは日に焦ける。一休禪師ではないけれども壞れるものは壞れる。日に焦けるべきものは焦けると悟つて居れば白粉など塗ける必要はない。それを隠してゐるといふのは何か意味がある。これ即ち虚偽である。さうするに段々日蔭ものになつて來てヒヨロ／＼せざるを得ない。不知不識の間に自繩自縛で弱い身體を拵へて了はざるを得なかつた。

まづ大體この三箇條が土臺を爲して茲に或は『女子と小人は羞ひ難し』とか、或は『哲夫城を爲し哲婦城を傾ける』とか或は『外面如菩薩内心如夜叉』とかいふやうな批評が段々現はれざるを得なくなつた。これ獨り東洋のみではない内外共にさうであつた。過去に於ては女が詰らぬものだといつたけれども、段々近世になればなるほどその批評が露骨になつた後にも度々出て來る名であるが佛蘭西のルーソーなどは『女の特種なる任務は男の歡を買ふにある。』と云ひ、またその超人間論で有名なニーチェは『男は戰ふ爲めに作られ、女は戰ふ人を慰める爲めに作られたのである。』といふやうなことを云ひ、また矢張り同じ思想の系統を引いて居ると思はれる英吉利最近の文學者オスカーワイルドといふ人は『女は愛されるやうに出來てゐるもので理解されるやうに出來たものでない。』と云つた。言葉は違ふけれども思想は殆ど同一である。斯様に殆ど女といふものゝ存在即ち人格の存在を認めないのが過去の太勢であつた。この過去の太勢は前述のやうな原因から生じて來たといふべきものと思ふ。

殊にさういふやうな批評をした人が如何なる人かといふことを詮索すると面白い。基督の最高弟として知らるゝ彼のポロも女を冷罵した一人である。彼は『女と結婚することなどは止めるがよい。併しどうしても困つたならば結婚しろ。』

とか『女と同棲するのは蛇と一緒にゐるやうなものだ』とか頻りに罵つて居る。尙ほ婦人を痛罵した哲學者として評判なのはシヨツペンハウエルであるが、彼は女をメチャ／＼に頭ごなしに悪く言つてゐる。殊に短かいものだが『婦人論』などといふ論文を書いて、徹頭徹尾毒ついたのでシヨツペンハウエルだ。また最近に於てはストリンドベルグといふ小説家が非常に婦人を憎んで居る。その著述を讀んでみると斯んなに女を憎まなんでもよさうなものだと思ふほど殆ど眞毎に女を悪く言つて居る。ところで此等の人々の戸籍調査をやつてみるとなかく面白。ポーロが未だ若い時代のことであらう。エルサレムに往つて或る高僧の處に居つたときにそこのお嬢さんに懸想したが残念にも脇鐵砲を喰つて了つた。細かい事實は判らぬけれどもそれだけの事實は判つて居る。それだけの事實によつても自分の意の如くなればよかつたけれども、爾うは行かなかつたので蛇と共に居る心持がしたであらうと推察される。ポーロは宗敎家としては實に偉い人であつたけれども、婦人に關してはさういふやうな觀察をしてゐる。ルーソーはさういふ人かといふと彼は有名な放蕩家で、彼の『懺悔録』といふ著述を讀んでみると、著にも棒にもかゝらぬ男で散々婦人を惱まして來た報として、女からも可なり惱まされたこともあるらしい。婦人のことを良く言はないのは爾んなやうなことの結果かと看られる。シヨツペンハウエルはどういふ人かといふと、近來學問が進んで來たに伴れて要らぬことまでいろいろ詮策された結果、近頃殆ど公知の事實となつたのは、彼が花柳病者であつたことが判つて來た。たゞそれだけのことしか判らぬけれども兎に角そこまでの見當は付いた。それまではシヨペンハウエルが阿母さんと非常に仲が悪くて始終それがために懊惱した様子だから、それで婦人のことを悪く言つたのであらうと彼の傳記を書いた人が思つてゐるが、段々研究の結果今のやうな事實を發見したので、シヨツペンハウエルの婦人論も大分近頃は箔が落ちて來た。ストリンドベルグといふ人は三度結婚して三度も失敗した經歷をもつて居る。そうしてみると彼も矢張り個人の關係から、いろいろ婦人に關する觀察が起つて來るのではないかと看られる。

之に反して婦人を謳歌してゐるのは羅馬時代に於てはアグリッパ、又英吉利に於てはジョン・スチュワード・ミルなどいふ人である(この人の事は後で少し申述べるが)此等の人々は皆立派な夫人を持合はせた。してみると自分の關係した婦

人によつて考が違ふといふことを看なければならぬ。若しその人々によつて婦人の觀察が違ふとすれば、それが果して科學的の系統的の思想であるや否や解らぬけれども、併しそれは別問題として兎に角以上の事實が茲に女を段々男と違ふものにして了つた。また女の方は男の一種の催眠術に罹つて了つて、本來對等のものであるのが段々下積にされて來たのを知らずにそれを満足に思つてゐる所へ、お前に斯ういふ著物を拵へてやるさいへば、どうも家の主人ほど親切なものはないと――反物を取上げられたときにはそれほど思はないが――いよく拵へて貰ふと非常に喜ぶ。また人に物を遣るくらゐの好い氣持のことはないのだから、著物を拵へてやつて細君の満足した顔を見れば、もう一つ何か拵へてやらうといふので拵へてやる。貰ふとニコ／＼して満足する。時にはいろいろなものを強請つてみる。さういつたつてしやうがなからうが段々外交手腕を揮つた結果、ぢやア買はうかといふことになる。そのうちに段々催眠術に罹る。立てゝいへば立つ。座れといへば座る。起きろといへば起る。寝ろといへば寝るといふやうな風になつて段々變つて來た。謂はゞ一種の催眠状態に變つたものと見て差支ない。もう爾うなつてくると如何にもすることが出來ない状態でズット續いて來たのである。

(三) 婦人問題發生の動機

次に爾ういふやうな状態から婦人問題の發生することになつたのはどういふ譯であらうか。凡そ問題の發生するのは單に婦人問題ばかりではない、倫理上の問題でも或は社會上の問題でも、殊に近來流行の労働問題でも皆同一であるが、何かそこに原因がなければ問題は起らぬのである。例へば空を仰げばそこに大きな圓い光があるかと思ふと此方には小さいボツ／＼した光がある。一方は大きくて光り一方は小さくて光るといふ區別があるから、何うして斯ういふ風になるのだらうといふ疑問が起つて來る。また或る時間になると東の空を劈いて圓いものが出て來るかと思ふと段々回つて西の方へ沈んで了ふ。なぜあんなものが出たり引込んだりするのであらうといふ疑問が起る。此に於て問題が生じて天文の研究が始まる。また吾々が何時までも同じやうな状態でこの世の中に存在して居れば何の問題も起らぬけれども、何も無い處にオギアが生れて來る。今日ではもう永年の間やつてゐるから別に不思議にも思はぬけれども、初めは丁度桃から生れた桃太郎のやうにオヤツ／＼して生れて來たのだらうと思ふが兎に角育つて行く。可愛い／＼と思つてゐると段々一寸伸び一寸伸